

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習I	1学期	1	2	1
	今泉 恵子	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	2
	植木 淳	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	3
	岡 邦信	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	4
	岡本 博志	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	5
	落合 俊行	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	6
	小池 順一	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	7
	重松 博之	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	8
高橋 衛	1年				
法学基礎演習I	1学期	1	2	9	
中山 布紗	1年				
法学基礎演習I	1学期	1	2	10	
二宮 正人	1年				
法学基礎演習I	1学期	1	2	11	
朴 元奎	1年				
法学基礎演習I	1学期	1	2	12	
矢澤 久純	1年				
法学基礎演習I	1学期	1	2	13	
山本 光英	1年				
法学基礎演習I	1学期	1	2	14	
吉村 弘	1年				
法学基礎演習I	1学期	1	2	15	
福本 忍	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習Ⅰ 國武 英生	1学期	1	2	16
		1年			
	法学基礎演習Ⅰ 大杉 一之	1学期	1	2	17
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 今泉 恵子	2学期	1	2	18
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 植木 淳	2学期	1	2	19
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 岡 邦信	2学期	1	2	20
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 岡本 博志	2学期	1	2	21
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 落合 俊行	2学期	1	2	22
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 小池 順一	2学期	1	2	23
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 重松 博之	2学期	1	2	24
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 高橋 衛	2学期	1	2	25
		1年			
法学基礎演習Ⅱ 中山 布紗	2学期	1	2	26	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ 二宮 正人	2学期	1	2	27	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ 朴 元奎	2学期	1	2	28	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ 矢澤 久純	2学期	1	2	29	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ 山本 光英	2学期	1	2	30	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習II 吉村 弘	2学期	1	2	31
		1年			
	法学基礎演習II 福本 忍	2学期	1	2	32
		1年			
	法学基礎演習II 國武 英生	2学期	1	2	33
		1年			
	法学基礎演習II 大杉 一之	2学期	1	2	34
		1年			
	外国文献研究I 今泉 恵子	1学期	2	2	35
		2年			
	外国文献研究I 未定		2	2	
		2年			
	外国文献研究I 吉村 弘	1学期	2	2	36
		2年			
	外国文献研究I 落合 俊行	1学期	2	2	37
		2年			
	外国文献研究II 中山 布紗	2学期	2	2	38
		2年			
	外国文献研究II 朴 元奎	2学期	2	2	39
		2年			
外国文献研究II 矢澤 久純	2学期	2	2	40	
	2年				
法哲学専門演習I 重松 博之	1学期	3	2	41	
	3年				
法哲学専門演習II 重松 博之	2学期	3	2	42	
	3年				
法制史専門演習I 岡 邦信	1学期	3	2	43	
	3年				
法制史専門演習II 岡 邦信	2学期	3	2	44	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	憲法専門演習I 植木 淳	1学期	3	2	45
		3年			
	憲法専門演習I 落合 俊行	1学期	3	2	46
		3年			
	憲法専門演習II 植木 淳	2学期	3	2	47
		3年			
	憲法専門演習II 落合 俊行	2学期	3	2	48
		3年			
	行政法専門演習I 岡本 博志	1学期	3	2	49
		3年			
	行政法専門演習II 岡本 博志	2学期	3	2	50
		3年			
	刑法専門演習I 山本 光英	1学期	3	2	51
		3年			
	刑法専門演習I 大杉 一之	1学期	3	2	52
		3年			
	刑法専門演習II 山本 光英	2学期	3	2	53
		3年			
	刑法専門演習II 大杉 一之	2学期	3	2	54
		3年			
刑事訴訟法専門演習I 吉村 弘	1学期	3	2	55	
	3年				
刑事訴訟法専門演習II 吉村 弘	2学期	3	2	56	
	3年				
刑事学専門演習I 朴 元奎	1学期	3	2	57	
	3年				
刑事学専門演習II 朴 元奎	2学期	3	2	58	
	3年				
労働法専門演習I 國武 英生	1学期	3	2	59	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	労働法専門演習II	2学期	3	2	60
	國武 英生	3年			
	国際法専門演習I	1学期	3	2	61
	二宮 正人	3年			
	国際法専門演習II	2学期	3	2	62
	二宮 正人	3年			
	民法専門演習I	1学期	3	2	63
	福本 忍	3年			
	民法専門演習I	1学期	3	2	64
	中山 布紗	3年			
	民法専門演習I	1学期	3	2	65
	矢澤 久純	3年			
	民法専門演習II	2学期	3	2	66
	福本 忍	3年			
	民法専門演習II	2学期	3	2	67
	中山 布紗	3年			
	民法専門演習II	2学期	3	2	68
	矢澤 久純	3年			
	民事訴訟法専門演習I	1学期	3	2	69
	小池 順一	3年			
民事訴訟法専門演習II	2学期	3	2	70	
小池 順一	3年				
企業法専門演習I	1学期	3	2	71	
高橋 衛	3年				
企業法専門演習I	1学期	3	2	72	
今泉 恵子	3年				
企業法専門演習II	2学期	3	2	73	
今泉 恵子	3年				
企業法専門演習II	2学期	3	2	74	
高橋 衛	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	個別研究指導I 今泉 恵子	1学期	4	2	75
		4年			
	個別研究指導I 植木 淳	1学期	4	2	76
		4年			
	個別研究指導I 岡 邦信	1学期	4	2	77
		4年			
	個別研究指導I 岡本 博志	1学期	4	2	78
		4年			
	個別研究指導I 落合 俊行	1学期	4	2	79
		4年			
	個別研究指導I 小池 順一	1学期	4	2	80
		4年			
	個別研究指導I 重松 博之	1学期	4	2	81
		4年			
	個別研究指導I 高橋 衛	1学期	4	2	82
		4年			
	個別研究指導I 中山 布紗	1学期	4	2	83
		4年			
個別研究指導I 二宮 正人	1学期	4	2	84	
	4年				
個別研究指導I 朴 元奎	1学期	4	2	85	
	4年				
個別研究指導I 矢澤 久純	1学期	4	2	86	
	4年				
個別研究指導I 山本 光英	1学期	4	2	87	
	4年				
個別研究指導I 吉村 弘	1学期	4	2	88	
	4年				
個別研究指導I 福本 忍	1学期	4	2	89	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	個別研究指導I 國武 英生	1学期	4	2	90
		4年			
	個別研究指導I 大杉 一之	1学期	4	2	91
		4年			
	個別研究指導II 今泉 恵子	2学期	4	2	92
		4年			
	個別研究指導II 植木 淳	2学期	4	2	93
		4年			
	個別研究指導II 岡 邦信	2学期	4	2	94
		4年			
	個別研究指導II 岡本 博志	2学期	4	2	95
		4年			
	個別研究指導II 落合 俊行	2学期	4	2	96
		4年			
	個別研究指導II 小池 順一	2学期	4	2	97
		4年			
	個別研究指導II 重松 博之	2学期	4	2	98
		4年			
	個別研究指導II 高橋 衛	2学期	4	2	99
		4年			
個別研究指導II 中山 布紗	2学期	4	2	100	
	4年				
個別研究指導II 二宮 正人	2学期	4	2	101	
	4年				
個別研究指導II 朴 元奎	2学期	4	2	102	
	4年				
個別研究指導II 矢澤 久純	2学期	4	2	103	
	4年				
個別研究指導II 山本 光英	2学期	4	2	104	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■総合科目	個別研究指導II 吉村 弘	2学期	4	2	105
		4年			
	個別研究指導II 福本 忍	2学期	4	2	106
		4年			
	個別研究指導II 國武 英生	2学期	4	2	107
		4年			
	個別研究指導II 大杉 一之	2学期	4	2	108
		4年			
	法学総論 徳永 達哉	1学期	1	2	109
		1年			
	現代法曹論I 迫田 学	2学期	1	2	110
		1年			
現代法曹論II 川上 修	1学期	2	2	111	
	2年				
法律実務論I 仰木 伸介	1学期	3	2	112	
	3年				
法律実務論II 細川 眞二	2学期	3	2	113	
	3年				
■理論法学科目	法思想史 重松 博之	1学期	2	2	114
		2年			
	日本法制史 岡 邦信	2学期 (ペア)	2	4	115
		2年			
	法社会学 林田 幸広	2学期	2	2	116
		2年			
	法哲学 重松 博之	1学期	3	2	117
	3年				
比較法文化論 篠森 大輔	集中	3	2	118	
	3年				
紛争処理論 林田 幸広	2学期	3	2	119	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■公法科目	日本国憲法原論 植木 淳	1学期	1	2	120
		1年			
	憲法人権論 植木 淳	2学期	1	2	121
		1年			
	憲法機構論 落合 俊行	1学期	2	2	122
		2年			
	憲法訴訟論 落合 俊行	2学期	2	2	123
		2年			
	行政法総論 村上 英明	1学期 (ベア)	2	4	124
		2年			
行政争訟法 岡本 博志	2学期	2	2	125	
	2年				
国家補償法 岡本 博志	1学期	3	2	126	
	3年				
情報公開・個人情報保護法 森脇 敦史	1学期	3	2	127	
	3年				
■刑事法科目	刑法犯罪論 山本 光英	2学期 (ベア)	1	4	128
		1年			
	刑法犯罪各論I 大杉 一之	1学期	2	2	129
		2年			
	刑法犯罪各論II 大杉 一之	2学期	2	2	130
		2年			
	刑事訴訟法総論 吉村 弘	2学期	2	2	131
	2年				
刑事司法政策I 吉村 弘	1学期	3	2	132	
	3年				
刑事司法政策II 朴 元奎	2学期	3	2	133	
	3年				
■社会法科目	社会法総論 柴田 滋	2学期	1	2	134
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■社会法科目	社会サービス法 柴田 滋	1学期	2	2	135
	2年				
	所得保障法 柴田 滋	2学期	2	2	136
	2年				
	雇用関係法 國武 英生	1学期	2	2	137
	2年				
	労使関係法 國武 英生	2学期	2	2	138
	2年				
	独占禁止法 高場 俊光	1学期	3	2	139
	3年				
知的財産法 木村 友久	1学期	3	2	140	
3年					
環境法 生野 正剛	集中	3	2	141	
3年					
社会法の現代的展開 柴田 滋	1学期	3	2	142	
3年					
■国際関係法科目	国際法I 二宮 正人	1学期	2	2	143
	2年				
	国際法II 二宮 正人	2学期	2	2	144
	2年				
国際取引法 大隈 一武	集中	3	2	145	
3年					
現代国際関係法 中川 智治	2学期	3	2	146	
3年					
■民事法科目	民法総則 矢澤 久純	1学期(ペア)	1	4	147
	1年				
	物権法 中山 布紗	2学期	1	2	148
1年					
家族法 小野 憲昭	1学期	2	2	149	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■民事法科目	債権総論 中山 布紗	1学期 (ペア)	2	4	150
		2年			
	債権各論 福本 忍	2学期 (ペア)	2	4	151
		2年			
	民事訴訟法総論 小池 順一	1学期	2	2	152
		2年			
民事訴訟法各論 小池 順一	2学期	2	2	153	
	2年				
倒産処理法 小池 順一	1学期	3	2	154	
	3年				
消費者法 山根 聡恵	集中	3	2	155	
	3年				
■商事法科目	会社法I 高橋 衛	1学期	2	2	156
		2年			
	会社法II 高橋 衛	2学期	2	2	157
		2年			
	企業活動と法 今泉 恵子	1学期	2	2	158
		2年			
	企業取引法I 今泉 恵子	2学期	2	2	159
	2年				
企業取引法II 前越 俊之	2学期	3	2	160	
	3年				
証券市場と法 前越 俊之	2学期	3	2	161	
	3年				
企業法の現代的展開 木村 友久	2学期	3	2	162	
	3年				
■関連科目A	政策構想論 中道 壽一	2学期	1	2	163
		1年			
	公共政策論 楢原 真二	1学期	2	2	164
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	政策過程論 申 東愛	1学期	2	2	165
		2年			
	政策評価論 植原 真二	2学期	2	2	166
		2年			
	地方自治論 森 裕亮	1学期	2	2	167
		2年			
	福祉国家論 狭間 直樹	2学期	1	2	168
		1年			
	政治学 松田 憲忠	1学期	1	2	169
		1年			
	政治過程論 松田 憲忠	2学期	1	2	170
		1年			
	西洋政治史 五月女 律子	2学期	1	2	171
		1年			
	政治文化論 中道 壽一	2学期	2	2	172
		2年			
	政党政治論 五月女 律子	1学期	2	2	173
		2年			
	都市環境論 三宅 博之	1学期	1	2	174
	1年				
政策理論特講 鶴田 芳貴	集中	2	2	175	
	2年				
行政組織論 横山 麻季子	1学期	2	2	176	
	2年				
比較政策論 坂本 隆幸	1学期	2	2	177	
	2年				
都市政策論 古賀 哲矢	2学期	2	2	178	
	2年				
福祉政策論 狭間 直樹	1学期	2	2	179	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	環境政策論	2学期	2	2	180
	申 東愛	2年			
	都市経済論	2学期	1	2	181
	古賀 哲矢	1年			
	都市経営論	1学期	2	2	182
	古賀 哲矢	2年			
	地方行政改革論	2学期	2	2	183
	森 裕亮	2年			
	日本政治論	2学期	1	2	184
	松田 憲忠	1年			
	公共経営論	2学期	2	2	185
	狭間 直樹	2年			
	NPO論	1学期	1	2	186
	楢原 真二 他	1年			
	途上国開発論	1学期	2	2	187
	三宅 博之	2年			
	アジア地域社会論	2学期	2	2	188
	三宅 博之	2年			
	応用政策特講	集中	2	2	189
梅垣 理郎	2年				
対外政策論	2学期	2	2	190	
坂本 隆幸	2年				
国際機構論I	1学期	3	2	191	
山本 直	3年				
国際機構論II	2学期	3	2	192	
山本 直	3年				
国際人権論	1学期	3	2	193	
山本 直	3年				
国際協力論I	1学期	3	2	194	
大平 剛	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■関連科目A	国際協力論II 千知岩 正継	2学期	3	2	195
		3年			
	国際紛争論 菅 英輝	1学期	3	2	196
		3年			
	障害者福祉論I 小賀 久	1学期	3	2	197
		3年			
	障害者福祉論II 小賀 久	2学期	3	2	198
		3年			
	老人福祉論I 石塚 優	1学期	3	2	199
		3年			
	老人福祉論II 石塚 優	2学期	3	2	200
		3年			
■関連科目B	ビジネス英語研究 松田 智	1学期	3	2	201
		3年			
	世界経済論I 尹 明憲	2学期	3	2	202
		3年			
	世界経済論II 尹 明憲	2学期	3	2	203
		3年			
	ミクロ経済学I 朱 乙文	2学期	1	2	204
		1年			
	ミクロ経済学II 朱 乙文	1学期	2	2	205
		2年			
	マクロ経済学I 田中 淳平	2学期	1	2	206
		1年			
マクロ経済学II 田中 淳平	1学期	2	2	207	
	2年				
産業組織論I 後藤 宇生	1学期	2	2	208	
	2年				
産業組織論II 後藤 宇生	2学期	2	2	209	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	経済地理学I	1学期	2	2	210
	柳井 雅人	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	211
	杉浦 勝章	2年			
	国際経済論I	1学期	2	2	212
	魏 芳	2年			
	国際経済論II	2学期	2	2	213
	魏 芳	2年			
	公共経済学	2学期	3	2	214
	牛房 義明	3年			
	金融論I	1学期	2	2	215
	後藤 尚久	2年			
	金融論II	2学期	2	2	216
	後藤 尚久	2年			
	国際貿易論I	1学期	3	2	217
	水戸 康夫	3年			
	国際貿易論II	2学期	3	2	218
	水戸 康夫	3年			
	都市財政I	1学期	3	2	219
	李 友炯	3年			
都市財政II	2学期	3	2	220	
大野 正久	3年				
国際金融論I	1学期	3	2	221	
前田 淳	3年				
国際金融論II	2学期	3	2	222	
前田 淳	3年				
経営戦略	2学期	2	2	223	
浦野 恭平	2年				
経営組織論	1学期	2	2	224	
齋藤 貞之	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■関連科目B	人事管理論 福井 直人	2学期	2	2	225
		2年			
	企業ファイナンスI 松本 守	1学期	2	2	226
		2年			
	企業ファイナンスII 松本 守	2学期	2	2	227
		2年			
	財務会計論I 西澤 健次	1学期	2	2	228
	2年				
財務会計論II 西澤 健次	2学期	2	2	229	
	2年				
中小企業論 別府 俊行	1学期	3	2	230	
	3年				
コーポレートガバナンス 晴山 英夫	2学期	3	2	231	
	3年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	232
		1年			
	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	233
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	234
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	235
		2年			
発達心理学 税田 慶昭	1学期	1	2	236	
	1年				
教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	237	
	3年				
教育制度 見玉 弥生	1学期	2	2	238	
	2年				
社会科教育法A 坂口 一隆	1学期	2	2	239	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■教職に関する科目 ■必修科目	社会科教育法 A	1学期	2	2	240
	坂口 一隆	2年			
	社会科教育法 B	2学期	2	2	241
	坂口 一隆	2年			
	社会科教育法 B	2学期	2	2	242
	坂口 一隆	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	243
	黒田 耕司	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	244
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	245
	楠 凡之	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	246
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	247
	黒田 耕司	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	248
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	249
	大塚 一徳	2年			
教育工学	2学期	2	2	250	
大塚 一徳	2年				
教職総合演習	2学期	3	2	251	
楠 凡之 他	3年				
教育実習 1	2学期	3	2	252	
黒田 耕司 他	3年				
教育実習 2	1学期	4	2	253	
見玉 弥生 他	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	254	
見玉 弥生 他	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	255
		2年			
	生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	256
		2年			
■選択科目	教育心理学 柴村 馨	2学期	2	2	257
		2年			
	教育心理学 柴村 馨	2学期	1	2	258
		1年			
	教育法規 見玉 弥生	2学期	3	2	259
		3年			
	教育法規 見玉 弥生	2学期	2	2	260
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	261
		2年			
	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	262
		2年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	263
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	264
		1年			
	人間と文化 重信 幸彦	1学期	1	2	265
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	266
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	267
		1年			
教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	268	
	1年				
可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	269	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	270
		2年			
	文化と政治 重信 幸彦	2学期	2	2	271
		2年			
	言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	272
		2年			
	共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	273
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	274	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	275	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	276	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	277
		1年			
	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	278
		1年			
	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	279
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	280
		1年			
フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	281	
	1年				
フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	282	
	1年				
フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	283	
	1年				
フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	284	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	285
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	286
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	287
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	288
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	289
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	290
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	291
		1年			
	自己管理論	2学期	1	2	292
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	293
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	294
		1年			
キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	295	
	1年				
キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	296	
	1年				
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	297	
	1年				
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	298	
	1年				
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	299	
	1年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	300
		1年			
	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	301
		1年			
	プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	302
		2年			
	大学論・学問論 小野 憲昭 他	1学期	1	2	303
		1年			
	法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	304
		1年			
	社会調査 稲月 正	2学期	1	2	305
		1年			
	統計を読む・統計をつくる 山本 努	集中	1	2	306
		1年			
	フィジカル・エクササイズI(サッカー) 磯貝 浩久	1学期	1	1	307
		1年			
フィジカル・エクササイズI(テニス) 原田 守治	1学期	1	1	308	
	1年				
フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 原田 守治	1学期	1	1	309	
	1年				
フィジカル・エクササイズI(バドミントン) 美山 泰教	1学期	1	1	310	
	1年				
フィジカル・エクササイズI(バレーボール) 美山 泰教	1学期	1	1	311	
	1年				
フィジカル・エクササイズI(バドミントン) 鯨 吉夫	1学期	1	1	312	
	1年				
フィジカル・エクササイズI(バドミントン) 鯨 吉夫	1学期	1	1	313	
	1年				
フィジカル・エクササイズI(バレーボール) 高西 敏正	1学期	1	1	314	
	1年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 徳永 政夫	1学期	1	1	315
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 磯貝 浩久	2学期	1	1	316
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 原田 守治	2学期	1	1	317
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 原田 守治	2学期	1	1	318
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 美山 泰教	2学期	1	1	319
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 美山 泰教	2学期	1	1	320
		1年			
フィジカル・エクササイズII (サッカー) 鯨 吉夫	2学期	1	1	321	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 鯨 吉夫	2学期	1	1	322	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) 磯貝 浩久	2学期	1	1	323	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 加倉井 美智子	2学期	1	1	324	
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I 日高 京子	1学期	1	2	325
		1年			
	教養基礎演習I 小林 道彦	1学期	1	2	326
		1年			
	教養基礎演習I 重信 幸彦	1学期	1	2	327
		1年			
教養基礎演習I 徳永 政夫	1学期	1	2	328	
	1年				
教養基礎演習I 稲月 正	1学期	1	2	329	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習I 小野 憲昭	1学期	1	2	330
		1年			
	教養基礎演習I 戸蒔 仁司	1学期	1	2	331
		1年			
	教養基礎演習I 伊原木 大祐	1学期	1	2	332
		1年			
	教養基礎演習I 二宮 正人	1学期	1	2	333
		1年			
	教養基礎演習I 高西 敏正	1学期	1	2	334
		1年			
	教養基礎演習II 日高 京子	2学期	1	2	335
		1年			
	教養基礎演習II 小林 道彦	2学期	1	2	336
		1年			
	教養基礎演習II 重信 幸彦	2学期	1	2	337
		1年			
	教養基礎演習II 徳永 政夫	2学期	1	2	338
		1年			
教養基礎演習II 稲月 正	2学期	1	2	339	
	1年				
教養基礎演習II 小野 憲昭	2学期	1	2	340	
	1年				
教養基礎演習II 戸蒔 仁司	1学期	1	2	341	
	1年				
教養基礎演習II 伊原木 大祐	2学期	1	2	342	
	1年				
教養基礎演習II 二宮 正人	2学期	1	2	343	
	1年				
教養基礎演習II 高西 敏正	2学期	1	2	344	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I 日高 京子	1学期	2	2	345
		2年			
	教養演習 A I 小林 道彦	1学期	2	2	346
		2年			
	教養演習 A I 重信 幸彦	1学期	2	2	347
		2年			
	教養演習 A I 戸蒔 仁司	1学期	2	2	348
		2年			
	教養演習 A I 稲月 正	1学期	2	2	349
		2年			
	教養演習 A I 伊原木 大祐	1学期	2	2	350
		2年			
	教養演習 A II 日高 京子	2学期	2	2	351
		2年			
	教養演習 A II 小林 道彦	2学期	2	2	352
		2年			
	教養演習 A II 重信 幸彦	2学期	2	2	353
		2年			
教養演習 A II 戸蒔 仁司	1学期	2	2	354	
	2年				
教養演習 A II 稲月 正	2学期	2	2	355	
	2年				
教養演習 A II 伊原木 大祐	2学期	2	2	356	
	2年				
教養演習 B I 日高 京子	1学期	3	2	357	
	3年				
教養演習 B I 小野 憲昭	1学期	3	2	358	
	3年				
教養演習 B I 小林 道彦	1学期	3	2	359	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ 重信 幸彦	1学期	3	2	360
		3年			
	教養演習BⅠ 戸蒔 仁司	1学期	3	2	361
		3年			
	教養演習BⅠ 稲月 正	1学期	3	2	362
		3年			
	教養演習BⅠ 伊原木 大祐	1学期	3	2	363
		3年			
	教養演習BⅡ 日高 京子	2学期	3	2	364
		3年			
	教養演習BⅡ 小野 憲昭	2学期	3	2	365
		3年			
	教養演習BⅡ 小林 道彦	2学期	3	2	366
		3年			
教養演習BⅡ 重信 幸彦	2学期	3	2	367	
	3年				
教養演習BⅡ 戸蒔 仁司	1学期	3	2	368	
	3年				
教養演習BⅡ 稲月 正	2学期	3	2	369	
	3年				
教養演習BⅡ 伊原木 大祐	2学期	3	2	370	
	3年				
プロジェクト演習Ⅰ 見館 好隆	2学期	2	2	371	
	2年				
プロジェクト演習Ⅱ 見館 好隆	1学期	3	2	372	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなごし 竹川 大介 他	1学期	1	2	373
		1年			
	動物のみかた 竹川 大介	2学期	1	2	374
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	375
		1年			
	自然史へのいざない 重信 幸彦 他	2学期	1	2	376
		1年			
	くらしと化学 竹之下 芳也	2学期	1	2	377
		1年			
	現代人のこころ 小松 佐穂子	1学期	1	2	378
		1年			
	数のたのしみ 高妻 倫太郎	集中	1	2	379
		1年			
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	380
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	381
		1年			
	ものがたりと人間 重信 幸彦 他	1学期	1	2	382
		1年			
文化と表象 真鍋 昌賢 他	2学期	1	2	383	
	1年				
言語とコミュニケーション 漆原 朗子 他	2学期	1	2	384	
	1年				
芸術と人間 波瀾 剛	1学期	1	2	385	
	1年				
文学を読む 岩本 真理子 他	1学期	1	2	386	
	1年				
戦争と人間 重信 幸彦 他	1学期	1	2	387	
	1年				
現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	388	
	1年				
民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	389	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	390
		1年			
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	391
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	392
		1年			
	共生の作法 山本 光英 他	2学期	1	2	393
		1年			
	北九州学 小野 憲昭	2学期	1	2	394
		1年			
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	395
		1年			
	企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	396
		1年			
	つながりの人間学 児玉 弥生 他	2学期	1	2	397
		1年			
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	398
		1年			
現代社会の諸問題 山本 光英 他	2学期	1	2	399	
	1年				
現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	400	
	1年				
国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	401	
	1年				
国際紛争と国連 戸蒔 仁司	1学期	1	2	402	
	1年				
民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	403	
	1年				
開発と統治 三宅 博之 他	1学期	1	2	404	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	405
	1年				
	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	406
	1年				
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	407
	1年				
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	408
	1年				
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	409
	1年				
	そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	410
	1年				
	戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	411
	1年				
	都市と農村の生活文化史 重信 幸彦	2学期	1	2	412
	1年				
	ものと人間の歴史 重信 幸彦 他	1学期	1	2	413
	1年				
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	414	
1年					
教養特講I 伊藤 解子	2学期	1	2	415	
1年					
教養特講II 中道 壽一 他	2学期	1	2	416	
1年					
教養特講III 山崎 勇治	2学期	1	2	417	
1年					
教養特講IV 日高 京子	2学期	1	2	418	
1年					
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	419
1年					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	西洋史	1学期	1	2	420
	晴谷 憲洋	1年			
	東洋史	2学期	1	2	421
	内田 直文	1年			
	社会学	1学期	1	2	422
	稲月 正	1年			
	人文地理学	2学期	1	2	423
	吉津 直樹	1年			
	土地地理学	1学期	1	2	424
	野井 英明	1年			
	地誌学	1学期	1	2	425
	吉津 直樹	1年			
	倫理学	2学期	1	2	426
	伊原木 大祐	1年			
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング	2学期	1	2	427
	浅羽 修丈	1年			
	エンドユーザコンピューティング	2学期	1	2	428
	佐藤 貴之	1年			
	データ処理	1学期	1	2	429
	廣渡 栄寿	1年			
	データ処理	1学期	1	2	430
	佐々木 実	1年			
	データ処理	1学期	1	2	431
	棚次 奎介	1年			
	データ処理	1学期	1	2	432
	棚次 奎介	1年			
	情報表現	1学期	2	2	433
	浅羽 修丈	2年			
情報表現	1学期	2	2	434	
中尾 泰士	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	435
		2年			
	情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	436
		2年			
	プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	437
		2年			
	プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	438
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 下條 かおり	1学期	1	1	439
		律政群1 - A			
	英語I 渡邊 晶子	1学期	1	1	440
		律政群1 - B			
	英語I 相原 信彦	1学期	1	1	441
		律政群1 - C			
	英語I 新藤 照夫	1学期	1	1	442
		律政群1 - D			
	英語I 安丸 雅子	1学期	1	1	443
		律政群1 - E			
	英語I 野上 良子	1学期	1	1	444
		律政群1 - F			
	英語I 酒井 秀子	1学期	1	1	445
		律政群1 - G			
英語I 十時 康	1学期	1	1	446	
	律政1 - H				
英語I 木梨 安子	1学期	1	1	447	
	律政群1 - I				
英語II Stephanie A.Houghton	2学期	1	1	448	
	律政群1 - A				
英語II 渡邊 晶子	2学期	1	1	449	
	律政群1 - B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語II 相原 信彦	2学期	1	1	450
		律政群 1 - C			
	英語II 新藤 照夫	2学期	1	1	451
		律政群 1 - D			
	英語II 安丸 雅子	2学期	1	1	452
		律政群 1 - E			
	英語II 下條 かおり	2学期	1	1	453
		律政群 1 - F			
	英語II 酒井 秀子	2学期	1	1	454
		律政群 1 - G			
	英語II 十時 康	2学期	1	1	455
		律政 1 - H			
	英語II 木梨 安子	2学期	1	1	456
		律政群 1 - I			
	英語III ケネス・ギブソン	1学期	1	1	457
		律政群 1 - A			
	英語III アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	458
	律政群 1 - B				
英語III Stephanie A.Houghton	1学期	1	1	459	
	律政群 1 - C				
英語III アレクサンダー・ボードナー	1学期	1	1	460	
	律政群 1 - D				
英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	461	
	律政群 1 - E				
英語III ホセ・クルーズ	1学期	1	1	462	
	律政群 1 - F				
英語III デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	463	
	律政群 1 - G				
英語III ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	464	
	律政 1 - H				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III 船方 浩子	1学期	1	1	465
		律政群 1 - I			
	英語IV ケネス・ギブソン	2学期	1	1	466
		律政群 1 - A			
	英語IV アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	467
		律政群 1 - B			
	英語IV Stephanie A.Houghton	2学期	1	1	468
		律政群 1 - C			
	英語IV アレクサンダー・ボードナー	2学期	1	1	469
		律政群 1 - D			
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	470
		律政群 1 - E			
	英語IV ホセ・クルーズ	2学期	1	1	471
		律政群 1 - F			
	英語IV デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	472
		律政群 1 - G			
	英語IV 永末 康介	2学期	1	1	473
		律政 1 - H			
	英語IV 船方 浩子	2学期	1	1	474
		律政群 1 - I			
英語V 漆原 朗子	1学期	2	1	475	
	律政群 2 - D				
英語V 十時 康	1学期	2	1	476	
	律政群 2 - E				
英語V 安丸 雅子	1学期	2	1	477	
	律政群 2 - F				
英語V 村田 希巳子	1学期	2	1	478	
	律政群 2 - G				
英語V 中島 美穂子	1学期	2	1	479	
	律政 2 - H				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語V 大塚 由美子	1学期	2	1	480
		律政2 - I			
	英語V 薬師寺 元子	1学期	2	1	481
		律政群2 - A			
	英語V 三宅 啓子	1学期	2	1	482
		律政群2 - B			
	英語V 木梨 安子	1学期	2	1	483
		律政群2 - C			
	英語VI 漆原 朗子	2学期	2	1	484
		律政群2 - D			
	英語VI 十時 康	2学期	2	1	485
		律政群2 - E			
	英語VI 安丸 雅子	2学期	2	1	486
		律政群2 - F			
	英語VI 村田 希巳子	2学期	2	1	487
		律政群2 - G			
	英語VI 中島 美穂子	2学期	2	1	488
		律政2 - H			
	英語VI 大塚 由美子	2学期	2	1	489
		律政2 - I			
英語VI Stephanie A.Houghton	2学期	2	1	490	
	律政群2 - A				
英語VI 三宅 啓子	2学期	2	1	491	
	律政群2 - B				
英語VI 木梨 安子	2学期	2	1	492	
	律政群2 - C				
英語VII ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	2	1	493	
	律政群2 - D				
英語VII ケネス・ギブソン	1学期	2	1	494	
	律政群2 - E				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VII アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	495
		律政群 2 - F			
	英語VII マーニー・セイディ	1学期	2	1	496
		律政群 2 - G			
	英語VII 船方 浩子	1学期	2	1	497
		律政 2 - H			
	英語VII 薬師寺 元子	1学期	2	1	498
		律政 2 - I			
	英語VII デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	2	1	499
		律政群 2 - A			
	英語VII ホセ・クルーズ	1学期	2	1	500
		律政群 2 - B			
	英語VII アレクサンダー・ボードナー	1学期	2	1	501
		律政群 2 - C			
	英語VIII ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	2	1	502
		律政群 2 - D			
	英語VIII ケネス・ギブソン	2学期	2	1	503
		律政群 2 - E			
	英語VIII アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	504
		律政群 2 - F			
英語VIII マーニー・セイディ	2学期	2	1	505	
	律政群 2 - G				
英語VIII クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	506	
	律政 2 - H				
英語VIII 薬師寺 元子	2学期	2	1	507	
	律政 2 - I				
英語VIII デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	2	1	508	
	律政群 2 - A				
英語VIII ホセ・クルーズ	2学期	2	1	509	
	律政群 2 - B				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VIII アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	510	
		律政群2 - C				
	英語IX 伊藤 晃	1学期	3	1	511	
		済営律政3年				
	英語X 杉山 智子	2学期	3	1	512	
		済営律政3年				
	英語XI ダニー・ミン	1学期	3	1	513	
		済営律政3年				
	英語XII ダニー・ミン	2学期	3	1	514	
		済営律政3年				
	■第二外国語	中国語I 野村 和代	1学期	1	1	515
			律群1年			
中国語II 野村 和代		2学期	1	1	516	
		律群1年				
中国語III 大連交換教員		1学期	1	1	517	
		律群1年				
中国語IV 大連交換教員		2学期	1	1	518	
		律群1年				
中国語V 有働 彰子		1学期	2	1	519	
		済営人律政群2年				
中国語VI 有働 彰子		2学期	2	1	520	
		済営人律政群2年				
中国語VII 馮 雅蓮	1学期	2	1	521		
	済営人律政群2年					
中国語VIII 馮 雅蓮	2学期	2	1	522		
	済営人律政群2年					
朝鮮語I 金 貞淑	1学期	1	1	523		
	律政1年					
朝鮮語II 金 貞淑	2学期	1	1	524		
	律政1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語Ⅲ 金 貞淑	1学期	1	1	525
		律政 1 年			
	朝鮮語Ⅳ 金 貞淑	2学期	1	1	526
		律政 1 年			
	朝鮮語Ⅴ 金 貞愛	1学期	2	1	527
		済営比人律政群 2 年			
	朝鮮語Ⅵ 金 貞愛	2学期	2	1	528
		済営比人律政群 2 年			
	朝鮮語Ⅶ 金 貞淑	1学期	2	1	529
		済営比人律政群 2 年			
	朝鮮語Ⅷ 金 貞淑	2学期	2	1	530
		済営比人律政群 2 年			
	ロシア語Ⅰ 芳之内 雄二	1学期	1	1	531
		律政 1 年			
	ロシア語Ⅱ 芳之内 雄二	2学期	1	1	532
		律政 1 年			
	ロシア語Ⅲ ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	533
		律政 1 年			
	ロシア語Ⅳ ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	534
		律政 1 年			
ロシア語Ⅴ 芳之内 雄二	1学期	2	1	535	
	済営比人律政 2 年				
ロシア語Ⅵ 芳之内 雄二	2学期	2	1	536	
	済営比人律政 2 年				
ロシア語Ⅶ ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	537	
	済営比人律政 2 年				
ロシア語Ⅷ ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	538	
	済営比人律政 2 年				
ドイツ語Ⅰ 山下 哲雄	1学期	1	1	539	
	律政 1 年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語II	山下 哲雄	2学期	1	1	540
			律政1年			
	ドイツ語III	山下 哲雄	1学期	1	1	541
			律政1年			
	ドイツ語IV	山下 哲雄	2学期	1	1	542
			律政1年			
	ドイツ語V	山下 哲雄	1学期	2	1	543
			済営比人律政2年			
	ドイツ語VI	山下 哲雄	2学期	2	1	544
			済営比人律政2年			
	ドイツ語VII	山下 哲雄	1学期	2	1	545
			済営比人律政2年			
	ドイツ語VIII	山下 哲雄	2学期	2	1	546
			済営比人律政2年			
	フランス語I	坂田 由紀	1学期	1	1	547
			律政1年			
	フランス語II	坂田 由紀	2学期	1	1	548
			律政1年			
	フランス語III	山下 広一	1学期	1	1	549
			律政1年			
フランス語IV	山下 広一	2学期	1	1	550	
		律政1年				
フランス語V	中川 裕二	1学期	2	1	551	
		済営比人律政2年				
フランス語VI	中川 裕二	2学期	2	1	552	
		済営比人律政2年				
フランス語VII	山下 高之	1学期	2	1	553	
		済営比人律政2年				
フランス語VIII	山下 高之	2学期	2	1	554	
		済営比人律政2年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語I	青木 文夫	1学期	1	1	555
				律政 1年		
	スペイン語II	青木 文夫	2学期	1	1	556
				律政 1年		
	スペイン語III	辻 博子	1学期	1	1	557
				律政 1年		
	スペイン語IV	辻 博子	2学期	1	1	558
				律政 1年		
スペイン語V	辻 光博	1学期	2	1	559	
			済営比人律政 2年			
スペイン語VI	辻 光博	2学期	2	1	560	
			済営比人律政 2年			
スペイン語VII	辻 博子	1学期	2	1	561	
			済営比人律政 2年			
スペイン語VIII	辻 博子	2学期	2	1	562	
			済営比人律政 2年			
■留学生特別科目	日本語 A	小林 浩明	1学期 (ペア)	1	2	563
				留学生 1年		
	日本語 A	小林 浩明	1学期 (ペア)	1	2	564
				留学生 1年		
	日本語 B	則松 智子 他	1学期 (ペア)	1	2	565
				留学生 1年		
	日本語 C	小林 浩明 他	2学期 (ペア)	1	2	566
				留学生 1年		
日本語 D	清水 順子 他	2学期 (ペア)	1	2	567	
			留学生 1年			
日本事情 (社会) A	山崎 勇治	1学期	1	2	568	
			留学生 1年			
日本事情 (社会) B	山崎 勇治	2学期	1	2	569	
			留学生 1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	外国文献研究I 高橋 衛	1学期	2	2	570
		2年			
	外国文献研究I 福本 忍	1学期	2	2	571
		2年			
	外国文献研究II 國武 英生	2学期	2	2	572
		2年			
	法哲学専門演習II 重松 博之	2学期	3	2	573
		3年			
	法制史専門演習I 岡 邦信	1学期	3	2	574
		3年			
	憲法専門演習I 落合 俊行	1学期	3	2	575
		3年			
	憲法専門演習II 植木 淳	2学期	3	2	576
		3年			
	刑法専門演習I 山本 光英	1学期	3	2	577
		3年			
	刑法専門演習II 大杉 一之	2学期	3	2	578
		3年			
	刑事訴訟法専門演習I 吉村 弘	1学期	3	2	579
		3年			
国際法専門演習I 二宮 正人	1学期	3	2	580	
	3年				
国際法専門演習II 二宮 正人	2学期	3	2	581	
	3年				
民法専門演習I 福本 忍	1学期	3	2	582	
	3年				
民法専門演習II 福本 忍	2学期	3	2	583	
	3年				
民事訴訟法専門演習I 小池 順一	1学期	3	2	584	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	民事訴訟法専門演習II 小池 順一	2学期	3	2	585
		3年			
	企業法専門演習I 高橋 衛	1学期	3	2	586
		3年			
	企業法専門演習II 高橋 衛	2学期	3	2	587
		3年			
	現代法曹論II 中野 敬一	2学期	2	2	588
		2年			
■理論法学科目	法思想史 重松 博之	1学期	2	2	589
		2年			
	日本法制史 岡 邦信	2学期 (ペア)	2	4	590
		2年			
	紛争処理論 林田 幸広	2学期	3	2	591
		3年			
■公法科目	日本国憲法原論 植木 淳	1学期	1	2	592
		1年			
	憲法訴訟論 落合 俊行	2学期	2	2	593
		2年			
	行政争訟法 岡本 博志	2学期	2	2	594
		2年			
	地方自治法 岡本 博志	1学期 (ペア)	3	4	595
		3年			
■刑事法科目	刑法犯罪論 大杉 一之	1学期 (ペア)	1	4	596
		1年			
	刑法犯罪各論I 福永 俊輔	2学期	2	2	597
		2年			
	刑法犯罪各論II 福永 俊輔	2学期	2	2	598
		2年			
	刑事訴訟法各論 吉村 弘	1学期	3	2	599
		3年			

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■刑事法科目	犯罪学 朴 元奎	1学期 (ペア)	3	4	600
	3年				
■社会法科目	所得保障法 柴田 滋	2学期	2	2	601
	2年				
	雇用関係法 國武 英生	1学期	2	2	602
	2年				
■国際関係法科目	国際法I 中川 智治	1学期	2	2	603
	2年				
	国際法II 中川 智治	2学期	2	2	604
	2年				
	国際私法 中林 啓一	集中	3	2	605
	3年				
■民事法科目	民法総則 河津 八平	1学期 (ペア)	1	4	606
	1年				
	物権法 畑中 久彌	2学期	1	2	607
	1年				
	債権各論 堀田 泰司	2学期 (ペア)	2	4	608
	2年				
	民事訴訟法各論 小池 順一	2学期	2	2	609
	2年				
	民事執行法 中村 仁	2学期	3	2	610
	3年				
■商事法科目	企業活動と法 今泉 恵子	1学期	2	2	611
	2年				
	企業取引法II 前越 俊之	2学期	3	2	612
	3年				
証券市場と法 高橋 衛	1学期	3	2	613	
3年					
■関連科目A	公共政策論 檜原 真二	1学期	2	2	614
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	政策過程論 申 東愛	1学期	2	2	615
		2年			
	政治過程論 松田 憲忠	2学期	1	2	616
		1年			
	現代政治思想 中道 壽一	1学期	2	2	617
		2年			
	都市環境論 三宅 博之	1学期	1	2	618
		1年			
	自治体政策研究 楢原 真二	2学期	2	2	619
		2年			
	都市経済論 古賀 哲矢	2学期	1	2	620
		1年			
	地方行政改革論 森 裕亮	2学期	2	2	621
		2年			
	日本行政論 森 裕亮	2学期	1	2	622
		1年			
	公共経営論 狭間 直樹	2学期	2	2	623
		2年			
地域統合論 五月女 律子	2学期	2	2	624	
	2年				
国際人権論 山本 直	1学期	3	2	625	
	3年				
国際協力論I 大平 剛	1学期	3	2	626	
	3年				
国際協力論II 千知岩 正継	2学期	3	2	627	
	3年				
老人福祉論I 石塚 優	1学期	3	2	628	
	3年				
■関連科目B	ビジネス英語研究 松田 智	1学期	3	2	629
		3年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	ミクロ経済学I 朱 乙文	2学期	1	2	630
		1年			
	ミクロ経済学II 朱 乙文	1学期	2	2	631
		2年			
	マクロ経済学I 田中 淳平	2学期	1	2	632
		1年			
	マクロ経済学II 田中 淳平	1学期	2	2	633
		2年			
	経済地理学I 柳井 雅人	1学期	2	2	634
		2年			
	経済地理学II 杉浦 勝章	2学期	2	2	635
		2年			
	国際経済論I 魏 芳	1学期	2	2	636
		2年			
	国際経済論II 魏 芳	2学期	2	2	637
		2年			
	財政学I 安岡 匡也	1学期	3	2	638
		3年			
	財政学II 安岡 匡也	2学期	3	2	639
		3年			
国際貿易論I 立石 揚志	1学期	3	2	640	
	3年				
国際貿易論II 立石 揚志	2学期	3	2	641	
	3年				
経営戦略 浦野 恭平	2学期	2	2	642	
	2年				
経営組織論 齋藤 貞之	1学期	2	2	643	
	2年				
人事管理論 福井 直人	2学期	2	2	644	
	2年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	企業ファイナンスI 内田 交謹	1学期	2	2	645
	2年				
	企業ファイナンスII 内田 交謹	2学期	2	2	646
	2年				
	財務会計論I 西澤 健次	1学期	2	2	647
	2年				
	証券市場論 山岡 敏秀	1学期	3	2	648
	3年				
	コーポレートガバナンス 晴山 英夫	2学期	3	2	649
	3年				
	会計監査論 任 章	1学期	3	2	650
	3年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	651
	1年				
	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	652
	1年				
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	653
	1年				
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	654
	1年				
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	655
	2年				
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	1	2	656
	1年				
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	657
	3年				
	教育制度 見玉 弥生	1学期	2	2	658
2年					
公民科教育法A 飯田 直弘	1学期	2	2	659	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	公民科教育法 A	1学期	2	2	660
	飯田 直弘	2年			
	公民科教育法 B	2学期	2	2	661
	飯田 直弘	2年			
	公民科教育法 B	2学期	2	2	662
	飯田 直弘	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	663
	黒田 耕司	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	664
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	665
	楠 凡之	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	666
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	667
	黒田 耕司	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	668
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	669
	大塚 一徳	2年			
教育工学	2学期	2	2	670	
大塚 一徳	2年				
教職総合演習	2学期	3	2	671	
楠 凡之 他	3年				
教育実習 1	2学期	3	2	672	
黒田 耕司	3年				
教育実習 1	2学期	3	2	673	
黒田 耕司	3年				
教育実習 2	1学期	4	2	674	
見玉 弥生	4年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 2 見玉 弥生	1学期	4	2	675
		4年			
	教育実習 3 見玉 弥生	1学期	4	2	676
		4年			
	教育実習 3 見玉 弥生	1学期	4	2	677
		4年			
	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	678
		2年			
	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	679
		2年			
	生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	680
		2年			
■選択科目	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	681
		2年			
	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	682
		2年			
	教育社会学 見玉 弥生	1学期	2	2	683
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	684
		2年			
	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	685
		2年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	686
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	687
		1年			
	人間と文化 重信 幸彦	1学期	1	2	688
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	689
		1年			

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	690
	1年				
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	691
	1年				
	生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	692
	1年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	693
	1年				
	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	694
	1年				
	フィジカル・ヘルスI 内田 若希	1学期	1	2	695
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	696	
1年					
■テーマ科目	自然学のまなざし 日高 京子	1学期	1	2	697
	1年				
	くらしと化学 竹之下 芳也	2学期	1	2	698
	1年				
	現代人のこころ 税田 慶昭	1学期	1	2	699
	1年				
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	700
	1年				
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	701
	1年				
市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	702	
1年					
現代社会の諸問題 山本 光英 他	2学期	1	2	703	
1年					
国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	704	
1年					

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	705
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	706
		1年			
	歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	707
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	708
	1年				
都市と農村の生活文化史 重信 幸彦	2学期	1	2	709	
	1年				
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	710	
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	711
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	712
		1年			
	東洋史 内田 直文	2学期	1	2	713
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	714
		1年			
	人文地理学 吉津 直樹	2学期	1	2	715
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	716
	1年				
地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	717	
	1年				
倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	718	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 廣渡 栄寿	2学期	1	2	719
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	720
		1年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	721
		律政夜 1年			
	英語II 伊藤 晃	2学期	1	1	722
		律政夜 1年			
	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	723
		律政夜 1年			
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	724
		律政夜 1年			
	英語V 杉山 智子	1学期	2	1	725
		律政夜 2年			
	英語VI 伊藤 晃	2学期	2	1	726
		律政夜 2年			
	英語VII ダニー・ミン	1学期	2	1	727
		律政夜 2年			
	英語VIII ダニー・ミン	2学期	2	1	728
		律政夜 2年			
■第二外国語	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	729
		済営律政夜 1年			
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	730
		済営律政夜 1年			
	中国語III 王 占華	1学期	1	1	731
		済営律政夜 1年			
	中国語IV 王 占華	2学期	1	1	732
		済営律政夜 1年			
朝鮮語I チャン ユンヒャン	1学期	1	1	733	
	済営律政夜 1年				
朝鮮語II チャン ユンヒャン	2学期	1	1	734	
	済営律政夜 1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語Ⅲ 金 光子	1学期	1	1	735
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語Ⅳ 金 光子	2学期	1	1	736
		済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅰ 芳之内 雄二	1学期	1	1	737
		済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅱ 芳之内 雄二	2学期	1	1	738
		済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅲ 芳之内 雄二	1学期	1	1	739
		済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅳ 芳之内 雄二	2学期	1	1	740
		済営律政夜 1年			
	ドイツ語Ⅰ 山下 哲雄	1学期	1	1	741
		済営律政夜 1年			
	ドイツ語Ⅱ 山下 哲雄	2学期	1	1	742
		済営律政夜 1年			
	ドイツ語Ⅲ 山下 哲雄	1学期	1	1	743
		済営律政夜 1年			
	ドイツ語Ⅳ 山下 哲雄	2学期	1	1	744
		済営律政夜 1年			
フランス語Ⅰ 山下 高之	1学期	1	1	745	
	済営律政夜 1年				
フランス語Ⅱ 山下 高之	2学期	1	1	746	
	済営律政夜 1年				
フランス語Ⅲ 水本 弘文	1学期	1	1	747	
	済営律政夜 1年				
フランス語Ⅳ 水本 弘文	2学期	1	1	748	
	済営律政夜 1年				
スペイン語Ⅰ 岡住 正秀	1学期	1	1	749	
	済営律政夜 1年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語II	2学期	1	1	750
	岡住 正秀	済営律政夜 1年			
	スペイン語III	1学期	1	1	751
	岡住 正秀	済営律政夜 1年			
	スペイン語IV	2学期	1	1	752
	岡住 正秀	済営律政夜 1年			

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これから法学部で学ぶさまざまな法制度の現状とその問題点を理解しようとする際に必要かつ有益な能力を身につけることが目標となります。具体的には、身近に生じている実際の事件・紛争、法システムに含まれている法的な問題を発見する方法、問題を検討するにあたって資料・文献を検索・収集する方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、集めた資料を分析する方法などを学びます。

教科書 /Textbooks

弥永真生著『法律学習マニュアル』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにしますが、とりあえず例えば以下のもの。

森靖雄著『大学生の学習テクニック』（大月書）

中野次雄編『判例とその読み方』（改訂版）（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ゼミの運営方針の説明

第2回 授業の受け方・講義ノートの取り方

第3回 各自、興味のある法律問題・事件について発表し、文献資料や判例等がどの程度存在しているのか調査する（パソコンを利用して関連・周辺問題も含めた情報を検索し、図書館等を利用して実際の情報や資料を入手する方法を学ぶ）。

第4回～第5回 各自、問題・テーマを決定して、それについての報告を行う準備をする。

具体的には、文献の要約の仕方、報告書（レジюме）の作り方、口頭発表の仕方・討論の仕方の事前学習をする。レジюмеの報告者の順番を決める。

第6回～第15回 順番に従って、毎回、担当者が報告を行い、参加者全員で議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%（出席・報告内容・ディスカッションへの参加度を総合評価）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者にはレジюмеの作成と参加者への事前配布が求められます。

報告者以外の受講者には、事前のレジюмеの読み込みと質問事項の準備が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「法学基礎演習I」（1学期）は、大学生・社会人として必須の能力である「弁論能力」（スピーチ）と「討論能力」（ディベート）の鍛錬に特化することとする。「スピーチ」においては、各自に割り当てられたテーマについて、即興でのスピーチをおこなってもら（3分間スピーチ）。「ディベート」においては、競技ディベートのルールに則って、グループ相互でのディベートを行う。上記のような鍛錬を通じて教員・学生が相互に論理的・説得的に「しゃべる」技術を向上させることを目的とする。

教科書 /Textbooks

必要な資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 スピーチ①
- 第3回 スピーチ②
- 第4回 スピーチ③
- 第5回 スピーチ④
- 第6回 ディベート①
- 第7回 ディベート②
- 第8回 ディベート③
- 第9回 ディベート④
- 第10回 ディベート⑤
- 第11回 ディベート⑥
- 第12回 スピーチ⑤
- 第13回 スピーチ⑥
- 第14回 予備日程
- 第15回 予備日程

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50% スピーチ・ディベート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の歴史についての固定観念に再検討を加える。日本社会および日本人の法生活について多様な視点から見る目を養う。

教科書 /Textbooks

- 1 中世社会と現代 五味文彦著 山川出版
- 2 日本の歴史をよみなおす 網野善彦著 筑摩書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキスト、ゼミ内容について解説
- 2回 図書館見学と利用法
- 3回 以下担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 50 % ゼミへの参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者以外の者も必ず予習し、疑問点など発表者に対する質問事項等を考えておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年生を対象とし、大学における学習のやり方、すなわち広義や演習の受講方法とそのために必要な学習の方法・技術について基本的な事柄を学ぶとともに、法律を勉強するとはどういうことであるのかを考え、理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業において資料を配付するほか、文献等については適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

弥永真生『法律学習マニュアル(第2版補訂版)』(2007年、有斐閣)
いしかわまりこ他著、指宿信他監修
『リーガル・リサーチ(第3版)』(2008年、日本評論社)
村上英明・小原清信編『なるほど公法入門(第2版)』(2004年、法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(運営方針の説明)
- 2回 法学の各分野はどうなっているか
- 3回 図書館の利用方法
- 4回～6回 学習の方法について
- 7回～8回 立法機関と立法過程
- 9回～10回 裁判所制度
- 11回～12回 行政組織
- 13回～15回 法令解釈の基礎

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 80 % 討論への参加状況 ... 20 %
(出席が総授業回数の3分の2に満たない場合は不合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法の解釈を通して、社会にはいろいろな考え方や見方があるということを学んでいきます。たとえば、刑法199条は、殺意をもって人を殺せば殺人罪に問われる旨を規定しています。死刑から懲役5年以上の法定刑です。「人を殺す」といいますが、いったいわたしたちは「いつ」人となり、「いつ」人でなくなるのでしょうか。それは生まれたときです、死んだときです、と答えても、法律学的には何も答えていません。つまり、いつ「生まれた」か、いつ「死んだ」かということが問題なのです。刑法はこれについて何も規定しておりません。しかし、実際に起こるさまざまな問題や事件に対して、法を解釈し、法を適用して、実際に具体的な判断を下して解決しなければなりません。社会生活において、法がどのように適用されているのか、具体的な裁判判例を素材にして、いっしょに考えていきましょう。インターネットよりも、図書館の本や雑誌、判例集などを調べて勉強します。

教科書 /Textbooks

中川義朗『現代の人権と法を考える』（第二版）（法律文化社、2006年、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第2回 情報社会と人権
第3回～第4回 自己決定権
第5回～第6回 環境と人権
第7回～第8回 子どもの人権
第9回～第10回 女性の人権
第11回～第12回 外国人の人権
第13回～第14回 身近な差別と偏見

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30 % 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず、法令、判例、文献など法律情報の調べ方を習得することを目的とします。次に、大学におけるレポートとはどのように構成すればよいか、その書き方も学習します。受講生との話し合いにより、テーマを選定し、そのテーマに関するレポートを基に議論することにより、法律的思想方法を習得します。テーマは、法律一般に関する時事的なもの、その他報告者の希望により決定します。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指宿 信監修 いしかわまりこ他著『リーガル・リサーチ』日本評論社
弥生真生著『法律学習マニュアル』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業の進め方について、報告者決定
- 2回 判例の調べ方について
- 3回 文献の調べ方について
- 4回 法令の調べ方について
- 5回 以下、順次、個別テーマについて報告
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」に関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを本演習の目的とする。これらの著作は、法学をこれから学ぶ者が一読しておくべき古典的名著である。また、それと同時に、J・ローズやR・ノージックなどの現代正義論との関連からも、その理論的射程・現代性が再検討されるべきものでもある。本演習では、古典と現代という二重の問題意識をもちつつ、以下のテキストを読み進めていきたい。

これまでおそらく教科書知識のみで知っているつもりとなっていたであろう古典的著作を、翻訳でではあれ直接読むことにより、必ずやなんらかの点において知的に触発されるものがあると思われる。既読者にとっても、いずれの著作も読むたびに新たな発見や関心を引き起こすような性質をもった名著である。また、実定法学を学ぶ上でも、これらの著作からは、理論的基礎として大いに得るものがある。

教科書 /Textbooks

- J・ロック『市民政府論』（岩波文庫）
- ルソー『社会契約論 / ジュネーブ草稿』（光文社古典新訳文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- J・ロック『統治二論』（岩波書店）、J・ロック『全訳 統治論』（柏書房）
- 浜林正夫『ロック』（研究社出版）○ 森村進『ロック所有論の再生』（有斐閣）
- 西嶋法友『ルソーにおける人間と国家』（成文堂）
- 川合清隆『ルソーとジュネーブ共和国』（名古屋大学出版局）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ははじめに。第2回からは、あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながら上記テキストを順に読み進める。第14回～第15回はまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 60% 報告... 20% 質問等の状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法律の学び方・調べ方といった法学の基本的なトレーニングを行います。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 法を学ぶ意義や法の役割を理解する。
- 5回～15回 各担当者による報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

■演習テーマ：社会生活における人間関係と法律■ 本演習は、①社会で起こっている様々な出来事を多角的に捉える目線を養うこと、②身近に起こりうる問題を解決し「自分の頭で考える力を身に付けること」を目指す。とりわけ、判例の読解および検討を通じて、①筋道を立てて物事を考える力、②裁判官が判決を下すために付した理由付け（論理構造）を客観的に整理し理解する力を養い、法的思考のイロハを身につける。また、レジュメ作成技術、レポートのまとめ方、法律文献の調査方法や引用方法など法律を学ぶ上で必要最低限の作法を体得し、3年次以降どの分野のゼミを選択しても主体的に報告準備に取り組み、積極的に議論に参加できるプレゼンテーション能力を向上させる「基礎体力」をつけることが本演習のもう一つの狙いである。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本演習の進め方、および民法の体系と基本原理、権利の実現方法について解説。
- 2回 判決文を読む上でのポイント解説。第4回以後のスケジュール（報告担当）決定。
- 3回 判例の検索方法および報告の際のレジュメの作り方、レポート作成方法について解説。
- 4回 学生による判例報告①。報告後、全員で議論。
- 5回 学生による判例報告②。報告後、全員で議論。
- 6回 学生による判例報告③。報告後、全員で議論。
- 7回 学生による判例報告④。報告後、全員で議論。
- 8回 学生による判例報告⑤。報告後、全員で議論。
- 9回 学生による判例報告⑥。報告後、全員で議論。
- 10回 学生による判例報告⑦。報告後、全員で議論。
- 11回 学生による判例報告⑧。報告後、全員で議論。
- 12回 学生による判例報告⑨。報告後、全員で議論。
- 13回 学生による判例報告⑩。報告後、全員で議論。レポートに関する解説（1）。
- 14回 学生による判例報告⑪。報告後、全員で議論。レポートに関する解説（2）。
- 15回 学生による判例報告⑫。報告後、全員で議論。1学期の総括（担当教員からの総評）。

成績評価の方法 /Assessment Method

判例報告... 30% 平素の演習への取り組み... 25% レポート（学期末5000字）... 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは指定しない。参考文献は演習中に適宜紹介する。毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ演習時の議論において「無言厳禁」を原則とするなど、本演習は受講者に対する要求度が高いことを付言しておく。無断欠席者、遅刻常習者、学期末レポート未提出者に単位は与えない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にし、受講者に対しそれらを法的に分析していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上、④レポート作成能力の向上を目指します。【法的分析等に関する基礎技術の習得】IとIIをセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横田洋三編『国際法入門』(有斐閣・2004) 松井芳郎『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)
他の参考文献については、別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 第1回 コースガイダンス | 第2回 法学の学習にあたって |
| 第3回 リサーチ①(文献等の探し方) | 第4回 リサーチ②(情報検索サイト等の活用) |
| 第5回 クリティカルシンキング | 第6回 法律の条文に親しむ |
| 第7回 条文の解釈の作法を知る | 第8回 判例の探し方 |
| 第9回 実際の判決文を読む | 第10回 判例研究のレジюмеを作る |
| 第11回 レジюме検討ゼミ | 第12回 法学の答案を書く |
| 第13回 答案検討ゼミ | 第14回 レポートを書くにあたって |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。

ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習のテーマは、「社会科学方法論の基礎」です。社会科学方法論に関するウェーバー、マルクス、ミルズなどの古典的な著作を通して社会的な物の見方、方法論について学ぶことを目的とする。

教科書 /Textbooks

加藤周一『学ぶことと思うこと』（岩波ブックレット、2003年）
C. W. ミルズ著（鈴木 広訳）『社会学的想像力』（紀ノ国屋、1967年）
マックス・ウェーバー著（富永祐治他訳）『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』（岩波文庫、1998年）
マックス・ウェーバー著（尾高邦雄訳）『職業としての学問』（岩波文庫、1980年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～3回 知の技法について【コミュニケーション(読む・書く・話す)能力】【文献調査法】
4回～6回 社会学的想像力について【知識社会学】【イデオロギー】【知的職人論】
7回～11回 社会科学方法論について【社会科学的認識の客観性】【M.Weber】【没価値性(価値自由性)】【K. Marx】【弁証法的唯物論】【K. Popper】【反証可能性】
12回～14回 科学としての法律学 【法解釈学】【経験法学】【法解釈の客観性】
15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 口頭報告...30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記のテーマ・キーワードに即して、テキスト・サブテキストとして指定した社会科学方法論上の古典的名著を毎回課題として事前に読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での勉学とはどのようなものであるかの理解を深め、今後の学習に役立てるようにすることを目標とします。実際の裁判例について学習することで、法学を学ぶための基礎知識の習得を目指します。演習全体のキーワードは、法学基礎知識の習得です。

教科書 /Textbooks

開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 判例百選シリーズの簡単な説明
- 2回 学生Aの報告
- 3回 学生Bの報告
- 4回 学生Cの報告
- 5回 学生Dの報告
- 6回 学生Eの報告
- 7回 学生Fの報告
- 8回 学生Gの報告
- 9回 学生Hの報告
- 10回 学生Iの報告
- 11回 学生Jの報告
- 12回 学生Kの報告
- 13回 学生Lの報告
- 14回 学生Mの報告
- 15回 学生Nの報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 ... 100 %
ただし、一定回数、出席していることが当然の前提です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

何もありません。自分の担当のときだけ、調べたり、報告レジュメを作成したりして下さい。基本的に楽勝ゼミだと思います。
なお、「民法総則」及び「物権法」の講義を履修されることをお勧め致します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法における重要テーマ、社会的に関心のもたれているテーマを題材に、社会に関心をもち、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、社会に対する関心をもち、法学的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

斉藤誠二編『演習ノート 刑法総論〔全訂第3版〕』（法学書院）2003年3月、2000円＋税
刑法判例百選I総論〔第六版〕有斐閣 ￥2200円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～第4回 テーマ1について、報告・質疑応答
第5回～第7回 テーマ2について、報告・質疑応答
第8回～第10回 テーマ3について、報告・質疑応答
第11回～第13回 テーマ4について、報告・質疑応答
第14回～第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を毎回とり、出席点と授業態度、レポートの評価での総合点（出席点30%、授業態度30%、レポートの評価40%）で総合評価する。とくに出席・授業態度が悪い場合、減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目ですから。また、本講座を履修すると同時に刑法犯罪論を、本講座を履修した後に刑法犯罪各論、刑事訴訟法を履修すると刑事法を学習上で効果的でしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎演習Iでは、法学一般に関する諸問題を取り扱いますが、演習形式で行うので、受講生各自が、テキストの各分野を担当し、レジメを作成して報告を行い、議論をし、受講生それぞれが、法律に関して何らかの問題意識を持てるようにすることが、本演習の目的です。今回は、法学を基礎的に習得することを主眼とした教科書を使用します。

教科書 /Textbooks

森泉章(編)「法学」(有斐閣)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の開始時等に参考文献は示したいと考えています。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回
テキストの内容・順序に沿って授業を行うことを予定しています。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 報告 ... 20 % 質疑応答 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を授業前に読み十分に準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、法学を学ぶうえで必須となる基礎的知識・思考・スキルなどを身につけることを目的とします。具体的には、大学での学問（法学）に対する臨み方から始まり、文献の調べ方、法学的な議論の仕方、パソコン（インターネット・データベース）を利用した判例などの検索、判例の読み方の基礎を学びます。なお、この演習は、3・4年次のゼミなどで、関心を持った法分野の研究をする際、必須となるスキルを低年次の段階で修得することを想定しています。

教科書 /Textbooks

- ①松本恒雄ほか（編）『日本法への招待第2版』（有斐閣、2006年）
- ②池田真朗（編著）『判例学習のA to Z』（有斐閣、2010年春頃刊行予定）
- ③最新版の小型六法 ※この「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 弥永真生『法律学習マニュアル〔第3版〕』（有斐閣、2009年）、いしかわまりこ ほか（指宿信ほか監修）『リーガル・リサーチ第3版』（日本評論社、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (※以下のスケジュール等はあくまで予定です。受講人数等により変更する場合があります。)
- 第1回 ガイダンス：自己紹介、グループ・報告順決定、最終授業時提出レポートの説明。
 - 第2回 教員による報告および質疑応答：法学的な話しを聴くこと、議論することを学ぶ。
 - 第3回 リーガル・リサーチその1：法学文献、判例の調べ方などを学ぶ。
 - 第4回 リーガル・リサーチその2：判例の検索方法（インターネット・データベース活用）を学ぶ（※図書館見学も予定。）。
 - 第5回 議論の仕方を学び、実践する。：グループ討論（議論の素材は教員が用意します。）。
 - 第6回～第11回（予定）グループ報告（テキスト①掲載の判例についての報告）・質疑応答。
 - 第12回～第14回（予定）※報告予備日。なお、ゲストを招いての特別授業も予定している。
 - 第15回 まとめ
 - 最終授業終了時に各自レポートを提出していただきます。内容は「法（法学）」に関する文献書評です。なお、対象文献は、「法（法学）」を題材とするものであれば、学術論文、教科書、小説など、ジャンルを問いません（ただし、漫画・問題集は不可）。読書感想文でなく、あくまで「書評」を書いてください。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告の内容など... 70%
- レポート（書評）の内容... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、報告準備以外に、事前準備が多く課せられます。たとえば、次の週に報告するグループの扱う判例について、様々な点から質問ができるよう、種々の文献を読んでくることなどが要求されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 國武 英生 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習は、1年生を対象として、法学部での学習に最低限必要で、かつ今後の人生に必ず役立つであろう作法と能力を身につけることを目的としている。具体的には、職場の法律問題を題材にしながら、①判例・文献の読み方、②法的问题の分析・検討の仕方、③判例・文献の収集方法、④レジュメの書き方、⑤プレゼンテーションの仕方などを学習する。

教科書 /Textbooks

弥永真生『法律学習マニュアル（第3版）』有斐閣（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等については演習中に適宜示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 図書館・資料室の利用方法
- 第 3回～第 4回 なぜ法律を学ぶのか～法のしくみと運用～
- 第 5回～第 6回 判例の読み方を知ろう～事実認定と法の適用～
- 第 7回～第 9回 裁判所を知ろう～裁判所の役割と実際～
- 第 10回～第 15回 法的问题について議論しよう

成績評価の方法 /Assessment Method

発言内容... 40%、報告内容... 30%、出席状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習は学び手の主体性によって成り立ちます。積極的な参加を期待しています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法学の各分野に共通する基礎的知識を整理しながら、読み・書き (=レポート・レジュメの作成)・話す (=報告する、議論する) という、法学の基本的な学習の方法を習得することを目的とします。また、法令・判例・文献資料などの法情報の検索方法や収集方法、引用法といった法学の基本的技能を習得することを目指します。

2年次以降の専門科目や演習で、主体的に学習に取り組むために必須の基礎を身につけてください。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 弥永真生『法律学習マニュアル』3版(有斐閣・2009.09)
- 末川博(編)『法学入門』6版(有斐閣・2009.04)
- 伊藤正己・加藤一郎(編)『現代法学入門』4版(有斐閣・2005.03)
- ※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回～3回 法律文献の読み方・まとめ方
- 4回～5回 レポートとレジュメの作成法
- 6回 法の種類と体系
- 7回 法の構造(法令の構造と条文の構造)
- 8回 法源論
- 9回～12回 リーガル・リサーチの基礎(資料の調査法と引用法)
- 13回～15回 法解釈の基礎

成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告内容(レポート・レジュメを含む)...50% 討論及び発言内容...50%
- ※無断欠席を厳禁します。また、少なくとも2/3以上の出席が必要です。
- ※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。
- ※なお、「沈黙」を禁じます。発言をしない者、ディスカッションに参加しない者については、大幅な減点の対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者(または、担当グループ)には、各テーマに関してレポート及びレジュメを作成し、事前に提出してまいります。担当者の報告をもとに、全体でディスカッションを行なって、理解を深めていきます。演習は、履修者自身が探求し、知識を取得し、理解を深める場です。積極的な活動を期待しています。

基礎演習Iは、基礎演習IIと連続して展開することを予定していますので、基礎演習IIも併せて履修することを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習IIでは、法学基礎演習Iにおいて、事件・紛争、法システムに含まれている法的問題を発見する方法、問題を検討のための資料文献等の検索収集方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、文献資料の分析方法などを学んだことを前提に、次のことをねらいとします。

すなわち、判例が実際に果たしている重要な機能を理解すること（判例とは何か、どのようにして作られ、実務をどのように拘束するかについて学びこと）です。

教科書 /Textbooks

中野次雄編『判例とその読み方』（改訂版）（有斐閣）

※ なお、次の2冊の本を読んでいない受講者は、演習開始時までに各自読んでおいて下さい。

弥永真生著『法律学習マニュアル』（有斐閣 1,995円）

森靖雄著『大学生の学習テクニク』（大月書店2,100円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半は、様々な分野の実際の判例をあげてその判例の読み方を示すことを目的として書かれたテキストを、受講者間で分担して報告し、討論することを予定しています。後半は、受講者自身が選択した判例につき、判例評釈の報告を行い、報告書を作成します。

第1回 ゼミの運営方針の説明、報告分担箇所・報告者の決定

第2回～第7回 報告担当者によるテキストの解説と質疑応答・討論

第8回～第15回 受講者による判例評釈の発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告（書）の内容・ディスカッションへの参加度の総合評価によるゼミへの参加度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者には、1、報告概要（レジュメ）を作成し、2、事前には、参加者全員にコピーを配布すること、3、報告に際してはテキスト・判例の論旨を要約し、そこから論点を皆に提示することが求められます。

他方、それ以外の参加者には、最低限、テキストを事前に読了していただくことが求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 植木 淳 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的人権に関する判例の中から、各自興味がある問題について調査・報告・討論をしていただく。そのことによって、憲法判例についての基礎的知識を身につけ、更に、法律学的な思考方法を習得していただきたい。しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、法律に関する知識を習得するというのもさることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各回のテーマに関連するものについて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 報告討論
- 3回 報告討論
- 4回 報告討論
- 5回 報告討論
- 6回 報告討論
- 7回 報告討論
- 8回 報告討論
- 9回 報告討論
- 10回 報告討論
- 11回 報告討論
- 12回 報告討論
- 13回 報告討論
- 14回 報告討論
- 15回 報告討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50 % 報告討論 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Iから引き続き日本社会を歴史的視点から考察する。

教科書 /Textbooks

- 1 続日本の歴史をよみなおす 網野善彦著 筑摩書房
- 2 中世に国家はあったか 新田一朗著 山川出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出 50 % 発表 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Iに同じ

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、法学基礎演習Iを前提とする。基本的な判例を素材として、判決文を読むことを通じて法的な問題点を把握し、議論を経て問題解決を目指すという訓練をすることをねらいとする。
(なお、授業で取り上げる判例は、公法分野に関するものである。)

教科書 /Textbooks

特に指定しない。資料を配付するほか、必要な文献等については適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (運営方針の説明)
- 2回 ~ 4回 判決文の読み方
- 5回 ~ 15回 各判例の検討
(受講者に対しては、各事件の一部につき報告を求められることがある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 60 % 討議への参加状況 (報告を含む) ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配付資料を事前に読んでおくこと。
報告を求められた場合には、レジユメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最高裁判所判事の要職にあった団藤重光先生は『法学入門』（筑摩書房）のはしがきのなかで、「法学は与えられるものではなく、自分で考えていくべきものである」と述べておられます。法学はだれがいつやっても1+1=2という世界の学問ではありません。法学で重要なのは、妥当な結論を導き出す論理過程なのであり、説得力をもった理由付けなのです。ですから、教科書や授業での説明を金科玉条として丸暗記しないで、自分の頭で主体的に考えることが大切なのです。社会生活において法がどのように適用されていくのか、具体的な事件や裁判を通して、いっしょに考えていきましょう。

教科書 /Textbooks

中川義朗『現代の人権と法を考える』（第二版）（法律文化社、2006年、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1学期のつづき)
第1回～第2回 働く者の人権
第3回～第4回 高齢社会と生存権
第5回～第6回 国家と信教の自由
第7回～第8回 選挙制度と参政権
第9回～第10回 地方分権と地方自治
第11回～第12回 司法制度と裁判を受ける権利
第13回～第14回 平和と人権

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30 % 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生と話し合いによりテーマを決定します。そのテーマについて、文献、判例等を調査し、自分の考えをまとめてもらいます。その内容を授業で報告してもらい、他の受講生、教員と討論します。そのことにより、文献調査の実地的訓練、法的思考力の養成を行いたいと思います。

教科書 /Textbooks

特に、指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマ、報告者の決定、
- 2回 以下、順次個別報告
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」をテーマとし、それに関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを本講義の目的とする。この点では、法学基礎演習Iと同様の問題意識のもとで、同様の主題を発展的・継続的に扱う。

法学基礎演習Iでは、ロック、ルソーの著作をとりあげたが、法学基礎演習IIでは、さらにルソーの別の著作と、ホブズの主著の前半部をとりあげる。法学基礎演習IとIIを継続して受講することにより、ホブズ、ロック、ルソーの社会契約説の考え方の基本を学んだ上で、さらに現代正義論に対するその理論的示唆についても、理解できるようにしたいと考えている。

教科書 /Textbooks

- ルソー『人間不平等起源論』（光文社古典新訳文庫）
- ホブズ『リヴァイアサン1』（岩波文庫）
- ホブズ『リヴァイアサン2』（岩波文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ルソー『社会契約論』（光文社古典新訳文庫）
- ホブズ『リヴァイアサン3』『リヴァイアサン4』（岩波文庫）
- ホブズ『市民論』（京都大学学術出版会）
- ホブズ『哲学者と法学徒との対話』（岩波文庫）
- リチャード・タック『トマス・ホブズ』（未来社）
- 藤原保信, 佐藤正志『ホブズ リヴァイアサン』（有斐閣）
- 梅田百合香『ホブズ 政治と宗教』（名古屋大学出版会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第13回は、あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながら、上記テキストを読み進める。第14回～第15回はまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 60% 報告... 20% 質問等の状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の法学基礎演習に引き続き、主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法律の学び方・調べ方といった法学の基本的なトレーニングを行います。また、後半には各自が選択したテーマについて報告をしてもらいます。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 判例の分析
- 6回～15回 各自が選択したテーマについて報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

■演習テーマ：社会生活における人間関係と法律 ■ 2学期は、1学期に習得した内容の応用として、自分が面白いと思った事柄や疑問に思ったことが世の中でどのように考えられているのかを整理し、資料を調べて判例や学説をまとめ、自分なりの結論を打ち出してもらうという流れを意識して「戦略的な」報告をしていただく。受講者は、インプットした知識をいかに上手く「アウトプットできるか」、すなわち、他人に自分の見解を理解してもらい、自分の主張の妥当性を説得させるためにどうすればよいが試行錯誤することになる。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 判例および学説の意義に関する解説。第2回演習時に検討する判例・資料を配布。
- 2回 担当教員による模擬判例報告。第4回以後のスケジュール(報告担当)決定。
- 3回 インターネットや検索ツールを利用した文献収集方法の解説および実践。
- 4回 学生による判例報告①。報告後、全員で議論。
- 5回 学生による判例報告②。報告後、全員で議論。
- 6回 学生による判例報告③。報告後、全員で議論。
- 7回 学生による判例報告④。報告後、全員で議論。
- 8回 学生による判例報告⑤。報告後、全員で議論。
- 9回 学生による判例報告⑥。報告後、全員で議論。
- 10回 学生による判例報告⑦。報告後、全員で議論。
- 11回 学生による判例報告⑧。報告後、全員で議論。
- 12回 学生による判例報告⑨。報告後、全員で議論。
- 13回 学生による判例報告⑩。報告後、全員で議論。レポートに関する解説(1)。
- 14回 学生による判例報告⑪。報告後、全員で議論。レポートに関する解説(2)。
- 15回 学生による判例報告⑫。報告後、全員で議論。2学期の総括(担当教員からの総評)。

成績評価の方法 /Assessment Method

判例報告... 30% 平素の演習への取り組み... 25% レポート(学期末5000字)... 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは指定しない。参考文献は演習中に適宜紹介する。毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ演習時の議論において「無言厳禁」を原則とするなど、本演習は受講者に対する要求度が高いことを付言しておく。無断欠席者、遅刻常習者、学期末レポート未提出者に単位は与えない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にし、受講者に対しそれらを法的に分析していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上、④レポート作成能力の向上を目指します。【国際問題の法的分析：基礎技術の習得】IとIIをセットで受講してください。IIのみを受講希望する2年生以上は夏季休暇中に課題をこなしてもらう必要がありますから、この点を理解したうえで、受講申請の手続きをしてください。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横田洋三編『国際法入門』(有斐閣・2004) 松井芳郎『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)
他の参考文献については、別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス	第2回 デイバートとは
第3回 テーマ決定とグループ分け	第4回 グループ準備(テーマ調査)
第5回 グループ準備(主張等の整理)	第6回 グループ準備(プレゼン資料の作成)
第7回 デイバート	第8回 文献精読の対象文献の選定
第9回 文献精読(読み込み)	第10回 文献精読(調査等)
第11回 文献テーマに関するグループディスカッション	第12回 2010年10大国際ニュースの調査
第13回 グループ準備	第14回 グループ発表
第15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。ゼミへの参加は、具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
ゼミへの参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習テーマは「裁判員制度について考える」です。裁判員制度に関する基礎的知識を深め、自分自身の問題として裁判員になることの意味について考える機会を提供することが本ゼミのねらいです。

教科書 /Textbooks

宮澤節生その他『テキストブック現代司法(第5版)』(日本評論社、2009年3月刊行予定)
竹田 昌弘『知る、考える裁判員制度』(岩波ブックレットNo.727(2008年)800円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～4回 法制度改革の意義と基本理念【司法権】【裁判所】【法律家】【刑事裁判】
- 5回～7回 国民の司法参加【陪審制】【参審制】【裁判員制度】
- 8回～11回 裁判員制度の制度設計【刑事訴訟手続】【刑事実務】
- 12回 裁判所・刑事施設のフィールドワーク 【裁判傍聴】
- 13回 裁判所・刑事施設のフィールドワーク 【刑事施設参観】
- 14回 模擬評議のプラクティカム 【評議】
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 口頭報告...30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、報告者を決めて話題提供をしてもらい、各論点につき賛否両論ディベート方式で議論します。刑事裁判の実際については、福岡地方裁判所小倉支部において裁判傍聴を実施します。その他、刑事施設({昨年度は福岡刑務所、佐賀少年刑務所、長崎刑務所に行きました。})を見学する予定です。また、DVDを利用して模擬裁判員裁判(模擬評議)の実習を行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での勉学とはどのようなものであるかの理解を深め、今後の学習に役立てるようにすることを目標とします。実際の裁判例について学習することで、法学を学ぶための基礎知識の習得を目指します。演習全体のキーワードは、法学基礎知識の習得です。

教科書 /Textbooks

開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 判例百選シリーズの簡単な説明
- 2回 学生Aの報告
- 3回 学生Bの報告
- 4回 学生Cの報告
- 5回 学生Dの報告
- 6回 学生Eの報告
- 7回 学生Fの報告
- 8回 学生Gの報告
- 9回 学生Hの報告
- 10回 学生Iの報告
- 11回 学生Jの報告
- 12回 学生Kの報告
- 13回 学生Lの報告
- 14回 学生Mの報告
- 15回 学生Nの報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 ... 100 %
ただし、一定回数、出席していることが当然の前提です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

何もありません。自分の担当のときだけ、調べたり、報告レジュメを作成したりして下さい。基本的に楽勝ゼミだと思います。
なお、「民法総則」及び「物権法」の講義を履修されることをお勧め致します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法における重要テーマ、社会的に関心のもたれているテーマを題材に、社会に関心をもち、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、社会に対する関心をもち、法学的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

斉藤誠二編『演習ノート 刑法総論〔全訂第3版〕』（法学書院）2003年3月、2000円＋税
刑法判例百選I総論〔第6版〕（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～第4回 テーマ1について、報告・質疑応答
第5回～第7回 テーマ2について、報告・質疑応答
第8回～第10回 テーマ3について、報告・質疑応答
第11回～第13回 テーマ4について、報告・質疑応答
第14回～第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を毎回とり、出席点と授業態度、レポートの評価での総合点（出席点30%、授業態度30%、レポートの評価40%）で総合評価する。とくに出席・授業態度が悪い場合、減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目ですから。また、本講座を履修すると同時に刑法犯罪論を、本講座を履修した後に刑法犯罪各論、刑事訴訟法を履修すると刑事法を学習する上で効果的でしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

後期の法学基礎演習は、刑事法関係を取り扱う。演習形式なので、受講生各自にテキストの各分野を担当してもらい、レジメを作成した上での報告に基づき、議論をし、刑事法に関して問題関心を持ってもらうことを、本演習の目的としています。

教科書 /Textbooks

福井厚（著）「刑事法学入門」（法律文化社）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習の時間に提示したいと思っています。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回
テキストの内容・順序に沿って進めていく予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 報告 ... 20 % 質疑応答 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を授業前に十分に読み準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Iの内容を受けて、より高度な法的思考、法学文献の批判的な読み方、判例の読み方（判例評釈の手法）などを修得することがこの演習の目的です。法学基礎演習Iと異なり、本演習では、報告の内容面やレポートの完成度をより厳しく評価します。また、本格的な（主として民事）判例研究報告を課すなど、その内容は、3・4年次に履修する（であろう）「専門演習」に近いものとなります。法的思考をフル回転させ、活発な議論に受講生全員が参加されることを切望します。

教科書 /Textbooks

- ①中野次雄 編『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）
- ②中田裕康ほか 編『民法判例百選総則・物権[第6版]（別冊ジュリストNO195）』（有斐閣、2009年）
- ③最新版の小型六法 ※この「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※授業のなかで適宜アナウンスします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (※以下のスケジュール等はあくまで予定です。受講人数等により変更する場合があります。)
- 第1回 ガイダンス：グループ決め。最終授業時提出レポートについての説明。
 - 第2回 最高裁判所の判決の読み方（民法判例を中心に）を学ぶ。各グループの報告順の決定。
 - 第3回～第8回（予定）『判例とその読み方』（テキスト①）についてのグループ報告（輪読）。
 - 第9回～第14回（予定）各グループによる（民事）判例研究報告。なお、採り上げる判決は『民法判例百選総則・物権[第6版]』（テキスト②）掲載の最高裁判決とします。民法の体系書、調査官解説、判例評釈などを参照して、本格的な判例研究報告を行ってください。また、報告に当たっていないグループも、報告グループの採り上げる判決について、質問や意見等を発表できるように事前準備を入念にしておいてください。
 - 第15回 まとめ
 - 最終授業終了時に、レポートを提出していただきます。内容は、以下の（1）、（2）のうち、一つを選択してください。
 - （1）グループで報告した最高裁判決についての判例評釈 / （2）テキスト①についての文献書評

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告内容など... 50%
- レポート（判例評釈または書評）の内容... 50%
- ※（注意）正当な理由のない無断遅刻・無断欠席は、ゼミを放棄したものと「推定」します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、報告準備以外に事前準備が多く課せられます（法学基礎演習Iより負担は重くなります。）。報告に当たっていないグループも、報告グループが扱う判例につき、様々な点から質問・指摘などができるよう、種々の評釈・文献を読み、授業に臨むことが要求されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、法学基礎演習Iで学習した知識を前提に、判例の読み方、法的問題の分析・検討の仕方、判例・文献の収集方法などの能力の高度化を図ることを目的としている。

前半には、労働法に関する実際の裁判例を題材に報告・議論を行う。後半は、各自が自由にテーマを設定し、自ら調査・探究したことをレポートにまとめることにより、文章を書くプロセスを学習する。なお、テーマは、労働法分野であることが望ましいが、それに限らず、法に関連する一般的な社会問題等でも構わない。

教科書 /Textbooks

弥永真生『法律学習マニュアル（第3版）』有斐閣（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献・裁判例等については演習中に適宜示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回～第 3回 判例の分析方法を知ろう～論点の発見と議論の仕方～
- 第 4回～第 8回 判例を検討しよう
- 第 9回～第 10回 レポートの書き方を知ろう～テーマの設定と論文の作法～
- 第 11回～第 12回 リーガル・リサーチの方法を知ろう
- 第 13回～第 15回 レポートを完成させよう

成績評価の方法 /Assessment Method

発言内容... 40%、報告内容... 30%、出席状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習は学び手の主体性によって成り立ちます。積極的な参加を期待しています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Iで習得した知識及び技能をもとにして、資料を収集・分析し、問題点を発見し、問題の解決策（自己の見解）をまとめ、ディスカッションを通じて見解を発展させ、またそれを自分の言葉で説得的に提示するという、法学において共通して要求される基礎的能力を習得することを目的とします。

前半では、判例の読み方や扱い方を学んでいきます。後半では、受講者の関心に応じて、いくつかの基本的な法的問題について検討していく予定です。

現実社会の問題解決にはこれが正解という真理を求めることはできません。最善・最良と考えられる方策を提示することができるだけです。だからこそ、自分の考え方を支える価値観が、そしてそれを他人に説得する能力が重要となります。この演習を通じて、そうした自分自身の思考方法や価値観といった、法を考える基本的視座を築き上げてください。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○中野次雄ほか（編著）『判例とその読み方』3訂版（有斐閣・2009.03）
※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など）
- 2回～ 5回 判例と裁判例、判例の読解
- 6回～ 15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）... 50% 討論及び発言内容... 50%

※無断欠席を厳禁します。また、少なくとも2/3以上の出席が必要です。

※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。

※なお、「沈黙」を禁じます。発言をしない者、ディスカッションに参加しない者については、大幅な減点の対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者（または、担当グループ）には、各テーマに関してレポート及びレジュメを作成し、事前に提出してもらいます。担当者の報告をもとに、全体でディスカッションを行なって、理解を深めていきます。演習は、履修者自身が探求し、知識を取得し、理解を深める場です。積極的な活動を期待しています。

基礎演習IIは、基礎演習Iと連続して展開することを予定していますので、基礎演習Iも併せて履修することを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

商事法（企業活動に関する法）上のテーマを取り扱った「ドイツ語あるいは英語の」文献を輪読することを通して、日本と諸外国との法制度の違いや、紛争解決のあり方の違いを知ること。

教科書 /Textbooks

受講者が興味を抱いているテーマを扱っている文献をセレクトしたうえで、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ毎に、その都度、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミ運営方針の説明
受講者各自が、今一番興味を抱いている企業関連の問題について発表し、いくつかのテーマに 絞り込みます。
- 第2回 テーマを決定して、それに応じたメインの文献、関連文献をセレクトします。
輪読のための準備作業：各自の担当箇所、担当順番の決定
担当箇所の内容紹介レジュメの作成・提出方法の説明
- 第3回～第15回 担当者による担当箇所の内容紹介の後、日本の状況との違いなどについて議論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、レジュメ準備の程度、発表内容、ディスカッション等、いわゆるゼミへの参加度...100%
無断欠席は、ゼミを放棄したものとみなされる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語あるいは英語の文献資料を読解するために必要かつ十分な語学力を有している場合には、「文献研究」としての本講義の受講は快適かつ有意義なものになるでしょう。また、当日に実施予定の輪読箇所を見ただけでは、当該文献の趣旨を把握することは往々にして難しいものです。

そこで、ゼミ参加者全員が、文献全体のアウトライン（少なくとも鍵となる主題文）をつかんでおくことが、ゼミを有意義なものにするうえで非常に大切になります。参加者の準備が不十分な場合には、再度、同箇所について読み直しが必要になる場合もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国文献を通じて刑事訴訟法を理解することを目的とします。今年は英語の文献を利用します。英語を読める能力が前提ですが、少し程度の高い文献を使用しますので、英語読解力のある程度高い学生の受講を望みます。

教科書 /Textbooks

アメリカの刑事訴訟法の文献を使う予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

アメリカの刑事訴訟法分野の特定のテーマを扱います。受講生には事前に分担を決めて、読んで訳をしてもらいますが、受講生全員も事前に読んでおくことを前提にしていきます。

1回～15回

事前に分担した箇所を毎回、訳してもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

英語を読んで訳すること... 60% 出席回数... 20% 受講態度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に決められた分担箇所を授業前に予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2008年アメリカ大統領選挙で民主党のバラク・オバマが勝利しました。オバマ政権の政策とアメリカの政治システム・選挙制度などについて、活字メディアや電波メディアを使って多角的に勉強します。講読文献、視聴番組は英語です。

教科書 /Textbooks

Barack Obama 「The Audacity of Hope」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から3回 オバマの半生とオバマの勝利演説・就任演説
4回から6回 アメリカの議会制度
7回から9回 アメリカの裁判制度
10回から14回 アメリカの選挙制度
15回 まとめ(政治制度の日米比較)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 授業発言・討論 ... 20 % 定期試験... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日英字新聞(ジャパン・タイムズ)を読むこと。テレビのニュースやドキュメント番組を見ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II 【昼】

担当者名 中山 布紗 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、受講者のフランス語読解力を養うとともに、フランス民法典編纂の迫力ある経緯を体感してもらうことにある。文章を正確に読み取ること、すなわち、精読が最重要目的とされる。1つのパラグラフを読み終えた後、受講者全員が「何についての記述であったか」を議論し、大意を把握することにも努める。フランス民法典編纂の経緯を読み解きながら、日本民法典との関連性はもちろん、当時のフランスにおける社会背景およびフランス革命が法と社会に与えた影響についても考える。

教科書 /Textbooks

【教材】

Jean-Louis Halpérin, Le Code civil, Dalloz, 1996.

* 担当教員が該当箇所を複写し、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

【参考図書】

○碧海純一 = 伊藤正己 = 村上淳一編『法学史』(東京大学出版会、1976年)。

『新スタンダード仏辞典』(大修館書店、1989年)。

山口俊夫編『フランス法辞典』(東京大学出版会、2002年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(受講上の注意)
- 2回～14回 テキストの講読
- 15回 総括および講評

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、受講態度等平常点... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の進行は、訳出の担当箇所を決めずに、受講者全員で一文ずつ順番に音読の上、翻訳することの繰り返しである。担当教員は受講者による訳出後、発音および文法事項について確認し、内容に関する補足説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II 【昼】

担当者名 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、今日のアメリカ社会において最も激しい政治的、法的論争の一つとなっている死刑問題について、その賛成論および反対論の争点を理解することを目指します。以下のテキストを素材として、輪読しながら、死刑存廃論について各々の見解を批評する。

教科書 /Textbooks

Mary E. Williams (ed.), Capital Punishment, Greenhaven Press, 2000.
(テキスト教材は必要箇所をコピーしたものを使用する予定です。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースアウトラインの説明
- 2回 インTRODクシヨN (テキスト 11~15頁) 【序論】
- 3回 第1章 (16~30頁) 死刑の道徳性 【合理性】
- 4回 第1章 (31~41頁) 【死刑の残虐性】 【国家刑罰権】 【誤判】
- 5回 第1章 (42~54頁) 【死刑の非人道性】 【生命の尊厳】
- 6回 第2章 (55~64頁) 【公正】 【不正】 【人種差別主義】
- 7回 第2章 (65~75頁) 【人種差別主義】 【死刑事件】
- 8回 第2章 (76~87頁) 【えん罪防止策】 【リベラル批判】
- 9回 第2章 (88~100頁) 【公正な執行】 【死刑廃止批判】
- 10回 第3章 (101~114頁) 【死刑の犯罪抑止力肯定論】
- 11回 第3章~4章 (115~128頁) 【死刑の犯罪抑止力否定論】 【廃止論】
- 12回 第4章 (129~137頁) 【存置論】 【慎重な執行】
- 13回 第4章 (138~142頁) 【正義】 【終身刑】
- 14回 第4章 (143~147頁) 【死刑代替刑批判】 【精神障害者と死刑】
- 15回 第4章 (148~150) 【殺人犯の刑事責任能力】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 口頭報告...30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回分担報告者を決めて指定された単元ごとに読み進めていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ法学の成果に触れるために、ドイツ語文献の講読を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文献の決定
- 2回 文献講読
- 3回 文献講読
- 4回 文献講読
- 5回 文献講読
- 6回 文献講読
- 7回 文献講読
- 8回 文献講読
- 9回 文献講読
- 10回 文献講読
- 11回 文献講読
- 12回 文献講読
- 13回 文献講読
- 14回 文献講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ民法の条文は、洋書取扱店で、事前に購入しておくこと。加えて、小学館の『独和大辞典 第2版』の購入も義務付ける。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでのゼミでは、現代正義論を主題として、ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥワオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥワオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマッセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥワオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』などを読み進めてきた。本年は、その延長上で、後期ハーバーマスの主著とも言うべき法哲学的著作『事実性と妥当性』を取り上げることにより、正義の問題への討議理論的アプローチの再検討を行う。同書を素材としながら、本演習では、現代正義論にとっても重要なテーマとなっている「承認」の問題も検討する予定である。

教科書 /Textbooks

○ハーバーマス『事実性と妥当性（上）』（未来社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ハーバーマス『事実性と妥当性（下）』（未来社）
- 毛利透『民主制の規範理論 - 憲法パトリオティズムは可能か』（勁草書房）
- 中岡成文『ハーバーマス』（講談社）、小牧治・村上隆夫『ハーバーマス』（清水書院）
- 川本隆史『ロールズ』（講談社）、牧野広義『現代倫理と民主主義』（地歴社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第2回では、コピー等を使いながら、現代正義論の展開の構図を概観する。第2回～第13回は上記テキストを分担して報告し、議論しながら読み進める。第13回～第15回はまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 60% 報告... 20% 質問等の状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学専門演習II【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の演習では、現代正義論の構図を概観した上で、現代正義論のその後の展開について学ぶ予定である。2学期の昼間主の演習では、「現代正義論」という主題に特に限定せず、広い意味で「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて、自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者がその都度参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回は、はじめに。第2回～第13回では、ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。第14回～第15回はまとめ。
2学期の演習では特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 60% 報告... 20% 質問等の状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法制史専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中世日本人の罪と刑罰観念について考察する。引き続き中世刑法についての史料講読

教科書 /Textbooks

- 1 中世の罪と罰 網野.石井.笠松.勝俣著 東京大学出版会
- 2 中世政治社会思想上 岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目はテキスト等の解説。2回目からは担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 50 % 参加の度合い 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法制史専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

専門演習Iを受け、引き続き中世の刑法関係の史料を輪読する

教科書 /Textbooks

中世政治社会思想上 岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出 50 % 報告 30 % 参加の程度 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習I【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習Iにおいては、最新の人権判例について、参加者が条文・学説・判例を整理して、報告・討論することを通じて、「人権論」に関する理解を深めることを目的とする。

しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、専門的知識を習得するという事もあることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

○高橋和之他編『憲法判例百選I・II（第5版）』別冊ジュリ186・187（有斐閣・2007年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 判例研究
- 3回 判例研究
- 4回 判例研究
- 5回 判例研究
- 6回 判例研究
- 7回 判例研究
- 8回 判例研究
- 9回 判例研究
- 10回 判例研究
- 11回 判例研究
- 12回 判例研究
- 13回 判例研究
- 14回 判例研究
- 15回 判例研究

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50 % 判例研究 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習I【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習では、わが国の人権状況について、主要な憲法判例を素材として考えていきます。図書館で裁判判決を報じた当時の記事を調べたり、インターネットでさまざまな情報を検索したりして、学びます。憲法に保障されている人権がどのような問題状況にあるのか、それに対して裁判所はどのような判決を下しているのか、それについてみなさんはどのように考えるのか、どう感じるのか、法廷にもちこまれた裁判を通して学びます。主権者・国民として差別・偏見の問題に主体的に関わっていく姿勢を培っていくことが、この演習の目標です。

教科書 /Textbooks

中川義朗『現代の人権と法を考える』（第二版）（法律文化社、2006年、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第2回 情報社会と人権
第3回から第4回 自己決定権
第5回から第6回 環境と人権
第7回から第8回 子どもの人権
第9回から第10回 女性の人権
第11回から第12回 外国人の人権
第13回から第14回 身近な差別と偏見

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30 % 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は課題判例について「判例時報」や「判例タイムス」などを調べて、裁判所の判決文を全文読むことが必要です。毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習II 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習IIにおいては、最新の人権判例・人権理論について、あるいは、現代における社会問題について、参加者が報告・討論することを通じて、現代日本社会について憲法学的な視点から理解・分析する能力を養うことを目的とする。そのために、各自で設定したテーマについて報告して頂きたい。

しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、専門的知識を習得するということもさることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

○芦部信喜・高橋和之編『憲法判例百選I・II（第4版）』別冊ジュリスト154・155（有斐閣・2000）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究報告
- 3回 研究報告
- 4回 研究報告
- 5回 研究報告
- 6回 研究報告
- 7回 研究報告
- 8回 研究報告
- 9回 研究報告
- 10回 研究報告
- 11回 研究報告
- 12回 研究報告
- 13回 研究報告
- 14回 研究報告
- 15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50 % 研究報告 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習II 【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習では、人権に関する憲法判例を分析・研究します。学習内容は、1学期のつづきです。授業のねらい・テーマについては1学期のシラバスを参照してください。テキストも1学期と同じです。

教科書 /Textbooks

中川義朗『現代の人権と法を考える』（第二版）（法律文化社、2006年、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1学期のつづき)

- 第1回～第2回 働く者の人権
- 第3回～第4回 高齢者社会と生存権
- 第5回～第6回 国家と信教の自由
- 第7回～第8回 選挙制度と参政権
- 第9回～第10回 地方分権と住民自治
- 第11回～第12回 司法制度と裁判を受ける権利
- 第13回～第14回 平和と人権

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30% 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は課題判例について「判例時報」や「判例タイムス」などを調べて、裁判所の判決文を全文読むことが必要です。毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習I【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政法の判例を素材として、判例の読み方や扱い方を学び、行政法についての理解を深めることをねらいとする。行政法の分野全体から比較的新しい判例を選び、順次検討する予定である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。判例その他の資料は複写して配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同 『行政判例百選II(第五版)』(同)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(運営方針の説明)
- 2回 取り上げる判例の説明
- 3回～15回 判例を読む
(判例を順次読み進めながら、討議を行う。判例の一部について、参加者に報告を求めることがある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 60% 討議への参加状況(報告を含む。) ... 40%
(出席が総授業回数の3分の2に満たない者は不合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配付資料を事前に読んでおくこと。
報告を求められた事柄についてはレジユメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習II【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政法に関する判例を精読し、具体的事例を通じて行政法に関する理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。取り上げる判例その他の資料は複写して配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同 『行政判例百選II(第五版)』(同)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(運営方針の説明)
- 2回 取り上げる判例の説明
- 3回～15回 判例の報告と検討
(各参加者が各自報告する判例について順次討議することにより進める。)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 60% 討議への参加状況(報告を含む。) ... 40%
(出席が総授業回数の3分の2に満たない者は不合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各参加者は、それぞれ取り上げる判例について調べた上でレジユメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習I【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第6版]』(有斐閣)2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石二六著『刑法総論・第三版』(成文堂)平成16年3月、4000円+税
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態、テーマの決定
第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回出席をとり、出席点と授業態度、レポートの評価による総合評価(出席点30%、授業態度30%、レポート評価40%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論・刑法各論における基本的な問題（テーマ）を取り上げて、判例及び学説を整理しながら、具体的・合理的かつ体系的整合性をもった解決策を考察していきます。この演習では、体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項及び概念の体系的な理解を一層深めることを、目的のひとつとしています。また、資料を収集・分析し、問題の解決策（自己の見解）をまとめ、ディスカッションを通じて見解を発展させ、またそれを自分の言葉で説得的に提示するという、法律学の基礎的な能力を習得することを、もうひとつの目的としています。講座全体のキーワードは、法的思考力及び論理的説得力の習得です。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西田典之 / 山口厚〔編〕『刑法の争点（新・法律学の争点シリ-ズ）』（有斐閣・2007.10）
- 阿部純二ほか〔編〕『刑法基本講座 1～6巻』（法学書院・1992.10～1994.10）
- ※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など）
- 2回 担当テーマに関する問題の所在及び参考文献の検討
- 3回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）... 50% 討論及び発言内容... 50%
 ※無断欠席を厳禁します。また、少なくとも2/3以上の出席が必要です。
 ※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当テーマについて研究レポートを作成してもらいます。報告担当者は、レポートに基づいて個別報告を行い、受講者全員でディスカッションを行います。受講者の積極的な発言を期待しています。
 少なくとも「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I・II」を履修していること（または履修中であること）が望ましいです（上掲「ねらい」を参照）。また、専門演習Iは、専門演習IIと連続して展開することを予定していますので、専門演習IIも併せて履修することを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習II 【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第6版]』(有斐閣)2200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石二六著『刑法総論・第三版』(成文堂)平成16年3月、4000円+税
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態、テーマの決定
第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回出席をとり、出席点と授業態度、レポートの評価による総合評価(出席点30%、授業態度30%、レポート評価40%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論・刑法各論の領域から、受講者各人の関心に応じたテーマを選定し、判例及び学説を整理しながら、具体的・合理的かつ体系的整合性をもった解決策を考察していきます。この演習では、問題点に対して一層緻密な検討を加えて理解を深めることを目的とします。講座全体のキーワードは、法的思考力及び論理的説得力の習得です。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西田典之 / 山口厚〔編〕『刑法の争点(新・法律学の争点シリーズ)』(有斐閣・2007.10)
- 阿部純二ほか〔編〕『刑法基本講座 1～6巻』(法学書院・1992.10～1994.10)
- ※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 担当テーマに関する問題の所在及び参考文献の検討
- 3回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジュメを含む) ... 50% 討論及び発言内容... 50%
 ※無断欠席を厳禁します。また、少なくとも2/3以上の出席が必要です。
 ※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当テーマについて研究レポート及びレジュメを作成してもらいます。報告担当者は、レポートに基づいて個別報告を行い、受講者全員でディスカッションを行います。受講者の積極的な発言を期待しています。なお、開講時までに報告テーマをいくつか考えておいてください。少なくとも「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I・II」を履修していること(または履修中であること)が望ましいです(上掲「ねらい」を参照)。また、専門演習IIは、専門演習Iと連続して展開することを予定していますので、専門演習Iも併せて履修することを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習I【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法の判例を取り扱う。具体的事件に関する判例を検討することを通じて、生きた刑事訴訟法を把握することを目的とする。演習は、報告者の報告を中心にして行う。報告者はレジメを事前に提出しておくことが原則である。

教科書 /Textbooks

- ①松尾ほか編「刑事訴訟法判例百選（第8版）」（有斐閣）。
- ②庭山・岡部編「刑事訴訟法」第3版（青林書院）。
- ③松尾浩也「刑事訴訟法・上巻（新版）」（弘文堂）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

刑事訴訟法の講義のシラバスに挙げている参考文献。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

報告の順序など、最初の演習の時間に決めていきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 報告 ... 30 % 質疑応答 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告する判例を十分に事前に検討し議論が活発になるように準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法の判例を取り扱う。具体的事件に関する判例を検討することを通じて、生きた刑事訴訟法を把握することを目的とする。演習は、報告者の報告を中心にして行う。報告者はレジメを事前に提出しておくことが原則である。

教科書 /Textbooks

- ①松尾ほか編「刑事訴訟法判例百選（第7版）」（有斐閣）。
- ②庭山・岡部編「刑事訴訟法」第3版（青林書院）。
- ③松尾浩也「刑事訴訟法・上巻（新版）」（弘文堂）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

刑事訴訟法（総論・各論）の講義のシラバスに挙げている参考文献。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回
報告の順序など、最初の講義の時間に決めていく予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 報告 ... 30 % 質疑応答 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告する判例を事前に十分に検討し議論が活発になるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今年度のテーマは、「刑事学（犯罪学・刑事司法政策）における理論と調査研究方法を学ぶ」です。これから本格的に刑事学（犯罪学および刑事司法政策）の研究を志す学生に対して、刑事学の各種理論および調査研究方法の基礎的知識の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

Siegel, L. J. 2009. Criminology. 10th ed. Belmont, CA: Wadsworth/Thomson
E. パビー著（渡辺他訳）2003. 『社会調査法I&2』 培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 矢島正見・丸秀康・山本功編『よくわかる犯罪社会学入門』学陽書房（2004年）
- 浜井浩一編『犯罪統計入門』日本評論社（2006年）
- 瀬川晃著『犯罪学』成文堂{1998年}
- 藤本哲也著『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）
- ヴォルド&バーナード{平野龍一・岩井弘融監訳}『犯罪学』東京大学出版会（1990年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Siegel Ch.1
- 3回～7回 社会調査法の基礎
- 8回～10回 Siegel Ch2
- 11回～12回 社会調査の準備
- 13回 Siegel Ch3
- 14回 社会調査のデザイン
- 15回 Siegel Ch4

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ開始前までに上記参考文献掲載の入門書の類は読み込んでおくこと。「専門演習I」と「専門演習II」は、一体的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。専門科目の「犯罪学」「刑事司法政策I&II」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本専門演習IIのテーマは、「現代社会における犯罪と刑罰を考える」です。専門演習Iで学んだ理論および調査研究方法を踏まえて、刑事学（犯罪学および刑事司法政策）の研究分野の中から、各ゼミ生が興味・関心をもっているテーマを自由に選択してもらい、それについて必要な文献調査、研究報告、論文作成をすることが目的です。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 矢島正見・丸秀康・山本功編『よくわかる犯罪社会学入門』学陽書房（2004年）
- 守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策』成文堂（2008年）
- 浜井浩一編『犯罪統計入門』日本評論社（2006年）
- 瀬川晃著『犯罪学』成文堂{1998年}
- 藤本哲也著『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）
- ヴォールド&バーナード{平野龍一・岩井弘融監訳}『犯罪学』東京大学出版会（1990年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テーマ選択
- 3回～7回 文献調査
- 8回～10回 調査設計
- 11回～12回 先行研究の検討
- 13回 フィールド調査（刑事施設参観）
- 14回 中間報告
- 15回 レポート（プロスペクタス）提出

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「専門演習I」と「専門演習II」は、一体的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。専門科目の「犯罪学」「刑事司法政策I&II」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在大きく変貌する職場や会社の実態においてどのような法的な紛争が発生しているか、どう解決すべきかを考える。裁判例を多面的に検討し、①判決文の理解能力、②法的解釈能力、③議論の厳しさと楽しさなどを自分のものにし、自立した判断能力を養うことを目指す。本演習は、労働法演習のファースト・ステップに位置しており、労働法の基礎を学びつつ、社会や企業で通用するプレゼンテーション能力、問題解決能力の基礎を養うこととしたい。労働法が実際に身につくかどうかは、学生の努力によるところが大きい。演習では活発、自由な議論がポイントになる。何が問題か、判例はどうか、自分はどうか考えるか。演習への積極的な参加を期待する。

教科書 /Textbooks

村中孝史ほか編『労働判例百選 [第8版]』有斐閣(2009年)
六法(小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)
取り上げる裁判例は演習開講時に示す。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

労働法の基本判例、最新判例を取り上げ、報告、検討、議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発言内容...40%、報告内容...30%、出席状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※2学期に開講する「労働法専門演習II」と併せて受講すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、1学期に開講される「労働法専門演習I」の方針を引き継ぎつつ、問題解決能力、プレゼンテーション能力等のさらなる高度化を目指す。
労働法は、日本型雇用システムの変化を反映して大きく変貌しつつある。雇用社会の変化を洞察しつつ、発生する問題を「法的に」どう解決していくか、ここに労働法の醍醐味があるといえよう。演習への積極的な参加を期待する。

教科書 /Textbooks

村中孝史ほか編『労働判例百選 [第8版]』有斐閣 (2009年)
六法 (小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)
取り上げる裁判例は演習開講時に示す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

労働法の基本判例、最新判例を取り上げ、報告、検討、議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発言内容... 40%、報告内容... 30%、出席状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※ 1学期に開講する「労働法専門演習I」と併せて受講すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法専門演習I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、いわゆる「国際問題」に関連する「事例」や「判例（国内判例も含む）」等の研究を通じ、国際社会を規律する主要な法体系としての「国際法」が、規範の面で、またそれを担保するシステムの面で、どのような現状に置かれているのか、また、国際政治や国際経済などどのようにかかわってきているのか、その理解をより一層深めていくことを目的とします。【事例 / 判例研究を通じた国際法の基本的運用力の涵養】また社会人基礎力として必要とされる諸能力の涵養を目指します。【社会人基礎力の涵養】国際法専門演習IIとセットで受講してください。4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

教科書 /Textbooks

松井芳郎『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）○必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 第1回 コースガイダンス，係決め | 第2回 リサーチの仕方 |
| 第3回 特定課題テーマの提示と調査 | 第4回 フリー・ディスカッション |
| 第5回 学生が選定するグループ課題① | 第6回 グループ準備（テーマ調査） |
| 第7回 グループ準備（主張等の整理） | 第8回 グループ準備（プレゼン資料の作成） |
| 第9回 発表等 | 第10回 学生が選定するグループ課題② |
| 第11回 グループ準備（テーマ調査） | 第12回 グループ準備（主張等の整理） |
| 第13回 グループ準備（プレゼン資料の作成） | 第14回 発表等 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実際の指導は選抜時より始めます。予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、学生が社会に出る / 出ようとするときに、国際法ゼミで勉強してきたことを少しでも活かすことができるようにするためのプログラムを用意します。つまりなぜこの仕事・進路を選ぼうとしているのかとの問いに対し、大学の国際法ゼミで勉強してきたなかで○○の点に興味を持ったからだと明確に答えられるようにするためのプログラムです。ここまでやりましたと胸を張って言えるものを、頑張っ一緒に作って行きましょう。【キャリアと国際法】国際法専門演習IIとセットで受講してください。4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

教科書 /Textbooks

必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス、役職決め
- 第2回 国際法ゼミとの関連でのキャリア研究：グループ分け
Group A: 自治体と国際法, Group B: 企業と国際法, Group C: 国際機関と国際法 など
受講者の進路希望・数によって実際のグループ分けは異なります。
- 第3回 グループによる予備調査①
- 第4回 グループによる予備調査②
- 第5回 精読文献等の選定・提出 (各グループ)
- 第6回 文献精読①「自治体と国際法G」(全員)
- 第7回 同②「企業と国際法G」(全員)
- 第8回 同③「国際機関と国際法G」(全員)
- 第9回 グループ作業(プレゼン準備)
- 第10回 グループ作業(プレゼン準備)
- 第11回 グループ作業(プレゼン準備)
- 第12回 Group Aの発表
- 第13回 Group Bの発表
- 第14回 Group Cの発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：「契約法に関する重要判例の検討～じっくり考える民法解釈～」。

本演習では、民法財産法、なかでも契約法分野の重要判例の検討を通じて、契約法理論の理解をいっそう深めることを目的とする。また、受講生同士の議論や教員との議論などを通じて、自身の見解（法的判断）を、他者に分かりやすく、説得力あるかたちで正確に伝える力を養うことも本演習の目的である。議論への積極的参加が本演習における絶対的義務である。

教科書 /Textbooks

- ①中田裕康ほか編『民法判例百選II債権[第6版]（別冊ジュリストNO196）』（有斐閣、2009年）
- ②中野次雄編『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）
- ③最新版の六法（判例つきの六法が望ましい）
- ④民法（契約法または債権各論）の体系書・基本書（受講生が普段使用しているもの）
- ⑤民事訴訟法の基本書（受講生が普段使用しているもの）※「5点セット」を必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (※以下のスケジュール等は、受講人数により左右されるので、あくまで予定。)
- 初回授業時に、代表的判例を紹介する。その中から報告判決を選択してもらう。報告形式は、受講人数が6名以下の場合には一人で報告。7名以上の場合は、受講生を3グループに分けて報告をしてもらう。いずれにせよ、報告者（報告グループ）は当然、報告に当たっていない受講生も、積極的に議論に参加することが要求される。報告者（報告グループ）は、採り上げる判決について、（1）事実関係（2）訴訟経過（3）最高裁判所の判決理由（4）争点の所在・従来の学説や判例理論と報告判決との関係（5）調査官解説や判例評釈で示されている見解（6）報告判決についての報告者（報告グループ）の検討結果（判決理由中のどの部分が「判例」か。採り上げた判例の射程なども含め。）を明示しなければならない。報告者（報告グループ）以外の受講生は、（1）～（6）につき、質問・指摘などを報告者（報告グループ）に対して浴びせなければならない。その他、ゼミの詳細な運営方針については、初回時に説明・協議する。
 - 最終授業終了時に、報告した判決についての判例評釈をレポートとして提出してもらう。
 - 第1回ガイダンス、第2回報告順の決定、第3回～第14回報告・議論、第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告の内容など... 80%
- レポート（判例評釈）の内容... 20% ※レポート未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト②をゼミ開講後、できる限り早い段階で通読しておくこと。報告準備などを入念に行うのは当然のことである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習I【昼】

担当者名 中山 布紗 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、判例の検討を通じて、取引において多発するトラブルの実態を知り、それに対し法律（民法その他特別法）がどのような解決策を提供できるかについて考える。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入①本演習の概要及び報告にあたっての留意点の解説。次週検討する判例の配布。
- 2回 導入②演習担当教員による判例報告。次回以降の報告担当者及び検討判例の決定
- 3回～15回 学生による判例研究報告および議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(最低本文1万字)...60% 判例研究(報告)...30% 平常点...10%
* レポート課題未提出者、無断欠席者には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、1人1件、各自の興味関心から選定した判例を研究し、事前に作成したレジュメに沿って報告をしてもらう。報告時間は1人あたり40分以内である。報告は次週に持ち越さない。報告後の時間は、受講者全員でその日の検討判決要旨(裁判所の判断)の妥当性について議論するとともに、報告者のレジュメやプレゼンテーションに対する評価(良かった点・悪かった点)につき意見を出し合う。なお、本演習は3年前より、9月頃に九州大学・愛媛大学・宮崎大学の民法ゼミと共同主催する合同合宿に履修学生を送り込んでいる。合宿において学生は、司法試験レベルの事例問題(論述問題)の答案をゼミごとに検討し、議論する(*ゼミ履修者は全員参加)。
本演習は、毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ、議論において「無言厳禁」を原則とするなど、受講者に対する要求度が高いことを付言しておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習I【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国及び中央アジア研究。中国及び中央アジアとは何なのかについて、様々な観点から考察を行う。中国語等のドリルを毎回行う。

教科書 /Textbooks

文献は、各自が探すことになります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 簡単な説明
- 2回 学生Aの報告
- 3回 学生Bの報告
- 4回 学生Cの報告
- 5回 学生Dの報告
- 6回 学生Eの報告
- 7回 学生Fの報告
- 8回 学生Gの報告
- 9回 学生Hの報告
- 10回 学生Iの報告
- 11回 学生Jの報告
- 12回 学生Kの報告
- 13回 学生Lの報告
- 14回 学生Mの報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 ... 10 % 単語・短文ドリル ... 90 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査が大変です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：「契約法文献研究～そしてゼミ論文へ～」。本演習の大きな目的・目標は、二つである。一つは、報告（輪読）を通じてゼミ生みんなが「民法学（本演習では契約法学）の本格的な研究書を一冊読み抜くこと」である。もう一つは、1学期演習で培った契約法に関する重要判例・学説についての知見等を駆使して、受講生諸君の演習における研究成果を「ゼミ論文」というかたちで結実させることである。また、他者（教員を含む）との議論を重ねることで、自身の見解（法的判断）を他者に対して分かりやすく、説得的に伝える力を一層向上させることも本演習の目的といえる。

教科書 /Textbooks

- ①野澤正充 編著『瑕疵担保責任と債務不履行責任』（日本評論社、2009年）
 - ②最新版の六法（判例つき六法が望ましい）
 - ③民法（契約法）の体系書・基本書（受講生が普段使用しているもの）
- ※上記「3点セット」を必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (※以下のスケジュール等は、受講人数により左右されるので、あくまで予定。)
- 初回授業時に、各受講生からゼミ論文の構想を発表してもらおう。なお、報告形式（研究書輪読）は1学期同様、受講人数が6名以下の場合原則一人。7名以上の場合は、受講生を3グループに分けて報告をしてもらう。いずれにせよ、報告者（報告グループ）は、報告担当箇所の要約・関連文献・判例の検討、そして、私見をそれぞれ明示して報告しなければならない。報告者（報告グループ）以外の受講生は、質問・意見などを遠慮なく報告者（報告グループ）に対して浴びせなければならない。積極的な議論がゼミの生命線である。その他、ゼミの詳細な運営方針については、初回時に説明・協議する。「じっくり腰を据えて」契約法の基礎理論を研究しましょう！
 - 最終授業終了時に、「ゼミ論文（10,000字以上）」を提出してもらおう。
 - 第1回 ガイダンス、第2回 テキスト①輪読箇所・報告順等の決定、第3回～第14回（予定）各受講生（ないしグループ）による報告・議論（この間、ゼミ論文の添削・指導も行うので、オフィス・アワーなどを積極的に活用すること。）、第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告内容など...70%
- 「ゼミ論文」の内容...30% ※「ゼミ論文」未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト①をゼミ開講後、できる限り早い段階で通読しておくこと。報告準備を入念に行うことなどは当然である。また、ゼミ論文については、添付ファイルで原稿（途中経過）を授業日の前々日までに教員に毎週送付すること。受け身の姿勢ではゼミにいる意味は全くない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、判例の検討を通じて、取引において多発するトラブルの実態を知り、それに対し法律（民法その他特別法）がどのような解決策を提供できるかについて考える。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 応用①：1学期レポートの総評（担当教官より受講者へ）。報告とレポートの関係について の解説。次週検討する判例配布。
- 2回 応用②：演習担当教員による判例報告。次回以降の報告担当者及び検討判例の決定。
- 3回～15回 学生による判例研究報告および議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート（最低本文1万字）...60% 判例研究（報告）...30% 平常点...10%
* レポート課題未提出者、無断欠席者には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、1人1件、各自の興味関心から選定した判例を研究し、事前に作成したレジюмеに沿って報告をしてもらう。報告時間は1人あたり40分以内である。報告は次週に持ち越さない。報告後の時間は、受講者全員でその日の検討判決要旨（裁判所の判断）の妥当性について議論するとともに、報告者のレジюмеやプレゼンテーションに対する評価（良かった点・悪かった点）につき意見を出し合う。
本演習は、毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ、議論において「無言厳禁」を原則とするなど、受講者に対する要求度が高いことを付言しておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習II 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習 1 に引き続いて、中国及び中央アジア研究。ドリルも継続して毎回実施する。

教科書 /Textbooks

開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 簡単な説明
- 2 回 学生 A の報告
- 3 回 学生 B の報告
- 4 回 学生 C の報告
- 5 回 学生 D の報告
- 6 回 学生 E の報告
- 7 回 学生 F の報告
- 8 回 学生 G の報告
- 9 回 学生 H の報告
- 10 回 学生 I の報告
- 11 回 学生 J の報告
- 12 回 学生 K の報告
- 13 回 学生 L の報告
- 14 回 学生 M の報告
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 ... 10 % 単語・短文ドリル ... 90 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査が大変です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習I【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する基本的な論点について学習し、知識を習得することを目的とします。毎回、判例について、報告者から報告を受け、全員で討議します。

教科書 /Textbooks

最初の講義のときに紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義のときに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進行方法についての説明、報告者の決定
- 2回 以下、順次、個別報告
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する重要な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。毎回、判例について、報告者から報告を受け、全員で討議する。

教科書 /Textbooks

最初の講義のときに紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告者の決定
- 2回 以下、順次、個別報告
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【昼】

担当者名 今泉 恵子 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業「金融ファイナンス」に関する法的問題を取り扱った文献や判例の分析・検討を目的とします。参加者がみずから選択し、報告を行った文献あるいは判例について期末にレポートを作成することが最終目標となります。*原則として、企業法専門演習IIとセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献は各自のテーマ毎に適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 セミ運営方針の説明、判例研究・事例研究の意義を理解する
- 第2回 各自が選択を希望する判例・事例等について、選択にあたっての問題意識を確認したり、明確化したりする。
- 第3回 選択しようとしている判例に関連する裁判例や判例解説がどの程度あるのかを調べて、通して、研究対象にしやすい判例かどうかを見極める。
担当判例の決定、報告要旨(レジュメ)作成の方法についての説明、報告順番の決定。
- 第4回～第15回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート作成を含むゼミへの参加度...100%
(無断欠席はゼミ放棄とみなします)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1)判例研究の場合：担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告した後、判旨の展開のあり方、当該判例の位置づけ(射程距離)などについて、議論のタネを提示します。それを受けて参加者全員で議論します。
- (2)文献紹介の場合：担当者が、当該文献の概要について一通り報告した後、論旨展開のあり方や評価・批評など、議論のタネを提示します。それを受けて参加者全員で議論します。
- (3)報告担当者は、報告発表の要旨=レジュメを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、2号館4階2-414研究室前の廊下にあるテーブルの上に提出しておいてください。その他の参加者には、上記のコピーを受け取っておき、事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上で、さらに別の論点の提示などの準備をしてゼミに参加することを望みます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業「金融」に関わる法律問題を対象とする判例・論文等の分析・検討。本演習は、受講者がゼミ形式の授業をすでに経験し、法律文献の読み方についての基礎知識があることを前提に実施されるものです。参加者が選択し、報告を行った文献・判例について期末にレポートを作成することが最終目標となります。*原則として、「企業法専門演習I」とセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキストは、特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自が選択した判例・文献に応じて、その都度、参考文献を指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミ運営方針の説明、各自が選択を希望する判例・事例等を紹介する
(初回時までに、自分が調べてみたい判例・事例を各自2~3件分用意しておき、なぜ興味をもっているのかについて、発表する)
- 第2回 報告の仕方、レジюме作成方法などについて学ぶ。報告テーマと順番を確定する。
- 第3回~第15回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告内容・議論内容・レポートを総合する、ゼミへの参加度...100%
(無断欠席はゼミ放棄とみなされる場合があります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 判例研究の場合：担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告した後、判旨の展開のあり方、当該判例の位置づけ(射程距離)などについて、議論のタネを提示します。それを受けて参加者全員で議論します。
- 文献紹介の場合：担当者が、当該文献の概要について一通り報告した後、論旨展開のあり方や評価・批評など、議論のタネを提示します。それを受けて参加者全員で議論します。
- 報告担当者は、報告発表の要旨=レジюмеを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、2号館4階2-414研究室前の廊下にあるテーブルの上に提出しておいてください。その他の参加者には、上記のコピーを受け取っておき、事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上で、さらに別の論点の提示などの準備をしてゼミに参加することを望みます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業取引に関する法的問題について、定期的に報告を行い、学期末にレポートを作成すること（企業法に関する「演習」を既に履修済みであることが前提になります）。

なお、必要に応じて、関連文献の輪読なども実施する。

* 上記担当者による「個別研究指導Ⅱ」とセットで受講すること

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、受講者の選択テーマに応じて、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この研究指導は、受講者各自に対して個別に行われる部分と、受講者全員に対して共通課題の設定や（全体 / 合同）報告会（例えば他の「企業法」関連の「演習」科目受講者との合同など）への参加という形で集団的に実施される部分とから成る。

第1回目の指導日に今後の研究指導のスケジュールや内容について受講者と協議します。

第2回～第15回・・・報告と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告内容・レポート作成を含むゼミへの参加度...100%

（無断欠席はゼミ放棄とみなします）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究指導時に参照する文献については事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上で、さらに別の論点の提示などの準備をしてゼミに参加することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法学に関する基礎的な知識・理解を前提として、更に、高度な、憲法理論・人権理論の修得をしていただくことを目的とする。このような目的から、履修者には「個別研究指導II」と併せて受講した上でゼミ論文（20000字程度）を執筆することを単位取得の条件とする（1学期は、中間論文をとりまとめることまでを目的とする）。

教科書 /Textbooks

各自のゼミ論文作成のために最適な参考文献などを紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究指導
- 3回 研究指導
- 4回 研究指導
- 5回 研究指導
- 6回 研究指導
- 7回 研究指導
- 8回 研究指導
- 9回 研究指導
- 10回 研究指導
- 11回 研究指導
- 12回 研究指導
- 13回 研究指導
- 14回 研究指導
- 15回 研究指導

成績評価の方法 /Assessment Method

中間論文 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 対面式 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本法制史に関する論文指導

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう

成績評価の方法 /Assessment Method

論文のための中間報告 (レポート) 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政法の判例を素材として判例研究を行い、行政法全体についての理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政法判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同『行政法判例百選II(第五版)』(同)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
2回 判例の選択
3回～15回 レポートの作成
(複数の判例についてレポートを作成し提出すること。)
- テーマの設定および参考文献については各参加者と協議する。
進捗状況について報告を求めるとともに適宜指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出されたレポートの評価 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法規範と憲法現実とのきわめて深刻な乖離を直視して、人権保障という目的のために、どのように民主的統治機構が手段として構築されているのか、かけがえのない個人を「個人として尊重」という基本的視点から、法廷に持ち込まれたさまざまな人権に関する憲法判例を学び、最近の人権理論を展望します。履修者数にもよりますが、毎月2回の判例研究報告があります。そして、学期末には、統治機構に関する問題、人権に関する問題について、研究レポートを執筆します。

教科書 /Textbooks

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

手島・安藤『憲法新教科書』（法律文化社）
高見勝利『芦部憲法学を読む』（有斐閣）
高橋・大石『憲法の争点』（有斐閣）
芦部信喜『憲法』（岩波書店）
佐藤幸治『憲法』（青林書院）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初の授業のときに、関心のある判例を列挙して、報告判例を決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30 % 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は課題判例について「判例時報」や「判例タイムス」などを調べて裁判所の判決文を全文読むことが必要です。毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法専門演習I・IIで学んだことを前提に、民事訴訟法に関する論文を執筆する。

講義，演習に続く民事訴訟法学習の集大成である。

希望者と、個別に面談し、研究指導を行う。個別研究指導IIと併せて、最終的には、分量20000字程度の卒業論文を執筆してもらう。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 すべて、個別指導
- 2回
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

論文 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでのゼミでは、現代正義論を主題として、ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥウオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥウオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマッセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥウオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』などを読み進めてきた。本年は、その延長上で、後期ハーバーマスの主著とも言うべき法哲学的著作『事実性と妥当性』を取り上げることで、正義の問題への討議理論的アプローチの再検討を行う。同書を素材としながら、本演習では、現代正義論にとっても重要なテーマとなっている「承認」の問題も検討する予定である。

教科書 /Textbooks

○ハーバーマス『事実性と妥当性（上）』（未来社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ハーバーマス『事実性と妥当性（下）』（未来社）
- 毛利透『民主制の規範理論 - 憲法パトリオティズムは可能か』（勁草書房）
- 中岡成文『ハーバーマス』（講談社）、小牧治・村上隆夫『ハーバーマス』（清水書院）
- 川本隆史『ロールズ』（講談社）、牧野広義『現代倫理と民主主義』（地歴社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第3回では、コピー等を使いながら、現代正義論の展開の構図を概観する。第4回～第13回は上記テキストを分担して報告し、議論しながら読み進める。第14回～第15回はまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 30% 報告... 40% 質問等の状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する新しい判例等の検討を行います。高橋担当の企業法入門演習・応用演習を受講済みの学生を対象として、会社法に関する更なる理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個別研究指導は受講者に対し、判例の検討を通じて取引において多発するトラブルの実態を知り、それに対し法律（民法その他特別法）がどのような解決策を提供できるかについて考えていただく。このほか個別研究指導では、民法分野のトピックスについてより高度な研究を希望する者に対して論文（レポート）執筆の指導を行う。さらに、民法の基本論点に関する論述問題を解き、検討会を通じて議論する機会を設ける。

教科書 /Textbooks

適宜必要と思われる資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入①本演習の概要及び消費者トラブルの種類と対策に関する解説 / 次週検討判例配布
- 2回 導入②演習担当者による判例研究（例示） / 次回以降の報告担当者及び検討判例の決定
- 3回～15回 学生による判例研究報告および議論

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート（2万字）... 60% 判例研究（報告）... 30% 平常点... 10%
レポート課題未提出者、無断欠席者には単位を認定しない。

* 本個別研究指導における通常の演習活動は、3年次配当の「民法専門演習I」と合同で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、1人1件、各自の興味関心から選定した判例を研究し、事前に作成したレジュメに沿って報告をしてもらう。報告時間は1人あたり40分以内である（報告は次週に持ち越さない）。残りの時間は、受講者全員でその日の検討判決要旨（裁判所の判断）の妥当性について議論するとともに、報告者のレジュメやプレゼンテーションに対する評価（良かった点・悪かった点）につき意見を出し合う。本演習は、毎回の準備作業が相当量になることをはじめ、議論において「無言厳禁」を原則とするなど、要求度が高い。
* 上記の演習活動のほか、個別研究指導履修者は、民法の基本論点に関する論述問題検討会に参加すること（開催日程は受講者と相談して決める）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本研究指導は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。個別研究指導IIとセットで受講してください。受講希望者多数の場合は、国際法入門演習、国際法応用演習を履修している学生を優先します。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者のニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第I段階①問題意識の確認→ゼミ論文のテーマ設定
②論文作成の可能性の探究→関連文献リストの作成

第II段階①問題の所在の明確化→事実関係等の整理
②先行研究の整理→文献報告
③関連文献の整理→情報カードの作成・蓄積

第III段階 ゼミ論文のアウトラインの作成・報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。

アサインメントの実施状況...100%

なお全体会へ無断欠席をした者や、やる気の感じられない学生に対しては、本研究指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の指導に基づき、作業をこなしていっていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すでに刑事法系科目（刑法、刑事訴訟法、犯罪学、刑事政策）のすべてを履修済みかあるいは現在当該科目を履修中である学生を対象として、各学生の関心ある刑事法上の研究テーマを講義レベルより一層掘り下げて、個別的・具体的に調査研究することを目的としています。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、必要に応じて、その都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 受講学生と相談のうえ、具体的な授業内容などについて決定する。
- 3回～14回 以下同じ。
- 15回 レポート(プロスペクタス)提出

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本科履修前に、「刑事学専門演習I&II」を受講していれば、調査研究の方法に関する基礎的知識を習得することができます。刑事法系専門科目のすべてを受講した場合は、研究テーマの理解がより深いものになります。なお、「個別研究指導I」は、「個別研究指導II」と一体的・連携的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀ドイツ法学の精華に触れるために、19世紀のドイツ語文献の講読を行う。

教科書 /Textbooks

未定。ただし、ドイツ亀甲文字の文献を使う。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文献の決定
- 2回 文献講読
- 3回 文献講読
- 4回 文献講読
- 5回 文献講読
- 6回 文献講読
- 7回 文献講読
- 8回 文献講読
- 9回 文献講読
- 10回 文献講読
- 11回 文献講読
- 12回 文献講読
- 13回 文献講読
- 14回 文献講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の希望を考慮して、テーマを決定し、刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

立石二六編『刑法総論30講』（成文堂）2007年4月1日、2800円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石二六著『刑法総論・補正版』（成文堂）平成16年3月、4000円＋税
 ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選総論 [第5版]』（有斐閣）平成25年4月、2105円＋税
 船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』（不磨書房）平成15年3月、2000円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
 第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
 第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
 第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
 第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
 第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
 第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
 第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの評価による（レポート評価100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の研究したい課題または問題意識を、文献を調べたりして、深めていくことを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の研究したい課題または問題意識を、文献を調べたりして、深めていくことを目的とする。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 文献吟味 ... 40% 質疑応答 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

十分に文献を検討しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法財産法、なかでも、契約法分野を主たる対象とした研究論文を執筆すること（ただし、個別研究指導Ⅰでは、「個別研究指導Ⅱ」で作成する本格的「研究論文」執筆のための「中間論文」を作成することが主たる目的となる。）がこの授業の目的である。受講生の研究（論文執筆）の進捗状況を考慮しつつ、適宜、参照すべき文献、裁判例等を指示する。3年次の「民法演習」以上に「忍耐力とやる気」が要求される。したがって、生半可な気持ちでの履修は一切認めない。

教科書 /Textbooks

※特に使用しない。論文作成に必要な文献等については、各自購入するか、図書館から借りるなどすること。また、教員の方でも文献、判例評釈等のコピーを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※各受講生が参照すべき文献などは、教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(※以下のスケジュールは、受講人数等の諸事情により変更する可能性がある。したがって、一応の「めやす」にすぎない。)

第1回 ガイダンス：論文テーマの確認。※「未定」の場合、次回までに必ず考えてくること。

第2回～第14回（指導日時は受講生と相談して決定。）：論文指導（質問受付・参考文献指示・原稿添削など。なお、オフィス・アワーを積極的に活用すること。）。

第15回 まとめ

※6月下旬～7月上旬：中間論文プレ報告（報告後、修正すべき点などを指示する。）

※7月下旬：中間論文報告会および中間論文提出（予定）。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 研究姿勢（研究全般における積極性）... 20%
- 中間論文の進捗状況（教員の指導をきちんと反映させようと意識して執筆を進めているか）... 40%
- 中間論文プレ報告および中間論文報告会の内容... 10%
- 中間論文（6,000字程度）の内容の完成度... 30%

※（注意）中間論文未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中間論文執筆指導の際、教員が指示した文献を必ず調べて、論文の内容に活かすこと。そのうえで執筆を進め、途中経過を逐次メール等で事前に教員に報告すること。こういった準備をコツコツこなしていくことが論文完成につながる。これを怠る者には指導は行わない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「労働法専門演習I・II」を履修した者を対象として、労働法の諸問題のなかから、未解決あるいは創造的な課題を自ら設定し、調査・検討を行ったうえで論文にまとめることにより、総合的な法的思考力を身につける。個別研究指導を通して、研究目標達成のためのプロセス、考え方を学習する。前半は、テーマの決定、資料収集、論文構成について指導し、後半は、記述の内容について指導する。労働法を専攻とする大学院進学、あるいは、労働法を主要科目とする資格試験等を目指す学生には、できる限り配慮したい。

教科書 /Textbooks

指導を通じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指導を通じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者と相談して決定する。
学期末に中間報告を提出することが求められる。

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容... 50%、発言内容... 30%、出席... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※引き続き「労働法専門演習I・II」に参加することが履修条件となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論・刑法各論及び刑法専門演習I・IIにおいて習得した知識及び理解を基礎にして、受講者各人が関心をもっている刑法に関する研究テーマを、専門的、具体的かつ緻密に研究し、論文にまとめることを目的とします。単なる知識の取得に留まることがないように、自己の考察を説得的な文章で表現することに重点をおきます。

受講者各人の目的に応じて、個別テーマごとに数通の小論文を作成していくか、単一のテーマについての論文（ゼミ論文）を作成していきます。

講座全体のキーワードは、刑事法的思考力及び論理的説得力を習得することです。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、テーマ配分など
 - 2回～15回 報告及びディスカッション
- ※個別研究指導は、原則として、週1回程度、担当者と受講者の都合の良い日時に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポートを含む）... 50% 討論及び発言内容... 50%
 ※演習への参加状況（出席状況、報告内容、討論及び発言内容）、レポート及び提出された論文（ゼミ論文）などにより、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者各人が選定した研究テーマについて、レポートを作成してもらいます。提出されたレポートを基にしたディスカッションを通じて、丁寧に検討を進めていきます。ディスカッションと再検討の成果を、次回の個別研究（レポート）にフィードバックすることが求められます。個別研究指導Iは、個別研究指導IIと連続して展開することを予定していますので、個別研究指導IIを併せて履修することを強く推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業取引に関する法的問題について、定期的に報告を行い、学期末にレポートを作成すること（企業法に関する「演習」を既に履修済みであることが前提になります）。

なお、必要に応じて、関連文献の輪読なども実施する。

* 上記担当者による「個別研究指導Ⅰ」とセットで受講すること

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、受講者の選択テーマに応じて、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この研究指導は、受講者各自に対して個別に行われる部分と、受講者全員に対して共通課題の設定や（全体 / 合同）報告会（例えば他の「企業法」関連の「演習」科目受講者との合同など）への参加という形で集団的に実施される部分とから成る。

第1回目の指導日に今後の研究指導のスケジュールや内容について受講者と協議します。

第2回～第15回・・・報告と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告内容・レポート作成を含むゼミへの参加度... 100%
（無断欠席はゼミ放棄とみなします）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究指導時に参照する文献については事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上で、さらに別の論点の提示などの準備をしてゼミに参加することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法学に関する基礎的な知識・理解を前提として、更に、高度な憲法理論・人権理論の修得をしていただくことを目的とする。このような目的から、履修者には「個別研究指導I」と併せて受講した上でゼミ論文（20000字程度）を執筆することを単位取得の条件とする。

教科書 /Textbooks

各自のゼミ論文作成のために最適な参考文献などを紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究指導
- 3回 研究指導
- 4回 研究指導
- 5回 研究指導
- 6回 研究指導
- 7回 研究指導
- 8回 研究指導
- 9回 研究指導
- 10回 研究指導
- 11回 研究指導
- 12回 研究指導
- 13回 研究指導
- 14回 研究指導
- 15回 研究指導

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミ論文 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 対面式 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

論文指導

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文内容につき定期的に報告してもらう

成績評価の方法 /Assessment Method

論文 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個別研究指導Iに引き続き、行政法の判例を素材として判例研究を行い、行政法全体についての理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政法判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同 『行政法判例百選I(第五版)』(同)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 判例の選択
- 3回～15回 判例についてのレポート作成
複数の判例についての報告を求める。
テーマの設定及び参考文献とうについては、参加者と協議する。
進捗状況については報告を求めるとともに、適宜指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出されたレポートの評価 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法規範と憲法現実とのきわめて深刻な乖離を直視して、人権保障という目的のために、どのように民主的統治機構が手段として構築されているのか、かけがえのない個人を「個人として尊重」という基本的視点から、法廷に持ち込まれたさまざまな人権に関する憲法判例を学び、最近の人権理論を展望します。履修者数にもよりますが、毎月2回の判例研究報告があります。そして、学期末には、統治機構に関する問題、人権に関する問題について、研究レポートを執筆します。

教科書 /Textbooks

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

手島・安藤『憲法新教科書』（法律文化社）
高見勝利『芦部憲法学を読む』（有斐閣）
高橋・大石『憲法の争点』（有斐閣）
芦部信喜『憲法』（岩波書店）
佐藤幸治『憲法』（青林書院）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初の授業のときに、関心のある判例を列挙して、報告判例を決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30 % 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は課題判例について「判例時報」や「判例タイムス」などを調べて、裁判所の判決文を全文読むことが必要です。毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法専門演習I・IIで学んだことを前提に、民事訴訟法に関する論文を執筆する。
民事訴訟法についての講義，演習に続く民事訴訟法学習の集大成である。
希望者と、個別に面談し、研究指導を行う。個別研究指導Iと併せて、最終的には、分量20000字程度の卒業論文を執筆してもらう。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 すべて、個別指導
- 2回
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の個別研究指導Iでは、現代正義論の構図を概観した上で、現代正義論のその後の展開について学ぶ予定である。2学期の個別研究指導IIでは、「現代正義論」という主題に特に限定せず、広い意味で「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的主题にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて、自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者がその都度参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回は、はじめに。第2回～第13回は、ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。第14回～第15回は、まとめ。
2学期は特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上でゼミに臨んで欲しい。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 30% 報告... 40% 質問等の状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する新しい判例等の検討を行います。高橋担当の企業法入門演習・応用演習を受講済みの学生を対象として、会社法に関する更なる理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個別研究指導は受講者に対し、判例の検討を通じて取引において多発するトラブルの実態を知り、それに対し法律（民法その他特別法）がどのような解決策を提供できるかについて考えていただく。このほか個別研究指導では、民法分野のトピックスについてより高度な研究を希望する者に対して論文（レポート）執筆の指導を行う。さらに、民法の基本論点に関する論述問題を解き、検討会を通じて議論する機会を設ける。

教科書 /Textbooks

適宜必要と思われる資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 応用①：1学期レポートの総評（担当教官より受講者へ）。報告とレポートの関係について の解説。次週検討する判例配布。
- 2回 応用②：演習担当教員による判例報告。次回以降の報告担当者及び検討判例の決定。
- 3回～15回 学生による判例研究報告および議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート（2万字）...60% 判例研究（報告）...30% 平常点...10%
レポート課題未提出者、無断欠席者には単位を認定しない。

* 本個別研究指導における通常の演習活動は、3年次担当の「民法専門演習II」と合同で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、1人1件、各自の興味関心から選定した判例を研究し、事前に作成したレジュメに沿って報告をしてもらう。報告時間は1人あたり40分以内である（報告は次週に持ち越さない）。残りの時間は、受講者全員でその日の検討判例要旨（裁判所の判断）の妥当性について議論するとともに、報告者のレジュメやプレゼンテーションに対する評価（良かった点・悪かった点）につき意見を出し合う。本演習は、毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ、議論において「無言厳禁」を原則とするなど、要求度が高い。
* 上記の演習活動のほか、個別研究指導履修者は、民法の基本論点に関する論述問題検討会に参加すること（開催日程は受講者と相談して決める）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本研究指導は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。個別研究指導Ⅰとセットで受講してください。受講希望者多数の場合は、国際法入門演習、国際法応用演習を履修している学生を優先します。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者のニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

- 第Ⅳ段階①ゼミ論文アウトラインの確定
②ゼミ論文の中間報告

- 第Ⅴ段階①ゼミ論文初稿の提出→添削指導→修正
②ゼミ論文第2稿の提出→添削指導→再修正

第Ⅵ段階 ゼミ論文完成稿の提出→ゼミ論文集に

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況とゼミ論文をもとに評価します。

アサインメントの実施状況...50% ゼミ論文...50%

なお全体会へ無断欠席をした者や、やる気の感じられない学生に対しては、本研究指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「個別研究指導I」の項目参照。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、必要に応じて、その都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 受講学生と相談のうえ、具体的な授業内容などについて決定する。
15回 最終レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「個別研究指導I」の項目参照。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀ドイツ法学の精華に触れるために、19世紀のドイツ語文献の講読を行う。

教科書 /Textbooks

未定。ただし、ドイツ亀甲文字の文献を使う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文献の決定
- 2回 文献講読
- 3回 文献講読
- 4回 文献講読
- 5回 文献講読
- 6回 文献講読
- 7回 文献講読
- 8回 文献講読
- 9回 文献講読
- 10回 文献講読
- 11回 文献講読
- 12回 文献講読
- 13回 文献講読
- 14回 文献講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の希望を考慮して、テーマを決定し、刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

立石二六編『刑法総論30講』（成文堂）2007年4月1日、2800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石二六著『刑法総論第三版』（成文堂）平成20年、4000円＋税
 ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第5版]』（有斐閣）平成25年4月、2105円＋税
 船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』（不磨書房）平成15年3月、2000円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
 第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
 第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
 第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
 第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
 第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
 第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
 第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの評価による（レポート評価100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の研究したい課題または問題意識を、文献などを調べながら、深めていくことを、目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初の時間に受講生と話し合っ決めていく予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 文献吟味 ... 40% 質疑応答 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

十分に文献を検討しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個別研究指導Iで作成した「中間論文」を本格的な「研究論文」にすることがこの授業の最大のテーマ・目的である。民法財産法、なかでも、契約法分野を主たる対象とした研究論文の執筆を、各受講生の研究の進捗状況等に応じて個別指導する。言うまでもないことだが、論文執筆には、各受講生に「受け身」でなく、「能動的」な研究姿勢が強く求められる。この点、留意されたい。具体的な指導内容は、受講生の論文執筆の進捗状況を考慮しつつ、適宜、参照すべき文献、裁判例などを指示し、論文の添削を行うというものである。なお、生半可な気持ちでの履修は一切認めない。

教科書 /Textbooks

※使用しない。論文作成に必要な文献等については、各自購入するなり、図書館から借りるなどすること。また、教員の方でも必要な文献等のコピーを指示・用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※指定しない。各受講生が参照すべき文献などは、教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(※以下のスケジュールは、受講人数等の諸事情により変更する可能性がある。したがって、一応の「めやす」にすぎない。なお、受講生が1～2名の場合、3年ゼミに参加してもらう予定である。)

第1回 ガイダンス：論文テーマの再確認。※個別研究指導Iで扱ったテーマの大幅変更を予定している者は、この初回授業時に必ず申し出ること。

第2回～第14回(指導日時は受講生と相談して決定。)：論文指導(参考文献の指示・原稿添削など。オフィス・アワーも積極的に活用すること。)

第15回 まとめ

※12月中旬(予定)：論文プレ報告(報告後、修正すべき点などを指示する。)

※翌年1月下旬：論文報告会および論文提出。※論文の体裁等はガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 論文完成までの研究姿勢(指導内容を反映させようで執筆を進めているか。)…40%
 - 論文プレ報告および論文報告の内容…30%
 - 「研究論文(20,000字以上〔字数に上限はない。〕)」の内容の完成度…30%
- (※注意) 論文未提出者には単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文指導の際、教員が指示した文献等を必ず検討し、論文の内容に活かすこと。そのうえで執筆を進め、途中経過を逐次メール等で教員に報告すること。このような準備を着実にこなしていくことが論文完成につながる。これを怠る者には指導は行わない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「個別研究指導I」に引き続き、履修者は、自らが設定した課題の探究・解明に全力を傾け、学期末にその成果として論文を提出することが求められる。「個別研究指導I」の記述も参照のこと。

教科書 /Textbooks

指導を通じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指導を通じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者と相談して決定する。
学期末に論文を提出することが求められる。

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容... 50%、発言内容... 30%、出席... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※引き続き「労働法専門演習I・II」に参加することが履修条件となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論・刑法各論及び刑法専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて習得した知識及び理解を基礎にして、受講者各人が関心をもっている刑法に関する研究テーマを、専門的、具体的かつ緻密に研究し、論文にまとめることを目的とします。単なる知識の取得に留まることのないように、自己の考察を説得的な文章で表現することに重点をおきます。

受講者各人の目的に応じて、個別テーマごとに数通の小論文を作成していくか、単一のテーマについての論文（ゼミ論文）を作成していきます。（原則として、）論文（ゼミ論文）を作成・提出することを最終目標とします。

講座全体のキーワードは、刑事法的思考力及び論理的説得力を習得することです。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス、テーマ配分など

2回～15回 報告及びディスカッション

※個別研究指導は、原則として、週1回程度、担当者と受講者の都合の良い日時に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポートを含む）...30% 討論及び発言内容...30% 論文（ゼミ論文）...40%

※演習への参加状況（出席状況、報告内容、討論及び発言内容）、レポート及び提出された論文（ゼミ論文）などにより、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者各人が選定した研究テーマについて、レポートを作成してもらいます。提出されたレポートを基にしたディスカッションを通じて、丁寧に検討を進めていきます。ディスカッションと再検討の成果を、次回の個別研究（レポート）にフィードバックすることが求められます。

個別研究指導Ⅱは、個別研究指導Ⅰと連続して展開することを予定していますので、個別研究指導Ⅰを併せて履修することを強く推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 達哉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、慣習、しきたり中心の社会から契約中心の法化社会へ移行しつつある現代社会において必要とされる基本的な法的知識を理解することを目標とします。また、法学についての基本的な考え方を習得することも講義のねらいとします。講義では、日常的な事例を挙げて説明します。日常生活が如何に法に密接に結びついているかを理解してもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

村田彰 編 『リーガルスタディー 法律学入門』 酒井書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

六法および法律用語辞典など (出版社の指定はありません)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法学を学ぶにあたって「闘争」を意識する。
- 2回 社会規範について、法と道徳との違い。
- 3回 法源、六法、法令の調べ方と読み方。
- 4回 判例の調べ方と読み方。
- 5回 裁判制度と法曹
- 6回 民事訴訟と刑事訴訟
- 7回 裁判員制度
- 8回 経済生活と法1 (民法と契約の種類)
- 9回 経済生活と法2 (契約と債務不履行)
- 10回 経済生活と法3 (民法の意思表示)
- 11回 経済生活と法4 (クーリングオフ)
- 12回 家族と法
- 13回 国家と法
- 14回 福祉と法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度(20%) + 知識の確認課題(40%) + レポート課題(40%)を総合的に評価します。
※受講態度は減点方式で評価します。私語・途中入退室・携帯電話など講義妨害行為を広く減点対象としております。講義の1回目で詳細を解説し9回目に再度確認します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は教科書に則して進めます。耳慣れない用語は予め辞書などで調べておいてください。
受講後に気になる用語があれば必ず辞書などで再確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代法曹論I【昼】

担当者名 /Instructor 迫田 学 / sakoda manabu / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

裁判官、検察官、弁護士を総称して「法曹」といいます。裁判員制度が始まり、市民と法曹とが協働する時代となりました。本講義では、少年事件、刑事事件、労働事件、ハンセン病訴訟、薬害C型肝炎訴訟など具体的事件を通じて、法曹のものの考え方や法律実務の様子について学んでいただくことを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献は講義において適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは、進捗に応じて変更する場合があります。

- 1回 オリエンテーション 法曹とは
- 2回 刑事裁判の基礎 1
- 3回 刑事裁判の基礎 2
- 4回 裁判員制度
- 5回 少年事件 1
- 6回 少年事件 2
- 7回 憲法の基礎 1
- 8回 憲法の基礎 2
- 9回 ハンセン病違憲国家賠償訴訟 1
- 10回 ハンセン病違憲国家賠償訴訟 2
- 11回 薬害C型肝炎訴訟 1
- 12回 薬害C型肝炎訴訟 2
- 13回 B型肝炎訴訟
- 14回 労働法
- 15回 司法改革と法曹の果たすべき役割

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の成績を中心に総合評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代法曹論II 【昼】

担当者名 /Instructor 川上 修 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

身近に起こりうる様々な法律問題の検討を通じて、法曹三者（裁判官，検察官，弁護士）の役割と現代的意義を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

指定しない。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

- 1回 法曹三者に関する基礎知識【法曹】
- 2回～3回 裁判官の業務と現代的意義【裁判官】【司法権】【三審制】
- 4回 裁判官講師による講義
- 5回～6回 検察官の業務と現代的意義【検察官】【起訴独占主義】
- 7回 検察官講師による講義
- 8回～9回 弁護士の業務と現代的意義【弁護士】【代理人】【弁護人】【弁護士自治】
- 10回 弁護士講師による講義
- 11回 刑事裁判手続きにおける法曹三者の役割（起訴前）【捜査】【被疑者】【逮捕】【勾留】
- 12回 刑事裁判手続きにおける法曹三者の役割（起訴後）【保釈】【無罪推定】
- 13回 民事裁判手続きにおける法曹の役割【訴訟代理人】【処分権主義】【弁論主義】【和解】
- 14回 民事裁判手続きにおける法曹の役割【調停】【支払督促】【少額訴訟】
- 15回 周辺他種業講師による講義【司法書士】【行政書士】【公認会計士】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて指示する。

履修上の注意

講義中，講師の方から質問して発言を求めることがある。知識の確認ではなく，人に自分の意見を説明する能力を向上させることを目的とする。発言内容は成績評価の基礎にはしないので，自由に発言していただきたい。
授業内容及びスケジュールは，外部講師の都合によって変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律実務論I【昼】

担当者名 /Instructor 仰木 伸介 / OHGI SHINSUKE / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

司法書士制度の中でも、司法書士法、不動産登記法に重点を置いた講義により、司法書士の実務に対する理解を深めていくことを目的とする。特に、我が国における不動産取引と登記制度の関係並びに司法書士の職責を中心に解説する。司法書士試験についてもアドバイスも行う。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しないので、各自六法を持参のこと（司法書士法が掲載されていない場合は、各自で準備しておくこと）。講義用のレジユメを定期的に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 司法書士の職務全般と市民との関わり
- 2回 司法書士制度の歴史
- 3回 司法書士法及び関係法令
- 4回 司法書士法改正の方向性
- 5回 日本における不動産取引の現状I
- 6回 日本における不動産取引の現状II
- 7回 不動産登記法I(総論)
- 8回 不動産登記法II(各論)
- 9回 不動産登記法III(各論)
- 10回 不動産登記法IV(実務)
- 11回 認定司法書士制度の現状
- 12回 消費者問題への取り組み
- 13回 多重債務問題と司法書士倫理
- 14回 司法書士試験の現状と今後の予測
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(1回)...40% 期末テスト...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義中に配布したレジユメは、その後の講義の際に持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律実務論II 【昼】

担当者名 /Instructor 細川 真二 / HOSOKAWA SHINJI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

司法書士試験を目指す学生に対して、司法書士の業務を紹介しながら、試験科目の一つである商業登記法に対応した講義を行います。また、将来会社設立を考えている学生にも、会社法と会社の登記がどのように連動しているのかを理解していただきます。さらに、司法書士の新しい業務である成年後見人やADR（裁判外紛争解決手続）についても紹介します。

教科書 /Textbooks

神崎満治郎著「図説新商業登記法」週刊住宅新聞社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新井誠編「成年後見制度 法の理論と実務」有斐閣
日本司法書士会連合会ADR対策部編「司法書士ADR実践の手引」新日本法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業法務と司法書士
- 2回 会社設立①
- 3回 会社設立②
- 4回 会社の機関
- 5回 役員変更
- 6回 新株発行
- 7回 組織再編
- 8回 会社合併
- 9回 その他の登記
- 10回 成年後見制度と司法書士
- 11回 任意後見
- 12回 法定後見
- 13回 ADR制度と司法書士
- 14回 ミディエーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60 % 出席 ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

法律実務論Iの不動産登記法を中心として司法書士講座を履修すると全体が理解できます。
会社法を履修していると理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法思想史【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 2単位 2単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探究する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたいうえてそれを相対化することもまた、可能となってくるであろう。

教科書 /Textbooks

○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳, 濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）
- 田中成明, 竹下賢, 深田三徳, 亀本洋, 平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店）、○三島淑臣『法思想史』（青林書院）
- F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法思想史とは
- 第2回～第6回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想の展開
【トマス・アクィナス】【ホッブズ】【ロック】【ケルゼン】【ハート】
- 第7回～第13回 現代正義論への法思想の展開
【アリストテレス】【実践哲学の復権】【ロールズ】【ノジック】【ドゥオーキン】
【共同体主義】【マルチカルチュラリズム】
- 第14回～第15回 法思想史のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「現代正義論」を1年次に受講していれば、より理解しやすい。講義前には、テキストの該当箇所を読み、講義後には各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史【昼】

担当者名 岡 邦信 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古代から中世の法と制度、特に中世の国制、武家政権の支配機構、裁判制度について、適宜資料等を配布し、解説する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 石井良助「日本法制史概説」創文社
- 牧・藤原編「日本法制史」青林書院
- 義江彰夫「日本通史I「歴史の曙から伝統社会の成熟へ」山川出版
- 水林彪「日本通史II「封建制の再編と日本の社会の確立」山川出版
- 網野善彦「日本社会の歴史」上・中・下 岩波書店
- 水林・大津・新田・大藤編「新体系日本史2 「法社会史」山川出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法制史とは何か
- 2回 時代区分論
- 3回～4回 律令継受以前の国制【天津罪】【国津罪】【盟神探湯】
- 5回～6回 律令と律令国家の実態【官位相当性】【蔭位制】【八虐】【五刑】
- 7回～9回 律令制の解体と荘園公領制【負名田堵】【初期荘園】【雑役免系荘園】【寄進地型荘園】
- 10回～12回 武士団【国衙軍制】
- 13回～16回 中世国家と封建制)【レーエン制】【フューダリズム】
- 17回～18回 中世主従関係【家礼型】【家人型】
- 19回～20回 鎌倉期の法源【幕府法】【在地領主法】
- 21回～23回 鎌倉幕府訴訟制度【所務沙汰】【雑務沙汰】【検断沙汰】【引付】
- 24回 建武政権と南北朝
- 25回～30回 室町幕府と室町期の法源【一揆契状】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは使用しませんので、参考文献を利用し、予習復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法社会学【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法社会学は、実定法解釈学とは異なる視角から、法現象を観察・分析し、言語化する学問です。法解釈学が法システム「内部」の営為だとするならば、法社会学は、法システムをその「外部」から意味づけていく、すなわち、法や規範が、社会の中で、いかなる意味を纏っているのかにつき、多様なアプローチを用いつつ考察していくのが大きな特徴です。受講生には、こうした法社会学的思考の多元性やその意義を理解してもらい、それを以って法解釈学的な知見を豊饒化してもらうとともに、日々の生活の中での問題発見・問題構築の力を養っていくことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。テーマごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (講義の進め方等についての説明)
- 2回 法社会学的観察とは何か (1) 【法システムの「内部」と「外部」という視点
- 3回 法社会学的観察とは何か (2) 【法社会学的アプローチの多元性】
- 4回 法社会学的観察とは何か (3) 【法社会学の学問的出自と歴史的系譜】
- 5回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽 (1) 【フリーライダー問題の「かたち」】
- 6回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽 (2) 【「正解」の出ない社会問題への対処】
- 7回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽 (3) 【ゲーム理論】を援用した対処とその問題
- 8回 いまどきの権力と法システム (1) 【古典的権力観】のせまき
- 9回 いまどきの権力と法システム (2) 【規律型】から【環境管理型】へ
- 10回 いまどきの権力と法システム (3) 【「正常 / 異常」の分出】と法システムの関係性
- 11回 フェミニズムと法 (1) 【ラジカル・フェミニズム】のインパクト
- 12回 フェミニズムと法 (2) あなた自身の【イマジナリーな領域】へ
- 13回 近代法主体像の臨界 (1) 【嫌煙権訴訟】と社会実態の乖離
- 14回 近代法主体像の臨界 (2) 【たばこ訴訟】にみる近代法主体像の臨界
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論述式の定期試験 (70%) と毎講義ごとのレスポンスペーパー (30%) により評価します (詳しくは初回講義時に説明します)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

抽象的かつ論理的思考を厭わないでください。いっけん「あたりまえなこと」を前に、それが「なぜ / いかにして」あたりまえになっているのかを、折に触れて考えるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会が抱える諸問題や実定法学が投げかける具体的な諸問題を考える上で、思考枠組みとしての法理論は不可欠である。人間の共同生活を考える上で不可欠なものとしての法を捉え直すための、基本的な視座を探究することが、本講義の目的とするところである。

教科書 /Textbooks

○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳、濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）
- 平野仁彦、亀本洋、服部高宏著『法哲学』（有斐閣）
- 長谷川晃、角田猛之編『ブリッジブック法哲学』（信山社）
- 田中成明『法理学講義』（有斐閣）
- 田中成明編『現代理論法学入門』（法律文化社）
- 大橋智之輔、三島淑臣、田中成明編『法哲学綱要』（青林書院）
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店）、中山竜一『ヒューマニティーズ 法学』（岩波書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法哲学とは
- 第2回～第7回 法と道徳【ハート＝フラー論争】【パターナリズムと自己決定】
【ハート＝デヴリン論争】【カント】【安楽死・尊厳死】
- 第8回～第10回 法と強制【サンクシオン】【ケルゼン】【合意形成と法】
- 第11回～第13回 法・国家・社会【形式法の実質化】【エールリッヒ＝ケルゼン論争】【法化】
- 第14回～第15回 法哲学のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法思想史」を2年次に受講していれば、より理解しやすい。講義前には、テキストの該当箇所を読み、講義後には各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較法文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 篠森 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1898年に施行されたいわゆる明治民法は、西欧法、特にドイツ・フランス両国の民法の強い影響の下で編纂された、いわば比較法の産物である。民法の講義の際に、解釈論の前提として独・仏民法が紹介される所以である。その独・仏民法は、ローマ法の伝統を基礎にして、それぞれの社会状況の中で成立したものである。講義では、わが国の遺言法上の諸問題を、過去および現在のヨーロッパ大陸遺言法と比較しながら検討する。その中で、民法が単なる技術の集積ではなく、歴史の所産、文化現象でもあることを確認する機会としたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。講義にて資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田慶吉『日本民法典の史的素描』(創文社、1954年)(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【比較法文化論】【比較法】【西洋法制史】【ローマ法】【民法】
- 2回 民法上の遺言制度① 相続法概説【相続法】【法定相続】【遺言】【遺留分】
- 3回 民法上の遺言制度② 遺言法の現在【方式】【遺言能力】【遺贈】【遺言執行者】【撤回】
- 4回 民法上の遺言制度③ 立法過程【旧民法】【法典調査会】【法継受】
- 5回 ローマ法① 基礎知識【ローマ法大全】【学説彙纂】
- 6回 ローマ法② 古典期の遺言法【相続人指定】【遺贈】【信託遺贈】
- 7回 ローマ法③ ユスティニアヌス帝の法典編纂【ユスティニアヌス帝】
- 8回 ローマ法の継受① 注釈学派と註解学派【注釈学派】【註解学派】【教会法】
- 9回 ローマ法の継受② 人文主義法学【人文主義】【クジャス】
- 10回 ドイツ法① 普通法の伝統と各ラントの法【普通法】【ラント法】【法典編纂】
- 11回 ドイツ法② ドイツ民法典の立法【ドイツ民法典(BGB)】
- 12回 ドイツ法③ 現在の遺言法(日本法との比較)【共同遺言】【相続契約】
- 13回 フランス法① フランス民法典の立法【フランス民法典(コード・シヴィル)】
- 14回 フランス法② 現在の遺言法(日本法・ドイツ法との比較)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験... 60% 平素の学習状況(小テストを含む)... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法必携。講義の詳細はガイダンスで説明するので、受講者は第1回目の講義に必ず出席されたい。事前に講義のイメージを把握しておきたい者は上記参考文献を参照。民法(特に相続法)の基礎知識を再確認しておく、受講の際の一助になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

紛争処理論 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義「紛争処理論」は、法社会学の一分野です。従って、皆さんが普段学んでいる実定法解釈学とは別の視点から、法現象・社会現象を観察・分析・理論化していく、というスタンスは、法社会学と共通です。その上で、本講義では、とりわけ社会で生じる紛争や社会問題を基点にして、それらがもつ構造・対立点・社会的意味、および処理・解決のフレームを「社会的に観察」していきます。ですから、本講義は、紛争を法的 / 非法的に処理・解決していくための方法（ノウハウ）や技術、ましてやその正しさを—そんなものがあれば、ですが—教授する / 暗記してもらおうものではありません。むしろそれとは正反対の方向、すなわち、紛争や社会問題の「とらえ難さ」や処理・解決の「困難性」を見据えた上で、それらをできる限り多角的に考察していくこととなります。

私たちの生きる現代社会は、しばしば、価値の多元化・複雑化などと形容されます。このことは同時に、私たちの社会が、さまざまな価値観どうしの矛盾・対立・衝突を内包していることも表しているでしょう。この意味で紛争とは、その可能性までを含めるならば、まさに日常的な出来事である、といっても過言ではありません。そして、日常的な出来事であるにもかかわらず / であるからこそ、ややもすれば、私たちはそうした紛争や社会現象を、例えば常識で、例えば善 / 悪二元論で、場合によっては（法をはじめとする）専門知によって、ただちに解決しようとする「欲望」にかられてしまいがちです。しかしながら、そこに問題はないのでしょうか。本講義では、こうした問題を不問にして、いきなり安直・自明な解決策にぶら下がりたいたいという気持ちをグッとこらえ、逆に、この問題を直視し悩みながら、その周りをうろうろと（否むしろオロオロと！）歩き続けるといった、きわめて「地道な」作業を行います。

以上のとおり、本講義はきわめて抽象度が高く、同時にマニアック（！）です。即効的実用性や法解釈学への直接的寄与を期待する向きにはまるでお奨めできません。この点十分に注意してください。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。テーマごとにプリントを配布します（参考文献はその都度指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (0) イントロ (紛争や問題は構築 / 隠蔽されるものであり、常に観察 = 解釈に開かれている)
- (1) 自明性への問い (秩序・法の妥当性への問い、法システムのパラドクスの観察)
- (2) 社会現象への問い (リスク社会論、情報社会論、消費社会論の「現代的」文脈)
- (3) 規範現象への問い (正義論、公共性論、合意論、責任論の社会的観察)

成績評価の方法 /Assessment Method

全編論述式の期末試験（約70%）、および、あなた自身の「思考軌跡」としてのレスポンスペーパー（約30%）により、総合かつ厳格に評価します（詳しくは初回の講義で説明しますので欠席なさらぬよう）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義は、法学や社会が自明視する諸概念や、現代社会で問題となっているテーマを俎上にのせていきますが、それらに正解をあてはめるものではありません。自明なものや紋切りの社会現象を前にして重要になってくるのは、そこに【「いかなる別様の問いを立てるか」という「問い」】です。ですので、講義と併走しつつ、そういった「問い」を立て、考えつづけていく準備のある方を歓迎します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにさせていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

各回ごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大隈義和他『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）
- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義 - 【国家権力の授権と制限】
- 第2回 憲法の展開 - 【近代から現代、そして未来へ】
- 第3回 人権総論① - 【人権の保障と制限】
- 第4回 人権総論② - 【裁判所による人権保障】
- 第5回 統治機構総論① - 【国民主権の意義】
- 第6回 統治機構総論② - 【日本の政治制度】
- 第7回 統治機構総論③ - 【司法制度と違憲審査制】
- 第8回 平和主義論① - 【憲法9条の制定・意義】
- 第9回 平和主義論② - 【平和主義の現実と未来】
- 第10回 平和主義論③ - 【憲法9条と裁判所】
- 第11回 地方自治 - 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第12回 象徴天皇制 - 【天皇制の継続と断絶】
- 第13回 憲法保障 - 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 総括
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法人権論 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）
- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 高橋和之他編『憲法判例百選・II（第5版）』別冊ジュリ186・187（有斐閣・2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|------|----------------|---|----------------------|
| 第1回 | 人権総論 | - | 【人権保障の意義・人権制約】 |
| 第2回 | 人権享有主体 | - | 【日本における外国人の人権】 |
| 第3回 | 特別権力関係論・私人間効力 | - | 【企業・団体による人権侵害】 |
| 第4回 | 幸福追求権 | - | 【プライバシー・名誉・自己決定】 |
| 第5回 | 平等原則 | - | 【尊属関係・嫡出性・選挙権】 |
| 第6回 | 精神的自由①（信教の自由） | - | 【政教分離】 |
| 第7回 | 精神的自由②（表現の自由） | - | 【事前抑制禁止と名誉・プライバシー保護】 |
| 第8回 | 精神的自由③（知る権利） | - | 【知る権利の現代的意義】 |
| 第9回 | 精神的自由④（学問の自由他） | - | 【大学の自治】 |
| 第10回 | 経済的自由 | - | 【営業の自由と経済規制】 |
| 第11回 | 社会権①（生存権） | - | 【生存権と社会保障】 |
| 第12回 | 社会権②（学習権・労働権） | - | 【「国家」「教師」「親」と「子供たち」】 |
| 第13回 | 人身の自由 | - | 【適正手続保障と日本の刑事手続】 |
| 第14回 | 参政権・受益権 | - | 【裁判を受ける権利】 |
| 第15回 | 総括 | | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法機構論 【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

戦後最年少で初の戦後生まれの安倍首相は、新たな時代を切り開く日本にふさわしい憲法をと、新憲法制定を正面から掲げて登場しました。「戦後体制からの脱却」のための社会改革がすすめられ、改憲論議が現実味を帯びています。「官僚主導」から「政治主導」を標榜した民主党が総選挙で圧勝し、選挙によるはじめての政権交代が実現しました。戦後60年間以上におよぶ政治を支えてきた日本国憲法は、内憂外患の政治状況のなかにあつて新たな局面を迎えています。戦後の荒廃と貧弱にあえいでいた日本は経済大国へと変貌し、また東西冷戦下にあつた世界は社会主義体制の自壊によって激変しました。こうした激動の時代を迎えて、わが国の政治のありかたも以前にまして国内外からきびしく問われてきています。わが国の自由と民主主義は「敗戦」を契機として「外から」与えられたものであつて、いわゆる市民革命を通して自ら獲得したものではありません。このような民主主義のひ弱さは、戦後政治の歩みのなかにさまざまな影を落としています。

憲法規範は国会中心主義（41条）と法の支配（81条）を指向していますが、憲法現実はずいぶん行政中心の行政国家現象です。この講義では、規範（憲法）と現実（政治）とのきわめて深刻な乖離を直視して、国会、内閣、裁判所、地方自治など統治システムについて理解を深め、人権保障のための統治システムを理解し、主権者として積極的に政治にかかわっていく目を養うことを目標とします。

教科書 /Textbooks

手島・安藤『新基本憲法学』（法律文化社、2600円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高見勝利『芦部憲法学を読む』（有斐閣）
野中・中村・高橋・高見『憲法II』（有斐閣）
芦部信喜『憲法』（岩波書店）
佐藤幸治『憲法』（青林書院）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに（憲法の学習案内）
- 第2回 明治憲法の特徴とその運用
- 第3回 ポツダム宣言受諾と日本国憲法の制定
- 第4回 象徴天皇制
- 第5回 国民主権と代表制
- 第6回 国会と立法権
- 第7回 内閣と行政権
- 第8回 議院内閣制
- 第9回 裁判所と「法の支配」（違憲審査制度）
- 第10回 選挙制度と参政権
- 第11回 地方自治の本旨と住民自治
- 第12回 第9条と平和主義
- 第13回 憲法改正論議
- 第14回 主権者の視点から見た日本社会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ...30 % 定期試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法訴訟論【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国の最高法規を守り人権を保障するために、裁判所には違憲審査権が付与されています(81条)。「法の支配」原理にたつこの違憲審査制度は、日本国憲法の最大の特徴です。裁判所は「憲法の番人」といわれる所以です。わが国の違憲審査制度は具体的・付随的な違憲制度であり、具体的な民事・刑事・行政訴訟が提起されて、そのなかで憲法問題が争点となった裁判を憲法訴訟といいます。事件性の要件をみたした訴訟は民事訴訟法、刑事訴訟法、行政事件訴訟法などの法律が用意されていますが、「憲法訴訟法」という体系的な法律があるわけではありません。憲法訴訟を体系的に勉強するためには、実定法の理解のみならず憲法体系を支える憲法理論(人権と統治)の理解が不可欠となります。人権に関する憲法判例を検討・分析するさいに、憲法訴訟の理論が必要となります。この講義では、人権裁判において適用される合憲性の審査基準に関する理論、憲法判断の要件・手続・方法に関する理論など、具体的な訴訟を素材にして憲法判断についてのルールについて詳細に学びます。

教科書 /Textbooks

手島・安藤『新基本憲法学』(法律文化社、2600円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高見勝利『芦部憲法学を読む』(有斐閣)
野中・中村・高橋・高見『憲法II』(有斐閣)
高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』(第5版)(有斐閣)
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回から第2回 司法権の意義
第3回から第4回 裁判所の構成と機能(裁判員制度の批判的検討)
第5回から第6回 司法権の独立(司法官僚と司法の危機)
第7回から第8回 司法権の限界
第9回から第10回 違憲審査制度と憲法訴訟をめぐる諸問題
第11回から第12回 違憲審査基準と方法
第13回から第14回 最高裁法令違憲判決の検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...20% 課題レポート ...20% 定期試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 村上 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「行政法」とは、行政に関する法律のことで、約1600の現行法律のうち約3分の1に及びます。このように行政法の数が多い理由は、行政の仕事は、「ごみ集めから宇宙ロケットの打ち上げまで」といわれるように、極めて広範であり、しかも行政の仕事は私たちの権利義務に大きな影響を与えるため、行政の勝手に行われてはならず、国民の代表機関である国会が制定した法律に基づいて行われなければならないからです。授業では、私たちと行政とはどのような法律関係にあるのかを的確に理解できることを目標に、行政(特に地方自治体)の組織、住民の権利、行政の活動と私たちの権利の保障等について、具体的事例をできるだけ多く引用しながら説明していきます。

教科書 /Textbooks

手島孝他編『基本行政法学(第3版)』(法律文化社、2005年、2900円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○塩野宏他編『行政判例百選II(第5版)』(有斐閣、2006年、各2200円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回~2回 行政法とはどのような法か【法律による行政】、【法律の留保】
 - 3回~4回 行政機関、国の行政組織【行政主体】、【行政機関】
 - 5回~6回 地方自治体の行政組織【二元代表制】、【地方議会】
 - 7回~8回 住民の権利(1)【直接請求】、【住民監査請求と住民訴訟】
 - 9回~10回 住民の権利(2)【情報公開制度】、【個人情報保護制度】
 - 11回~12回 行政主体の人的要素【公務員制度】
 - 13回~14回 行政主体の物的手段【公物】、【公の施設】
 - 15回~16回 行政の活動形式【行政立法】
 - 17回~18回 行政行為(1)【行政行為】の意義と種類
 - 19回~20回 行政行為(2)【行政行為】の効力
 - 21回~22回 その他の活動形式【行政契約】、【行政計画】、【行政指導】、【行政調査】
 - 23回~24回 行政手続【行政手続法(条例)】
 - 25回~26回 行政の実効性確保(1)【行政上の強制執行】、【即時強制】
 - 27回~28回 行政の実効性確保(2)【行政罰】、その他の手段
 - 29回~30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々な法律を参照することが多くありますので、必ず六法を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政争訟法 【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政活動に対する不服や不満を解決する手続としての行政上の不服申立ておよび違法な行政活動の是正と救済を求める手続としての行政訴訟について理解することをねらいとする。

教科書 /Textbooks

手島孝・中川義朗編『基本行政法学〔第3版〕』（2005年、法律文化社）
※行政法総論で使用した教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小早川光郎ほか編『行政判例百選II〔第5版〕』（2006年、有斐閣）
- 塩野宏『行政法II〔第四版〕』（2005年、有斐閣）
- 宇賀克也『行政法概説II』（2006年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 行政上の不服申立て制度の概要
- 2回 不服申立ての提起
- 3回 不服申立ての審理
- 4回 不服申立ての裁決
- 5回 行政訴訟総説
- 6回 行政事件の種類
- 7回 抗告訴訟(1) 抗告訴訟の種類
- 8回 抗告訴訟(2) 取消訴訟の訴訟要件
- 9回 抗告訴訟(3) 取消訴訟の審理
- 10回 抗告訴訟(4) その他の抗告訴訟
- 11回 抗告訴訟(5) 判決と仮の救済
- 12回 当事者訴訟
- 13回 民衆訴訟
- 14回 機関訴訟
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80% 課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法総論を履修済みであることが望ましい。
当然ながら予習・復習が必要である。
(復習のための課題提出を求める。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国家補償法【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政府の活動に起因する損害を補填するシステムについて理解することをねらいとする。

教科書 /Textbooks

手島孝・中川義朗編『基本行政法学〔第3版〕』（2005年、法律文化社）
※行政法総論で使用した教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小早川光郎ほか編『行政判例百選II〔第5版〕』（2006年、有斐閣）
- 塩野宏『行政法II〔第四版〕』（2005年、有斐閣）
- 宇賀克也『行政法概説II』（2006年、有斐閣）
- 西莖章『国家補償法概説』（2008年、勁草書房）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国家補償の意義
- 2回 国家賠償の意義
- 3回 公権力の行使に係る国家賠償（1）
- 4回 公権力の行使に係る国家賠償（2）
- 5回 公の営造物の設置管理に係る国家賠償（1）
- 6回 公の営造物の設置管理に係る国家賠償（2）
- 7回 賠償責任者
- 8回 民法の適用
- 9回 損失補償の意義
- 10回 補償の要否（1）
- 11回 補償の要否（2）
- 12回 補償の内容（1）
- 13回 補償の内容（2）
- 14回 補償の谷間と結果責任
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80% 課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法総論を履修済みであることが望ましい。
当然ながら予習・復習が必要である。
(復習のための課題提出を求める。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報公開・個人情報保護法 【昼】

担当者名 森脇 敦史 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報公開は、民主主義国家において国民が主体的に政治に参画するために不可欠である。
また、情報化社会の進展に伴い、個人情報の有用性が高まると同時に、目的外利用や個人情報の不適切な取扱いによる権利利益の侵害リスクも高まっている。
本講義では、情報公開法・個人情報保護法（および自治体の条例）の概要と判例等の検討を行う。

教科書 /Textbooks

宇賀克也『新・情報公開法の逐条解説 第4版』（有斐閣、2008年）
宇賀克也『個人情報保護法の逐条解説 第3版』（有斐閣、2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス.....情報公開、個人情報保護の歴史、憲法上の位置づけ
- 2回 情報公開法（1）.....概論、【行政文書】
- 3回 情報公開法（2）.....不開示情報（【個人に関する情報】）
- 4回 情報公開法（3）.....不開示情報（【事務事業遂行情報】・【意思形成過程情報】）
- 5回 情報公開法（4）.....不開示情報（【法人等情報】、【安全・外交・公安情報】）
- 6回 情報公開法（5）.....部分開示、裁量的開示、存否応答拒否、開示手続
- 7回 情報公開法（6）.....救済手続、情報公開・個人情報保護審査会
- 8回 個人情報保護法（1）.....歴史、プライバシーと個人情報の関係
- 9回 個人情報保護法（2）.....個人情報、個人データ、保有個人データ、【個人情報取扱事業者】
- 10回 個人情報保護法（3）.....【個人情報】に対する義務
- 11回 個人情報保護法（4）.....【個人データ】、【保有個人データ】に対する義務
- 12回 行政機関個人情報保護法（1）.....個人情報の取扱い、個人情報ファイル
- 13回 行政機関個人情報保護法（2）.....開示・利用停止・訂正請求、救済手続
- 14回 個人情報・プライバシーの現代的問題.....住基ネット、納税者番号、監視カメラ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 課題... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分（事前に指示する）を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

山中敬一著『刑法概説(総論)』(成文堂)2008年10月、2500円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選(総論 [第5版])』(有斐閣)平成15年4月、2105円+税

立石二六編『刑法総論30講』(成文堂)平成19年3月(出版予定)、2800円+税

齊藤誠二編『演習ノート刑法総論(全訂第3版)』(法学書院)平成15年3月

船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- 第1回～第2回 刑法典の沿革、犯罪論の基本。【刑法の意義】、【犯罪】
- 第3回～第4回 学派の争い【主観主義刑法理論】、【客観主義刑法理論】
- 第5回～第6回 罪刑法定主義とその派生原則【類推解釈】、【遡及処罰の禁止】、【慣習法の排斥】、【絶対的不定期刑・不定期刑の禁止】、【構成要件の明確性】、【実体的デュープロセス】
- 第7回 犯罪の分類【結果犯】【単純行為犯】【実質犯】【形式犯】【侵害犯】【危険犯】 【即成犯】【状態犯】【継続犯】
- 第8回 犯罪論の体系【行為】【構成要件】【違法】【責任】
- 第9回～第10回 行為論【作為】、【不作為】、【作為犯】、【不作為犯】、【因果関係】
- 第11回～第12回 構成要件論【構成要件】、【認識根拠説】、【实在根拠説】
- 第13回～第14回 違法論【違法性の本質】、【結果無価値】、【行為無価値】、【可罰的違法性】 【許可された危険】
- 第15回～第17回 違法性阻却事由【正当行為】、【正当防衛】、【緊急避難】、【自救行為】
- 第18回～第20回 責任論【責任能力】、【故意】、【過失】、【原因において自由な行為】
- 第21回～第22回 未遂論【実行の着手】、【不能犯】、【中止犯】
- 第23回～第26回 共犯論【共犯学説】、【共犯の処罰根拠】、【共同正犯】、【教唆犯】、【従犯】、【共犯独立性説】、【共犯従属性説】、【間接正犯】、【共犯と身分】
- 第27回～第28回 共犯の諸問題【必要的共犯】、【不作為と共犯】、【結果的加重犯と共犯】、【共犯と錯誤】、【共犯と中止犯】、【予備の共犯】
- 第29回～第30回 罪数論【本来の一罪】、【科刑上一罪】、【包括一罪】、【併合罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・欠席を不定期でとり、出席点と学期末試験との総合点(学期末試験100%)で評価する。授業態度が悪い場合、減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学、刑法各論、刑事訴訟法を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目です。また、刑法各論、刑事訴訟法は同じ刑事法に属する科目ですから、強く関連しているからです。法学は本講座を履修する前に、刑法各論、刑事訴訟法は本講座を履修した後かまたは同時に履修するとよいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論I【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目で扱う「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法分野です。各論Iでは、個人的法益に対する罪のうち人身に対する罪（財産罪を除く。）と国家的法益に対する罪を取り上げます。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念及び各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、法的思考力を習得することを目的としています。

教科書 /Textbooks

(参考) 山中敬一『刑法概説II各論』(成文堂・2008.10) ※テキストの選択は任意。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『刑法各論(新論点講義シリーズ2)』(弘文堂・2007.05)
- 立石二六〔編著〕『刑法各論30講』(成文堂・2006.04)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード) ※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがあります。
- 1回 刑法各論の基礎
 - 2回～ 4回 生命に対する罪【殺人】【自殺関与】
 - 5回～ 7回 身体に対する罪【暴行】【傷害】【傷害致死】【墮胎】【遺棄】
 - 8回～ 9回 自由に対する罪【脅迫】【逮捕監禁】【略取誘拐】【強姦】【強制わいせつ】
私生活の平穩に対する罪【住居侵入】【秘密侵害】
 - 10回～ 11回 名誉・信用に対する罪【名誉毀損】【侮辱】【信用毀損】【業務妨害】
 - 12回 国家の存立に対する罪【内乱罪】【外患誘致罪】【私戦予備陰謀罪】
 - 13回～ 14回 国家の作用に対する罪①【公務執行妨害罪】【逃走罪】【犯人蔵匿・証拠隠滅罪】
【偽証罪】【虚偽告訴罪】【職権濫用罪】
 - 15回 国家の作用に対する罪②【賄賂罪の基礎】【収賄罪の諸類型】【贈賄罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%
小テストの成績を成績評価において考慮する場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメを配布する予定です。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習(基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。)・復習(講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。)を十分に行ってください。「刑法総論」を理解していることを前提に講義を展開しますので、この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」を受講しておくことを強く推奨します。また、この科目を承継する「刑法犯罪各論II」、及び関連する他の刑事法科目を受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目で扱う「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法分野です。各論IIでは、「刑法犯罪各論I」に続けて、個人的法益に対する罪のうち財産罪、及び社会的法益に対する罪を取り上げます。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念及び各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、法的思考力を習得することを目的としています。

教科書 /Textbooks

(参考) 山中敬一『刑法概説II各論』(成文堂・2008.10) ※テキストの選択は任意。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『刑法各論(新論点講義シリーズ2)』(弘文堂・2007.05)
- 立石二六(編著)『刑法各論30講』(成文堂・2006.04)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード) ※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがあります。
- 1回～ 3回 財産罪①【財産罪の基礎】【窃盗】
 - 4回～ 6回 財産罪②【毀棄隠匿】【強盗】【事後強盗】【強盗致死傷】
 - 7回～ 8回 財産罪③【詐欺罪】【詐欺罪の諸類型】【恐喝罪】
 - 9回～ 10回 財産罪④【横領罪】【背任罪】【盗品関与罪】
 - 11回～ 12回 公共危険罪【騒乱罪】【多衆不解散罪】【放火罪の基礎】【焼損】【公共危険】
【放火罪】【失火罪】【出水罪】【水利妨害罪】【往来妨害罪】
 - 13回～ 14回 公共の信用に対する罪【文書偽造罪の基礎】【文書】【偽造】【文書偽造罪】
【通貨偽造罪】【有価証券偽造罪】
 - 15回 風俗に対する罪【わいせつ罪】【重婚罪】【賭博罪】【死体損壊・遺棄罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%
小テストの成績を成績評価において考慮する場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメを配布する予定です。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習(基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。)・復習(講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。)を十分に行ってください。この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I」を受講しておくことを強く推奨します。また、関連する他の刑事法科目を受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法総論【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法は刑罰権の存否を判断する手続に関する法律である。その手続の流れは、捜査に始まり起訴するか否かが判断され、起訴がなされれば公判が開始され、裁判がなされ、その裁判に不服があれば上訴がなされることとなる。本講義では、その手続の全体像を把握することを目的とする。

教科書 /Textbooks

(主・テキスト)庭山・岡部編「刑事訴訟法」(第3版)(青林書院)。
(副・テキスト)松尾浩也「刑事訴訟法・上巻(新版)」(弘文堂)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

田宮裕編「刑事訴訟法」(北樹出版)、田口守一「刑事訴訟法」(弘文堂)、松尾ほか編「刑事訴訟法判例百選(第8版)」(有斐閣)、鴨「刑事訴訟法の基本理念」(九大出版会)、三井誠「刑事手続法I・II・III・IV」(有斐閣)、福井厚「刑事訴訟法講義」(法律文化社)、白取祐司「刑事訴訟法」(日本評論社)、光藤「口述刑事訴訟法・上中下」(成文堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 刑事手続の概要【通常手続】、【非常救済手続】
- 2回 刑事手続の基本原則【無罪の推定】
- 3回 刑事手続の理念・構造・政策【当事者主義】、【適正手続の保障】
- 4回～5回 捜査の構造【弾劾的捜査観】、【糾問的捜査観】
- 6回 公訴・訴訟条件【公訴権濫用】
- 7回 公判前整理手続【争点整理】、【証拠開示】
- 8回 公判の諸原則【口頭主義】、【直接主義】
- 9回 審判の対象【訴因】、【公訴事実】
- 10回 証拠法【自白】、【伝聞証拠】
- 11回 挙証責任
- 12回 裁判の効力【一事不再理】
- 13回 免訴判決の性質
- 14回 上訴
- 15回 再審

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策I 【昼】

担当者名 吉村 弘
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに現代日本の刑事制裁の特色および問題点、並びに刑事司法制度の構造と機能について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策』（成文堂、2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①警察庁編『平成21年度 警察白書』（ぎょうせい、2009年）
- ②法務省法務総合研究所編『平成21年度 犯罪白書』（時事通信出版局、2009年）
- ③内閣府『平成21年版 犯罪被害者白書』（佐伯印刷(株)、2009年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 刑事政策の概念 【教科書 第1講 1-15頁】
- 2回 刑事政策の歴史 【教科書 第2講 16-42頁】
- 3回 刑事政策の動向 【教科書 第3講 43-55頁】
- 4回 犯罪予防 【教科書 第4講 56-72頁】
- 5回 刑事制裁 【教科書 第5講 73-84頁】
- 6回 刑事司法・少年司法機関の役割(1) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 7回 刑事司法・少年司法機関の役割(2) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 8回 刑事司法・少年司法機関の役割(3) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 9回 犯罪被害者の支援と法的地位【教科書 第7講 111-126頁】
- 10回 死刑 【教科書 第8講 127-141頁】
- 11回 自由刑 【教科書 第9講 142-157頁】
- 12回 財産刑 【教科書 第10講 158-169頁】
- 13回 保安処分 【教科書 第11講 170-188頁】
- 14回 予備日
- 15回 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑事司法政策II」とあわせて受講すればわかりやすい。毎回、テキストの指定された個所を事前に読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策II 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに犯罪者処遇および更生保護の分野における問題点ならびに現代日本社会において関心の高いいくつかの重要犯罪を選んでその現状と刑事政策的対応の在り方について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策』（成文堂、2009年）
○法務省法務総合研究所編『平成21年度 犯罪白書』（時事通信出版局、2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 犯罪者の処遇 【教科書 第12講189-203頁】
- 2回 施設内処遇(1) 【教科書 第13講204-233頁】
- 3回 施設内処遇(2) 【教科書 第13講204-233頁】
- 4回 社会内処遇 【教科書 第14講224-243頁】
- 5回 わが国の犯罪情勢【教科書 第15講 244-261頁】
- 6回 個別犯罪と対策(1) 交通犯罪 【教科書 262-279頁】
- 7回 個別犯罪と対策(2) 薬物犯罪 【教科書 280-293頁】
- 8回 個別犯罪と対策(3) 来日外国人犯罪 【教科書 294-305頁】
- 9回 個別犯罪と対策(4) 組織犯罪 【教科書 306-318頁】
- 10回 個別犯罪と対策(5) 高齢者犯罪 【教科書 319-331頁】
- 11回 個別犯罪と対策(6) 企業犯罪 【教科書 332-343頁】
- 12回 個別犯罪と対策(7) 性犯罪 【教科書 344-358頁】
- 13回 個別犯罪と対策(8) 家庭内・近親者間犯罪 【教科書 359-383頁】
- 14回 予備日
- 15回 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑事司法政策」とあわせて受講すればわかりやすい。毎回、テキストの指定された個所を事前に読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会法は、労働法、社会保障法、衛生法などの法分野を包摂し、日本国憲法25条の生存権の具体化と関連の深い法分野である。現代社会における広範な人々の生活の向上のために、社会法が果たしている役割と、そのために開発されてきた社会法独自の法的方法を理解することを目的とするとともに、それぞれの法分野の役割と方法の特徴を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

ワープロで作成したテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社、浜村彰他著「ベーシック労働法」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会法とは
- 2回 市民法から社会法へ 近代法の変容と社会立法の発生 [工場法、救貧法、労働者保険]
- 3回 近代法原理と20世紀的憲法 [契約自由、市場原理、公共の福祉]
- 4回 社会法の意義と役割 [朝日訴訟、労働権、社会保障制度審議会勧告]
- 5回 社会法の体系と法的特徴 [公的規制、公的給付、特別私法]
- 6回 福祉国家の公法と私法の社会性 [積極国家、民法1条、社会サービスの法律関係]
- 7回 現代社会と貧困 [ワーキングプア、見えない貧困、非正規労働者、ホームレス]
- 8回 労働法の体系と目的 [労働条件の最低基準、団結権]
- 9回 所得保障法の体系と目的 [生活費の保障、特別費用の保障]
- 10回 社会サービス法の体系と目的 [医療・介護・福祉サービス]
- 11回 衛生法の体系と目的 [医事法、予防衛生、環境衛生]
- 12回 社会権の保護と救済 [権利擁護、審査請求、労働審判]
- 13回 経済社会的背景の転換と社会法の変容 [規制緩和、給付削減]
- 14回 諸外国の社会法改革の動向 [アクティベーション、プライバティゼーション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に参考文献の関係箇所を一読しておく、講義内容が解りやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個人の尊厳ある生活や自己実現を支える対人サービスは、今日では社会的システムに基づき社会的に提供されるようになってきている。医療、介護から生活援助や権利擁護に至るまでの多様な社会サービスの仕組み、内容、法的性格について理解し、地域社会において社会的関係を基礎として維持される人々の生活について理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義の際に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会サービス法の意義 [ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン]
- 2,3回 社会サービスの目的と体系 [個人の尊厳、本人意思の尊重、自立支援]
- 4回 医療サービス1 医療に対する規制 [医事法]
- 5,6回 医療サービス2 医療保障の歴史と医療保険の給付 [保険診療]
- 7回 医療サービス3 海外の医療システム [NHS、費用償還払方式]
- 8回 高齢者介護サービス1 介護保険の目的と仕組み [要介護認定、ケアプラン]
- 9回 高齢者介護サービス2 居宅サービスの体系と内容 [通所系、訪問系、地域密着型]
- 10回 高齢者介護サービス3 施設サービスの体系と内容 [介護保険施設]
- 11回 社会福祉サービス1 高齢者福祉サービス [地域包括支援センター]
- 12回 社会福祉サービス2 障害者福祉サービス [障害者自立支援法]
- 13回 社会福祉サービス3 児童、母子および寡婦に対する福祉サービス
- 14回 社会サービスに対する権利の擁護 [成年後見制度、身上監護]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会法総論とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

所得保障法 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

福祉国家として発展はしてきたものの、貧困はかならずしも過去の問題とはいえない深い根を持つ問題である。貧困解消のために積み重ねられてきた過去の立法の歴史を踏まえて、現代の所得保障制度の体系、対象、方法を理解することを目的とするとともに、他国の制度改革を参考に、わが国の所得保障の課題について理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

河野正輝他「社会保障論」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義の際に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代社会と貧困および所得格差 [ワーキングプア、ホームレス、見えない貧困]
- 2,3回 所得保障制度の歴史 [救貧法、「貧困の発見」、ビスマルク社会保険]
- 4,5回 所得保障法の体系・方法 [公的扶助、社会手当、社会保険]
- 6,7回 高齢者に対する所得保障 [老齢基礎年金、老齢厚生年金]
- 8回 障害者に対する所得保障 [障害基礎年金、障害厚生年金]
- 9回 遺族に対する所得保障 [遺族基礎年金、遺族厚生年金]
- 10,11回 医療費、介護費等の費用の保障 [医療保険、介護保険、児童手当]
- 12回 最低生活の保障 [生活保護制度]
- 13回 海外の年金改革の動向 [概念上の確定拠出型年金、保証年金]
- 14回 海外の最低保障制度の改革 [アクティブエーション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に、現代の貧困について、各自で情報を収集しておく、関心を持って講義に望められる。
社会法総論とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

雇用関係法は、労働者と使用者の個別の関係を規律する法領域である。働くうえで直面する法律問題の多くはこの法分野に関わるものであり、雇用関係法は労働法の体系において中心的な位置を占めている。この講義では主に、雇用関係の成立、展開、終了という雇用関係の変遷に関する問題と、雇用関係の内容に関わる法規制について学習する。また、実定法の解説にとどまらず、実際に社会規範、裁判規範としてどのように労働法が社会的に意味をもつのかを理解できることも目指す。

教科書 /Textbooks

村中孝史ほか編『労働判例百選 [第8版]』有斐閣 (2009年)
六法 (小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回の講義の際に具体的に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第2回 ガイダンス～労働法の全体像～
【市民法原理の修正】【労働関係の規律構造】
- 第3回～第4回 雇用関係法の基本構造
【労働法上の当事者】【労働条件決定システム】
- 第5回～第6回 雇用関係の成立
【採用】【試用】【労働契約上の権利義務】
- 第7回～第8回 雇用関係の展開(1)
【配転】【出向】【就業規則の不利益変更】
- 第9回～第10回 雇用関係の展開(2)
【賃金請求権】【労働時間、休憩、休日】【時間外労働】
- 第11回～第12回 雇用関係の終了
【退職】【解雇】【懲戒権の根拠】
- 第13回～第14回 女性労働保護と労災・安全衛生
【セクハラ】【業務災害】【安全配慮義務論】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、コメントカード... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

労働法は実定法の中でもいわば応用的な分野です。雇用関係法を学ぶうえでは民法の知識を必要としますので、民法総則等の科目を履修した後に受講することをお勧めします。また、労働法の理解を深めるためには、「労使関係法」をあわせて受講すると良いでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 國武 英生 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

労使関係法は、労働者、使用者、労働組合の三者の集団的な関係を規律する法領域である。この講義では、労働組合と使用者との集団的労働関係に関する基本的知識について学習する。

労働者の意識、労務管理のあり方などが急激に変貌するなかで、労働組合が今後も存立しうるかどうかは必ずしもはっきりしてない。とはいえ実際には、失業、低賃金、危険な仕事、組合つぶしなどの古典的な労働問題は現存している。この現実には労働者1人で立ちむかうことは難しいであろう。従業員代表制や労使協議制を含め、集団的労働関係は依然として重要な役割を担っている。

教科書 /Textbooks

村中孝史ほか編『労働判例百選 [第8版]』有斐閣 (2009年)
六法 (小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回の講義の際に具体的に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回～第 2回 ガイダンス～労使関係法の全体像～
【労使関係法の歴史的展開】【労働組合法の目的】
- 第 3回～第 4回 労働組合
【構造と機能】【資格審査】【組織と財政】
- 第 5回～第 6回 不当労働行為の救済
【不当労働行為意思】【労使委員会】【不利益取り扱い】
- 第 7回～第 8回 団体交渉
【誠実団交義務】【支配介入】
- 第 9回～第10回 労働協約
【労働協約の規範的効力】【労働協約の不利益変更】
- 第11回～第12回 争議行為
【企業内組合活動】【争議行為の正当性】
- 第13回～第14回 紛争解決手続・労働者代表制の立法論
【労使委員会による紛争解決手続】【労使協議制】【労働者代表】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、コメントカード... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

労使関係法の理解を深めるためには、「雇用関係法」をあわせて受講すると良いでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

独占禁止法【昼】

担当者名 高場 俊光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の我が国経済は、高度寡占化、政府規制、違法なカルテル等により市場機能が十分発揮できない状況にあり、競争理念がますます重要視されてきている。そのような中で、独占禁止法がどのような切り口で競争を回復・維持しようとしているのかを、法理論面から考える。講義全体のキーワードとしては、競争を嫌うな、である。

教科書 /Textbooks

「独占禁止法」（講義開始後、各受講生にグループウェア上の教材をプリントアウトしてもらう。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 波光 巖他『テキスト 独占禁止法』青林書院（再訂二版）
- 川濱 昇他『ベーシック経済法 独占禁止法入門』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 ビデオ『それは独占禁止法違反です①』、競争の意義・目的 【消費者の利益】
 - 2回 ビデオ『それは独占禁止法違反です②』、独占禁止法の目的・構成・沿革
 - 3回 不当な取引制限 【カルテル】【談合】【一定の取引分野】【競争の実質的制限】
 - 4回 “ 【公共の利益】【行政指導】【共同事業】
 - 5回 “ 【事業者団体によるカルテル】【課徴金】
 - 6回 私的独占 【他の会社の排除・支配】
 - 7回 不正な取引方法 概説 【一般指定】【特殊指定】
 - 8回 取引拒絶、差別的取扱い 【ボイコット】【差別対価】【不当廉売】
 - 9回 事業活動の不当拘束 【専売店契約】【テリトリー制度】【再販売価格維持行為】
 - 10回 不当な顧客誘引・取引強制、取引上の地位の不当利用、取引妨害
【不当景品類】【不当表示】【優越的地位の濫用】
 - 11回 国際取引と独占禁止法 【国際カルテル】【輸入総代理店】【並行輸入】
 - 12回 企業結合 【市場集中】【水平合併】【垂直合併】【株式保有】【役員兼任】
 - 13回 “ 【一般集中】【持株会社】【企業集団】【独占的地位】
 - 14回 独占禁止法の運用手続 【公正取引委員会】【審査・犯則調査権】【審判・審決】
 - 15回 【損害賠償】【差止請求】【刑事告発】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%。平常の学習状況... 20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独占禁止法は、経済の動きに対し一定の枠組みを与えるものであるから、どのような経済状態に対しどのように適用されるかを実践的に把握するとよく理解できる。したがって、多くの事例を図解したテキストを使用する。また、「独占禁止法II」の講義は、独占禁止法が現実の経済の中でどのように適用されてきたかを歴史的に概観するものであり、この科目も併せて履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

知的財産法 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / Tomohisa KIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これからの取引社会において、営業上の信用を含む知的資産がもたらす価値は更に増大するものと考えられる。「知的財産法」では、当該知的資産の全体像を、思想または感情の創作物に関わるもの・製品等の開発販売過程で創作されるもの・営業上の信用が化体されているものに大別して、権利客体の把握や侵害訴訟における各種権利の基本的機能を概説する。同時に、音楽ソフトのネットワークを利用した配信行為に代表される、情報通信技術の進展に伴う新たな課題についても検討を加え、現代の取引社会で知的財産権が関与する事象を総合的に判断する能力形成をはかる。

教科書 /Textbooks

特許庁編産業財産権標準テキスト「特許編」「意匠編」「商標編」「流通編」以上4冊は無償配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

田村善之著「著作権法概説」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 知的財産法の全体像と基本理念～営業上の信用を含む無形の知的財産保護法制の概要説明
2. 情報通信技術の進展と知的財産権制度～ネットワーク等の技術進展がもたらす諸問題を考える
3. 著作権法～著作物と著作者の権利(著作権、著作者人格権)、著作隣接権、出版権、侵害訴訟
4. 著作権法～プログラム等の保護、放送ないしは映画の権利関係、マルチメディア作品の権利関係
5. 特許法・実用新案法～工業所有権四法(特実意商)の基本的枠組み、製品開発と産業財産権四法
特許侵害訴訟の基本、パリ条約及びその他の条約
6. 特許法・実用新案法～特許要件、発明実施概念、特許権、特許発明の同一性判断と侵害訴訟
7. 特許法・実用新案法～、法定通常実施権、パテントマップの作成、ライセンス契約
8. 意匠法～意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断、ライセンス契約
9. 商標法～商標登録要件、侵害訴訟の基本、商標権、商標の類否判断と侵害訴訟、
10. 商標法～法定通常実施権、出願実務とライセンス契約
11. 不正競争防止法～不正競争行為概説、著名周知商品表示の模倣、営業秘密の不正取得等
12. 不正競争防止法～商品形態の模倣、技術的制限手段の解除等(スクランブル解除等)
13. デザイン保護法制～著作権法・意匠法・不正競争防止法の各法域における適用形態と境界領域
14. ソフトウェア保護法制～著作権法・特許法の各法域における適用形態
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の比重は約5割、残りはレポート等の提出物(予定)や授業中の発表等の日常的学習の成果を参考にして総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor 生野 正剛 / Ikuno Masakata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境法は、良好な環境の保全を図ることを目的とする法律の総称である。環境問題の深刻化、拡大、多様化によって、環境悪化の事前防止を目差す環境法の重要性は増大しているし、環境法がカバーする範囲も広がっている。本講義では、環境法の歴史、広範囲にわたる現行環境法体系の全体像、それらに共通する理念・原則、環境法の中での主要な法律の内容を概観する。そのことを通じて、環境問題に関する法的整備の現状と残された課題および環境法の今後進むべき方向性を理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

坂口洋一著 『環境法ガイド』、上智大学出版刊（2007年2月）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大塚直『環境法』、有斐閣。講義時に配布するレジュメ。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】内はキーワード
- 第1回～第2回 環境法とは何か、環境法の体系、環境法の基本原則
【環境負荷の増大・公害】、【環境基本法】、【持続可能な発展】、【汚染者負担の原則】、【未然防止の原則】、【予防原則】、【拡大生産者責任】
 - 第3回～第4回 環境保護の手法 【規制的手法】、【非規制的手法】、【経済的手法】
 - 第5回～第6回 環境法の歴史
【公害法から環境法へ】、【公害対策基本法】、【環境基本法】、【循環型社会の形成】
 - 第7回 環境基本法と環境基本計画
【将来世代への環境の恵沢の承継】、【持続的発展が可能な社会】、【国際的協調の下での地球環境保全】
 - 第8回 環境アセスメント法
【スクリーニング】、【スコーピング】、【準備書】、【評価書】、「戦略的環境アセスメント」
 - 第9回～第10回 環境汚染の防止
【環境基準】、【排出基準】、【水質汚濁防止法】、【大気汚染防止法】、【土壌汚染防止法】
 - 第11回～第12回 廃棄物の処理法制
【廃棄物処理法】、【廃棄物の定義】、【一般廃棄物】、【産業廃棄物】
 - 第13回～第15回 循環型社会形成のための法体系
【循環型社会基本法】、【拡大生産者責任】【容器包装リサイクル法】、【家電リサイクル法】、【自動車リサイクル法】、【建設リサイクル法】、【食品リサイクル法】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容内が多いので、テキストおよび前もって配布するレジュメを読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会の思想を中心に社会法の現代的展開をわかりやすく講義する。
労働法や社会保障法で構成される社会法は、現代人の生活の豊かさや質、ひいてはその自由な生き方に直接的に関係する法であり、戦後の人々の生活の向上と自由を支えてきた中心的な法であるといえる。しかし、近年の経済社会情勢の変化に伴って、社会法の果たすべき役割についての理解も多様化している。この講義では、社会法の果たすべき役割についての考え方の現代的展開、および現実的な改革を必要とする課題とその論点を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

ワーポロテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

EISS Yeabook, 2001 edited by D.Pieters, Kluwer LAW International
ルソー「社会契約論」、ロック「市民政府論」、長谷川宏訳「ヘーゲル法哲学講義」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1,2回 社会法の意義と歴史 [市民法の補充]
- 3,4回 高度成長期の社会法の役割と特徴 [日本型と労働慣行、皆保険・皆年金]
- 5回 1970年代後半における社会法に関する思想および政策の転換 [オイルショック、規制緩和]
- 6回 現代における社会法改革 [ネオリベリズム、修正自由主義、一般的意志の自由]
- 7,8回 社会保障法の現代的展開 [現代配分的正義論、再配分否認論、セイフティーネット]
- 9,10回 労働法の現代的展開 [市場原理主義、構造改革、労働者派遣自由化、労働者の自由拡大]
- 11回 社会サービス提供関係の法的規律の変容 [インフォームドコンセント、身上監護権]
- 12,13回 法の原理と社会法の本質 [ロックの人間本性、ルソーとヘーゲルの一般意思]
- 14回 現代社会法の展望 [個人の尊厳、個人の独立性と社会性]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

労働法ないしは社会保障法に関する科目のうち少なくとも1科目履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。「国際法II」を併せて受講すると学習効果があがります。

教科書 /Textbooks

教科書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）○
ただし条約集は、受講上の不都合を甘受すれば、他の出版社のものでもかまいません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。参考文献は、初回講義時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス
第I部「国際社会における法律作り」
第2回 条約の締結 第3回 条約の留保
第4回 条約の無効 第5回 中間試験①
第6回 解説と講評&個別指導
第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」
第7回 慣習国際法 第8回 条約と第三国
第9回 条約の国内的効力 第10回 中間試験②
第11回 解説と講評&個別指導
第III部「国際社会における秩序の維持」
第12回 国際責任 第13回 武力行使の禁止と自衛権
第14回 紛争の平和的解決義務と国際司法裁判所(ICJ) 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験①②および学期末試験で評価します。
中間試験①...16.7% 中間試験②...16.7% 学期末試験...66.7%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法II【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。「国際法I」を併せて受講すると学習効果があがります。

教科書 /Textbooks

教科書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）○
ただし条約集は、受講上の不都合を甘受すれば、他の出版社のものでもかまいません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。参考文献は、初回講義時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第I部「国際法上の国家」
- 第2回 国家と承認制度 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務 第5回 中間試験①
- 第6回 解説と講評&個別指導
- 第II部「陸・海・空と国際法」
- 第7回 陸と国際法 第8回 海と国際法
- 第9回 空と国際法 第10回 中間試験②
- 第11回 解説と講評&個別指導
- 第III部「国際法主体としての個人」
- 第12回 人権の国際的保障 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC) 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験①②および学期末試験で評価します。
中間試験①...16.7% 中間試験②...16.7% 学期末試験...66.7%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際取引法 【昼】

担当者名 /Instructor 大隈 一武 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際取引法は、単独法として存在するものではない。企業実務において展開されてきた実務先行で、学問としてはまだ確立していない分野である。企業実務における経験から、それを国際契約法、海外投資・企業経営関係法、通商法の3つに分類して授業を行う。

教科書 /Textbooks

なし。プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大隈一武『国際契約法入門』（中央経済社・1996）
外務省経済局監修『世界貿易機関を設立するマラケシュ協定WTO』（日本国際問題研究所・1997）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際契約：英米法契約理論-例えば、【約因】、【コモンロー】、【衡平法】理論・判例検討
- 2回 契約条件と国際貿易条件【インコタームズ】、契約約款などを検討
- 3回 国際取引と制限：【OECD賄賂禁止条約】、【輸出管理ワッセナー取り決め】、歴史的展開
- 4回 国際契約書の起草：海外工事請負契約UNCITRALガイド参照、契約書のドラフティング
- 5回 国際取引諸条約（国際海上物品運送・国際物品売買条約【CISG】など）や荷為替信用状規則【L/C】など
- 6回 海外進出：投資・企業経営-単独進出と企業買収・合併など実務的な展開と内容を検討
- 7回 企業経営：株式会社・【パートナーシップ】の異同を理解し、海外合併事業の方法論、実務
- 8回～9回 投資協定、投資保証、多国間投資保証機関【MIGA】、【OECD多国籍企業ガイドライン】
- 10回 通商法：自由貿易地域と関税同盟の異同、実態、国際的動向、わが国の対応などを検討
- 11回 ブロック経済と世界貿易機関【WTO】：上記10との関連で、WTOの調整・問題点を検討
- 12回～14回 GATTからWTOへ：WTOの組織、諸協定：【紛争解決のメカニズム】
- 15回 【OECD】、【IBRD】、【IMF】などの国際機関の機能と役割：WTO以外の重要な国際機関の機能と役割を理解し、わが国の対応のあり方についても検討

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%
なお、出席が授業回数の3分の2に満たない場合は期末試験の受験資格を認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代国際関係法【昼】

担当者名 /Instructor 中川 智治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会において問題とされている環境問題について国際法の観点から講義する。

講義全体のキーワードとしては、地球環境問題、生物多様性、国際機構

教科書 /Textbooks

特に指定しない。担当者作成の講義レジュメを使用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Patricia Birnie and Alan Boyle, International Law and Environment (3rd ed., OUP, 2009)
パトリシア・バーニー/アラン・ボイル『国際環境法』(慶應義塾大学出版会、2007年)
西井正弘[編]『地球環境条約：生成・展開と国内実施』(有斐閣、2005年)○
地球環境法研究会[編]『地球環境条約集(第4版)』(中央法規出版、2003年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 環境問題の国際化の歴史I【オットセイ保護】【トレイル溶鉱所事件】
- 2回 環境問題の国際化の歴史II【海洋汚染】【国連人間環境会議】【国連環境開発会議】
- 3回 国際環境法の構造I【国際責任】【国際制度による規制と監督】
- 4回 国際環境法の構造II【天然資源に対する恒久主権】【リオ宣言】
- 5回 国際環境法の構造III【人権アプローチ】【犯罪化と管轄問題】
- 6回 海洋環境の保護【国連海洋法条約】【寄港国管轄権】【地域漁業管理機関】
- 7回 有害廃棄物の国際的規制【陸上起因】【海洋投棄】【バーゼル条約】
- 8回 原子力と環境【原子力の国際的管理】【原子力損害責任】【プルトニウム輸送】
- 9回 自然保護【UNEP】【世界自然憲章】
- 10回 動植物の保護【ワシントン条約】【ラムサール条約】
- 11回 生物多様性の保護【生物多様性条約】【締約国会議方式】
- 12回 海洋生物資源の保護【公海漁業】【魚種別規制】【地域漁業管理機関】
- 13回 環境保護と貿易問題【WTO】【GATT 20条】【エコラベル】
- 14回 国際環境ガバナンス【国際環境政策の展開】【国際機構の展開】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学修状況(小テストなど) ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門教育科目の「国際法I・II」のいずれかを既に学修しているほうが望ましい。
講義中に配布するレジュメと共に、参考文献を事前ないし事後に参照し自己学修を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法は、最も生活に密着した法律であり、「民法総則」という授業は、法学部における基本中の基本科目です。法学部生であれば、極力すべての人が、この民法総則を理解することが望まれます。この講義では、他の科目では講じられない法令用語についても、なんらかの形で時間を割いて説明します。

教科書 /Textbooks

山田卓生他『民法1 総則 Sシリーズ 第3版補訂』(有斐閣)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 民法とは、民法には何が書いてあるか、市民法の基本原理
- 2回(週) 【意思能力】、【未成年者】
- 3回(週) 【成年被後見人】他、【無効】と【取消】
- 4回(週) 【法人】
- 5回(週) 【物】、【法律行為】
- 6回(週) 法律行為の有効要件、【公序良俗】
- 7回(週) 【心裡留保】、【虚偽表示】
- 8回(週) 【錯誤】、【詐欺・強迫】
- 9回(週) 不動産登記のとの関係
- 10回(週) 【代理】、【無権代理】
- 11回(週) 【無権代理】、【表見代理】
- 12回(週) 【条件】、【期限】、【期間】
- 13回(週) 【時効】
- 14回(週) 【取得時効】、【消滅時効】
- 15回(週) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法は必ず持参して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法典は、財産の所有や契約、家族関係など身近な人間関係の中で形成される権利や義務について定めています。本講義は、民法典第二編において用意されている物権 (=人が物に対して有している権利) に関する規定の原理・原則、要件・効果などの基礎知識と法の解釈を学びます。

教科書 /Textbooks

淡路剛久 = 鎌田薫 = 原田純孝 = 生熊長幸 『民法II物権〔第3版〕』 (有非閣Sシリーズ、2005年、1995円)
中田裕康ほか編 『民法判例百選I・総則・物権〔第6版〕』 (有斐閣、2009年、2200円)。
* 六法 (出版社は問わない) は必須です。講義には上記教科書と六法の「3点セット」を必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 ガイダンス / 物権法序論【物権の意義と性質】【物権の種類】【物権の効力】
 - 2回 【所有権】と【占有権】
 - 3回 【物権的請求権】
 - 4回 物権変動 (1) 不動産物権変動総論 (【物権変動の法的構造】)
 - 5回 物権変動 (2) 不動産物権変動各論① (不動産登記制度と【物権変動の対抗要件】)
 - 6回 物権変動 (3) 不動産物権変動各論② (背信的悪意者と民法177条)
 - 7回 物権変動 (4) 【動産物権変動と対抗要件】
 - 8回 物権変動 (5) 【動産の即時取得】
 - 9回 物権変動 (6) 法律行為の取消と登記 (民法総則で学んだ事項の発展・応用編)
 - 10回 物権変動 (7) 取得時効と不動産登記 (民法総則で学んだ事項の発展・応用編)
 - 11回 共同所有【持分の法的性質】【共有物の分割】【共有物の利用と明渡請求】
 - 12回 担保物権 (1) 【留置権】 / 【先取特権】 / 【質権】
 - 13回 担保物権 (2) 【抵当権】
 - 14回 担保物権 (3) 非典型担保【仮登記担保】【譲渡担保】【所有権留保】
 - 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100%
期末試験 (90分・論述問題) を実施し、その得点を成績評価に反映させます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「民法総則」を受講済みであることが望ましいです。講義は毎回レジユメを配布します。事例の解説に重点を置いています。六法の条文を「見る」のではなく「読む」習慣を身につけてください。試験は、判例なし六法のみ持込を許可しています (付箋・ラインマーカーはOK。書き込みは不可。)。私語をはじめ、他の受講者の迷惑になるような行為は厳禁です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族法【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思いがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的な位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講読親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社（2007年8月）3,000円、水野紀子他編著『家族法判例百選（第7版）』有斐閣（2008年10月）2,400円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助＝泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻】【婚約】【内縁】
- 3回 婚姻制度②【婚姻】【婚約】【内縁】
- 4回 婚姻制度③【婚姻】【婚約】【内縁】
- 5回 離婚制度①【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 6回 離婚制度②【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 7回 離婚制度③【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 8回 親子制度①【実子】【養子】【親権】【後見】
- 9回 親子制度②【実子】【養子】【親権】【後見】
- 10回 親子制度③【実子】【養子】【親権】【後見】
- 11回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 12回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 13回 法定相続制度②【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 14回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義には、六法を必ず持参してください。「私法入門」「民法総則」、「物権法」を既に履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

債権総論 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法典は、財産の所有や契約、家族関係など身近な人間関係の中で形成される権利や義務について定めています。本講義は、民法典第三編において用意されている債権に関する規定のうち、債権に関する共通規則(民399~520条)を学びます。具体的には、発生した債権がどのような内容のもので(債権の目的)、どのような効力があり(債務不履行時に債権者が取りうる手段・債務者が無資力になった場合に債権者が取りうる責任財産保全手段)、どのように消滅していくのか(弁済・相殺・更改などの債権の消滅事由)、また、当事者が複数である場合や発生した債権を譲渡する場合はどうなるのかについて、具体的な事例をもとに基礎知識を習得するとともに、各条文の意義や法の解釈を学びます。

教科書 /Textbooks

野村豊弘=池田真朗=栗田哲男=永田真三郎『民法III債権総論(第三版)』(有斐閣Sシリーズ、2005年、1785円)。中田裕康ほか編『民法判例百選II債権(第6版)』(有斐閣、2009年、2200円)。*六法(出版社は問わない)は必携です。講義には上記教科書と六法の「3点セット」を必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回~2回 債権の発生【債権の発生要件】【債権の種類】
- 2回~5回 債権の効力(1)当事者間の効力【履行の強制】【債務不履行(及び損賠賠償の範囲と額の算定)】
- 6回~9回 債権の効力(2)債務者の責任財産の保全【債権者代位権】【詐害行為取消権】
- 10回~14回 債権の消滅【弁済】【相殺】
- 15回~18回 多数当事者の債権関係(1)【連帯債権】【連帯債務】【不真正連帯債務】
- 19回~22回 多数当事者の債権関係(2)【保証】【連帯保証】
- 23回~25回 債権債務の移転(1)【債権譲渡】【指名債権の譲渡】
- 26回~27回 債権債務の移転(2)【証券的債権の譲渡】【債務引受】【契約上の地位の移転】
- 28回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100% 期末試験(90分・論述問題)を実施し、その得点を成績評価に反映させます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「民法総論」はもちろん、その他の民事系科目も複数履修済み(あるいは履修中)であることが望ましいです。講義は毎回レジユメを配布します。事例の解説に重点を置いています。六法の条文を「見る」のではなく「読む」習慣を身につけてください。試験は、判例なし六法のみ持込を許可しています(付箋・ラインマーカーはOK。書き込みは不可。)。私語をはじめ、他の受講者の迷惑になるような行為は厳禁です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

債権各論【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 4単位 / 4 Credits 学期 /Semester 2学期 (ペア) / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 2年 / 2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

わが国の民法典は、その第三編債権第二章～第五章(521条～724条)において、「債権の発生原因」である①契約、②事務管理、③不当利得、④不法行為に関する諸規定を設けている。本講義のねらいは、上記法制度の基本構造およびこれらの法制度を規定する重要条文に関わる解釈論につき、要点を絞った解説を加えることで、「債権の発生原因」であるこれらの法制度が現代社会において、どのような機能を実際に果たしているかということについて、理解を深めることにある。

教科書 /Textbooks

- ①内田貴『民法II[第2版]債権各論』(東京大学出版会、2007年)
- ②中田裕康ほか編『民法判例百選II債権[第6版](別冊ジュリストNO196)』(有斐閣、2009年)
- ③最新版の小型六法 ※この「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

※さしあたり、藤岡康宏ほか『民法IV債権各論(第3版補訂)有斐閣Sシリーズ』(有斐閣、2009年)を挙げておく。その他の参考文献については講義の際、適宜アナウンスする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード) ※レジユメを配布するが、テキストでの予・復習は必須である。
 第1回: 序論(債権各論で学ぶこと)【債権の発生原因】/第2回～第7回: 契約総論【契約の意義・社会的機能】【契約自由の原則とその制限】【契約の種類・分類】【契約締結上の過失】【申込みと承諾の合致】【事情変更の原則】【同時履行の抗弁権】【危険負担】【法定解除の要件・効果】/第8回～第13回: 契約各論【贈与】【売買の意義と成立】【担保責任概観】【瑕疵担保責任】【消費貸借】【賃貸借】【請負】【委任】【寄託】【消費寄託】【和解】/第14回～第16回: 事務管理・不当利得【給付利得】【非償弁済・不法原因給付】【侵害利得】【転用物訴権】/第17回: 不法行為序説【不法行為制度の目的】/第18回～第21回: 一般的不法行為の要件【故意・過失】【責任能力】【権利・利益侵害】【事象的因果関係】【損害の発生】/第22回～第25回: 特殊的不法行為【責任無能力者の監督者の責任】【使用者責任】【注文者の責任】【工作物責任】【共同不法行為】【運行供用者責任】【製造物責任】/第26回～第27回: 不法行為の効果【金銭賠償の原則】【原状回復・差止請求】【損害賠償請求権者】【損害の種類】【損害賠償の範囲】【損害賠償額算定の基準時】【損害賠償額算定的方式】/第28回: 過失相殺【過失相殺能力】【被害者側の過失】/第29回: 損害賠償請求権の消滅時効【消滅時効の起算点】/第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 定期試験の成績...90% および(抜き打ちで行う)小テスト...10%の合算で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「予習」を心がけること。テキスト①の頁を指示するので、次の週までに熟読(無理な場合はざっと目を通すだけでもよい。)してこること。また、「民法総論」、「物権法」、「債権総論」を履修済みであるとこの講義の理解がより深まるであろう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法総論【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法の内、判決手続に関する基本的かつ体系的な知識について解説します。民事訴訟法各論を履修する前に、民事訴訟法総論を履修することが望ましいです。

この科目を履修することにより、民事訴訟法の基本原則、重要単語を理解することができるようになります。

教科書 /Textbooks

テキストは、使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 民事訴訟とは 【各種訴訟】 【判決手続】
- 第2回 訴訟手続の概要について 【手続の流れ】
- 第3回 当事者 【当事者能力】 【訴訟能力】
- 第4回 裁判所 【裁判権】 【管轄】
- 第5回 訴えの提起 【訴えの種類】 (小テスト)
- 第6回 訴えの利益 【訴えの利益】 【当事者適格】
- 第7回 争点整理手続1 【弁論準備手続】
- 第8回 争点整理手続2 【弁論準備手続】
- 第9回 口頭弁論1 【処分権主義】 【弁論主義】
- 第10回 口頭弁論2 【口頭弁論】 (小テスト)
- 第11回 証拠1 【証拠】
- 第12回 証拠2 【証明責任】
- 第13回 訴訟の終了1 【判決】 【既判力】
- 第14回 訴訟の終了2 【既判力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 40 % 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献等を利用して、授業の予習、復習をかかさないのであること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法各論【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法について、判決手続に関するより重要な問題について学習します。民事訴訟法総論（民事判決手続I）に比べると、内容は高度ですので、民事訴訟法総論を履修していると本講義の理解が深いものとなります。

教科書 /Textbooks

テキストを使用します。後日、指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の際に紹介します。適宜、プリントを配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1回 当事者について | 【当事者能力】、【訴訟能力】 |
| 2回 代理人について | 【法定代理人】、【任意代理人】 |
| 3回 裁判所について | 【管轄】、【移送】 |
| 4回 訴えの提起 | 【訴え提起】、【二重起訴】 |
| 5回 口頭弁論I | 【訴訟要件】、【処分権主義】、【一部請求】 |
| 6回 口頭弁論II | 【弁論主義】、【主要事実】、【当事者の欠席】 |
| 7回 訴訟行為 | 【訴訟上の合意】、【訴訟行為の性質、効果】 |
| 8回 証拠I | 【自白】、【文書提出命令】 |
| 9回 証拠II | 【証明】、 |
| 10回 判決I | 【相殺の抗弁】、【口頭弁論終了後の承継人】 |
| 11回 判決II | 【和解調書】、【訴訟の終了】 |
| 12回 上訴 | 【上訴の利益】 |
| 13回 多数当事者訴訟 | 【共同訴訟】、【訴訟参加】 |
| 14回 請求の複数 | 【訴えの客観的併合】、【訴えの変更】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 30% 課題レポート... 10% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 「民事訴訟法総論」が基礎的な科目なので、先ず「総論」を履修するようにして下さい。
- ・ 1学期に比べ、内容的に高度なので、テキストによる予習、配布プリント・板書ノート等による予習・復習を欠かさないことが重要です。
- ・ 授業の進行状況により、授業スケジュールが前後することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倒産処理法 【昼】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

債務者が経済的に破綻状態になったときには、利害関係人の利害を公平に調整する必要が生じます。この利害関係人との間の利益を調整することを目的とする法体系を、倒産法といいます。近年の経済状況の激変を受け、倒産法制度の改革が現在進んでいます。本講義では、倒産処理の中心となる破産法の解説を主として行い、必要に応じて、民事再生法、会社更生法についても講義を行います。

教科書 /Textbooks

宗田親彦編 『やさしい倒産法 [第七版]』 (法学書院)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、最初の講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倒産とは、 【破産】、【民事再生】、【会社更生】
- 2回 破産手続の概要
- 3回 手続の開始、 【裁判所】、【破産管財人】
- 4回 債権の行使方法I 【債権の届出】
- 5回 債権の行使方法II 【債権の確定】
- 6回 担保権の行使 【担保権】
- 7回 相殺権の行使 【相殺権】
- 8回 否認権の行使 【否認権】
- 9回 取戻権の行使 【取戻権】
- 10回 双務契約の処理 【売買契約】
- 11回 賃貸借契約、雇用契約等の処理 【賃貸借契約】、【雇用契約】
- 12回 配当、免責、手続の終了 【免責】
- 13回 民事再生法について
- 14回 会社更生法について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト含む) ... 40 % 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

消費者法【昼】

担当者名 山根 聡恵 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、民法との比較を通じ、消費者と事業者との取引における紛争を解決するための手段としての消費者法に関する基礎知識および制度概要の習得を目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大村敦志『消費者法第3版』有斐閣
伊藤進他編『テキストブック消費者法』日本評論社
日本弁護士連合会『消費者法講義』日本評論社
森島昭夫他編『消費者取引判例百選』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 民法と消費者保護(1)
- 3回 民法と消費者保護(2)
- 4回 民法と消費者保護(3)
- 5回 消費者契約法(1)
- 6回 消費者契約法(2)
- 7回 特定商取引法(1)
- 8回 特定商取引法(2)
- 9回 割賦販売法(1)
- 10回 割賦販売法(2)
- 11回 消費者信用(1)
- 12回 消費者信用(2)
- 13回 製造物責任法(1)
- 14回 製造物責任法(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 20% 試験 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を受講する前に、民法科目のうち、財産法(民法総則、物権、債権総論、債権各論)に関する教科書や参考文献にあらかじめ目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、株式会社の設立、会社における意思決定の仕組みや経営の監督に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 株式会社の設立(1)【発起人】【発起設立】【募集設立】
- 5回 株式会社の設立(2)【設立中の会社】【見せ金】
- 6回 株式会社の機関(1)【株主と株主総会(1)】
- 7回 株式会社の機関(2)【株主と株主総会(2)】
- 8回 株式会社の機関(3)【取締役】【代表取締役】【取締役会】
- 9回 株式会社の機関(4)【監査役】【会計監査人】
- 10回 株式会社の機関(5)【善管注意義務と忠実義務】【利益相反取引】【役員報酬】
- 11回 株式会社の機関(6)【委員会設置会社】
- 12回 株式会社の機関(7)【役員等の会社に対する責任】
- 13回 株式会社の機関(8)【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(9)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の譲渡】【自己株式】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【募集株式の発行】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【主要目的ルール】【新株発行の無効】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【新株予約権の発行】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権発行の瑕疵】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【社債】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】
- 11回 株式会社の計算(3)【資本金の減少】【債務の株式化】
- 12回 株式会社の組織再編(1)【合併】【事業譲渡】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【会社分割】【株式交換】【株式移転】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【MBO】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版であることが必要です。毎回、必ず持参してください。なお、期末試験実施時には、「判例つき」の六法の持ち込みは認められませんので、十分注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【 】はキーワード)

- 1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 2回 民法に対する商法の特色は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 3回～4回 商人とは？商行為とは？【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 6回～8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール【商号・商標】
- 9回～11回 会社と従業員との関係—【商業使用人】【雇用】
- 12回～13回 会社と消費者との関係—【普通取引約款の利用】【消費者保護法】
- 14回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか？【商業登記】
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象となる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶然のリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引に「限定」されます。

そして、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の基本的枠組みを理解することにあります。火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する法律問題や犯罪を取り上げながら、保険法の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成21年度版であることが必要です。毎回、必ず持参してください。なお、期末試験実施時には、「判例つき」の六法の持ち込みは認められませんので、十分注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進めますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【】はキーワード)

- 1回 保険制度の目的と役割【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】【保険約款】
- 2回～3回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 4回 保険契約の種類と特徴【射倂契約性】【有償・双務契約性】
- 5回～10回 損害保険契約：一般の問題【被保険利益】【告知義務】【保険代位】
- 11回 各種の損害保険契約：個別的問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 12回～14回 生命保険契約と傷害保険【保険金受取人の指定】【免責条項】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

* 受講者の理解度を随時把握し、授業内容・方法を改善するために、場合によっては、小テストを実施することもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」を合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。また、私的生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法II【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

電子債権取引の時代になっても、いまだに手形は企業決済や金融の手段として広く使われている。手形取引は実務的であると同時に、手形法学において精緻な理論体系が構築され、独自の面白さがある。本講義では、主に約束手形を対象として、また具体的な判例を取り上げることで、手形に係る有価証券法理を明らかにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大塚龍児他「商法III-手形・小切手〔第3版〕」(有斐閣Sシリーズ・2006年)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川村正幸「手形・小切手法〔第3版〕」(新世社・2005年)、関俊彦「金融手形小切手法〔新版〕」(商事法務研究会・2003年)。落合誠一他編「手形小切手判例百選〔第6版〕」(別冊ジュリスト173号)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第2回 手形・小切手の経済的機能と法的構造【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形行為の意義と成立要件【手形理論】
- 第4回 手形行為と原因関係【商業手形、融通手形】
- 第5回 手形行為と法律行為【意思表示の瑕疵】
- 第6回 他人による手形行為と偽造・変造【無権代理、偽造手形、変造手形】
- 第7回 手形要件と白地手形
- 第8回 裏書の意義
- 第9回～第11回 裏書の連続と善意者保護【善意取得】【人的抗弁】
- 第12回 支払・支払拒絶・遡求・手形保証
- 第13回 為替手形・小切手
- 第14回 手形上の権利の消滅・利得償還請求権・除権決定・手形訴訟
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。場合によって、小テスト、レポート等を課す場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最新版の六法(但し小型のものでよい)を必携のこと。また、講義を受ける前にテキストを予習した上で、講義に出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場と法 【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、投資性を持った金融商品を包括的・横断的に規制することになった金融商品取引法を中心に講義を行う。投資者に自己責任原則を求めるには、適正な情報開示、不公正な取引の禁止および投資勧誘に関する規制が実施されなければならない。金融商品取引法の基本的な考え方を具体的な問題を素材として明らかにするとともに、金融商品や証券取引に関するDVDを挿み、少しでも分かり易くまた興味を持って受講できるようにしたいと考えている。

教科書 /Textbooks

川村正幸編「テキストブック金融商品取引法」(中央経済社・2009年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川村正幸編「金融商品取引法〔第2版〕」(中央経済社・2009年)、近藤光男=吉原和志=黒沼悦郎「金融商品取引法入門」(商事法務研究会・2009年)、河本一郎他著「金融商品取引法読本」(有斐閣・2009年)、黒沼悦郎「金融商品取引法入門〔第3版〕」(日経文庫・2009年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第4回 総論【金融商品の定義】【有価証券・デリバティブ】【金融商品取引法の目的】
- 第5回～第8回 情報開示【有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書】【5%ルール、TOB】
- 第9回～第11回 不公正な取引の禁止【相場操縦】【風説の流布】【内部者取引】
- 第12回～第13回 金融商品取引業者【説明義務】【適合性原則】
- 第14回 証券行政【金融庁】【証券取引等監視委員会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。場合によって、小テスト、レポート等を課す場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最新の六法を必携のこと。テキスト等で予習をした上で、講義に出席すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / Tomohisa KIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主として著作権法と不正競争防止法の領域を扱う。ここでは、単なる法解釈だけでなくコンテンツ産業の契約実務、新コンテンツ産業を立ち上げる際の戦略的立法等まで含めた内容を扱う。音楽産業と法律、映画産業と法律、出版産業と法律、放送事業と法律・・・等々、各産業毎に前述した法領域の諸問題を検討する

教科書 /Textbooks

有斐閣別冊ジュリスト「著作権判例百選」、特許庁標準テキスト「意匠編」「商標編」「総合編」。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鹿毛丈司著「音楽著作権と原盤権ケーススタディ」音楽之友社
有斐閣別冊ジュリスト「商標・意匠・不正競争判例百選」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要
2. 著作権の保護客体～著作物の定義と種類、プログラムの著作物、データベースの著作物二次的著作物および編集著作物、キャラクター、タイプフェイス等
3. 著作者～著作者、法人著作
4. 著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権
5. 著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
6. 著作権(著作財産権)Ⅰ
7. 著作権(著作財産権)Ⅱ
8. 著作隣接権～概論
9. 出版権～概論
10. 著作権侵害
11. 音楽産業と契約実務
12. 映画産業と契約実務
13. 放送事業と契約実務
14. 商標権侵害・不正競争行為
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の比重は約5割、残りはレポート等の提出物(予定)や授業中の発表等の日常的学習の成果を参考にして総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策構想論 【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

様々な政策を立案する際に前提とすべき価値や思想について検討しながら、近・未来の政治社会のありうべき姿について考察する。そのためにも、まず、政治と政策にかかわる基礎知識について論述し、次に、政策構想の具体例の分析を行う。

教科書 /Textbooks

中道『政治のデザイン-政策構想論序説』（南窓社）。レジュメを配布し、理解の深化を目指す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、毎回、講義中に示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 政治と政治状況について【権力】【正当性】【組織化】【諸価値の配分】
- 第 2 回 政治と政策について【方針】【政策の諸定義】【政策科学】
- 第 3 回 政治と政策研究について【政策分析】【政策過程】【政策構想の必要性】
- 第 4 回 新しい政策研究と政策の諸局面【政策マインド】【政策価値】
- 第 5 回-6 回 政策価値の変化【夜警国家の政策価値】【福祉国家の政策価値】
- 第 7 回-8 回 政策型思考について【目的・手段的認識】【循環的発想】【システムの発想】
- 第 9 回-10 回 市民の政策構想について【参加革命】【参加民主主義】
- 第 11 回-13 回 政治のデザインについて【古典モデル】【社会デザイン】
- 第 14 回 市民による政策構想について【トレードオフ】【諸価値の共生】【熟議民主主義】
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出：有（任意）出席点加味：有 平常授業中の小テスト：有（添削および問題解説）
期末試験：有。評価は総合して行う。
出席... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート：十分評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ごとに挙げていく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 日本における貧困問題・・・北九州市と福岡市のネットカフェ難民調査から
- 5回 日本における子どもの貧困(1)・・・日本の現状を考える
- 6回 日本における子どもの貧困(2)・・・比較の視座から考える
- 7回 社会実験(1)・・・社会実験とは何か
- 8回 社会実験(2)・・・事例の分析・検討
- 9回 循環型社会(1)・・・導入
- 10回 循環型社会(2)・・・容器包装リサイクル法
- 11回 循環型社会(3)・・・家電リサイクル法
- 12回 介護保険(1)・・・導入
- 13回 介護保険(2)・・・現状分析
- 14回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 15回 介護保険(4)・・・問題点とその検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業貢献度など ... 50 % レポート ... 50 %。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いていただき成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会・政策の決定(合理的決定・ゴミ箱決定、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams, 政策の窓 (Policy Window)、政策実施・調整 (Policy Learning &Changes)・政策変数、終了・評価の政策過程と、アクターの参加 (内閣・官僚・国会、政府間関係、専門家組織、世論とメディア、NPO)とその構造 (補助金・Rent-Seekingのような利益誘導型政治等) について理論・事例を広く検討し、理解してもらう。

(キーワード ; 公私、公共政策、政策の決定、実施、政策調整、終了、アクターの参加、メディアの役割、ガバナンス)

教科書 /Textbooks

- ① 早川純一 貴 外 (2004)、政策過程論、学陽書房
- ② 足立幸男 (2006)、公共政策決定の理論 ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中郵章、竹下讓 (1987)、日本の政策過程 : 自民党・野党・官僚、梓出版社
- 中野実 (1992)、現代日本の政策過程、東京大学出版会
- 草野厚 (1997) 政策過程分析入門、東京大学出版会
- 中村昭雄 (1997)、日本政治の政策過程、芦書房、その他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 授業や本の紹介など
- 第 2回 政策の対象、政策の必要性、費用と利益、政策の種類など。
- 第 3回 政策過程、参加者、政策資源、
- 第 4回 政策過程の理論 1 (川辺川ダム決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 第 5回 政策過程の理論 2 (政策の窓、イシューネットワーク論、無意思決定論など、中野実 (1992)、草野厚 (1997) を参考。
- 第 6回 政策過程の理論 3 (新聞、インターネットとかで検索した事例分析)
- 第 7回 ~ 第10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、アクター、官僚と国会、政府間関係、利益誘導政治)、実施過程に関する論文などの参考、
- 第 11回 後援会、地域政治構造、
- 第 12回 地域政治と政策過程、中野実 (1992) などを参考。
- 第 13回 政策評価と市民参加、
- 第 14回、第 15回、関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・試験・発表・出席状況などから総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策評価論 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策評価について、学部レベルで理解しておくべき基礎的な知識を提供することにある。ただし、基礎的といっても評価研究は、1・2年生では、理解しづらいところもあるので、受講生は3年生以上の学生を対象とすることにしたい（やる気のある2年生は可）。講義では、まず、アメリカを中心とした評価研究や評価手法を分析・検討する。そして、現代日本で最も頻繁に行われている行政評価やその問題点を検討し、今後日本の行政評価のあり方や新しい評価手法についてみていくことにしたい。

教科書 /Textbooks

石原俊彦編著『自治体行政評価ケーススタディ』（東洋経済新報社、2005年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

龍慶昭・佐々木亮『「政策評価」の理論と技法』（多賀出版、2004年）。
安田節之・渡辺直登『プログラム評価研究の方法』（新曜社、2008年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入—「評価」とは何か？など
- 第2回 「実験としての改革」—アメリカのプログラム評価の古典の意味するものは何か？！
- 第3回 セオリー評価（ロジック・モデル）
- 第4回 より複雑なロジック・モデルについて
- 第5回 プロセス評価
- 第6回 インパクト評価
- 第7回 行政評価 - 行政評価とは何か
- 第8回 行政評価の検討（1）—三重県の行政評価
- 第9回 行政評価の検討（2）—名古屋市の行政評価
- 第10回 行政評価の検討（3）—三木市、静岡県、長浜市、
- 第11回 行政評価の検討（4）—福井市
- 第12回 行政評価の検討（5）—豊橋市
- 第13回 行政評価の検討（6）—パフォーマンス・メジャーメント（ポートランド市）
- 第14回 行政評価の検討（7）—青森市、広島市、カナダのアルバータ州
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % レポート ... 70 % ただし、授業に出席しない学生には単位は与えない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するプリント教材および指定テキストの復習を必ず行うこと。また、授業に際しては前もって教材の指定した箇所を予習して授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。日本行政論をとっておくとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉国家論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心にわが国の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 - 2回 ガイダンスと概論 授業の進め方、成績評価について説明するので必ず出席してください。あわせて制的扶助の行政組織・財政概要などを説明します。	度枠組みや社会保険・公
第3回 - 4回 公的扶助 生活保護制度の概要(原理・原則、扶助の種類)、実施体制について学びます。ホームレス自立支援施策について解説します。	た最近注目されているホ
第5回 - 8回 年金保険 制度分類、保険料と保険給付について解説し、空洞化・世代間格差・世代内格差・点を考えます。	資金運用管理などの問題
第9回 - 11回 医療保険 制度分類、保険料と保険給付について解説し、高齢者医療、混合診療、医療サービス	スの質などの問題を考え
第12回 - 第15回 福祉国家の展開と類型論 福祉国家はどのように成立したのか、そしてこれから福祉国家はどこへ行くのか。類型論から日本の福祉国家化の特徴を考えます。	

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100% 出席・・・次のような加算を行う
(試験は100点満点、60点以上で合格。概ね40~59点の人に対して出席1回につき2点程度の加算を行い、その結果60点を超えた人は合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「デモクラシー」は一般に「良いもの」として描かれています。しかし、デモクラシーを採用している国の政治を見てみると、「あまり良いものとは思えないなあ」「現実の政治はデモクラシーと何か違うなあ」と感じる人は少なくないでしょう。本講義は、理念としてのデモクラシーと現実のデモクラシーとの違いに注目して、政治学の基礎的な概念等を解説します。具体的には①デモクラシーを支える政治制度、②デモクラシーにおける市民・議員等、③地方・国・国際等のレベルとデモクラシーとの関係、④デモクラシーの確立に向けた制度設計について、社会科学的視点から考察します。講義全体のキーワードは、デモクラシーの理念と現実及び政治制度の機能と設計です。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
- 1 回イントロダクション 【科学としての政治学】 【政治学の社会的役割】
 - 2 回デモクラシーと制度 【多数決原理】
 - 3 回デモクラシーと安定性 【政権交代】 【政党制】
 - 4 回デモクラシーと安定性 【二大政党制】 【中位投票者定理】 【多党制】
 - 5 回デモクラシーと代表 【直接民主制】 【間接民主制】 【議会主義】 【行政国家】
 - 6 回デモクラシーと代表 【代表と代表性】 【社会選択と投票方法】
 - 7 回デモクラシーと代表 【参加デモクラシー】 【市民参加】
 - 8 回デモクラシーと政治制度設計 【制度設計指針】 【代表性と統治の効率性】 【拒否点】
 - 9 回デモクラシーと政治制度設計 【議院内閣制】 【大統領制】 【選挙制度の類型化】
 - 10 回デモクラシーと政治制度設計 【小選挙区制】 【比例代表制】 【中選挙区制】 【混合型】
 - 11 回デモクラシーと政治制度設計 【単一国家】 【連邦制国家】 【一院制】 【二院制】
 - 12 回デモクラシーと政治制度設計 【重層的なデモクラシー】 【グローカリゼーション】
 - 13 回デモクラシーの展望 【デモクラシーの安定】 【デモクラシーと個人】
 - 14 回デモクラシーの展望 【政治的社会化】 【市民教育】 【利他的利己主義】
 - 15 回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- ◆受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋政治史【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、近代のヨーロッパにおいて主権国家体系が誕生し、その後紆余曲折を経て現在のEU (European Union) を生み出すことになった歴史を概観するとともに、EUにおける政策分野ごとの統合の進展を検討する。また欧州統合に対して、加盟国がどのような影響を与えてきたのか、主要国の立場の変遷についても検討する。さらに、EUの東方拡大とトルコの加盟問題についても考察する予定である。講義全体のキーワードは、EU、超国家的統合、地域統合、などである。

教科書 /Textbooks

坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』（芦書房）
坂井一成編『グローバリゼーション国際関係論』（芦書房）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 授業内容の説明、「ヨーロッパ」とは何か
 - 2回 ヨーロッパでの主権国家体系の誕生と拡大(1)【ウェストファリア条約】
 - 3回 ヨーロッパでの主権国家体系の誕生と拡大(2)【ヨーロッパ協調】
 - 4回 ヨーロッパ統合の歴史【地域統合】【ECSC】【EEC】【EC】
 - 5回 共通外交・安全保障政策の進展史【EDC】【EPC】【CFSP】【NATO】
 - 6回 立憲体制と市民的自由の保障の拡大史【入国管理】【EU市民権】【欧州憲法】
 - 7回 教育・文化交流政策の発展史【アイデンティティ】【ソフトパワー】【ヨーロッパ文化】
 - 8回 「多様性の中の統合」の展開【補完性原理】【文化的多様性】【地域政策】
 - 9回 フランス外交とヨーロッパ統合の関係史【ドゴール主義】【国家主権】【対独関係】
 - 10回 ドイツのヨーロッパ統合への対応【半主権国家】【地方分権】【東方政策】
 - 11回 イギリスにおけるヨーロッパ政策の国内化【大西洋主義】【CFSP】【通貨統合】
 - 12回 ベネルクス3国とヨーロッパ統合の関係史【小国】【超国家的統合】【ECSC】
 - 13回 北欧諸国の対外政策と対ヨーロッパ政策の変遷【北欧協力】【福祉国家】【国民投票】
 - 14回 ヨーロッパ統合のゆくえ【欧州憲法条約】【中東欧諸国】【トルコ】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 期末筆記試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ヨーロッパに関する知識があることを前提とはしないが、多少なりともヨーロッパの政治や歴史に興味をもつことが必要である。授業前の予習は特に必要ないが、授業前後にはテキストを一読しておくことより理解が深まる。学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容を全て講義できない点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今年度は、まず東欧革命を手がかりに、政治文化の変化と政治システムの変動との関係を考察し、次に戦間期の政治システムの変化を危機の政治思想やファシズムの政治思想との関連で取り上げ、その背後にある政治文化、とりわけ日独の政治文化を比較してみる。また、ポスト・モダンの政治思想を取り上げながら、今後の新しい政治について模索してみる。

教科書 /Textbooks

中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は毎回、講義中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治文化とは何か【政治システム】【政治文化】【政治的社会化】
- 第2回 政治文化と政治システムの変動との関連について【東欧革命】【民主化】【市民社会】
- 第3回 民主主義体制の崩壊と政治文化について【政治体制】【政治文化】
- 第4回 ワイマル共和制の理念と現実【ワイマル憲法】【基本的権力関係】
- 第5回 政治制度の諸問題【政党制】【主要政党の特徴】【比例代表制】【大統領内閣制】
- 第6回 議会制民主主義の危機と大統領独裁【指導者民主主義】【ウェーバー】【シュミット】
- 第7回 ナチズムの思想、運動、体制【イデオロギー】【プロパガンダ】【強制的同質化】
- 第8回 文化的絶望の政治について【文化ベシミズム】【ラガルド】【ラングヘーン】【メラー】
- 第9回 ドイツ統一と民族問題【憲法愛国主義】【過去の克服】
- 第10回 近代批判の思想について【満洲】【大東亜共栄圏】【近代の超克】【歴史意識】
- 第11回 近代批判の思想について【未完のプロジェクト】【啓蒙の弁証法】
- 第12回 国民国家のゆらぎ【国民国家の虚構性】【ポスト国民国家】
- 第13回 自然との共生【環境倫理学】【コモンズの原理】
- 第14回 政治文化の日独比較について【市民文化】【複眼主義】【価値判断の相対性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート提出：有（ただし、任意）
 期末試験：各学期末に実施するが、評価は総合して行う。
 出席点の加味の有無：有
 平常授業中の小テスト：有（添削および問題解説）
 出席... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート(任意) 十分評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政党政治論 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、西欧諸国を中心として特に政党と政党システムに焦点をあてて比較検討を行う。西欧諸国の政党および政党システムには、どのような類似点や相違点があるのかを考察する。さらに、各国の政党組織や政府形成の特徴についても検討を行う予定である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川有美編『EU諸国』(自由国民社)
馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック』(東京大学出版会)
坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』(芦書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 授業内容の説明、政党とは何か 【大衆政党】【包括政党】【政党の機能】
 - 2回 政党のイデオロギーと組織(1) 【自由主義】【民主主義】【自由民主主義】【権威主義】
 - 3回 政党のイデオロギーと組織(2) 【社会主義】【社会民主主義】【新保守主義】【第三の道】
 - 4回 選挙制度と政党システム 【二党制】【穏健な多党制】【小選挙区制】【比例代表制】
 - 5回～6回 イギリス 【二党システム】【サッチャー】【ブレア】
 - 7回～8回 フランス 【ゴリスト】【中央集権】【コアビタシオン】
 - 9回～10回 ドイツ 【連邦制】【5%条項】【ドイツ統一】
 - 11回～12回 オランダ・ベルギー 【地域問題】【多文化主義】【多極共存デモクラシー】
 - 13回 イタリア 【多党】【分極化】【オリーブの木】
 - 14回 北欧諸国 【社会民主主義】【合意】【女性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容を自分でまとめてノートに取る訓練をすること。学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容を全て講義できない点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるの？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもちえてません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてもらいたいのは、環境問題の原点とも言われる水俣病です。そのことも毎年実施している私のゼミ及び「政策科学入門I」の環境学習研修旅行の記録を通して学習します。環境教育アクティビティを多用します。

教科書 /Textbooks

その都度資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 栗原彬『証言 水俣病』岩波新書、2000年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成19年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣病講義』日本評論社、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---------------------------------------|------------|
| 第1回 「都市環境論」の授業内容とならひの説明：：簡単な環境意識度チェック | 【環境意識】 |
| 第2回 環境教育とESD（持続可能な開発のための教育） | 【ESD】 |
| 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告 | 【環境学習旅行】 |
| 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 | 【水俣病】 |
| 第5回 日本の環境政策 | 【環境政策】 |
| 第6回 北九州市の環境の現状 | 【北九州市】 |
| 第7回 廃棄物管理 その原理と現状 | 【廃棄物管理】 |
| 第8回 廃棄物管理 ～リサイクル、特にコンポストをめぐる | 【コンポスト】 |
| 第9回 下水処理をめぐる～下水処理の原理 | 【水質汚濁】 |
| 第10回 下水処理をめぐる～途上国インドのし尿処理問題 | 【途上国のし尿問題】 |
| 第11回 上水道：：（アクティビティ=きき水比べ） | 【おいしい水】 |
| 第12回 大気汚染～汚染の原理と現状 | 【大気汚染】 |
| 第13回 大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定 | 【CO2計測】 |
| 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々=エコツーリズムに関わろう！ | 【エコツーリズム】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 20 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策理論特講 【昼】

担当者名 /Instructor 鶴田 芳貴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業活動は、市場での競争を通じて社会に対して利益をもたらします。しかしながら、競争は必ずしも自然発生的なものではありませんし、競争があっても停滞してしまう可能性もあります。その場合には、競争を促進あるいは維持するため、政府が市場に介入する必要があります。この介入は「競争政策」と呼ばれます。この講義では、「競争政策」について具体例を取り上げながら理論的な背景を議論します。

教科書 /Textbooks

特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小田切宏之 (2009) 『競争政策論』 日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - 4回 基礎知識の整理
【国内外の競争政策の歴史・需要と供給・社会的余剰・公正と公平】
- 5回 「市場」とは？【市場の画定】
- 6 - 8回 水平的な企業間関係と競争政策
【カルテル・談合・水平的合併・不当廉売】
- 9 - 11回 垂直的な企業間関係と競争政策
【垂直的合併・再販価格維持・優越的地位の乱用・抱き合わせ販売】
- 12回 公益事業と競争政策【不可欠施設・自然独占・競争政策と規制】
- 13回 研究開発と競争政策【知的財産権】
- 14回 国際化と競争政策【国際的カルテル・国際的M&A】
- 15回 まとめ

内容および進度については、受講者の理解度などに応じて変更可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト 30% レポート 70%
受講者数などに応じて評価方法を変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備は必要ありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業・大学・政府・町内会・ボランティア団体、と周囲に溢れる組織は数え切れないほどで、誰も皆、幾つかの組織に所属し、自分が属する組織や他の組織からの影響を受けずに生活することは不可能である。また1990年代以降、日本の中央省庁や地方自治体といった行政組織の変化には著しいものがある。このようななか、組織論を学ぶことは、複雑な現代社会を理解する一助になる。特に政策の形成・決定・実施・評価と関連、あるいは各過程において主体として行動する場合もある行政組織に着目することで、過去から現在までの制度・政策の変化や内容に関する関心・洞察を深めることにつながるだろう。講義全体のキーワードは、組織論を通じてみるひとと社会である。

教科書 /Textbooks

適宜紹介、また必要に応じてレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑田耕太郎・田尾雅夫(1998)『組織論』有斐閣
- 西尾勝(2001)『新版行政学』有斐閣
- その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 組織の定義と概念
- 3回 組織と環境・組織構造
- 4回～5回 官僚制、その機能と逆機能
- 6回～7回 日本の行政組織の変化・改革
- 8回 中間テスト
- 9回 中間テストの解説と復習
- 10回 組織文化
- 11回 組織のリーダーシップとは
- 12回 構成員のモチベーションについて
- 13回 組織における学習
- 14回 行政サービスを担う組織
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%
(遅刻入室は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講するにあたって、特別に必要なことはありません。「行政組織」を軸に、歴史的な流れや社会的な背景などを合わせて学んでいきます。本講義で扱うこれらについては、「日本行政論」や「地方行政改革論」、「公共経営論」などの科目と合わせて履修することで、みなさんの理解はさらに深まるものと考えています。なお、講義の進行により、上記スケジュールを変更することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較政策論【昼】

担当者名
/Instructor

坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象は次の政策分野：経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。またこれらの政策の相違は、諸国の政治経済体制の種類に呼応していることを学ぶ。さらに、違う政策が経済業績や人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。

教科書 /Textbooks

Jessica R. Adolino and Charles H. Blake. 2001. Comparing Public Policies: Issues and Choices in Six Industrialized Countries. Washington, D.C.: CQ Press.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そういう覚悟で履修登録すること。毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ; 2. 政策決定のモデル; 3. 政策決定の理論I; 4. 政策決定の理論II; 5. 政策の規定要因 - 制度・アクターI; 6. 政策の規定要因 - 制度・アクターII; 7. 先進各国の政治システム; 8. 社会・福祉政策; 9. Catch-up; 10. 財政政策; 11. 教育政策; 12. 税政策; 13. Catch-up and review; 14. 国際化の中の政策決定; 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解・授業での発言参加が40%、(2)研究論文が60%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は学期末提出の研究論文の質で決める。論文はA4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。

また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらおう。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。学生はアウトラインに沿って研究を進め、論文をまとめる。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同じレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を必ず読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本社会が激変している中で、多くの地方都市は経済的に疲弊しており、同時に都市再生を模索して様々な動きを始めている。多様な人材・施設・機能が集積する都市において、住民・企業・団体の様々なニーズに応えながら、都市機能を高め、地域経済の活性化を進めるためにどのような政策手法が有効であるかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

牛嶋正著『現代の都市経営』(1999)有斐閣ブックス
吉田民雄著『都市行政の新しい設計』(1995)中央経済社
小林英夫著『産業空洞化の克服 - 産業転換期の日本とアジア』(2003)中公新書
中沢孝夫著『<地域人>とまちづくり』(2003)講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市政策論とは何か
- 2回 都市が直面する課題
- 3回 都市政策の前提とこれからの都市政策
- 4回 都市政策と人材確保
- 5回 魅力ある都市づくり
- 6回 国の産業政策・地域振興政策
- 7回 産業集積の理論と実態
- 8回 産業クラスター政策と課題
- 9回 中小企業振興の取組み
- 10回 新産業創出の取組み
- 11回 企業誘致の実態とその課題
- 12回 小売り商業と商店街の実態と課題
- 13回 中心市街地の再生
- 14回 雇用政策
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理（行政計画、政策評価、人事・組織・予算管理）など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 - 2回 ガイダンスと概論 授業の進め方、成績評価について説明するので必ず出席すること。あわせて社会福祉サービスの政策的視点、行政組織・財政概要などを説明します。	福祉サービスの政策的視点、行政組織・財政概要などを説明します。
第3回 - 6回 高齢者福祉と介護保険 ホームヘルプサービスや特別養護老人ホームなど在宅・施設サービスの内容と実施体制を理解します。介護保険から今後の福祉政策全般の動向を考えます。	体制を理解します。介護
第7回 - 9回 児童福祉 児童養護施設などを中心に在宅・施設サービスの内容と実施体制を理解します。保育所改革、児童虐待、少子化対策などの政策課題を考えます。	育所改革、児童虐待、少
第10回 - 15回 障害者福祉 グループホームなどを中心に在宅・施設サービスの内容と実施体制を理解します。障害者と雇用などの政策課題を考えます。	自立支援制度の動向、障

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100% 出席・・・次のような加算を行う
(試験は100点満点、60点以上で合格。概ね40～59点の人に対して出席1回につき2点程度の加算を行い、その結果60点を越えた人は合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解してもらう。われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。また、地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動など）やアメリカ、ドイツの環境問題やその対策についても考えてみる。
講義全体のキーワード；環境、環境問題、環境政策（政策手段）、環境影響、国際環境問題。

教科書 /Textbooks

- ①飯島伸子（2000）、環境問題の社会史、有斐閣
- ②東アジア環境情報発信所(2006)、環境共同体としての日中韓、集英社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇沢弘文（1974）、自動車の社会的費用、岩波新書
- 山村恒年（1996）、環境保護の法と政策、信山社
- James P. Lester(1989) Environmental Politics and Policy, Duke Univ. Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 授業や本の紹介など（自分の環境概念について、書いてもらう）
- 第 2 回 公害、環境（問題）とその構造（被害者、加害者等）、
- 第 3 回 環境問題の特性とその構造（環境、社会構造と制度、技術、自然＝資源、人口）
- 第 4 回 日本の環境問題と歴史
- 第 5 回 環境権、環境政策の特徴 1（日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国）
各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター。
- 第 6 回 環境権、環境政策の特徴 2（日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国）
- 第 7 回 環境政策の手段（間の比較分析）1；補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等。
- 第 8 回 環境政策の手段（間の比較分析）2；有料化、road pricing等
- 第 9 回 自治体の環境政策（環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等）、環境自治体。
- 第 10 回 廃棄物はどこにいくのか（アジアへ、私の食卓へ、そして体へ）
- 第 11 回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 第 12 回 地球温暖化、
- 第 13 回 生物多様性、国際環境問題(黄砂、光化学スモッグ、海ごみ)
- 第 14 回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 第 15 回 まとめ（試験などの質問）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・試験・発表・出席状況などから総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。併せて、企業活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経営論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

厳しい変革の時代を生き抜くために、企業は経営方針、意思決定の仕組み、組織を大転換しているが、地方自治体においても同様に、政策の選択と集中による都市経営方針を明確にし、戦略的な経営が行われるように、簡素で効率的な行政を進める行政改革・組織改革を進め、都市経営への住民参加に取り組んでいる。この講義では、地方自治体が、都市機能を高め、都市の自律的發展を目指して改革している組織の在り方について学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 武藤博巳編著『自治体経営改革』自治体改革2(2004)ぎょうせい
- 天野巡一編著『職員・組織改革』自治体改革6(2004)ぎょうせい
- 大住荘四郎『NPMによる行政革命 - 経営改革モデルの構築と実践』(2003)日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経営論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 地方自治制度と地方分権
- 4回 地方自治体の組織と権能
- 5回 都市経営と政策
- 6回 都市経営と行政計画
- 7回 都市経営と行財政改革
- 8回 地方自治体の組織原理の変化
- 9回 新しい都市経営の基本姿勢
- 10回 新しい組織管理
- 11回 新しい人的資源管理
- 12回 地方公務員の雇用環境の変化
- 13回 新しい都市経営の主体①
- 14回 新しい都市経営の主体②
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方行政改革論【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政改革がなぜ必要とされているのか、そこでの改革手法としてどのような手法が用いられているのか、現在進む地方行政改革の実態と課題を論じたい。改革の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。とくに今年は、自治体改革のブームともなっている「自治基本条例」を大きく取り扱うことにする。自治体の基本的なルールともいえる自治基本条例を定めるケースが増えているが、自治基本条例の将来的可能性ないし課題について考えることにしたい。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の組織【官僚制の理論】
- 3回 地方自治体の組織【自治体の特性】
- 4回 組織改革①【自治体組織の改革】
- 5回 組織改革②【自治体組織の改革】
- 6回 組織改革③【自治体組織の改革】
- 7回 地方公務員の改革①【公務員制度】
- 8回 地方公務員の改革②【人事管理改革】
- 9回 地方公務員の改革③【求められる公務員とは】
- 10回 行政と住民の関係①【市民参加】
- 11回 行政と住民の関係②【自治体内分権】
- 12回 行政と住民の関係③【コミュニティ自治】
- 13回 近年の課題①【自治基本条例の全体像】
- 14回 近年の課題②【自治基本条例による改革進展】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。この授業の内容からすると、すでに地方自治論を履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本政治論 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の政治に関する基礎的な知識と、今日一般に指摘されている問題点や改革論議に対する社会科学的視点を、受講生の皆さんが習得することです。まず日本の政策決定過程についての全般的な説明を行います。つぎに具体的事例として租税政策の決定過程に着目します。さらに政策決定過程の中心的アクターである議員の選出方法を取り上げ、日本の選挙制度の特徴や問題点等を考察します。講義全体のキーワードは「これまでの政治とこれからの政治」です。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 政策決定過程-基礎①：政治制度とアクター
- 3回 政策決定過程-基礎①：政治制度とアクター
- 4回 政策決定過程-基礎②：政治制度とインターアクション
- 5回 政策決定過程-基礎②：政治制度とインターアクション
- 6回 政策決定過程-応用①：税制の政治（理論）
- 7回 政策決定過程-応用①：税制の政治（理論）
- 8回 政策決定過程-応用②：税制の政治（事例）
- 9回 政策決定過程-応用②：税制の政治（事例）
- 10回 政策決定過程-応用②：税制の政治（事例）
- 11回 政策決定過程-応用②：税制の政治（事例）
- 12回 選挙制度①：今日の選挙制度
- 13回 選挙制度①：今日の選挙制度
- 14回 選挙制度②：首相公選制
- 15回 総括

※受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- ◆日本の政治機構については「憲法機構論」、日本の行政については「日本行政論」、政治過程全般については「政治過程論」、政治制度全般については「政治学」の受講をお勧めいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共経営論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に公共サービス再編成を対象とし、市場原理・企業的経営手法を取り入れた行政機関の管理改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
・ 授業の進め方、成績評価について説明するので必ず出席してください。
- 第2回 - 4回 理論 新公共経営と政府体系
・ 新公共経営 (NPM: New Public Management)、
能率と責任などの概念整理、準市場化と準政府の拡大。
- 第5回 - 7回 事例 教育・文化施設編①
・ 民間委託の類型化と指定管理者制度 ・ PFI
- 第8回 - 11回 事例 公共事業編
・ 入札改革 ・ 財政投融资など
- 第12回 - 第15回 事例 教育・文化施設編②
・ 学校選択制 ・ 株式会社立学校

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・・・50% レポート・・・50%
(レポートは学期末に1回の提出)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものになりたいと考えています。

ただし、ゲスト・スピーカーを多数およびする関係からも、授業中の私語は厳しく取り締まります。私語をせずには講義を受けられないという学生は受講しないでください。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』(岩波書店、2004年)。
榎原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2009年3月)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------------------|------------|
| 1回 導入—講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など | |
| 2回 NPOの基礎知識 | 3回 第1回講演会 |
| 4回 福祉NPO(1) | 5回 第2回講演会 |
| 6回 福祉NPO(2)—社会福祉法人 | 7回 第3回講演会 |
| 8回 環境NPO(1) | 9回 第4回講演会 |
| 10回 環境NPO(2) | 11回 第5回講演会 |
| 12回 まちづくりNPO(1) | |
| 13回 第6回講演会 | |
| 14回 まちづくりNPO(2) | |
| 15回 講義のまとめおよびレポートについての説明 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席(授業貢献) ... 50 % レポート... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

めまぐるしく変化する現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されている。そのテーマはといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどである。この講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みたい。同じ地球に生きる人間として、途上国の問題にも真正面からぶつかって欲しい。

教科書 /Textbooks

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
* 中村尚司『人びとのアジア - 民際学の視座から』岩波新書、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい
第2回～4回 担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 【バングラデシュ】
第5回～6回 開発論の歴史：成長概念と貧困概念を中心に 【成長】【貧困】【SD】
第7回～8回 開発論の課題：人口増加と資源・環境問題 【人口増加】【環境問題】
第9回～10回 途上国での農村・農業問題 【農村】
第11～12回 世銀の開発方針とNGO 【世銀】【NGO】
第13～14回 途上国での都市問題と社会開発 【都市問題】【社会開発】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、韓国、インドネシア、バングラデシュを対象に、アジアの文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干（かなりかも）、マニアックになるのはお許しください。アジア大好き人間になり、学生時代には一度は同国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。

教科書 /Textbooks

その都度配布
○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第2版】』明石書店、2009年
- * バク・ジョンヒュン『韓国人を愛せますか?』講談社+α新書、
- * 倉沢愛子『ジャカルタ路地裏フィールドノート』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|-----------|
| 1 回 「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明 | |
| 2 回 韓国、インドネシア、バングラデシュへのスタディ・ツアーの写真を通しての比較説明 | |
| 3 回 上記三か国の統計数値による比較説明 | 【統計数値】 |
| 4 回 絵本を通しての三か国の生活・文化比較 | 【絵本】 |
| 5 回 イスラーム教の紹介 | 【イスラーム教】 |
| 6 回 バングラデシュの農村社会 | 【農村社会】 |
| 7 回 バングラデシュの都市社会（隣人関係） | 【隣人関係】 |
| 8 回 バングラデシュの都市社会（開発・環境に関する意識） | 【開発・環境意識】 |
| 9 回 バングラデシュの都市社会（清掃人・ウェイストピッカー） | 【清掃人・WP】 |
| 10 回 韓国の文化の特徴 | 【韓国文化】 |
| 11 回 韓国の現代社会と伝統 | 【韓国社会】 |
| 12 回 韓国社会の国際化（移民政策・多文化共生政策） | 【多文化共生】 |
| 13 回 インドネシアの社会（ゴトンロンとRT/RW） | 【ゴトンロヨン】 |
| 14 回 インドネシア・カンブンの概念と実例 | 【カンブン】 |
| 15 回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 小課題の提出 ... 20 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

応用政策特講 【昼】

担当者名 梅垣 理郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近代（産業革命以降）の歴史は政策史に他ならない。この近代と近代化を理解することで、今ある政策課題の淵源に触れ、また政策的営為の想像力にも触れることができる。政治学的、経済学的、社会学的発想と歴史的想像力に触れ、政策論の基盤を構成したい。

教科書 /Textbooks

梅垣他編 『総合政策学』（慶応大学出版、2006）及び梅垣が準備するリーディングパッケージ。後者は、学期中課題の一つ書評の材料となる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：基本的な方針、単位取得のための課題などの説明をする。
- 2回 近代化の伝播過程と近代という「世界文化」：「近代化」の伝播過程
- 3回 生活の諸相：生活を1日24時間、1生80年として解体し近代化の痕跡を見いだす
- 4回 近代生活の点描：変わったこと・変わらぬこと：人間と人間の集団
- 5回 ディスカッション：近代的生活ということの再構築
- 6回 近代を社会学的にいうと：パーソンズ=富永健一の世界
- 7回 歴史的に見ると：流動化する社会：不安と想像
- 8回 政治思想的にいうと：中江兆民から丸山真男へ
- 9回 日本の場合：明治維新と「近代革命」
- 10回 ディスカッション：思想としての近代
- 11回 「近代」というレトリック：戦後国際秩序建設と開発という環境設定
- 12回 開発の機会—1：経済発展が依存する二重構造—経済発展が生み出す二重構造
- 13回 開発の機会—2：経済発展が依存する二重構造—経済発展が生み出す二重構造
- 14回 開発の周辺：開発の、近代化の周辺とは？
- 15回 ポストモダニズム、ポストコロニアリズム

成績評価の方法 /Assessment Method

単位取得条件（1．2課題の消化、2．授業参加）
課題 1 書評—準備されたパッケージ（論文、章などから成る）の批評
2 テークホーム試験
2課題...70% 授業参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対外政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、資本・貿易や経済の国際化などの国際システム・レベルの要因が、先進諸国の経済政策にどのような影響を与えるのか、つまり各国は国際経済の制約下いかなる経済政策を実行するのかを検証する。まず資本・貿易や経済の国際化がどのような環境を創出したかを概観し、次にこの環境が諸国にいかなる制約を課するかを分析する。そしてその制約下各国政府がいかなる経済政策を施行するかを検証する。

教科書 /Textbooks

Thomas Oatley. 2008. International Political Economy: Interests and Institutions in the Global Economy, 3rd ed. New York: Pearson Longman.
(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そういう覚悟で履修登録すること。毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ; 2. 国際政治経済とは何か; 3. Political Economy of International Trade Cooperation; 4. Society-Centered Approach to Trade Politics; 5. State-Centered Approach to Trade Politics; 6. International Monetary System; 7. International Monetary Arrangements; 8. Society-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy; 9. State-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy; 10. Catch-Up and Review; 11. Catch-Up and Review; 12. International Finance; 13. Import Substitution Industrialization; 14. Market Reform; 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言参加が50%、(2)研究論文が50%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけ積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は学期末提出の研究論文の質で決める。研究論文はA4紙にダブルスペースで13枚程度。研究論文の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、抽象的な哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。

また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらおう。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進め、論文をまとめる。当然のことながら、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を必ず読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計、国際関係論、国際経済論を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構論I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会には、国際機構と呼ばれる数百もの組織が存在し、日常的に活動している。それらは、国家や私たちの生活にとって、どのような意味をもっているのだろうか。この講義では、国際機構の代表格である国際連合を中心にして、それらの任務、制度、実績および課題を扱う。

教科書 /Textbooks

最上敏樹『国際機構論』第2版、東京大学出版会、2006年。初版ではないことに注意。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。講義では資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 テキスト「はじめに」【国際機構の定義】
- 3回 テキスト第1章「国際機構小史」【ヨーロッパ協調】【国際連盟】
- 4回 国際連盟規約の解読
- 5回 テキスト第2章「国際連合」(I-III)【国連の設立】【安全保障理事会】【総会】
- 6回 同上(IV-VI)【事務総長】【経済社会理事会】【国際司法裁判所】
- 7回 国際連合憲章の解読
- 8回 テキスト第3章「国連改革」【国連改革】【安保理改革】
- 9回 同上
- 10回 テキスト第4章「地域的国際機構」【EU】【北欧共同体】【欧州審議会】
- 11回 テキスト第5章「国際機構創設の動因」【共通利益と国益】【国際機構の類型】
- 12回 テキスト第6章「構造・機能・意思決定」【国家的機関と非国家的機関】
- 13回 テキスト第7章「国際機構論の方法」【法学的アプローチと政治学的アプローチ】
- 14回 テキスト第8章「国際機構の理論化」、「結びにかえて」【国際機構の理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(数回の予定)...30% 期末試験...70%
※出席をプラス評価することがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地域的機構を扱う国際機構論IIも受講すれば、国際機構の全体像を把握することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構論II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を特徴づけるものの一つに、地域的 (regional) な国際機構の発達がある。そのような機構には、例えばヨーロッパ連合 (EU)、北大西洋条約機構 (NATO)、東南アジア諸国連合 (ASEAN)、米州機構 (OAS)、アラブ連盟、アフリカ連合 (AU) 等があり、東アジア諸国間においても同様の試みが模索されつつある。それでは何故、こうした地域的な機構が要請されるのか。講義では、ヨーロッパ27カ国が加盟し、現代世界に多大な影響を与えるEUに着目して、その設立、制度、実績および課題を多面的に扱う。

教科書 /Textbooks

辰巳浅嗣編著『EU欧州統合の現在』創元社、2004年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。講義では資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに：なぜ地域的な機構か
- 2回 EUの概観【EU条約】【EUの機関】【加盟国の位置と紹介】
- 3回 - 4回 ヨーロッパ地域統合の起源【パン・ヨーロッパ】【独仏和解】【ジャン・モネ】
- 5回 - 6回 ECの成立とEUへの発展【欧州3共同体】【共通政策】【市場統合】【ドロール】
- 7回 - 8回 EUの基本条約の解説【EU条約】【EU運営条約】
- 9回 - 11回 EUの「超国家的」性格とその特質
【共同体方式】【欧州委員会】【理事会】【欧州議会】
【欧州理事会】【欧州中央銀行】
- 12回 - 14回 EUの対外関係と課題【EU憲法】【民主主義の「赤字」】
【EUとグローバル社会】【EUとアメリカ】【日本、アジアとEU】
- 15回 まとめ：主権国家はどのように解体しているのか

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (数回の予定) ... 30% 期末試験... 70%
※出席をプラス評価することがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国連を主な対象とする国際機構論Iも受講すれば、国際機構の全体像を把握することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間の権利にはどのようなものがあり、かつ、それらはいかにして保護されるべきなのか。現代の国際社会においては、各国家が個別にこの問いに応えればよいというわけではない。講義では、国際関係論や国際法学の視点を取り入れつつ、人権に関する規範と制度がどのように形成されているのかを学習する。

教科書 /Textbooks

松井芳郎・薬師寺公夫・坂元茂樹・小畑郁・徳川信治編『国際人権条約・宣言集（第3版）』、東信堂、2005年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

阿部浩己、今井直、藤本俊明『テキストブック国際人権法（第3版）』日本評論社、2002年。
バーゲンソル（小寺初世子訳）『国際人権法入門』東信堂、1999年。ほか、講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 人権概念の出現と展開【近代国家】【啓蒙思想】【第1世代～第3世代の人権】
- 3回 国際連盟と人権の規範【労働者の権利】【人民自決と国際社会】
- 4回 国際連合における人権の規範と制度（1）【世界人権宣言】
- 5回 国際連合における人権の規範と制度（2）【国連自由権規約】【国連社会権規約】
- 6回 地域的国際機構による人権保護への対応（1）【欧州安保協力機構】
【東南アジア諸国連合】
- 7回 地域的国際機構による人権保護への対応（2）【欧州審議会】【欧州人権条約】
- 8回 経済統合と人権保障のメカニズム（1）【EU法の優位性】
- 9回 経済統合と人権保障のメカニズム（2）【EU基本権憲章】
- 10回 現代世界と国際人権（1）死刑制度の存廃【自由権規約議定書】【欧州人権条約議定書】
- 11回 現代世界と国際人権（2）経済開発と人権【コンディショナリティ】【「アジア的」価値】
- 12回 現代世界と国際人権（3）「人道的」介入【ソマリア】【ユーゴスラビア紛争】
- 13回 現代世界と国際人権（4）「テロとの戦い」と人権保護【不正規移送】【拷問】
- 14回 現代世界と国際人権（5）近代国家体制と人権【国家主権】【リアリズム】【規範】
【NGOs】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（数回の予定）... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○下村恭民他『開発援助の経済学（第4版）』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

- 第1回 開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
- 第4回 1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
- 第5回 南北交渉の時代【新国際経済秩序（NIEO）】、【資源ナショナリズム】
- 第6回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
- 第7回 途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
- 第8回 1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】
- 第9回 グローバル・イシューズの時代【国連主催会議】、【NGOフォーラム】
- 第10回 開発援助の新潮流【人間開発】、【社会開発】
- 第11回 人間開発概念の発展【人間の安全保障】、【保護する責任】
- 第12回 日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
- 第13回 日本のODAの仕組み【無償資金協力】、【有償資金協力】、【技術協力】
- 第14回 日本のODAの理念と世界との比較【ODA大綱】、【自助努力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第2次世界大戦後の歴史について復習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor 千知岩 正継 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習します。紛争予防を目的として、どのような活動がどのような主体によって行われているのか、効果的な紛争予防策はあるのかなどについて、具体的な事例をもとに学習します。

教科書 /Textbooks

メアリー・アンダーソン『諸刃の援助』明石書店、2006年。
大平剛『国連開発援助の変容と国際政治』有信堂高文社、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○東大作『平和構築』岩波新書、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 冷戦終結の影響【民主的平和】、【国内紛争】、【アイデンティティ・ポリティックス】
- 第2回 PKOの変容と限界【平和執行型PKO】、【予防展開】
- 第3回 「予防の文化」と平和構築アプローチ【予防開発】、【紛争サイクル】
- 第4回 平和構築と人道・開発援助活動の拡大【紛争分析手法】、【構造的要因】、【引き金要因】
- 第5回 「保護する責任」(総論)【人道的介入】
- 第6回 「保護する責任」(各論)【脆弱国家】、【早期警報】
- 第7回 安全保障部門改革(SSR)と武装解除、動員解除、兵士の社会復帰(DDR)【SSR】、【DDR】
- 第8回 東ティモールとアフガニスタンの事例検証：SSRとDDRの具体的な事例
- 第9回 国際開発援助レジームの変容【援助協調】、【援助の調和化】
- 第10回 復興援助と条件付け【ピース・コンディショナリティ】
- 第11回 Do No Harm原則①【平和へと向かう現地の力】、【戦争へと向かう現地の力】
- 第12回 Do No Harm原則②【コネクター】、【ディバイダー】
- 第13回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ①
- 第14回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際協力論Iを履修していれば、本講義の理解に役立ちます。国際協力論Iが基礎的な事項を学習するのに対して、国際協力論IIはより実践的な内容となっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争論 【昼】

担当者名 /Instructor 菅 英輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦後の紛争や戦争、平和と安全、秩序形成をめぐる諸問題を、歴史的視点を重視しながら、多面的に考察することを目的とする。「世界はなぜ仲良くできないのか」を歴史的、構造的、原理的に検討し、21世紀の安全保障問題の理解を深める。本年度は特にアメリカの戦争に焦点をあてる。

教科書 /Textbooks

菅英輝著『アメリカの世界戦略』（中公新書、2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

菅英輝編著『アメリカの戦争と世界秩序』（法政大学出版局、2008年）、菅英輝編著『冷戦史の再検討』（法政大学出版局、2009年）。その他、以下の授業スケジュール中の指定図書を参照されたい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 冷戦後の世界の特徴と地域紛争
 - 冷戦期の紛争の特徴（テキスト『アメリカの世界戦略』1章）
 - 冷戦とは何か、冷戦後の世界の特徴（テキスト4章、『冷戦史の再検討』序章、その他の章、菅英輝、秋元英一『アメリカ20世紀史』（東京大学出版会、2003年）（指定図書）5章、8章）
 - 冷戦後の世界の特徴と地域紛争の関係（テキスト4、5、6章）
- アメリカの戦争と世界秩序形成
 - アメリカ帝国論をめぐる議論、アメリカの国際秩序形成における役割（テキスト7章）
 - 戦後世界秩序の特質（理念、規範、制度、パワー）（テキスト11章）
 - アメリカの対イラク戦争とアメリカの世界支配（テキスト8、9、10章）
 - メディアと戦争（テキスト12章、『アメリカの戦争と世界秩序』9章）
 - アメリカ市民社会と戦争（テキスト12章、『アメリカの戦争と世界秩序』7章）
 - 正義の戦争と不正な戦争（テキスト12章、『アメリカの戦争と世界秩序』6、8章）
- 日米安保と地域紛争
 - 冷戦後の安保再定義をめぐる諸問題（テキスト第2章）
 - 米軍再編問題と日米安保のグローバル化（テキスト3章）
 - 朝鮮半島の核をめぐる問題と6者協議（テキスト3章、菅英輝編著『朝鮮半島』（社会評論社、2004年）（指定図書））
- 冷戦後の国際環境と安全保障
 - 国家の安全と国民の安全-安全保障の原理的考察（菅英輝、石田正治編著『21世紀の安全保障と日米安保体制』（ミネルヴァ書房、2005年）（指定図書）、9章）
 - 人間の安全保障論-安全保障の原理的考察（『21世紀の安全保障と日米安保体制』9章） (3)地域から安全保障を考える。
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み状況を考慮して総合的に評価する。ただし、出席が規定日数（3分の2）に達していない者には試験資格を与えない。
※新カリキュラムと旧カリキュラムでは履修時間が異なるので、注意されたい。詳細は第一回目の授業で説明。旧カリキュラムの受講生は、新カリキュラムのテキストに加えて、菅英輝編著『冷戦史の再検討』（法政大学出版局、2009年）を使用。人数が少ない場合には、ゼミ形式とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論I【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められてきた。障害者自立支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、地域生活、施設利用などでの問題を取り上げながら、以下の点について吟味する。権利保障とは何かについて検討する。また障害をもつ人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。さらにはこれまでタブー視されてきた障害者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

小賀 久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立支援】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【地域生活】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【ケアマネージメント】
- 5回 権利擁護システム① 【成年後見制度】
- 6回 権利擁護システム② 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム③ 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉法制の到達点と課題① 【労働支援】
- 9回 障害者福祉法制の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉法制の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論II 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

障害をもつ人の自立と地域生活、施設利用などの問題を取り上げながら、権利保障とは何かについて検討する。また権利侵害の実態を紹介し、政府がつくる権利擁護システムの問題点や課題を整理し、あるべき権利擁護システムを検討する

教科書 /Textbooks

小賀 久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の注意と講義の総論
- 2回 障害概念と障害者①【ICF】
- 3回 障害概念と障害者②【身体障害、知的障害】
- 4回 障害概念と障害者③【精神障害、内部障害等】
- 5回 現代社会と障害者福祉理念①【ノーマライゼーション、インテグレーション】
- 6回 現代社会と障害者福祉理念② - 理念の影響
- 7回 現代社会と障害者福祉理念③ - 我が国障害者の生活標準
- 8回 障害者福祉の法制度①【障害者基本法と障害者計画】
- 9回 障害者福祉の法制度②【障害者自立支援法】
- 10回 障害者福祉の法制度③【利用契約】
- 11回 障害者福祉のサービス体系① - 児童福祉法と障害児サービス体系
- 12回 障害者福祉のサービス体系② - 身体障害者福祉法とサービス体系
- 13回 障害者福祉のサービス体系③ - 知的障害者福祉法とサービス体系
- 14回 障害者福祉のサービス体系④ - 精神保健福祉法とサービス体系
- 15回 関連法とサービス体系、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老人福祉論I【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

産業化をベースとして、近代化が成熟するとともに、人口構造の高齢化が社会現象として多くの課題をもたらすことになった。更には人口減少が始まり、人口転換が急速に進展すると予測されている。このような現状では人口高齢化を単なる社会問題として把握するにとどまらず、社会経済的視野に立脚した人間洞察ができるような視点を身につけることが要求される。高齢者福祉論1では高齢者の生活実態と社会情勢、人口構造、介護需要とともに、介護の概念や対象及び理念、制度・政策の歴史的経緯、介護保険法や老人福祉法等を概説する。さらに、行政組織や民間団体の役割、財政等の理解を促すよう講義を進める予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2010年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【キーワード】

- 第1回～第2回 現代社会と人口減少、少子・高齢化問題と必要な政策課題【人口転換】
- 第3回～第5回 高齢者の生活実態や社会関係及び高齢者の生活支援の課題【生活支援】
- 第6回～第7回 老人福祉の歴史的経緯【施設・居宅サービス】【ノーマリゼーション】
- 第8回～第9回 老人福祉の法律と制度【老人福祉】
- 第10回～第11回 介護保険制度の概要【介護保険、権利擁護】
- 第12回～第14回 行政組織や民間団体の役割、財政等【行財政、民間活動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70% 授業態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障制度における社会福祉の位置づけや基本的制度に関する知識

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老人福祉論II 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人口構造の転換が始まっている。このことは多くの課題をもたらすことになる。老人福祉論2では、各論として介護保険制度や老人福祉制度等、関連する法制度について講義をする予定。また、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方及び専門職としての人間観に基づく相談援助、認知症や週末期ケア等について理解を促す予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2010年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店

その他は講義の中で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【キーワード】

- 第1回～第2回 老人福祉制度と関連法【老人福祉】
- 第3回～第4回 介護保険法と制度【介護保険】
- 第5回～第6回 介護保険法における組織及び団体【組織及び団体の役割】
- 第7回～第8回 介護専門職の役割と地域包括支援センター【地域包括】
- 第9回～第10回 介護予防に関する専門技術及び、相談援助の方法【介護予防】
- 第11回～第12回 認知症や週末期ケア、高齢者虐待等と権利擁護【介護過程、権利擁護】
- 第13回～第14回 老人福祉関連分野の活動 - 住宅、環境整備、サービス団体・組織【民間活動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70% 授業態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障制度における社会福祉の位置づけや基本的制度に関する知識

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスの初歩的な外書を講読する事で、ビジネス、経済用語に慣れ、さらに高いレベルのビジネス関係洋書を読む為の準備とする。3年次以降に国際金融、国際貿易、国際経済を受講する予定の方はこのコースを強く勧める。

教科書 /Textbooks

Daniel R. Fusfeld. "The Age of the Economist". 洋版出版
(テキストはこちらで用意します)
授業で適宜通知する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: fundamentals of Economics1
Session 3: fundamentals of Economics2
Session 4: fundamentals of Economics3
Session 5: fundamentals of Economics4
Session 6: chapter 1 of The Age of Economist
Session 7: chapter 2 of The Age of Economist
Session 8: chapter 3 of The Age of Economist
Session 9: chapter 4 of The Age of Economist
Session 10:chapter 5 of The Age of Economist
Session 11:chapter 6 of The Age of Economist
Session 12:chapter 7 of The Age of Economist
Session 13:chapter 8 of The Age of Economist
Session 14:chapter 9 of The Age of Economist
Session 15:chapter 10 of The Age of Economist

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 10 Presentation:30 Midterm quiz:20 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

世界経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識を身につけることを目的とする。この授業では、貿易、直接投資および多国籍企業、国際通貨・国際金融など世界経済を成り立たせている主要な経済活動分野について学習していく。

教科書 /Textbooks

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『新版グローバルエコノミー』有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松村文武・関下稔・藤原貞雄・田中素香編『現代世界経済をとらえる』東洋経済新報社
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 図表で見た世界経済の概観
- 2回 国際貿易システムの課題 1 【19世紀】【戦後】
- 3回 国際貿易システムの課題 2 【WTOの成立と機能】
- 4回 国際貿易システムの課題 3 【WTOの諸課題】【FTA・EPA】
- 5回 国際貿易の基本構造 1 【貿易の基本的原理】【交易条件】
- 6回 国際貿易の基本構造 2 【要素賦存】【産業内貿易】
- 7回 海外直接投資と多国籍企業 1 【直接投資と多国籍企業の現状】【直接投資の目的】
- 8回 海外直接投資と多国籍企業 2 【多国籍企業の行動様式】【M&A】
- 9回 世界経済の中のIT産業 【IT革命の影響】【IT産業の世界展開】
- 10回 国際収支と外国為替 1 【国際収支】【国際収支とマクロバランス】
- 11回 国際収支と外国為替 2 【外国為替市場】【為替レート】
- 12回 金融のグローバル化と国際通貨システム 1 【ブレトンウッズ体制】
【変動相場制への移行】
- 13回 金融のグローバル化と国際通貨システム 2 【国際金融市場】
- 14回 金融のグローバル化と国際通貨システム 3 【金融のグローバル化】【国際金融危機】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験またはレポート ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、参考文献の他に、経済に関する入門書をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

世界経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識を身につけることを目的とする。この授業では、世界経済を構成している発展途上国と先進諸国の経済を概観し、世界が抱えている諸問題を経済の視点から考察していく。

教科書 /Textbooks

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『新版グローバルエコノミー』有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松村文武・関下稔・藤原貞雄・田中素香編『現代世界経済をとらえる』東洋経済新報社
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 南北間格差から見た世界経済の概観
- 2回 グローバル化の中の経済開発問題1 【開発戦略】【ビッグプッシュ】【構造調整】
- 3回 グローバル化の中の経済開発問題2 【途上国間の格差】【人間開発】
- 4回 グローバル・イシューと国際レジーム1 【南北問題】【グローバル化の非対称性】
- 5回 グローバル・イシューと国際レジーム2 【地球環境問題】【環境問題での非対称性】
- 6回 グローバル・イシューと国際レジーム3 【ミレニアム開発目標】
【ワシントン・コンセンサス】【貧困削減レジーム】【グローバルガバナンス】
- 7回 「東アジアの奇跡」とその教訓 【東アジアモデル】【アジア通貨危機】【BRICs】
- 8回 アジアにおける地域経済圏1 【アジア経済の発展】【ガット/WTOと地域統合】
- 9回 アジアにおける地域経済圏2 【AESAN】【APEC】【日本の対アジア戦略】
- 10回 ヨーロッパ経済の現状と課題1 【地域統合の歩み】【ユーロの導入】
- 11回 ヨーロッパ経済の現状と課題2 【ユーロ導入後のヨーロッパ経済】【失業問題】
【ヨーロッパの社会モデル】
- 12回 アメリカ経済の現状と課題 【ニューエコノミー】【サブプライム】
- 13回 国際観光と国際労働力移動1 【国際観光の現状】【新しい国際観光の形態】
【社会的・経済的効果】
- 14回 国際観光と国際労働力移動2 【国際労働力移動の現状】【社会的・経済的効果】
【日本における外国人労働者問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験またはレポート ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、参考文献の他に、経済に関する入門書をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を高める。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J.E.スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3~4回 需要、供給、および政府の施策: 【価格規制】
- 5~6回 市場と厚生: 消費者、生産者、市場の【効率性】
- 7~8回 需給分析の応用: 【余剰分析】、【課税】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】費用、【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】 【限界収入】、【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学II 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く学習する。ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を解説する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J.E.スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法、
- 第2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 第3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 第4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 第5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 第6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 第7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 第9回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 第10回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 第11回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 第12回 【生産者行動の理論】とその応用
- 第13回 市場と市場の効率性: パレート最適、「厚生経済学」の基本的考え方
- 第14回 ミクロ経済学再考、展開
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリの受講者は「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1)【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2)【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3)【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4)【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5)【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1)【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2)【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3)【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1)【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2)【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3)【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4)【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5)【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。この講義では財政政策の有効性、実体経済と金融資産市場の相互作用、経済成長の基礎理論といった主題に関して解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性について(1)
- 3回 財政政策の有効性について(2)
- 4回 財政政策の有効性について(3)
- 5回 財政政策の有効性について(4)
- 6回 利率の流動性選好理論(1)
- 7回 利率の流動性選好理論(2)
- 8回 利率の流動性選好理論(3)
- 9回 利率の流動性選好理論(4)
- 10回 IS-LMモデル(1)
- 11回 IS-LMモデル(2)
- 12回 IS-LMモデル(3)
- 13回 経済成長の基礎理論(1)
- 14回 経済成長の基礎理論(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。寡占のような経済現象に限らず、様々な分野の分析を行う予定。2つの演習を行う。1つは、道具の操作性を高める演習。もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。
岡田章 『ゲーム理論・入門-人間社会の理解のために』有斐閣、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 産業組織論(経済学)とゲーム理論【背景の理解】
2-7回 戦略形・均衡概念とその応用【静学・数量競争・価格競争】
8-12回 展開形・均衡概念とその応用【動学・数量競争・価格競争】
13-15回 不完備情報・均衡概念とその応用【情報・ネットワーク財】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. Introduction to Industrial Organization. Cambridge, MA: MIT Press. 2000.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2-3回 ミクロ経済学の復習【費用の復習】
- 4-5回 完全競争【ベンチマーク】
- 6-7回 寡占と公共政策【公正取引委員会の仕事】
- 8-9回 独占と公共政策【公正取引委員会の仕事】
- 10回 カルテル【公正取引委員会の仕事】
- 11-12回 市場構造分析【極限定理と無限繰り返しゲーム】
- 13回 自然独占と差別価格【余剰】
- 14-15回 標準化とネットワーク外部性

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

産業組織論I・ミクロ経済学の知識を前提とする。事前にミクロ経済学の講義を受講すること。自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の授業は、経済地理学の基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。講義全体のキーワードは、立地論、企業立地、産業配置である。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
 - 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
 - 3回 企業の立地行動(I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
 - 4回 企業の立地行動(II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
 - 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
 - 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
 - 7回 企業の立地行動(III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
 - 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
 - 9回 企業の立地行動(IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
 - 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
 - 11回 7～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
 - 12回 企業の立地行動(V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
 - 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
 - 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
 - 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10～20% 期末試験 ... 80～90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：この科目を履修し、経済地理学II、地域経済、地域政策を学習することができます。経済地理学は、後の3科目を含めて、経済の空間現象(情報空間を含む)を総合的に、幅広く学習する内容になっています。経済地理学の基礎である立地論の学習は、経済地理学の講義で重点的に行うことになっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学II 【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2学期は日本の産業配置と地域政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。講義全体のキーワードは、立地論、産業配置、地域政策である。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 イントロダクション 【経済地理学】 【都市】 【地域】 【地域政策】
 - 2回 オフィスの立地論 【オフィス】 【本社立地】 【支店立地】 【フェイス・トゥ・フェイス】
 - 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】 【付け値曲線】 【土地利用】
 - 4回 都市内システム 【都市】 【バージェス】 【ホワイト】
 - 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】 【ブレット】 【地方中枢管理都市】
 - 6回 1～5回の復習とまとめ
 - 7回 企業活動と地域 【企業機能】 【地域間システム】 【生活圏】
 - 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】 【拠点開発方式】
 - 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】 【テクノポリス】
 - 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】 【東京一極集中】 【世界都市】
 - 11回 6～10回の復習とまとめ
 - 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】 【産業創出の風土】
 - 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】 【立地要因】 【基礎的地域構造】
 - 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代の地域構造】
 - 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10～20% 期末試験 ... 80～90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：この科目を履修しながら、地域経済を、また履修後に地域政策を学習することができます。経済地理学は、後の2科目を含めて、経済の空間現象(情報空間を含む)を総合的に、幅広く学習する内容になっています。経済地理学の基礎である立地論の学習は、経済地理学の講義で重点的に行うことになっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、直接投資を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 比較優位の理論I【絶対優位】【貿易パターン】
- 3回 比較優位の理論II【リカードモデル】【比較優位】【貿易の利益】
- 4回 ミクロ経済学の復習【生産可能性曲線】【無差別曲線】
- 5回 一般均衡分析【貿易三角形】【オファー曲線】
- 6回 要素賦存の理論I【ヘクシャー＝オリーン・モデル】【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 要素賦存の理論II【リプチンスキーの定理】【ストルパー＝サムエルソンの定理】
- 8回 規模の経済と不完全競争
- 9回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 10回 小国の貿易政策【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 小国の貿易政策【数量割当政策】
- 12回 大国の貿易政策【最適関税の理論】
- 13回 経済統合【自由貿易地域】
- 14回 国際要素移動【海外直接投資】
- 15回 国際要素移動【労働の国際移動】

成績評価の方法 /Assessment Method

(授業中の) 小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論II 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 国際収支表【経常収支】【資本収支】
- 3回 異時点取引としての国際金融取引【時間選好率】【利子率】
- 4回 外国為替の基礎【為替相場制度】【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 5回 為替レートの決定要因I【購買力平価】
- 6回 為替レートの決定要因II【金利平価】
- 7回 為替レートの決定理論【フロー・アプローチ】【アセット・アプローチ】
- 8回 為替介入【不胎化政策】
- 9回 開放経済の45度線分析【国民所得決定】
- 10回 開放経済下のマクロ経済政策I【IS曲線】、【LM曲線】、【BP曲線】
- 11回 開放経済下のマクロ経済政策II【マンデル＝フレミングモデル】【固定相場制】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策III【マンデル＝フレミングモデル】【変動相場制】
- 13回 国際金融システムI【通貨危機の構造】
- 14回 国際金融システムII【国際通貨制度の考え方】
- 15回 国際金融システムIII【通貨統合の論理】

成績評価の方法 /Assessment Method

(授業中の) 小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共経済学【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の目的は、公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について理解し、また1、2年次に学習したミクロ経済学、マクロ経済学を利用して、公共部門の経済活動について分析することです。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏『基礎コース 公共経済学』新成社（1998）○
井堀利宏『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社（2005）○
マンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社（2005）○
スティグリッツ『公共経済学』（上・下）（第2版）（2003）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析【現在価値】、【割引率】
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% 課題...20% 期末試験...80%
遅刻、講義中の私語、携帯電話の使用などは減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論I【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動について学習する。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回～3回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 4回～6回 家計の金融活動【資産選択】【負債】
- 7回～10回 企業の金融活動【MM定理】【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 11回～14回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストまたは宿題 ... 30% 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論II 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「金融論I」に引き続き、日本の金融システムを中心に金融制度と金融理論の理解を深める。本講義では、銀行の経済活動やその他金融機関の役割を政府の規制・保護政策を交えて学習する。これらを学習することで、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～3回 わが国の銀行とメインバンク制【不良債権処理】【BIS】規制
- 4回～6回 プルーデンス政策【銀行規制】【破綻処理】
- 7回～10回 日本銀行と金融政策【中央銀行の独立性】【金融政策の波及経路】
- 11回～14回 わが国の金融政策【バブル経済】【量的緩和政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストまたは宿題 ... 30% 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくこと、講義内容が理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の日本で、輸入品と関係なしに暮らすことはできない。このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のものは使用しないよう努力する。講義全体のキーワードは、自由貿易と保護貿易である。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社，2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 自由貿易への批判
- 3回 自由貿易の必要性
- 4回 自由貿易の歴史【A.スミス】【D.リカード】【穀物法】
- 5回 重商主義の問題点
- 6回 絶対優位【A.スミス】【2国2財1生産要素モデル】
- 7回 比較優位【D.リカード】【2国2財1生産要素モデル】
- 8回 比較優位成立の確認
- 9回 貿易利益：計算を用いて
- 10回 貿易利益：図を用いて【無差別曲線】【生産可能性曲線】
- 11回 ヘクシャー＝オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 12回 リプチンスキー定理【2国2財2生産要素モデル】
- 13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 14回 ストルパー＝サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、直接投資に関してどのような選択をするのか尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先国選択において偏りが見られることを紹介していきたい。講義全体のキーワードは、合理的な選択と非合理的な選択である。

ゲーム理論を紹介するので、算数レベルのものに対してアレルギーのある人は避けた方が良いかもしれないが、苦手レベルであれば、ついていけるような講義を目指す。

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社，2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【標準偏差】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク：SARS反日感情
- 14回 反日感情（中国での反日デモ）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市財政I【昼】

担当者名 李 友炯 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義では、近年盛んに議論されている地方分権について、国と地方の財政関係に注目し、経済学的な観点から説明する。地方財政の現状と理論を学習し、地方財政に関する知識のみならず、理論的な考え方ができるようになることを目的とする。
1学期では、地方財政の現状と基本的な理論を中心に授業を進める。

教科書 /Textbooks

佐藤 主光『地方財政論入門』新世社(2009年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 地方分権改革【地方分権】、【三位一体の改革】
 - 2回 地方財政の抱える課題【地域間格差】
 - 3回 地方の果たす役割【国と地方の役割分担】
 - 4回 地方財政と経済学【パレート効率性】、【応益原則】
 - 5回 財政の役割【公共財】、【財政の3機能】
 - 6回 機能配分論【資源配分】、【所得再分配】、
 - 7回 地方分権化について【課税自主権】
 - 8回 分権化定理【分権化定理】
 - 9回 「規律づけ」としての競争【足による投票】
 - 10回 地域間外部性【NIMBY】
 - 11回 自治体規模の決定【混雑現象】
 - 12回 地域経済の活性化【地域間競争】
 - 13回 分権化と政府のアカウントビリティ【水平的競争】、【垂直的競争】
 - 14回 公共部門のガバナンス【外部性の内部化】、【道州制】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に予習することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市財政II【昼】

担当者名 大野 正久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義では、近年盛んに議論されている地方分権について、国と地方の財政関係に注目し、経済学的な観点から説明する。地方財政の現状と理論を学習し、地方財政に関する知識のみならず、理論的な考え方ができるようになることを目的とする。
2学期では、税制と政府間財政移転を中心に授業を進める。

教科書 /Textbooks

佐藤 主光『地方財政論入門』新世社(2009年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 わが国の地方税【所得課税】、【消費課税】、【資産課税】
 - 2回 望ましい地方税の条件【課税自主権】
 - 3回 租税外部性の理論【租税競争】、【租税輸出】、【垂直的租税外部性】
 - 4回 地方税にふさわしい税源は？【地方税】
 - 5回 政府間財政移転のタイプと機能【政府間財政移転】
 - 6回 財政移転の経済効果【所得効果】、【フライペーパー効果】
 - 7回 地域間財政力格差の是正【財政調整機能】、【財政余剰】
 - 8回 政府間補助金の政治経済学【レント・シーキング】、【ソフトな予算制約】
 - 9回 政府間財政移転制度【交付税】
 - 10回 国庫補助負担金制度【国庫補助金】
 - 11回 地方交付税制度の実際【交付税】
 - 12回 地方債制度【地方債】
 - 13回 効率化の視点【効率性】
 - 14回 地方分権改革に向けて【地方分権】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に予習することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることとする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

奥田宏司ほか編(2009)『現代国際金融-構図と解明-』法律文化社(価格未定。4月に刊行予定)。
なお、このテキストは国際金融論IIのテキストとしても使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 国際収支【複式簿記の原理】
 - 2回 国際収支【経常収支】【資本収支】
 - 3回 外国為替と国際通貨【並為替・逆為替】
 - 4回 外国為替と国際通貨【基軸通貨】
 - 5回 為替相場と円高・円安【購買力平価】
 - 6回 為替相場と円高・円安【実効為替レート】
 - 7回 戦後の国際通貨制度【IMF】
 - 8回 戦後の国際通貨制度【変動相場制】
 - 9回 発展途上国の開発金融【世界銀行】
 - 10回 発展途上国の開発金融【直接投資】
 - 11回 ドル体制の変遷【プラザ合意】
 - 12回 ドル体制の変遷【世界金融危機】
 - 13回 現代の国際金融・資本市場と金融機関【投資銀行】
 - 14回 現代の国際金融・資本市場と金融機関【デリバティブ】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況... 0 % 期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

奥田宏司ほか編(2009)『現代国際金融-構図と解明-』法律文化社(価格未定。4月に刊行予定)。
なお、このテキストは国際金融論Iのテキストとしても使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 欧州通貨統合と「ユーロ体制」【安定成長協定】
 - 2回 欧州通貨統合と「ユーロ体制」【ERM2】
 - 3回 資本取引の自由化とエマージング市場国の通貨危機【アジア金融・通貨危機】
 - 4回 資本取引の自由化とエマージング市場国の通貨危機【ロシア危機】
 - 5回 東アジアの為替制度とドル、円、人民元【ドルペッグ】
 - 6回 東アジアの為替制度とドル、円、人民元【不胎化介入】
 - 7回 アメリカ発の金融危機【サブプライム危機】
 - 8回 アメリカ発の金融危機【リーマンショック】
 - 9回 欧州への金融危機の波及【流動性危機】
 - 10回 欧州への金融危機の波及【ラトビア危機】
 - 11回 危機の世界への波及と基軸通貨ドルのゆくえ【金融安定化法】
 - 12回 危機の世界への波及と基軸通貨ドルのゆくえ【外貨準備】
 - 13回 DVD学習(国際通貨危機に関する事例についてのNHKスペシャルなど)
 - 14回 DVD学習内容の解説
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況... 0 % 期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。 東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年、井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年、石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第 2回 経営戦略論の議論の歴史 1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第 3回 経営戦略論の議論の歴史 2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第 4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第 5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第 6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第 7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第 8回 競争の戦略 1【5フォース】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第 9回 競争の戦略 2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第 10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第 11回 戦略と企業間関係【サプライチェーン】、【ビジネスシステム】【アライアンス】
- 第 12回 経営戦略と組織 1【組織形態】、【事業部性】、【マトリックス組織】
- 第 13回 経営戦略と組織 2【組織革新】、【組織学習】【知識創造】。
- 第 14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果によるが、必要に応じて出席点。小テストの結果を加味する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 齋藤 貞之 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営組織論は、現代の企業や行政組織など組織体を対象とした経営理論であり、リーダーシップ論、戦略論などの基礎をなす理論である。講義のネライは、組織のダイナミズムを理論的かつ実践的に理解できることである。

講義では、まず組織の基礎理論から出発し、近代組織論の系譜をたどる。これら基礎理論の理解をふまえて次に、現実の組織ないしマネジメントのダイナミズムを理解する能力を養成する。IT革命の進展やグローバル化する経営環境変動のなか、組織はいかに主体的かつダイナミックに社会に働きかけるシステムとして動いているのかを明らかにし、組織進化、バーチャル化など現代組織の動向をとらえることにする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。以下の参考文献の他は、授業中にその都度紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ ジョアン・ マグレッタ『なぜマネジメントなのか』(2003年、ソフトバンクパブリッシング)
- ・ ゲイリー・ ハメル『経営の未来』(2008年、日本経済新聞社)
- ・ ジェームズ・ コリンズ他『ビジョナリーカンパニー』(1995年、日経B P 出版センター)
- ・ ジェームズ・ コリンズ『ビジョナリーカンパニー②飛躍の法則』(2002年、日経B P 出版センター)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

授業スケジュールは主に以下のとおり。ただし、経営組織のダイナミズムは日々、変化しているのでスケジュール、授業内容は変更することがある。

- 1回 経営組織論の講義概要。【マネジメント】【オーガニゼーション】【コミュニティ】
- 2回 伝統的組織の理解。【ウェーバー】【ビューロークラシー】【パーキンソンの法則】
- 3回 近代組織論の発端 その1 【バーナード】【能率と有効性】【組織成立の3要素】
- 4回 近代組織論の発端 その2 【サイモン】【意思決定論】【SR図式】
- 5回 最適の組織とは：コンティンジェンシー理論【ローレンス＝ローシュ】【コンティンジェンシー】
- 6回 組織の国際比較【組織進化プロセス】【組織類型】
- 7回 最適の組織とは：ネオ・コンティンジェンシー理論【カオス】【ゴミ箱理論】【あいまい性】
【自己組織化】【組織文化】
- 8回 事例研究：ジャック・ウエルチのGE革命【ナンバーワン戦略】【選択と集中】【ワークアウト】
- 9回 事例研究(続)：世界最強の経営者から何を学ぶか【価値共有】
- 10回 最強組織への飛躍の法則【コリンズ】【ビジョナリーカンパニー】【第5水準の経営者】
- 11回 IT革命とマネジメントの変容【IT革命】【距離の死】【トランザクション・コスト】
- 12回 組織リーダーの資質とは【リーダーシップ】【アートかサイエンスか】
- 13回 21世紀型の組織とは【ハメル】【マネジメント・イノベーション】
- 14回 日本の組織の特性について【日本の経営】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学部学生は、「マネジメント論基礎」を履修しておくことが望ましい。また、「経営組織論」と並行して「経営戦略」を受講することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂が公開されています。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 2回 人的資源管理の歴史的発展【人事管理論】【人的資源管理論】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務設計【職務拡大】【職務充実】
 - 5回 組織設計【分業】【調整】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 職能資格制度と人事考課制度【人事等級制度】【人事考課】
 - 8回 専門職制度【組織内プロフェッショナル】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 教育訓練制度とキャリア開発【選択型研修】【自律的キャリア】
 - 11回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
 - 11回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【雇用形態の多様化】
 - 12回 女性労働【ジェンダー】【ダイバーシティ】
 - 13回 労使関係【企業別労働組合】
 - 14回 人的資源管理領域における最近の学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% (出席は不定期に取り、単位の修得条件とする) 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくといよい。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業の財務活動に関する基礎知識を提供することを目的とします。具体的には、企業（株式会社）の事業活動の元手となる資本を提供している株主の観点から、企業がどのように資本調達を行い、実物資産へ投資し、また、投資からのリターンを投資家に返すべきか（ペイアウト）を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹、『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年4月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門』，日本経済新聞社（2004年9月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN コーポレート・ファイナンスの世界
- 2回～4回 コーポレート・ファイナンスの世界【期待リターン，リスク（標準偏差），証券，発行市場，流通市場，ゴーイング・コンサーン，減価償却費，配当，内部留保】
- 5回 投資の基礎知識【設備投資，研究開発投資，金融投資，貸借対照表，損益計算書】
- 6回～7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達【額面，時価，創業者利得，IPO，普通株，優先株，ハイリスク・ハイリターン，ROA，ROE】
- 8回～9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達【普通社債，ワラント債，転換社債，MSCB】
- 10回～11回 配当の基礎知識【配当政策，配当性向，配当利回り，自社株買い戻し，株式分割】
- 12回～14回 コーポレート・ガバナンス【所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード 取締役会制度，執行役員制度，大株主，敵対的買収，メインバンク，株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% 課題...10% 試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回「電卓」を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は企業ファイナンスIで学習した内容をふまえて、株主の観点から、企業の財務活動を考える上で必要になる理論的基礎を与えることを目的とします。具体的には、「将来の1万円と現在の1万円ではどちらの方が価値が高いか」、「企業価値を最大化するための資本構成は存在するか」などを学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹, 『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス(改訂版)』, 創成社(2009年4月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸, 『コーポレート・ファイナンス入門』, 日本経済新聞社(2004年9月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 企業ファイナンスIの復習
- 2回~3回 現在価値計算
【現在価値(PV), 将来価値(FV), 安全利子率, リスクプレミアム, 投資信託】
- 4回~6回 株式価値・負債価値と企業価値【金融商品, 利付債, 割引債, クーボン, 配当割引モデル(DDM), 企業価値, 株式価値, 負債価値】
- 7回~9回 資本コスト【資本コスト, 最低要求収益率, 安全資産, 加重平均資本コスト, ポートフォリオ, マーケット・ポートフォリオ, 資本資産評価モデル(CAPM), β (ベータ)】
- 10回~11回 投資決定の基礎理論【投資決定, 割引キャッシュフロー(DCF)法, 正味現在価値(NPV), 内部収益率(IRR), 回収期間法】
- 12回~14回 資本構成の基礎理論【レバレッジ効果, MM理論, 裁定取引, 法人税, 倒産コスト, トレード・オフ・モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% 課題...10% 試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回「電卓」を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、（2007年11月）、1,800円（当時）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会计学）とは何か？【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 発生主義と実現主義【費用の発生】【収益の実現】
- 8回 資産とは何か【流動・固定分類】
- 9回 負債とは何か【債務】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 純資産とは何か【資本】【利益】
- 12回 企業会計のルール【企業会計原則】
- 13回 明瞭性の原則【ディスクロージャー】
- 14回 財務報告【投資家】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、（2007年11月）、1,800円（当時）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会（2005年）、4,600円（当時）
西澤健次『負債認識論』国元書房（2005年）、2,300円（当時）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計と言語【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 費用配分という考え方【期間損益】
- 4回 減価償却について【定額法】【定率法】
- 5回 引当金の会計（その1）【退職給付会計】
- 6回 引当金の会計（その2）【条件付債務】【修繕引当金】
- 7回 負債概念について【退職給付会計】
- 8回 有価証券の会計【評価益】
- 9回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 10回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 11回 有価証券評価益と実現概念【原価】【時価】
- 12回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 13回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 14回 財務報告【金融商品取引法】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論の講義をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中小企業論 【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていくことを、本コースの目的とする。

教科書 /Textbooks

5月頃発売予定の中小企業庁編「2010年版中小企業白書」経済産業調査会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】 【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】 【問屋制下請】 【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 "
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】 【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理
 - 第13回 "
 - 第14回 "
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
出席・課題等の平常点・・・30% 期末レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コーポレートガバナンス【昼】

担当者名 晴山 英夫 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレートガバナンス論が社会的な注目を集めている。この問題は単に企業のあり方や企業像にかかわるだけではなく、日本企業の活方や国際競争力、さらに経営者の戦略決定に結びついているからである。本講義では、経営学の観点からその意義と課題を明らかにし、国際比較を試みる。

教科書 /Textbooks

指定しない。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 コーポレートガバナンスとは何か【経営者牽制】、【企業主権者論】、【会社は誰のものか】
 - 2回 所有と経営の分離をめぐる【経営者支配】、【経営者効用の最大化】
 - 3回 エージェンシー理論とガバナンス【会社支配権市場の牽制】、【機関投資家】、【発言と退出】【ストック・オプション】
 - 4回 M&Aと経営者権力【敵対的企業買収】、【経営者の自己保全】
 - 5回 ステークホルダーと企業の社会的責任【株主理論】、【利害関係者理論】
 - 6回 株式会社支配論とコーポレートガバナンス論、【支配主体論】、【統治主体論】
 - 7回 アメリカのガバナンス【アングロサクソン型資本主義】、【株主重視型経営】
 - 8回 ドイツのガバナンス【ライン型資本主義】、【労使同権型経営】
 - 9回 日本のガバナンス【経営者主権】、【メインバンク】、【権力の空白】
 - 10回 中国のガバナンス【国有企業改革】、【政企不分】、【インサイダー・コントロール】
 - 11回 日本のガバナンス改革論1【取締役会改革】、【執行役員制度】、【社外取締役】
 - 12回 日本のガバナンス改革論2【委員会等設置会社制度の導入】
 - 13回 日本の事例研究【ソニーの事例】
 - 14回 日本のガバナンスの展望【ガバナンス不在の克服】【グローバル・スタンダード】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題、小テストを含む)...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞や雑誌等の関連記事を読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科学教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科学教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上を図る。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領」 社会科学編 文部科学省

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育の目的と社会科学の役割
- 2回 地理的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 3回 世界と日本の様々な地域
- 4回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 5回 歴史のとらえ方と古代・中世・近世・近現代の日本と世界
- 6回 公民的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 7回 私たちと現代社会・政治・経済と国際社会の諸問題(グループ討議)
- 8回 学習指導要領の変遷と社会科学の歩み
- 9回 指導計画の作成と内容の取り扱い
- 10回 資料活用と作業的・体験的な学習
- 11回 指導案の作成と留意点
- 12回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い
- 13回 戦前・戦後の社会科学教育 [戦前・戦後教育改革]
- 14回 学習指導要領の総則・学習基本法施行規則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 学習指導案 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメと資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上を図る。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領」 社会科編 文部科学省

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育の目的と社会科の役割
- 2回 地理的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 3回 世界と日本の様々な地域
- 4回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 5回 歴史のとらえ方と古代・中世・近世・近現代の日本と世界
- 6回 公民的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 7回 私たちと現代社会・政治・経済と国際社会の諸問題(グループ討議)
- 8回 学習指導要領の変遷と社会科の歩み
- 9回 指導計画の作成と内容の取り扱い
- 10回 資料活用と作業的・体験的な学習
- 11回 指導案の作成と留意点
- 12回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い
- 13回 戦前・戦後の社会科教育 [戦前・戦後教育改革]
- 14回 学習指導要領の総則・学習基本法施行規則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 学習指導案 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメと資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法B 【昼】

担当者名 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上をはかる。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領」 社会科編 文部科学省

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これからの学校教育に求められるもの [教師の使命感]
- 2回 教師に求められる資質能力 (グループ討議) [自己分析] [目指す教師像]
- 3回 学校の教育課程
- 4回 学習指導の評価
- 5回 生徒の実態把握と教材研究 (グループ討議) [生徒の特性・生徒との信頼関係]
- 6回 指導案の作成と問題点 その1
- 7回 指導案の作成と問題点 その2
- 8回 地理的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 9回 歴史的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 10回 公民的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 11回 高等学校学習指導要領「地歴科」の内容と取り扱い
- 12回 高等学校学習指導要領「公民科」の内容と取り扱い
- 13回 教育基本法・学校教育法改正案の要旨
- 14回 学習基本法施行規則・地方教育行政法改正案要旨
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 授業中の質疑 ... 30%
応答での絶対
評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジユメや資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法B 【昼】

担当者名 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上をはかる。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領」 社会科編 文部科学省

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これからの学校教育に求められるもの [教師の使命感]
- 2回 教師に求められる資質能力 (グループ討議) [自己分析] [目指す教師像]
- 3回 学校の教育課程
- 4回 学習指導の評価
- 5回 生徒の実態把握と教材研究 (グループ討議) [生徒の特性・生徒との信頼関係]
- 6回 指導案の作成と問題点 その1
- 7回 指導案の作成と問題点 その2
- 8回 地理的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 9回 歴史的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 10回 公民的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 11回 高等学校学習指導要領「地歴科」の内容と取り扱い
- 12回 高等学校学習指導要領「公民科」の内容と取り扱い
- 13回 教育基本法・学校教育法改正案の要旨
- 14回 学習基本法施行規則・地方教育行政法改正案要旨
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 授業中の質疑 ... 30%
応答での絶対評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジユメや資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喩・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 授業観察の方法	【観察記録】 【観察方法】
7回 学級経営について	【学習指導要領】 【チームサポート】
8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ	【体験学習】 【働きかけ】
9回 子どもの人権と教育 材研究】 【学習指導案】	【人権】 【自尊感情】 10回 教材研究と授業構想 【刻々の教
11回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
12回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
13回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
14回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】
15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備	【教師の資質】 【事前準備】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5,6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当する部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：ことばの不思議
- 第2回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第3回 連濁
- 第4回 鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 数量詞
- 第11回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第12回 日本語と英語の受動態
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業中の態度...10% 課題...25% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 問題提起、戦争の定義の難しさ
- 5回～6回 平和の定義、積極平和論
- 7回～8回 絶対平和主義(非暴力主義として)
- 9回～10回 絶対平和主義(反戦主義、日本の平和主義)
- 11回～13回 正戦論の登場
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10%、課題...10%、期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。1年生科目の「歴史と政治」を受講している方がわかりやすい。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されません。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生 【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる①
- 3回 家族を見つめる②
- 4回 家族を見つめる③
- 5回 家族モデルを考える①
- 6回 家族モデルを考える②
- 7回 家族モデルを考える③
- 8回 家族の危機を回避する①
- 9回 家族の危機を回避する②
- 10回 家族の危機を回避する③
- 11回 家族の危機を回避する④
- 12回 家族の危機を回避する⑤
- 13回 家庭裁判所の利用を考える①
- 14回 家庭裁判所の利用を考える②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」をことさらに語るには、どのような効力があるのだろうか。誰が何時、何を「文化」と名づけて、どのように語り、どのような意味と価値を生み出したのか。そこにどのような政治的な効力があるのかをよみとり、「文化と政治」という問題を検討したい。

具体的には、①日本の国民国家形成期である明治期、②総力戦の体制を構築した昭和初期、そして③現代の文化財保護等における、「文化」という名づけと、多様な「資源化」の政治を検討する。

また講義期間中に、外部講師による講義で、日本以外のフィールドを扱うことを予定している。

ビジョン科目「人間と文化」を前提に講義するので「人間と文化」を履修していることが望ましい。

教科書 /Textbooks

必要な資料は講義中にプリントで配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「文化」を語るとは？【文化】【国民国家】
- 2回～5回 国民国家・日本の形成と「文化」の政治 : 「美術」と「文学」という近代
【明治期・日本】【内国勸業博覧会】【言文一致】【国民文学】
- 6回～9回 動員の政治と「文化」 : 大政翼賛会文化部の活動から【地方文化運動】
- 10回～13回 資源として「文化」・商品としての「文化」 【文化財保護行政】【観光】
- 14回 文化について学ぶとは
- 15回 まとめと質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート80% 授業内小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター
 ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科, 中溝 幸夫 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼球運動研究の基礎知識：読みと眼球運動(1)：(中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているか：読みと眼球運動(2)：(中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか：言語活動の認知神経科学入門(中溝)
- 第5回 未定
- 第6回 ことばはどのように身につけられるのか：言語習得(漆原)
- 第7回 ことばはどのように失われるのか：脳科学と失語症・失文法(漆原)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子(日高)
- 第9回 特別講義(外部講師)
- 第10回 概念と言葉：概念におけるプロトタイプ効果など(ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か：隠喩論(ストラック)
- 第12回 両義性と仄めかし：アイコン性、phonaesthemesなど(ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの：文法形式と意味の類像性(杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら？：ことばと思考・言語相対論(杉山)
- 第15回 まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% レポート...16%×5
 5名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 安全保障とは何か
- 3回～6回 第1テーマ 20世紀の戦争I～世界大戦
 - A.戦争と平和(戦争を学ぶ必要性、戦争の定義、戦争と平和)
 - B.戦争の経歴(絶対主義時代の戦争、革命戦争、近代戦争)
 - C.両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
 - D.戦争の変質(勢力均衡、アメリカの戦争観)
- 7回～8回 第2テーマ 20世紀の戦争II～核兵器の時代
 - A.原爆の出現(開発、完成、投下)
 - B.核兵器の種類と威力
 - C.核兵器出現に伴う変化
 - D.代理戦争(国際内戦)
 - E.核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 9回～10回 第3テーマ 21世紀の戦争I
 - A.冷戦終焉と「安全保障の終焉」?(「歴史の終焉?」「文明の衝突?」)
 - B.米国の脅威認識(911、国土安全保障戦略、ブッシュドクトリン、民主主義の拡大)
- 11回～14回 第4テーマ 21世紀の戦争II
 - A.「テロとの戦争」
 - B.破綻国家と人道的介入
 - C.正戦論の復権
 - D.対アフガニスタン武力行使の評価
 - E.イラク戦争
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの近代に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 近代科学と現象学
- 7回 生活世界論のはじまり(2) フッサールの近代批判
- 8回 生活世界論のひろがり(1) アーレント、人と思想
- 9回 生活世界論のひろがり(2) アーレントの近代批判
- 10回 公私の区別とその起源(1) 古代ギリシャ概説
- 11回 公私の区別とその起源(2) 古代ギリシャにおける政治
- 12回 宗教の私事性と公的領域(1) 宗教弾圧と異端審問
- 13回 宗教の私事性と公的領域(2) 社会との確執
- 14回 宗教の私事性と公的領域(3) 信仰とプライバシー
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容はハードだが、一年生向けの科目であることを考慮に入れ、分かりやすい解説に努めたい。聴講にあたっては、高校世界史の教科書を簡単に見直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体のイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。

この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを精神的な観点から考察しつつ、「生活世界」と「自己」のつながりをさらに掘り下げて分析する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本の身体のイメージI
- 3回 日本の身体のイメージII
- 4回 古代ギリシャの身体観I
- 5回 古代ギリシャの身体観II
- 6回 キリスト教共同体と身体I
- 7回 キリスト教共同体と身体II
- 8回 文学作品の中の身体
- 9回 近代社会の勃興と心身二元論
- 10回 現象学的身体論
- 11回 日本の身体のイメージIII
- 12回 現代社会と身体問題の変容I
- 13回 現代社会と身体問題の変容II
- 14回 現代社会と身体問題の変容III
- 15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...30% 期末レポート...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。事前の準備はとくに必要ないが、抽象的な議論が苦手な人には登録を勧めない。

なお、受講者の理解度をモニターすることで、内容を平易なものに変える可能性がある。その場合にはスケジュールどおりにならないことをあらかじめ了承願いたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは，病気や不適応事例の発生予防だけでなく，もっと幅広く，多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては，メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下，生活上の事故やミス，無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら，日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 - 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 - 3回～5回 人間の発達と自己形成【エリクソンの発達理論】
 - 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 - 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 - 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー】
 - 13回～14回 ライフプランについて(仕事と遊びの心理学)。生活分析カウンセリング
キャリアプラン 【自然】【遊び】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 授業の出席...40% 授業参加の態度・姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習) レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第 1 回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2 回 防犯の心得【警察官】：被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3 回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4 回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5 回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6 回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7 回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8 回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9 回 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10 回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせて行う。
- 第 11 回 救急法II火災や自然発生災害時での身の守り方救急法などを学習する
- 第 12 回 障害とノーマラジエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13 回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14 回 自己管理まとめ【保健師】：ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①出席：60% (出席と毎回のミニレポート) ②まとめ(ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布したレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考になさってください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話応対 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的>現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実と成長する秘訣 ③将来のヒントを学びます。講義全体のキーワードは「働くこと」「成長の秘訣」「将来のキャリア」です。

<進め方>講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果>将来の自分の進路を絞り込んでいる人は、どんな準備をすれば良いかが理解できます。将来の自分の進路がイメージできない人は、世の中の仕事の現実を知るチャンスです。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロフェッショナル人材の講演【働くこと】【成長の秘訣】【将来のキャリア】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業ごとのレポート60%、最終レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※第1回と最終回以外すべて社会人ゲストによる公演です(事情によりビデオになる場合あり)。
- ※講演する社会人が所属する企業や仕事に関して必ず予習をしてください。
- ※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
- ※2009年度企業：ジェイコム北九州、安川電機、門司港ホテル、TOTOインフォム、コクヨ、山口銀行。2010年度は公務員や教員、起業家、大企業の第一線で活躍する女性、地元で家庭と両立する女性などにも来て頂こうと思っています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学論・学問論【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 矢田 俊文 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これから大学生活を送る新入生に対し、大学とはなにか、大学で何を学び、新しい時代をどのように生き抜くべきかについて、真剣に考える機会を提供することを目的としている。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 「知の時代」と学問・大学
- 3回 戦後大学史 新制大学と学生急増の時代
- 4回 戦後大学史 18歳人口減少と大学改革の時代
- 5回 北九州市立大学の改革 中期計画と大学運営
- 6回 北九州市立大学の改革 教育改革1 学部学科再編
- 7回 北九州市立大学の改革 教育改革2 学生生活支援
- 8回 北九州市立大学の改革 地域貢献
- 9回 大学生活を始めるにあたって-大学生活から学んだもの-
- 10回 企業に入り社会人となって
- 11回 企業とは何か-企業経営から学んだこと-
- 12回 世界を知る
- 13回 世界から学ぶ
- 14回 社会人となるための心構え-新しい時代を生き抜くために-
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の感想文... 20% 総括レポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【規範の特性】【法の機能】【法の実在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑法】【法の適用】【憲法と刑法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'10』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か【意味世界】、【解釈】
- 第2回 量的調査と質的調査【量的データ】、【質的データ】
- 第3回 調査と研究の進め方【記述の問い】、【説明の問い】
- 第4回 社会調査を企画する【個別面接調査】、【留置調査】、【郵送調査】
- 第5～8回 ワーディングと調査票の作成【ダブル・バーレル】、【キャリア・オーバー効果】、【パーソナル - インパーソナル】
- 第8～9回 サンプリング【母集団】、【標本】、【無作為抽出法】、【標本誤差】
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成【コーディング】、【カラム設計】、【データ・クリーニング】
- 第11回 分布と統計量【単純集計】、【代表値】、【分散】、【標準偏差】、【分位数】
- 第12回 検定の考え方【帰無仮説】、【第1種、第2種の誤り】
- 第13～14回 クロス表と相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計を読む・統計をつくる【昼】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々は新聞やテレビを通して、膨大な統計データや調査結果に日々、さらされている。統計をつくるに際して種々の社会調査が行われるが、社会調査の手順を示して、社会調査の生み出す統計データを批判的に読み込む力を培う。

教科書 /Textbooks

谷・山本編『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

H.ザイセル『数字で語る 社会統計学入門』新曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の類型
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート又は試験 ... 80 % 授業での参加(質疑応答など) ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト入手して授業に参加のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ボレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ボレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修についての諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ドロップ・ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1、3対2) (1)
- 6回 応用練習 (2対1、3対2) (2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (1)
- 10回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (2)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム (2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム (3)
- 14回 ゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム(1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム(2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム(3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム(4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

遺伝子とは何か？細胞とは何か？本演習では「生命科学入門」をテーマとし、生命科学に関する基礎的な知識を身につける。関連図書・文献を読み、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年、芦田嘉之「やさしいバイオテクノロジー」ソフトバンククリエイティブ2007年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 DNA・遺伝子について基本的事項の説明(1)
- 3回 DNA・遺伝子について基本的事項の説明(2)
- 4回 DNA・遺伝子について基本的事項の説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 発表の仕方についての説明
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む) ... 30% 発表... 30% 期末レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
大学での勉強の仕方を一から学んでいきます (図書館の使い方、レジュメの作り方、本の読みかたなど) 。

教科書 /Textbooks
適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 インTRODクシヨン。
2回 図書館の使い方。
3回 ノートの取り方。
4~5回 本の読み方。
6~10回 レジュメの作り方。
7~13回 プレゼンテーションの仕方。
14回 総論
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
出席... 4 5 % 課題... 4 5 % 期末試験... 1 0 %
便宜上、上のように書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。なお、この「教養基礎演習I」は半期完結型の授業です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
特定のテーマを設定し、それを調べ、読み、考え、議論し、書くという作業を通して、大学で学ぶための基礎的なスキルを習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks
受講希望者と相談の上、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
何をテーマにして、どのように進めるかは、基本的には受講生と相談の上で決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method
授業への参加(発表・コメント)50パーセント、期末レポート50パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
参加する姿勢を重視する。無断欠席は、他の参加者に迷惑がかかるので、厳禁する。無断欠席を一回でもした場合、単位の取得を認めない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	グループディスカッション(1)	
2回	"	(2)
3回	"	(3)
4回	グループゲーム	(1)
5回	"	(2)
6回	自分自身を理解する	
7回	自分自身を人に理解させること	
8回	人を理解すること	
9回	集団で克服していくトレーニング	
10回	キャンプのオリエンテーション(1)	
11回	"	(2)
12回	"	(3)
13回	"	(4)
14回	"	(5)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 受講態度 ... 20% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講を義務づける。
I(1学期)では、まず各自が「テーマ」を決める。さらに、その「テーマ」について「問い」をたてる。平行して、社会的な考え方、文献資料の調べ方等についても学ぶ。さらに、社会的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。
報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2～5回 社会的なものの方・考え方 - 『知的複眼思考法』
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7～8回 情報収集の仕方(図書館データベース、国立国会図書館等の使い方)
- 第9回 「問い」のたてかた
- 第10～14回 実例 - 『「二ート」って言うな』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 30% 課題... 40% 参加度... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

分担を決め報告をしてもらう。また、内容についての質疑・応答を通して理解を深める。
文献を読んでくること、質疑に参加することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の翌年度の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に検索してみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。
* 教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手と呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに思想史上の古典に関する知識）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

教科書 /Textbooks

初回に紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 西洋古典の教養について
- 3回 聖書に関する基礎知識I
- 4回 聖書に関する基礎知識II
- 5回 古代ギリシャを見直すI
- 6回 古代ギリシャを見直すII
- 7回 読解と討論I
- 8回 読解と討論II
- 9回 読解と討論III
- 10回 読解と討論IV
- 11回 読解と討論V
- 12回 課題テーマに関する発表I
- 13回 課題テーマに関する発表II
- 14回 課題テーマに関する発表III
- 15回 課題テーマに関する発表IV

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況... 60% 口頭発表... 40%
(口頭発表のテーマに関しては授業内で別途指示する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加者全員ができるだけ多くの発言および発表の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
また、授業内で参照する資料に関しては、各自図書館でコピーしてくる必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！基礎編」です。このクラスでは、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。
このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。
バレーボールが好きな人を募集します。最大で15人程度を予定しています。座学と調査・実習を組み合わせ実施します。原則としてIとIIはセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス	第2回 スキルチェック①
第3回 スキルチェック②	第4回 バレーボールとは
第5回 状況判断とポイント	第6回 戦術理解：レセプションフォーメーション&サービス
第7回 戦術理解：アタックフォーメーション	第8回 戦術理解：アタック&ブロックガードフォーメーション
第9回 戦術理解：ブロックインフォーメーション	第10回 戦術理解：ブロックシステム
第11回 ゲーム分析：対象チームのフォーメーション分析	第12回 ゲーム分析：レセプション⇒攻撃のパターン・特徴
第13回 ゲーム分析：ディグ⇒攻撃のパターン・特徴	第14回 ケーススタディ
第15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことがあります。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力（人間関係力）を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。

また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

遺伝子とは何か？細胞とは何か？本演習では「生命科学入門」をテーマとし、教養基礎演習Iに引き続いて関連図書・文献を読み、科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身に付ける。身近な科学記事を選んで、研究内容についての自分の言葉でまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年、芦田嘉之「やさしいバイオテクノロジー」ソフトバンククリエイティブ2007年、池田清彦「寿命はどこまで延ばせるか？」PHP研究所2009年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 遺伝子・細胞について基本的事項の説明(1)
- 3回 遺伝子・細胞について基本的事項の説明(2)
- 4回 遺伝子・細胞について基本的事項の説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 関連図書・DVDの解説・紹介(6)
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(発表を含む)...50% 期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 大学での勉強の仕方を一から学んでいきます (図書館の使い方、レジュメの作り方、本の読みかたなど) 。

教科書 /Textbooks
 適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 インTRODクシヨン。
 2回 図書館の使い方。
 3回 ノートの取り方。
 4~5回 本の読み方。
 6~10回 レジュメの作り方。
 7~13回 プレゼンテーションの仕方。
 14回 総論
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 出席... 4 5 % 課題... 4 5 % 期末試験... 1 0 %
 便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。なお、この「教養基礎演習II」は半期完結型の授業です。「教養基礎演習I」をとっていない学生の履修を希望します。ご注意下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
特定のテーマを設定し、それを調べ、読み、考え、議論し、書くという作業を通して、大学で学ぶための基礎的なスキルを習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks
受講希望者と相談の上、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
何をテーマにして、どのように進めるかは、基本的には受講生と相談の上で決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method
授業への参加(発表・コメント)50パーセント、期末レポート50パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
参加する姿勢を重視する。無断欠席は、他の参加者に迷惑がかかるので、厳禁する。無断欠席を一回でもした場合は、単位の取得を認めない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 " (2) 期間
- 11回 " (3) 金額
- 12回 " (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成
- 14回 " (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 受講態度 ... 20% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講を義務づける。
II(2学期)では、まず、教養基礎演習Iで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告(テキスト批評)をしてもらい、議論を行う。なお、1~2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
Iと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2~6回 関連文献のテキスト批評(コメンタリー)
- 第6回 第1回論文検討会
- 第7~11回 関連文献のテキスト批評(コメンタリー)
- 第10回 第2回論文検討会
- 第11~14回 関連文献のテキスト批評(コメンタリー)
- 第15回 論文報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...15%課題(報告レジюмеと論文)...70%参加度...15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

分担を決め報告をしてもらう。また、内容についての質疑・応答を通して理解を深める。
文献を読んでくること、質疑に参加することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の翌年度の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に検索してみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。
* 教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス(戸蒔)

2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。

当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることにある。1学期の内容に続く発展的テーマをめぐって討論を重ねたあと、参加者各人には特定のテーマ・関心に基づいたプレゼンテーションを行なってもらう。

教科書 /Textbooks

プリントにて配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 哲学論文の読み方I
- 3回 哲学論文の読み方II
- 4回 文学作品への思想的アプローチI
- 5回 文学作品への思想的アプローチII
- 6回 読解と討論I
- 7回 読解と討論II
- 8回 読解と討論III
- 9回 課題テーマに関する発表I
- 10回 課題テーマに関する発表II
- 11回 課題テーマに関する発表III
- 12回 課題テーマに関する発表IV
- 13回 課題テーマに関する発表V
- 14回 課題テーマに関する発表VI
- 15回 課題テーマに関する発表VII

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況... 60% 口頭発表... 40%
(口頭発表のテーマに関しては授業内で別途指示する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加者全員に対して十分な発表の機会を確保するため、受講者の最大人数は15人までとする。
それを越える場合は受講者数調整をかける。
(※とくに履修制限は設けないが、このゼミは同担当者による「教養基礎演習I」の続きであることに留意されたい。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！応用編」です。このクラスでは、Iで習得した「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を、自チームの強化策や相手チームの攻略策の検討などを通じ、応用・実践していただこうと思います。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力、⑥問題解決のための構想を練る力、⑦プレゼン能力、⑧質疑応答力を、みなさんには身につけ、高めていただきたいと思います。バレーボールが好きな人を募集します。最大で15人程度を予定しています。座学と調査・実習を組み合わせ実施します。原則としてIとIIはセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス	第2回 グループ分けと対象チームの選定
第3回 情報の収集①	第4回 情報の収集②
第5回 収集した情報の分析①	第6回 収集した情報の分析②
第7回 収集した情報の分析③	第8回 強化策 / 攻略策の検討①
第9回 強化策 / 攻略策の検討②	第10回 強化策 / 攻略策の検討③
第11回 プレゼン資料の作成①	第12回 プレゼン資料の作成②
第13回 グループ発表①	第14回 グループ発表②
第15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきたい。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼におきます。
 また、学内と離れた場所での野外活動(スキー実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子研究とその歴史」をテーマとし、関連図書・文献を通して、科学的なものの考え方や考え方を身につける。DNA 2重らせん発見を中心とした分子生物学黎明期における研究についての参考文献を読み進め、学んだ中において、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジームズ・ワトソン『DNA』上(青木薫訳)講談社2005年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 遺伝子研究について基本事項の説明(1)
- 3回 遺伝子研究について基本事項の説明(2)
- 4回 遺伝子研究について基本事項の説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 発表の仕方についての説明
- 11回~14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む)...30% 発表...30% 期末レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習AIIもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を涵養し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房、2006年）¥3,150

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目 インTRODクシヨ

2回目の講義からテキストを読み始めます（～14回）。毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。

「歴史と政治」を受講していれば、演習の効果はよりあがるでしょう。15回の演習で、一冊完読します。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 45% 課題... 45% 期末試験... 10%

便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

小林担当の「教養演習 AI II」とセットで履修することを希望します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks
 履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method
 毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、⑦陸自第40普通科連隊長兼小倉駐屯地司令(1佐)などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手と呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になりたいかな、と思っている人は履修を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、AI、AIIの通年受講を原則とする。

AIでは、まず「テーマ」を決めるとともに、国際社会学(グローバルイゼーション論等)に関する基本的な文献を読む。その後、自分の問題関心にしたがって関連文献のリストを作成し、文献を報告してもらい、質疑応答を通して知識を深める。

なお、今年度はBI、BIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。(以下、AIIに続く。)

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『フィールドワーク - 書を持って街へ出よう』佐藤郁哉、新曜社
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 テーマと問いを明確にする
- 第3回~14回 関連文献についてのテキスト批評
- 第15回 論文執筆計画についての報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 25% 報告... 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。演習全体のキーワードは、「消費経済と宗教文化」である。

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』（中山元訳）ちくま学芸文庫、2003年。
（※このテキストは、バタイユ著作集第6巻『呪われた部分』（生田耕作訳）とは違うものなので、取り違えないように。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI
- 2回 ガイダンスII
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 希望者による口頭発表I
- 14回 希望者による口頭発表II
- 15回 希望者による口頭発表III

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% レポートor口頭発表...40%
(最終的な単位認定は、レポートもしくは口頭発表のいずれかによって決定する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。文庫なので、コピーで配ることはしない。
授業前の準備事項として、バタイユという思想家がどのような人物なのかを辞書・辞典等で必ず調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子研究とその歴史」をテーマとし、関連図書・文献を通して、科学的なものの考え方や考え方を身につけるとともに、社会における意味を考える。ヒトゲノム計画以降の分子生物学発展期の研究についての参考文献を読み進め、学んだ中において、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジームズ・ワトソン『DNA』上・下(青木薫訳)、講談社2005年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ゲノム研究についての基本事項の説明(1)
- 3回 ゲノム研究についての基本事項の説明(2)
- 4回 ゲノム研究についての基本事項の説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 関連図書・DVDの解説・紹介(6)
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む)...30% 発表...30% 期末レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習AIIもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読を練習する。

教科書 /Textbooks

『演習古文書選・近代(上)』(吉川弘文館)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～7回 近代文書の解読
第7回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...45%課題...45%期末試験...10%
便宜上、上のようには書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小林担当の「教養演習AII」とセットで履修することを希望します。Iを履修できない場合、事前に相談して下さい。なお、「歴史と政治」(1年生科目)をとってれば、より効果的に勉強できます。
明治時代に書かれた小説(森鷗外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks

履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次
 /Year

単位 2単位
 /Credits

学期 1学期
 /Semester

授業形態 演習
 /Class Format

クラス 2年
 /Class

対象入学年度
 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養演習AI」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス(戸蒔)

2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養演習AI」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、AI、AIIの通年受講を原則とする。

1学期(AI)に続くAIIでは、AIで作成した論文執筆計画書に従って論文執筆を行う。また、適宜、関連文献のレビュー(テキスト批評)を行う。

なお、今年度はBI、BIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『実証研究の手引き - 調査と実験の進め方・まとめ方』古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 論文執筆計画(進捗状況)の確認
第2~14回 関連文献のテキスト批評/論文検討会
第15回 論文のプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 15% 報告... 15% 論文... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

執筆計画等の準備が必要となる。また、報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。(教養演習 A I のつづき)

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』(中山元訳)ちくま学芸文庫、2003年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 1 学期 (教養演習 A I) の内容の復習
- 2 回 読解と議論 I
- 3 回 読解と議論 II
- 4 回 読解と議論 III
- 5 回 読解と議論 IV
- 6 回 読解と議論 V
- 7 回 読解と議論 VI
- 8 回 読解と議論 VII
- 9 回 読解と議論 VIII
- 1 0 回 読解と議論 IX
- 1 1 回 読解と議論 X
- 1 2 回 希望者による口頭発表 I
- 1 3 回 希望者による口頭発表 II
- 1 4 回 希望者による口頭発表 III
- 1 5 回 今年度の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% レポートor口頭発表...40%
(最終的な単位認定は、レポートもしくは口頭発表のいずれかによって決定する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する者は、授業開始前に各自でテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。
本演習は1学期からの継続であるため、テキストの途中から講読を再開する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子と長寿社会」をテーマとし、関連図書・文献を通して、生命科学の基礎知識を得ると共に、医療・産業における科学の貢献や社会との関わりを学ぶ。その中において、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

黒木登志夫『健康・老化・寿命』講談社2005年、福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 遺伝子・染色体についての基本的説明(1)
- 3回 遺伝子・染色体についての基本的説明(2)
- 4回 遺伝子・染色体についての基本的説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 発表の仕方についての説明
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む) ... 30% 発表... 30% 期末レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習 B II もあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○中地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。可能な限り、教養演習BIIもあわせて受講するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を涵養し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房、2006年）¥3,150

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目 インTRODクシヨ
 2回目の講義からテキストを読み始めます（～14回）。毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。
 「歴史と政治」を受講していれば、演習の効果はよりあがるでしょう。15回の演習で、一冊完読します。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 45% 課題... 45% 期末試験... 10%
 便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小林担当の「教養演習AI・II」「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。AI・IIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。なお、毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks
 履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method
 毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う（予定）。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者（3佐）、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長（1佐）、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長（1佐）、④空自春日基地司令（将補）、⑤海自下関基地隊司令（1佐）、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長（将補）、⑦陸自第40普通科連隊長兼小倉駐屯地司令（1佐）などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手と呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する人は履修を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、BI、BIIの通年受講を原則とする。

BIでは、まず「テーマ」を決めるとともに、国際社会学(グローバルイゼーション論等)に関する基本的な文献を読む。その後、自分の問題関心にしたがって関連文献のリストを作成し、文献を報告してもらい、質疑応答を通して知識を深める。

なお、今年度もAI、AIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。(以下、AIIに続く。)

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『フィールドワーク-書を持って街へ出よう』佐藤郁哉、新曜社
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 テーマと問いを明確にする
- 第3回~14回 関連文献についてのテキスト批評
- 第15回 論文執筆計画についての報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...25%報告...75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。演習全体のキーワードは、「消費経済と宗教文化」である。

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』（中山元訳）ちくま学芸文庫、2003年。
（※このテキストは、バタイユ著作集第6巻『呪われた部分』（生田耕作訳）とは違うものなので、取り違えないように。）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI
- 2回 ガイダンスII
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 口頭発表I
- 14回 口頭発表II
- 15回 口頭発表III

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% 口頭発表...40%
(参加者には当該テーマに関する口頭発表の実施を求める)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。文庫なので、コピーで配ることはしない。
準備として、少なくともバタイユの作品のいずれかに触れておくこと。熱意ある学生の参加を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子と長寿社会」をテーマとし、教養演習 B I に引き続いて関連図書・文献を読み進め、生命科学や遺伝子研究の基礎を学ぶと共に、医療・産業における科学の貢献や社会との関わりを学ぶ。また、近年注目されている iPS 細胞についても勉強する。身近な科学記事を選んで、研究内容について自分の言葉でまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

黒木登志夫『健康・老化・寿命』講談社2005年、福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年、八代嘉美『iPS細胞』平凡社2008年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 幹細胞と遺伝子についての基本的説明(1)
- 3回 幹細胞と遺伝子についての基本的説明(2)
- 4回 幹細胞と遺伝子についての基本的説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 関連図書・DVDの解説・紹介(6)
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む) ... 30% 発表 ... 30% 期末レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習 B I、教養特講義 IV もあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○中地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。可能な限り、教養演習BIもあわせて受講するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読を練習する。

教科書 /Textbooks

『演習古文書選・近代(上)』(吉川弘文館)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～7回 近代文書の解読
第7回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...45%課題...45%期末試験...10%
便宜上、上のようには書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小林担当の「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。BIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。なお、「歴史と政治」(1年生科目)をとってれば、より効果的に勉強できます。
明治時代に書かれた小説(森鷗外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks

履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養演習BI」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養演習BI」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、BI、BIIの通年受講を原則とする。
1学期(BI)に続くBIIでは、BIで作成した論文執筆計画書に従って論文執筆を行う。また、適宜、関連文献のレビュー(テキスト批評)を行う。
なお、今年度もAI、AIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『実証研究の手引き - 調査と実験の進め方・まとめ方』古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 論文執筆計画(進捗状況)の確認
第2~14回 関連文献のテキスト批評/論文検討会
第15回 論文のプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...15% 報告...15% 論文...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

執筆計画等の準備が必要となる。また、報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。(教養演習BIのつづき)

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』(中山元訳)ちくま学芸文庫、2003年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期(教養演習BI)の内容の復習
- 2回 読解と議論I
- 3回 読解と議論II
- 4回 読解と議論III
- 5回 読解と議論IV
- 6回 読解と議論V
- 7回 読解と議論VI
- 8回 読解と議論VII
- 9回 読解と議論VIII
- 10回 読解と議論IX
- 11回 読解と議論X
- 12回 口頭発表I
- 13回 口頭発表II
- 14回 口頭発表III
- 15回 今年度の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% 口頭発表...40%
(参加者には当該テーマに関する口頭発表の実施を求める)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する者は、授業開始前に各自でテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。
本演習は1学期からの継続であるため、テキストの途中から講読を再開する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。演習全体のキーワード：「経験から学ぶ力」「主体性」「二人称的思考」

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
第15回 まとめ ※【経験から学ぶ力】【主体性】【二人称的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※参加募集は夏休み前などに行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※2学期の履修登録の修正登録期間に忘れずに履修登録してください。
- ※期間限定プロジェクトを除き、翌年度前期の『プロジェクト演習II』も履修登録してください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。各グループ自由に設定してください。
- ※教室も指定しませんが、空いていれば学生プラザのプロジェクトルームを使用してください。
- ※2009年度実績：オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、就活生応援マガジン「キャリアーナ」、JOB×HUNTER 2011、北Q企業大解剖-the movie-、Navy Wavy (ニューウェーブ北九州)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習II【昼】

担当者名
/Instructor

見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。演習全体のキーワード：「経験から学ぶ力」「主体性」「二人称的思考」

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
第15回 まとめ ※【経験から学ぶ力】【主体性】【二人称的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。

※プロジェクトへ参加募集は掲示板に掲示します。なお、参加人数には制限があります。

※授業日は特に決まった曜日は設定しません。各グループ自由に設定してください。

※教室も指定しませんが、空いていれば学生プラザのプロジェクトルームを使用してください。

※2009年度実績：オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、就活生応援マガジン「キャリアーナ」、JOB×HUNTER 2011、北Q企業大解剖-the movie-、Navy Wavy (ニューウェーブ北九州)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 ○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第一講 「今西錦司と自然学」
- 二講 「私とあなたの自然学」
- 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
- 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
- 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
- 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
- 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
- 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
- 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
- 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
- 第十二講 人々はどのように自然を利用していけるか - 日本の竹産業と政策
- 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
- 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
- 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたくなったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球は今から約46億年前に誕生した。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。この授業では、現在の地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

丸山茂徳・磯崎行雄『生命と地球の歴史』岩波書店
川上紳一『生命と地球の共進化』日本放送出版協会NHKブックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回 生きている地球2【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回 地球惑星の起源と進化【太陽系の起源】
- 5回 水の惑星の誕生と地球生命の起源【生命の起源】
- 6回 目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 7回 凍りついた地球【全球凍結】
- 8回 生物進化史上最大の事変【カンブリア爆発】
- 9回 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%，ミニ課題・レポート：30%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミニ課題・レポートは提出期限を厳守のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地です。また、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している当博物館を、まずみなさんに知ってもらうことが、この授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的にを行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思います。よりグローバルな視点から、自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各担当者の講義のテーマは下記のとおりです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員の名前です）。講義の順番は未定です。下記の講義以外に、博物館見学も予定しています。

- ・ 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【化石昆虫】
- ・ 化石が語る魚類の進化（籾本）：【魚類化石】
- ・ 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- ・ 絶滅危惧と鳥類（武石）：【絶滅危惧】
- ・ ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- ・ 化石記録が語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
- ・ カエルとサンショウウオのおはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
- ・ 宝石鉱物の魅力と不思議（森）：【宝石】【鉱物】
- ・ 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
- ・ 日本列島のおいたち：付加体の重要性（御前）：【プレートテクトニクス】【日本の地質】

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： <http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート... 80% 博物館見学レポート 20...% なお、予め定められた2回の博物館見学を、レポート提出の条件とし、単位取得の必須条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシン.....史上最強の毒物【ダイオキシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 小松 佐穂子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今現在，“心理学”の分野で明らかになっていることについて学ぶことを通して，自分や他者の“こころ”について考える。基本的に，心理学についての新たな知識の獲得を目指す，獲得した知識をふまえて，自ら，現代社会の問題に取り組み，考える態度を学んで欲しい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【心理学】
- 2回 心理学の研究法【実験法】【観察法】【調査法】
- 3回 ものの見え方，感じ方(1)【知覚】
- 4回 ものの見え方，感じ方(2)
- 5回 学習のしくみ【条件づけ】【学習】
- 6回 人間の記憶のしくみ(1)【記憶】【認知】
- 7回 人間の記憶のしくみ(2)
- 8回 母と子の結びつき【愛着】
- 9回 対人コミュニケーション【感情】【表情】
- 10回 心の病【心身症】【神経症】
- 11回 気分のコントロール【うつ病】【認知のゆがみ】
- 12回 高齢化社会【中年期】【老年期】
- 13回 女性の社会進出に伴う生き方【アイデンティティ】
- 14回 こころの知能指数【情動性知能】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題)...30% ミニレポート...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数のたのしみ 【昼】

担当者名 /Instructor 高妻 倫太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中・高で習う「数学」とは違い、「数楽」を目標とする。
 1. 数の世界に対する関心・興味を持ってもらうこと。
 2. 数学的思考法を体感し、「考えることは楽しい」感覚を呼び覚ますこと。
 講義全体のキーワードは、数との親しみ・愉しみ。それらを通して世の中に数学的精神が息づいていることを伝えたい。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回準備するため、テキストの指定は特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

心躍る、3世紀にわたる数学者たちの、挫折と栄光と感動の物語として次を推奨する。
 ○サイモン・シン著・青木薫訳『フェルマーの最終定理』新潮社(2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 数の世界はどのようにして発見、発展させられてきたか。数学史を織り交ぜながら述べる。
2. 数学的な考え方の紹介。数(や図形)の問題を皆で考える。
ただし、予備知識をなるべく仮定せず考えて楽しいと思われる問題。
- 1回 古代の数学【バビロニア】、【エジプト】、【中国】、【インド】
- 2回 かぞえること【数の発見】、【数の表記法】、ギリシャ数学のはじまり【ピタゴラス学派】
- 3回 古代ギリシャの数学者・哲学者たち【ギリシャ三大作図問題】
- 4回 円周率とは【 π の歴史】、【ピュファンの針】
- 5回 ギリシャ数学の末期【ディオファントスの「算術」】、中世の中国
- 6回 中世の数学【インド】、【イスラーム】、【ヨーロッパ】、ふしぎの黄金比
- 7回 いろいろな記号の起源、未知数が X になるまでの道のり、方程式の解法をめぐって
- 8回 究極の折り紙
- 9回 ルネサンスの絵画と幾何、17世紀の幾何学・確率論・数論
- 10回 和算について【江戸時代】、19世紀の代数学・数論、19世紀までの主な数学分野
- 11回 「テーマから考えてみよう」
- 12回 フェルマーの最終定理が解かれるまで
- 13回 暗号のはなし【公開鍵暗号】、【moduloの世界】
- 14回 技術に生きる現代数学【RSA暗号】
- 15回 技術に生きる現代数学【ISBN】

成績評価の方法 /Assessment Method

アンケート(毎回)およびレポートによる総合評価。
 「アンケート40%+レポート60%-欠席点数」で評価。3コマ以上の無断欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識は特に仮定しない。数をたのしんでみようという心構え・やる気が必要である。
 上記の参考文献を読まれるとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思惟構造を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要について
- 2回 宗教とはなにか？
- 3回 宗教の諸類型と世界の諸宗教
- 4回 一神教について1（一神教の発生）【ユダヤ教】
- 5回 一神教について2（キリスト教の成立）【キリスト教】【イスラム教】
- 6回 一神教と日本の宗教風土【牧畜文化】【稲作漁撈文化】【都市国家】
- 7回 仏教について1（インドの仏教）【シャカ】【上座部仏教】【大乘仏教】
- 8回 仏教について2（中国の仏教）【儒教】【道教】【殺生戒】
- 9回 仏教について3（日本の仏教）【本覚思想】【戒律】
- 10回 神道について1（古代の神道）【禊祓】【罪と穢】
- 11回 神道について2（神道と東アジアの宗教）【皇帝祭祀】【神祇令】
- 12回 日本の宗教風土1（神と仏）【神仏習合】【神仏隔離】
- 13回 日本の宗教風土2（祖先崇拜）【盆と彼岸】【寺檀制度】
- 14回 日本の宗教風土3（近代から現代へ）【神仏分離】【政教分離】【新宗教】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（レポート含む）...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
5～6回のレポートを課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて展開されてきた主要な思想の流れを解説する。この時代が「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想に着目してゆく。これらの発想をヒントにして、自我の成立、他者との関係性を考え直すことが、本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存主義の思想(1)概説
- 3回 実存主義の思想(2)キルケゴール
- 4回 実存主義の思想(3)ハイデガー
- 5回 実存主義の思想(4)サルトル
- 6回 実存主義の思想(5)メルロ=ポンティ
- 7回 中間テスト
- 8回 精神分析の思想(1)フロイト1
- 9回 精神分析の思想(2)フロイト2
- 10回 精神分析の思想(3)メラニー・クライン
- 11回 精神分析の思想(4)ジャック・ラカン
- 12回 フェミニズムの思想(1)
- 13回 フェミニズムの思想(2)
- 14回 フェミニズムの思想(3)
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※中間テストを受験していない者は期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第七回に中間テスト(第三回~第六回の確認テスト)を実施するので、受講希望者は遅くとも第三週目から出席しておく必要がある。このテストを受験していない者には単位を認めない。
また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペなど)が発覚したレポートは即座に零点となるので、十分に注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ものがたりと人間【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター, 木下 善貞 / 英米学科
/Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ものがたり」とは、決して「文学」の問題に限られるものではない。神話から文芸、噂話さらには日々のニュースまで、言語をあやつる人間は、「ものがたり」という行為を通して出来事や<世界>、「歴史」を了解し、そしてそこで生きる「自己」像を創り上げてきた。つまり、「私」とは何か、という問いまで、「ものがたり」として存在していることを意味する。この科目は、人間の限界と可能性を、「ものがたり」をキーワードにしながら、文学、文化、歴史、心理、法学など多様な学の知を横断しながら考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

必要な資料等は、講義中にプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ものがたりとは何か(重信) 【語る】【語り手】
 - 2回～3回 ものがたりの生成(重信) 【うわさ】
 - 4回～6回 ものがたりと歴史(重信) 【物語文】
 - 7回 ものがたりと「落語」(小野) 【声】【場】
 - 8回 ものがたりと「法律」(小野) 【法廷】【声と説得】
 - 9回～10回 ものがたりに心理学から考える(税田) 【発達】
 - 11回～13回 ものがたりの論理 :文学テキストから(木下) 【第一の語り手】
 - 14回 まとめ:ものがたりの力(重信)
 - 15回 質問日
- (以上はあくまでも予定であり、各回の講義タイトル、内容が変更される場合がある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語、授業途中の出入りを厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名
/Instructor

真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は二部構成となっており、前半では表象論の基礎的問題を扱い、後半では日本の近世までに制作された美術作品について扱う。
前半は、まず表象概念の説明をアニメ、演劇などをとりあげておこなう。そののちに、「戦争」というテーマのもとに銅像、語り芸、映画などの例をとりあげて、表象研究の意義について考える。
後半は、映像やアニメに日本の近世以前の美術作品が借用されている例を紹介する。どの場面にこういった作品が描き込まれているかを受講者に見出してもらい、それらの作品の概要について確認して行く。それによって、現代の我々の生活の中には、その気になれば、歴史的美術作品の断片が数多く見出せることを実感してもらう。前半は主に真鍋が、後半は主に五月女が担当する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回【表象論事始め】理論①
- 2回 理論②
- 3回 表象の分析① - 『ハウルの動く城』をとりあげて -
- 4回 表象の分析② - 『おくりびと』をとりあげて -
- 5回【テーマ研究】戦争と表象①
- 6回 戦争と表象②
- 7回 戦争と表象③
- 8回 前半のまとめ
- 9回【映像・アニメに見出せる日本の絵画】映像Aの出題編
- 10回 映像Aの解答編①
- 11回 映像Aの解答編②・映像Bの出題編
- 12回 映像Bの解答編・アニメAの出題編
- 13回 アニメAの解答編・アニメBの出題編
- 14回 アニメBの解答編
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30% 中間・期末テスト ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前半においては、毎回コメントカードを記入して提出してもらう。
後半においては、毎回課題を出し、その次の回到回答を発表してもらうので、必ず予習が必要となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科, 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などとよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 英語の方言・日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第11回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第12回 人と機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第13回 コミュニケーション力(漆原)
- 第14回 予備日
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% レポート...20%×4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 波瀨 剛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、「芸術」と「現実」とがどのように関わっているのかという点について検討する。具体的には、「現実」を超えた世界を創造する「芸術」と、「現実」を忠実に再現しようとした「芸術」とでは、どちらがより「リアル」なのかについてさまざまな材料を提示する。受講者には、各回の講義を通じて、「芸術」と「現実」との関わり方について理解する機会となることを期待する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、適宜資料を配布。参考文献も適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 芸能とシニール①
- 3回 芸能とシニール②
- 4回 芸術は爆発か?①
- 5回 芸術は爆発か?②
- 6回 シニールリアリズムの物語①
- 7回 シニールリアリズムの物語②
- 8回 ノスタルジーの向こう側①
- 9回 ノスタルジーの向こう側②
- 10回 映像テキストの読み方①
- 11回 映像テキストの読み方②
- 12回 さまざまな戦後①
- 13回 さまざまな戦後②
- 14回 歴史 / 物語の現在性①
- 15回 歴史 / 物語の現在性②

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および課題... 20% 学期中レポート... 40% 定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名
/Instructor

岩本 真理子 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科, 水本 弘文 / 比較文化学科
馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるだろうか。文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高い。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ、フランス語と生まれ変わることもある。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で日本語、英語、ドイツ語などで書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促す。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・詩とは何か
 - 2回 ドイツの詩
 - 3回 ドイツの詩
 - 4回 イギリスの詩
 - 5回 イギリスの詩
 - 6回 イギリスの詩
 - 7回 アメリカの詩
 - 8回 アメリカの詩
 - 9回 フランスの詩
 - 10回 フランスの警句とことわざ
 - 11回 言葉から形へ
 - 12回 言葉から形へ
 - 13回 日本の詩
 - 14回 日本の詩
 - 15回 まとめ
- (各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
岩本 真理子 / 比較文化学科, 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

今年度は、国際政治学・平和学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、ドイツ文化/文学(岩本)、哲学・倫理学(伊原木)、民俗学・文化論(重信)など、異なった専門の教員がオムニバス講義を展開する予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 80% 授業内小レポート 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
- 第2回~第8回 「正義」の応用問題 ~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
- 第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
- 第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジユメの配布を基本とするが、ト・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）
J・リンスほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞・グロバリゼーションとデモクラシー【第三の波】【市民社会】
- 第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
- 第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
- 第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
- 第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
- 第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
- 第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
- 第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席重視、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、
定期試験と出席などで総合評価
出席 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジユメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人権といえば特別なことというイメージを持つかもしれない。しかし、実際には気付かない、知らないというだけで自分自身の人権が侵害されていたり、無意識のうちに他者の人権を侵害していることがある。

本講義では、識字問題や在日外国人問題など様々な事例から、現存する人権課題とその社会的背景を考察する。そして、人権とは非常に身近で重要なものであるということを実感していただきたい。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所 発行）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回テーマを決め、ビデオ等を交えながら授業を行う。
出席確認と授業の理解を深めるため、毎回「感想」を書き込む用紙を配布する。

(【 】はキーワード)

- 1回 わたしにとっての人権
- 2回 人権の歴史(1)【近代革命】
- 3回 人権の歴史(2)【国連】
- 4回 人権概念の整理(1)【国家】【憲法】
- 5回 人権概念の整理(2)【国際人権】
- 6回 日本における人権課題(1)【部落問題】
- 7回 日本における人権課題(2)【冤罪】
- 8回 生活の中の人権(1)【ハンセン病】
- 9回 生活の中の人権(2)【平和】
- 10回 教育マイノリティの現状【識字】
- 11回 教育マイノリティの現状と課題【夜間中学】
- 12回 外国人の人権(1)【国籍】
- 13回 外国人の人権(2)【在日コリアン】
- 14回 海外における人権課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験と出席状況で評価する
出席 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

女性の名前に「美」が付くことが多いのはなぜか、工学部や法学部、経済学部に女子学生が少ないのはなぜか、子育ては母親の役割とされているのはなぜか、男女の賃金に差があるのはなぜか-そんな身の回りの「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。講義のキーワードは「ジェンダー」「ポリティクス」。

教科書 /Textbooks

伊藤公雄・樹村みのり・国信潤子『女性学・男性学-ジェンダー論入門』（有斐閣、2002/02、1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』岩波書店
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』明石書店
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 女であることの損・得 / 男であることの損・得【ジェンダー役割】【性の二重基準】
 - 2回 作られる<男らしさ><女らしさ>【男らしさ】【女らしさ】【メディア・リテラシー】
 - 3回 女性学って何?【女性の視点】【周縁化】【名前のない病】
 - 4回 あなたとわたし【ジェンダー】【セクシュアリティ】
 - 5回 ジェンダー・フリーな教育のために【隠れたカリキュラム】【ジェンダー・トラッキング】
 - 6回 恋愛の女性学・男性学【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】【デートDV】
 - 7回 男性学って何?【男性の鏡】【自殺】【専業主夫】
 - 8回 ジェンダーと労働【賃金格差】【間接差別】【ワーク・ライフ・バランス】
 - 9回 花子さんの見た未来?【多様な生き方】【多様な働き方】【多様な家族】
 - 10回 多様な家族に向かって【近代家族】【婚姻制度】【選択的夫婦別姓】【婚外子差別】
 - 11回 育児はだれのもの【母性愛神話】【三歳児神話】【育児休業法】
 - 12回 国際化のなかの女性問題・男性問題【グローバル化】【移住労働の女性化】【人身取引】
 - 13回 平和の思想と<男らしさ>【平和】【暴力】【軍事化】
 - 14回 ジェンダー・フリー社会の見取り図【男女共同参画社会】【国連女性差別撤廃条約】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と授業中の積極的な発言...25%、ワークショップでのプレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メディア表現、法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発表、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイント資料を用いるため、スキルを見つけておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 山本 光英 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 落合 俊行 / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 國武 英生 / 法律学科
 中山 布紗 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 狭間 直樹 / 政策科学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年						
対象入学年度 /Year of School Entrance				1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
												○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法とってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か(3銭の電気窃盗)(山本)
- 第2回 人間社会とルール(マナーとルール、社会と規範、規範と法則、法と社会、法と道德の違いなど)(山本)
- 第3回 裁判とは何か(民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など)(岡本)
- 第4回 民事少額訴訟とは何か(小池)
- 第5回 基本的人権とは何か(基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など)
- 第6回 社会福祉の視点から(狭間)
- 第7回 雇用とは何か(雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了)(國武)
- 第8回 犯罪とは何か(構成要件、違法、責任、罪刑法定主義)(大杉)
- 第9回 契約とは何か(法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など)(矢澤)
- 第10回 財産とは何か(さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など)(中山)
- 第11回 労働者の権利と生活の保障(労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など)(國武)
- 第12回 生存と環境保護(公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など)(岡本)
- 第13回 国際社会と日本(二宮)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

共生の作法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしぶりや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、北九州の文化を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知と一と！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 小倉郷土会①
- 3回 小倉郷土会②
- 4回 小倉郷土会③
- 5回 北九州の人と文学
- 6回 北九州の方言
- 7回 北九州の民話・伝承
- 8回 北九州の祭り
- 9回 海峡花火
- 10回 門司港の観光
- 11回 小倉城
- 12回 上野焼
- 13回 北九州の食文化
- 14回 北九州の農業
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは一応の予定です。ゲストの都合等により変更になることがあります。詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメは事前に配布するつもりですので、配布したレジュメをよく読んで受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生を果たした。欧米から日本的経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。曰く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

そうすると社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？ こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちが資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回 【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 重信 幸彦 / 基盤教育センター
 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私達は、家族、近隣そして友人、さまざまに分類しうる人間関係のなかで生き、生かされて、そのなかで多様な葛藤や親密性を経験しながら、他者との関係性を築きあげている。この科目では、「社会」と私達が名づけている関係性を、「社会」という言葉を使わずに「つながり/つながる」をキーワードに、自己と他者との関わりを具体的に問うことからときほぐし、「社会とは何か」を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、ガイダンス 遊びの記憶から
- 2、あそぶ1 / 教育学 (児玉)
- 3、あそぶ2 / 民俗学 (重信)
- 4、あそぶ3 / ワークショップ 序 いる・なごむ・つるむ (加倉井)
- 5、あそぶ4 / ワークショップ 破 つくる・ためす・あそぶ (加倉井)
- 6、あそぶ5 / ワークショップ 急 あそぶ・ふりかえる (加倉井)
- 7、あそぶ6 まとめ (児玉・加倉井・重信)
- 8、たべる1 / 民俗学 (重信)
- 9、たべる2 / 食事風景の観察から (児玉・重信)
- 10、たべる3 / ワークショップ ~五感と共感・分配と葛藤~ (児玉)
- 11、つながる1 / 近場から街へ (児玉・重信)
- 12、特別講義 つながる2 / 駄菓子屋という場 (松田道雄)
- 13、特別講義 つながる3 / 関係性はもう一つの世界をつくる (松田道雄)
- 14、つながる4 見えない者同志のつながりへ (児玉・加倉井・重信)
- 15、<つながりの人間学>へ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理』（山内友三郎・塚崎智監訳）昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【F L O】
- 7回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 8回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 9回 現代における差別の問題(3)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(4)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小レポート含む)...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を思想的に考察する。講義全体のキーワードは【ポストコロナリズムの思想課題】 【国際情勢】

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』（知の攻略 思想読本4）、作品社、2003（第3刷）、2000円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

関連文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)(2) 【ポストコロナリズム】
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】 【植民地主義】
- 【帝国】
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文 【植民地近代性】 【ナショナリズム】
- 【グローバリズム】
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 轡田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第III部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】 【ジェンダー】
- 13回 第III部の3、高橋哲哉論文 【過去の克服】
- 14回 第III部の4、野村浩や・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（2~3本）、授業参加への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書のなかに登場する概念、理論を勉強しつつ、関連文献を自主的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
 1980年代後半以降、いわゆる「ニュー・カマーズ」とよばれる外国人労働者の流入が顕著になってきた。さらに、近年、その定住化の進展とともに、日本人(社会)と彼ら/彼女ら(の社会)との共生関係の構築が課題となってきた。こうした課題について考える基礎知識を提供する。
 授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
 ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察を加えたい。なお、民族関係論の基礎知識とともに、グローバルな現象をローカルな場(地域)において実証的に把握していく方法についても習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの紹介【グローバル化】、【エスニシティ】
- 2回 グローバル化の進展【国際労働力移動】
- 3回 出入国管理について【外国人登録】、【出入国管理】
- 4～5回 エスニシティに関する理論【道具主義】、【原初主義】、【分断労働市場】、【オリエンタリズム】
- 6～7回 日本の近代化と在日韓国・朝鮮人 - 歴史的把握【韓国併合】【植民地政策】
- 8～9回 在日韓国・朝鮮人と教育・職業【教育達成】、【社会移動】
- 10～11回 在日韓国・朝鮮人と日本の地域社会【生活構造】【生活史】
- 12～13回 日系ブラジル人と日本社会【顔の見えない定住化】、【非正規雇用】
- 14～15回 国家、自治体、NGOの役割【自治体の国際化施策】、【協働と対抗的相補性】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「ネイション」と「エスニシティ」【多文化主義】【同化主義】
- 3回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1)【連合王国】【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2)【スカーマン報告】【オルダム暴動】
- 5回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3)【サッチャー主義】【ロンドン同時多発テロ】
- 6回 フランスにおける民族とエスニシティ(1)【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 7回 フランスにおける民族とエスニシティ(2)【ライシテ】【スカーフ問題】
- 8回 東南アジアからみた「ネイション」と「エスニシティ」：学説史の整理【ナショナリズム】
- 9回 インドネシア(1)：「多様性の中の統一」からこぼれ落ちる人々【華人】
- 10回 インドネシア(2)：「統一が分離独立か」の二者択一を超えて【アチェ】【災害】
【イスラム教】
- 11回 ベトナム：ナショナリズムの輝きと黄昏【ベトナム戦争】【難民】【ドイモイ】
- 12回 マレーシア(1)：半島部における「民族の政治」【プミブトラ】【バンサ・マレーシア】
- 13回 マレーシア(2)：サバにおける民族の生成【ボルネオ】【選挙】
- 14回 東南アジアの事例のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------------------------|-------------|
| 1回 「開発と統治」をはじめにあたって | 担当：三宅 |
| 2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 | 担当：伊野 |
| 3回 民主化問題を考える視座(2) | 担当：伊野 |
| 4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって【ミャンマー】 | 担当：伊野 |
| 5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例 【援助】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動【バングラデシュ】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 7回 途上国と一村一品運動【一村一品運動】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化【グラミン銀行】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動 【韓国】 | 担当：申 |
| 10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策 【環境政策】 | 担当：申 |
| 11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス 【米国】 | 担当：申 |
| 12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 | 担当：三宅 |
| 13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 | 担当：三宅 |
| 14回 もっと詳しく聴きたいアンコールアワー | 担当：指名教員 |
| 15回 まとめ | 担当：三宅 |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 小課題の提出 ... 20 % 試験 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○勝田政治『廃藩置県-「明治国家」が生まれた日』(講談社)○長志珠絵『近代日本と国語ナシヨナリズム』(吉川弘文館)○鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 ガイダンス②「日本」という枠組み
 - 3回 県名を読む①【国郡制】と【幕藩制】
 - 4回 県名を読む②県名と県庁所在地
 - 5回 県名を読む③戊辰戦争
 - 6回 『国語元年』を読む(ビデオ)①文部省説諭
 - 7回 『国語元年』を読む(ビデオ)②統一話し言葉
 - 8回 『国語元年』を読む(ビデオ)③山の手言葉
 - 9回 『国語元年』を読む(ビデオ)④「日本語」から「【国語】」へ
 - 10回 『ラスト・サムライ』を読む
 - 11回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 12回 『平家物語』を読む②【言葉戦】
 - 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
 - 14回 「桃太郎」と吉備王国
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生100名以上の場合は筆記試験100%、受講生100名以下の場合は授業レポート50%筆記試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor
小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツアメリカ、スペイン、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 スペイン(岡住)【移民問題】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20%小テスト...20%レポート...60%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「感想文」を提出してもらいます。一回でも未提出があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題を当時のニュースビデオなどを利用して解説してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 戦後改革
- 2回 経済復興
- 3回 産業政策の効果
- 4回 メインバンクシステム
- 5回 安定株主化
- 6回 重化学工業化
- 7回 農工間人口移動
- 8回 大衆消費社会
- 9回 エネルギー革命
- 10回 石油危機
- 11回 赤字国債
- 12回 サービス経済化と産業構造の変化
- 13回 債権大国
- 14回 アジアの成長と日本経済
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代史の通史的な理解を前提に、私たちの日常生活の歴史を、「都市と農村」という問題系から検討することを目的とする。特に資本主義の仕組みが日常生活を取り込み、消費中心の都市生活が進展する一方で、農村の衰微が問題になった1930年代の日本を舞台に講義する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。必要な資料はプリントで配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「東京が攻めてくる」 【郊外化】
- 第一部 「モダン都市」という暮らし
- 2回 1、第三の空間・「街頭」という生活空間 【盛り場】
- 3回 2、「モボ」と「モガ」という仮面 【銀座】 【新宿】
- 4回 3、「スピード」という価値 【自動車】 【内燃機関】
- 5回 4、「見る」ことと欲望 【博覧会】 【勤工場】
- 6回 5、新たな欲望の装置：テパート 【陳列販売】 【百貨店】
- 7回 6、モダン都市の光と闇 【新中間層】 【細民】
- 第二部 「都市化」する農村の暮らし
- 8回 7、開発される個の欲望 【色を身に纏うこと】 【温かな食物を食うこと】
- 9回 8、消費と農村生活の矛盾 【現金収入】 【養蚕】
- 10回 9、商人の論理と農民の論理の狭間で 【資本主義】
- 11回 10、「親子心中」という問題 【解体される共同体】
- 12回 11、孤立する貧困 【家】 【新たな貧困】
- 13回 12、「都市」のなかの農村へ
- 14回 13、現代日本と「海」の向こうの農村
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 ... 80% 授業中の小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容・アウトラインに関するレジュメは一切配布しないので、よく聴きノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名
/Instructor

重信 幸彦 / 基盤教育センター, 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考資料等は、プリントにして授業中に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一部 内燃機関の近代 (重信)

- 1、自動車と出会った「明治ニッポン」【内国勲業博覧会】 / 2、内燃機関と身体【職人】
- 3、自動車とカタストロフィ【交通事故】【交通法規】

第二部 都市と自動車 (重信)

- 4、フォードVSシボレー【都市化】 / 5、「円タク」とモダン都市【タクシー】
- 6、加速化と均質化【身体】【時間】 / 7、自動車と都市の政治【交通統制】

第三部 フォーディズムの時代 (中野)

8、ヘンリー・フォードとアメリカ【フォード】 / 9、フォード・システムと大衆社会【フォーディズム】 / 10、ポスト・フォーディズムへ

第四部 「家庭」と自動車 (重信)

11、「家庭」という価値と自動車【新中間層】【中流幻想】 / 12、マイホームとマイカー【高度成長期】 / 13自動車というメディア【メディア】 / 14自動車と人間 / 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【昼】

担当者名
/Instructor

山崎 勇治 / 経済学科, 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的

歴史の面白さを、特定の人物を中心として学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

第1回 開講に当たって講義の目的と方針ならびに評価の方法について

第2回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか

第3回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史

第4回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領

第5回 「ラスト・サムライ山岡鉄舟と幕末・明治」「上杉鷹山と儒教的経営」

第6回 「保科正之と江戸幕府」「親鸞と平安・鎌倉時代」

第7回 「聖徳太子と飛鳥・奈良時代」

第8回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史

第9回 「ガンディ」の映画鑑賞

第10回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?

第11回 私のイギリス案内-ビュートリックス・ポターと湖水地方のナショナルトラスト運動

第12回 M・ケインズと世界恐慌-ロシア人バレリーナとの恋愛を中心に-

第13回 サッチャーとビッグバン

第14回 ベバリッジと福祉国家

第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を重視する。具体的な方法については初日の開講時間に説明をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講I【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 解子 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

人はそれぞれの価値観で都市をとらえ評価します。多くの場合、自分の関心領域以外にはあまり目を向けません。しかし、これからの“住みよい”都市づくりには総合的な視点がますます必要です。本講義では、都市間比較の方法をとりながら、多面的に都市をとらえ評価する視点や、都市を知るために役立つ情報活用のあり方などについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

指定しません（資料を配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○北九州都市協会『住みよい都市・全国主要都市の比較調査』共同通信社（2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【 】はキーワード）

- 第1回 講義の概説 【評価指標】
- 第2回 都市間比較I 【自然】
- 第3回 都市間比較II 【居住】
- 第4回 都市間比較III 【経済】
- 第5回 都市間比較IV 【インフラ】
- 第6回 都市間比較V 【文化・教育】
- 第7回 都市間比較VI 【健康・安全】
- 第8回 都市間比較VII 【都市イメージ】
- 第9回 都市間比較VII 【総合評価】
- 第10回 「住みよい都市」の検証I【事例研究】
- 第11回 「住みよい都市」の検証II【事例研究】
- 第12回 「住みよい都市」の検証III【事例研究】
- 第13回 「住みよい都市」の検証IV【事例研究】
- 第14回 予備日
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30% 学期末のレポート... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありませんが、講義を進めるなかで、「あなた方はどう思う？」という問いかけをしたいと思います。積極的な発言を期待します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講II 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 山脇 直祐 / Naosuke YAMAWAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「『住むこと』について考える」
 私たちは、必ず誰かの隣に住んでいます。他者との関係のなかで「住む」ということは、私たちが生きていく上で避けようのない事実です。また、「住む」ための「住宅」のあり方は、私たちの生活のあり方を左右することすらあります。それでは、私たちはいかなる方法で自ら「住む」環境の形成に関わっていくことができるのでしょうか。本講義は、私たちの日常生活にとって身近かつ根源的・基本的な「住む」という事実を通し、政治・政策・法に関わる学問の実践的意義について理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 はじめに．～「住むこと」がもつ根源性・政治性について～ 【居住】【住居】【住宅】
 - 2回 「住むこと」とは何であったか～住宅政策における「住宅」観～ 【持家政策】【居住政策】
 - 3回 「51C」から「居住福祉」へ～住宅改良の社会史～ 【貧民窟】【51C】【居住福祉】
 - 4回 居住地によるデモクラシー？ 【集合住宅デモクラシー】【私的政府】【CID】
 - 5回 社会が育む権利の内実～法解釈理論の新展開I～ 【所有】【総有】【合有】
 - 6回 交渉で育て続ける契約～法解釈理論の新展開II～ 【私的自治】【関係】【交渉】
 - 7回 わが国マンションにおける議会政治 【強制競売】【建替え決議】【区分所有者集会】
 - 8回 マンション所有権の基本権的性質 【区分所有権】
 - 9回 “困った人たち”の物語～マンション管理狂騒曲～ 【マンション管理】
 - 10回 揺れ続けたマンション～阪神淡路大震災被災マンションの建替え～ 【被災建替え】
 - 11回 不法占拠の“法外”な合法性？～ウト口51番地・伊丹空港に住んだ人々～ 【合法性】
 - 12回 集合住宅としての都市の命運
～チェルノブイリ・九龍城塞・デトロイト・軍艦島と北九州～ 【国家】【経済】【都市】
 - 13回 いかにして「住む」か～コーポラティブ・ハウジングという手法～ 【コポラティブ・ハウジング】
 - 14回 どのように「住む」か～コレクティブ・ハウジングという可能性～ 【コレクティブ・ハウジング】
 - 15回 おわりに．～居住生活と住宅をめぐる「価値」・「場所」・「方法」～ 【合意形成】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、定期試験。各回のテーマに関する自主的レポート(2500字程度)の提出も歓迎します。
 出席...30% 定期試験...70% レポートは、その内容に応じて加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメを読んでおくこと。知識にこだわらず、何が問題であるかを考えて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講III 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description
 誰にも負けない私のイギリス案内と銘うって観光案内をしたい。いわば私の40年にわたるイギリス研究余滴である。もしも本当にイギリスに行きたくなったら私の講義は成功、反対に面白くなかったら私の講義は失敗である。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 その都度指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 エディンバラ地方：自治の大切さ
 - 第2回 明治維新を支えたスコットランド人
 - 第3回 湖水地方；自然保護は住民の運動によってのみ守られる
 - 第4回 世界のケンブリッジ大学-ノーベル賞受賞者との日々
 - 第5回 ケンブリッジ大学留学とインド人家族との交流
 - 第6回 1929年世界恐慌を救ったM・ケインズ-ケインズ革命「雇用・利子および貨幣の一般理論」(1936) が語りかけるもの
 - 第7回 ミュージカル鑑賞でロンドンの夜を楽しもう
 - 第8回 ・大英博物館図書館案内-
 - 第9回 世界最大の図書館案内-『資本論』がなぜいま人気があるのか-『資本論』の世界紹介
 - 第10回 ダウニング街10番地
 - 第11回 イギリスの2大政党政治と日本の政治
 - 第12回 セイント・アイビス；バーナード・リーチと小鹿田焼き窯
 - 第13回 南ウエールズ的首都カーディフ市と北九州市との関係
 - 第14回 花の都バリで乾杯
 - 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 毎回のレポートと定期試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

現代において生命科学は基礎研究のみならず社会に広く浸透・貢献している。本講では「ノーベル賞の生命科学」をテーマとし、生命科学進歩の原動力となった輝かしい研究をオムニバス形式で学び、分子生物学発展の歴史、生命科学研究の面白さ・楽しさを理解するとともに、現代社会を生き抜く力を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東京大学生命科学教科書編集委員会『文系のための生命科学入門』羊土社2008年、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 イントロダクション
 - 2回 基本的事項【核酸】、【タンパク質】、【細胞】
 - 3回 遺伝子の本体とDNA二重らせん【DNA】、【遺伝子】
 - 4回 遺伝子の発現制御【転写】、【RNA】
 - 5回 遺伝暗号の解読【翻訳】、【アミノ酸】、【コドン】
 - 6回 分断された遺伝子【mRNA】、【スプライシング】
 - 7回 塩基配列決定・遺伝子増幅【遺伝子診断】、【DNA鑑定】
 - 8回 多様性を生むメカニズム【免疫】、【抗体】
 - 9回 がん遺伝子を追え【がん】、【ウイルス】
 - 10回 プログラムされた細胞の死【細胞死】、【器官発生】
 - 11回 RNAの知られざる働き【遺伝子治療】
 - 12回 ES細胞と動物モデル【ES細胞】、【iPS細胞】
 - 13回 光るタンパク質とその利用【緑色蛍光タンパク質 (GFP)】
 - 14回 染色体末端の問題【がん】、【老化】、【テロメア】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校生物を履修していない者は関連する項目について教科書や参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦 『「日本」とは何か』 (講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光 『「日本」とは何か』 (講談社現代新書、2005年)
- 村井章介 『境界をまたぐ人びと』 (山川出版社、2006年)
- 小熊英二 『「日本人」の境界』 (新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解読』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異を研究する学問であるが、本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与しているか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するのかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中藤康俊『人文地理学入門』古今書院、1985年。
富田和暁『地域と産業』大明堂、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を地域的観点から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目は、地理学の言語である地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用して、地表の状態を読み取る実習をおこなうことにより、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著「地理的情報の分析手法」古今書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
 - 2回 地図の役割。【地図の能力】
 - 3回 地図の歴史。
 - 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
 - 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
 - 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
 - 7回 山の地形を地形図から描くI(講義・実習)。【等高線】
 - 8回 山の地形を地形図から描くII(実習)。
 - 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
 - 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI(講義・実習)。
 - 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII(実習)。
 - 12回 【リモートセンシング】、空中写真の利用。
 - 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
 - 14回 リモートセンシング、空中写真の利用。
 - 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に提示する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を表すキーワード

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。
講義全体のキーワードは、エンドユーザ、情報セキュリティ、データベースです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 情報システムの利用者としての心得 1【PDCAサイクル】
- 3回 情報システムの利用者としての心得 2【バックアップ】、【リスク分析】
- 4回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 5回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】、【ビット】、【バイト】、【文字コード】
- 6回 ハードウェア【CPU】、【メモリ】、【HD】、【フラグメンテーション】
- 7回 ソフトウェア【OS】、【拡張子】
- 8回 ネットワークの仕組み【LAN】、【サーバ】、【ドメイン名】、【IPアドレス】
- 9回 データベースの基礎 1【正規化】、【主キー】
- 10回 データベースの基礎 2【SQL】
- 11回 データベースの基礎・まとめ
- 12回 情報セキュリティ対策 1【ID】、【パスワード】、【セキュリティ対策】
- 13回 情報セキュリティ対策 2【SSL】、【クッキー】、【ファイル交換ソフト】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。
講義全体のキーワードは、エンドユーザ、情報セキュリティ、データベースです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 情報システムの利用者としての心得1【PDCAサイクル】
- 3回 情報システムの利用者としての心得2【バックアップ】、【リスク分析】
- 4回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 5回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】、【ビット】、【バイト】、【文字コード】
- 6回 ハードウェア【CPU】、【メモリ】、【HD】、【フラグメンテーション】
- 7回 ソフトウェア【OS】、【拡張子】
- 8回 ネットワークの仕組み【LAN】、【サーバ】、【ドメイン名】、【IPアドレス】
- 9回 データベースの基礎1【正規化】、【主キー】
- 10回 データベースの基礎2【SQL】
- 11回 データベースの基礎・まとめ
- 12回 情報セキュリティ対策1【ID】、【パスワード】、【セキュリティ対策】
- 13回 情報セキュリティ対策2【SSL】、【クッキー】、【ファイル交換ソフト】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【昼】

担当者名 佐々木 実 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング基礎 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。「データ処理」で学習した表計算の柔軟で高度な利用を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムについての理解を深めます。使用する言語は、VBA (Visual Basic for Application) です。この言語は、Excelに備わっており、Excelが利用できる環境であれば、VBAが利用できます。
講義全体のキーワードは、Excel、VBA、プログラミングです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Excel VBAの文字が入った書籍が各社から多く出版されています。この中の入門編や基礎編が参考になります。例：「10日でおぼえるExcel VBA入門教室」、瀬戸遥、翔泳社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 VBA、マクロ、プログラミングについて【VBA】
- 2回 マクロ記録でマクロを作成【マクロ】、【処理の自動化】
- 3回 VBAの基本構文【プロシジャ】、【オブジェクト】
- 4回 Visual Basic Editorの利用【ヘルプ】、【デバッグ】
- 5回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 6回 フローチャート1【構造化プログラミング】
- 7回 フローチャート2
- 8回 ブックとシートとセルの操作1【BOOK】、【SHEET】、【セル】
- 9回 ブックとシートとセルの操作2
- 10回 入力支援【入力画面】、【データ参照】
- 11回 制御構造【if文】
- 12回 制御構造【for文】
- 13回 制御構造【while文】
- 14回 制御構造【select文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に通講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとお講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング基礎 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。「データ処理」で学習した表計算の柔軟で高度な利用を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムについての理解を深めます。使用する言語は、VBA (Visual Basic for Application) です。この言語は、Excelに備わっており、Excelが利用できる環境であれば、VBAが利用できます。
講義全体のキーワードは、Excel、VBA、プログラミングです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Excel VBAの文字が入った書籍が各社から多く出版されています。この中の入門編や基礎編が参考になります。例：「10日でおぼえるExcel VBA入門教室」、瀬戸遥、翔泳社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 VBA、マクロ、プログラミングについて【VBA】
- 2回 マクロ記録でマクロを作成【マクロ】、【処理の自動化】
- 3回 VBAの基本構文【プロシジャ】、【オブジェクト】
- 4回 Visual Basic Editorの利用【ヘルプ】、【デバッグ】
- 5回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 6回 フローチャート1【構造化プログラミング】
- 7回 フローチャート2
- 8回 ブックとシートとセルの操作1【BOOK】、【SHEET】、【セル】
- 9回 ブックとシートとセルの操作2
- 10回 入力支援【入力画面】、【データ参照】
- 11回 制御構造【if文】
- 12回 制御構造【for文】
- 13回 制御構造【while文】
- 14回 制御構造【select文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に通講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとお講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are listening, reading and writing English. The class is taught in English. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to communicate confidently when they spend time studying, working or traveling in English.

教科書 /Textbooks

- ① "Word Master Approach for the TOEIC Test" <Word Book> Published by Seibido
- ② "The Heinle Picture Dictionary English/日本語", Audio CDs and Interactive CD-ROM Published by Thomson
- ③ 『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course will help the students to increase their English vocabulary while listening to English speakers and looking at pictures in the text book. We will also use software to polish students' English ability.

- 1回 Introduction
- 2回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 3回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 4回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 5回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 6回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 7回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 8回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 9回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 10回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 11回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 12回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 13回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 14回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on five factors: attendance, effort in class, completion of homework, in-class assignment, tests and final examination. Complete breakdowns of score percentage for the final grade on the basis of your performance in classroom activities and on the results of tests. participation in class 15% completion of homework and in-class assignment 58% final exam 27%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The students must be prepared to listen to and memorize the sounds they hear on Audio CDs, as well as to be able to spell the words they hear. The students must also use Interactive CD-ROM for homework. Student must ask questions in class.
第1回目の授業にすべてのテキストを必ず持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的読解力を養成すべく、日常会話で用いられる程度の英語を読んだり聞いたりしたときに、その内容を把握できるようになるために、ある状況下で用いられる表現や語彙を出来る限り覚えていく。読解力の度合いを測るためにTOEICで400点を獲得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

西田晴美 『Power Charge for the TOEIC Test』 (金星堂) ISBN978-4-7647-3874-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 英語の構造【品詞】
- 2回 TOEIC Listening Part の練習【先読み】
- 3回 TOEIC Reading Part の練習【速読】
- 4回 Unit 1 Eating Out【文型】
- 5回 Unit 1 Eating Out【語順】
- 6回 Unit 2 Amusement【名詞】
- 7回 Unit 2 Amusement【代名詞】
- 8回 Unit 3 Daily Life【形容詞】【名詞】
- 9回 Unit 3 Daily Life【副詞】【動詞】
- 10回 Unit 4 Directions【動詞の活用】
- 11回 Unit 4 Directions【分詞】【形容詞】
- 12回 Unit 5 Travel【自動詞】【他動詞】
- 13回 Unit 5 Travel【助動詞】
- 14回 まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 確認テスト・課題...30% 期末試験...60%
(理由なく欠席を4回した場合、期末試験を受けることはできません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校入試レベルの文法書を準備しておくと同様です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の総合的な力をつける。その目標のために、使用テキストに書かれているように、知的世界に遊ぶ、楽しみながら、考える英語力を目指し、内容ある雄弁な英語能力を向上させる。

教科書 /Textbooks

Debating Current Issues 意見の相違から見る社会問題 (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキストの補助教材としてThe Japan Timesから短い記事をピックアップして配布

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Chapter 1 Cell Phone
- 2回 Chapter 1 Cell Phone
- 3回 Chapter 2 Student Evaluations
- 4回 Chapter 2 Student Evaluations
- 5回 Chapter 3 The Gender Gap
- 6回 Chapter 3 The Gender Gap
- 7回 Chapter 4 Manga and Anime
- 8回 Chapter 4 Manga and Anime
- 9回 Chapter 5 Global Food Shortage
- 10回 Chapter 5 Global Food Shortage
- 11回 Chapter 6 The Oil Crisis
- 12回 Chapter 6 The Oil Crisis
- 13回 Chapter 7 The True Spirit of the Olympics
- 14回 Chapter 7 The True Spirit of the Olympics
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30% 報告 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 新藤 照夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、具体的にある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

A Strategic Approach to the TOEIC Test Listening 西陰浩子 他 著 (成美堂)
Practical Tips for the TOEIC Test 杉田麻哉 他 著 (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Getting Ready for a Business Trip/Chapter 1
- 3回 Departure/Chapter2
- 4回 On a Plane/Chapter3
- 5回 Arrival/Chapter4
- 6回 Meeting People/Chapter5
- 7回 Mini-test 1/Chapter6
- 8回 Making an Appointment/Chapter7
- 9回 At a Hotel/Chapter8
- 10回 TOEIC 模擬テスト
- 11回 Visiting a Company/Chapter9
- 12回 Small Talk (1)/Chapter10
- 13回 Negotiation/Chapter11
- 14回 Mini-Test 2/Chapter12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 (小テスト含む) 40% + 学期末試験60%、TOEIC受験結果

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の準備を毎回十分にやること。
日頃から英語に親しむ・学習する機会を出来るだけ作ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

林 裕二著 Seize the main points of the TOEIC Test 「ターゲットとポイントで学ぶTOEIC テスト」(金星堂 ¥1995)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Unit1 基本時制
- 3回 Unit1
- 4回 Unit2 進行形・完了形
- 5回 読解プリント
- 6回 Unit2
- 7回 Unit3 名詞と主語と動詞の一致
- 8回 Unit3
- 9回 Unit3
- 10回 読解プリント
- 11回 Unit7 助動詞
- 12回 Unit7
- 13回 Unit7
- 14回 Unit7
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%) + 学期末試験(80%) × TOEIC・TOEFL受験結果

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群 1 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

実用的な英語運用能力を測定するテストとしてのTOEICの重要性は近年ますます高まってきている。TOEIC受験を奨励する企業も多く、就職対策としてスコア向上は急務である。そこで授業ではTOEIC対策として、テスト形式と連動して作成されたテキストを用い(目標500点)、基本的な語彙、文法をマスターしながら、リスニング・リーディング両方にわたる総合的な英語運用能力を養成していく。また1学期は、Reader Explorer 1という写真や図表が効果的に用いられているテキストを使い、世界の異なる文化に触れ、興味深いトピックを発見しながら、特にリーディングの強化をはかる。

教科書 /Textbooks

『新TOEICテスト全パート完全征服ガイド』(Conquering the TOEIC Test)
著者：河原真也・野上良子
発行所：朝日出版社 (ISBN978-4-255-15458-9)
Reading Explorer 1
発行所：センテージ ラーニングELT(ISBN978-1-4240-0637-3)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	TOEIC Ch.1 【写真描写問題】	Reading Explorer Unit 1: Amazing Animals
2回	TOEIC Ch.2 【応答問題】	R E Unit 2: Travel and Adventure
3回	TOEIC Ch.3 【会話問題】	R E Unit 3: Music and Festivals
4回	TOEIC Ch.4 【説明文問題】	R E Review 1
5回	TOEIC 【Practice for Listening Parts】	R E Unit 4: Other Worlds
6回	TOEIC Ch.5 【短文穴埋め問題】	R E Unit 5: City Living
7回	TOEIC Ch.6 【長文穴埋め問題】	R E Unit 6: Clothing and Fashion
8回	TOEIC Ch.7 【読解問題】	R E Review 2
9回	TOEIC 【Practice for Reading Parts】	R E Unit 7: Dinosaurs Come Alive
10回	TOEIC Ch.8 【Mini Test 1】	R E Unit 8: Stories and Storytellers
11回	TOEIC Ch.9 【Mini Test 2】	RE Unit 9: Tough Jobs
12回	TOEIC Ch.10 【Mini Test 3】	R E Review 3
13回	TOEIC Ch.11 【Mini Test 4】	R E Unit 10: Pyramid Builders
14回	TOEIC Ch.12 【Mini Test 5】	R E Unit 11: Legends of the Sea
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

本学の英語教育基本方針により、少なくとも年1回のTOEIC受験が義務付けられている。成績評価は「個別教員による評価」+「TOEIC到達度」からなる。個別教員の評価は、定期試験(50%)、小テストの成績(25%)、課題(25%)及び出席状況や授業中の態度などを総合的に判断してなされる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、単語を集中的に学習し、さらに実践的な問題(TOEIC Bridgeの問題)を解くことで、実用的な英語力の養成をはかります。

教科書 /Textbooks

『DUO[デュオ] セレクト』(出版社:アイシーピー)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方等の説明及び小テストの実施。
- 2回 テキスト「Section 1, 2, 3」
- 3回 テキスト「Section 4, 5, 6」
- 4回 テキスト「Section 7, 8, 9」
- 5回 テキスト「Section 10, 11, 12」
- 6回 テキスト「Section 13, 14, 15」
- 7回 テキスト「Section 16, 17, 18」
- 8回 復習
- 9回 テキスト「Section 19, 20, 21」
- 10回 テキスト「Section 22, 23, 24」
- 11回 テキスト「Section 25, 26, 27」
- 12回 テキスト「Section 28, 29, 30」
- 13回 テキスト「Section 31, 32, 33」
- 14回 復習
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)... 30% 課題(中テストを含む)... 30% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回小テストを実施するので、予習及び復習を必ずやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースはリーディング用の教材とTOEIC対策の2本立てで行う。リーディングは社会科学系のエッセイを中心に読む。このことを通して、今後の専門分野の英文を読む下地を築き上げる。ただ和訳していただくだけではなく、テキストの英文をインプットし、インテイクし（音読）、アウトプットする「トレーニング」を行う。

教科書 /Textbooks

『Outlook on Society : Skills for Better Reading II 構造で読む社会科学エッセイ』Yumiko Ishitani, Emma Andrew 著、南雲堂。
『Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 1』David E. Bramley、河合忠仁著、松柏社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション (成績評価の説明、予習の仕方、授業の進め方等)
- 2回 Unit 1 理由で押し切る!
- 3回 Unit 2 プームを考える
- 4回 Unit 3 社会現象を考える
- 5回 Unit 4 説得は実験で
- 6回 Unit 5 賛成? 反対?
- 7回 Unit 6 比べてみよう
- 8回 Unit 7 きちんと分類
- 9回 Unit 8 歴史をたどる
- 10回 Unit 9 原因を探る
- 11回 Unit 10 手順・過程を説明する
- 12回 Unit 11 理論の説明
- 13回 Unit 12 最近気になる言葉を考えよう
- 14回 Unit 13 データで説得
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) ... 50%、 学期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定した方法で予習をしてくること。必ず辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、基礎文法を扱った教材を通して特にリスニング及びリーディング力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

石井隆之 他著 「Access to simple English」 成美堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
- 2回 Chapter 1 基本時制
- 3回 Chapter 2 進行形
- 4回 Chapter 3 完了形
- 5回 Chapter 4 受動態
- 6回 Chapter 6 5文型
- 7回 Chapter17 助動詞
- 8回 Chapter 8 不定詞
- 9回 Chapter 9 動名詞
- 10回 Chpater10 分詞
- 11回 Chapter15 関係代名詞
- 12回 Chapter16 関係副詞
- 13回 Chapter18 仮定法
- 14回 Chapter22 比較
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト50% + 期末テスト50%
欠席2回まで。遅刻2回で1回で欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life. In addition, you will study and take the TOEIC test independently to help you function effectively in international society using English after you have graduated.

教科書 /Textbooks

Teaching materials will be provided by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 What is culture?
- 3 回 Power and achievement
- 4 回 Universalism and benevolence
- 5 回 Tradition, security and conformity
- 6 回 Stimulation, self-direction and hedonism
- 7 回 Speeches & discussion
- 8 回 Speeches & discussion
- 9 回 Speeches & discussion
- 1 0 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 1 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 2 回 Intercultural negotiation
- 1 3 回 Intercultural mediation
- 1 4 回 Stereotypes
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grade = Teacher grade + your actual TOEIC (TOEFL) score (balanced)
TOEIC (TOEFL)スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を読んだり、聞いたりしたときの理解度・読解度を高める。その到達度をみるためにTOEICで500点を獲得することを目的とする。ここでは特にTOEICで高得点を目指すため、その練習に重点を置く。

教科書 /Textbooks

西田晴美 『Power Charge for the TOEIC Test』 (金星堂) ISBN978-4-7647-3874-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 Unit 6 Advertising【時制】
- 2回 Unit 6【時制】【節】
- 3回 Unit 7 Personnel【イディオム】
- 4回 Unit 8 Purchases【一致】【主語】【述語動詞】
- 5回 Unit 9 Office Work【不定詞】【名詞】【形容詞】【副詞】
- 6回 Unit 9 Office Work【動名詞】【名詞】
- 7回 Unit 9 Office Work【不定詞】【動名詞】【動詞】
- 8回 Unit 10 Employment【関係代名詞】【形容詞】【代名詞】
- 9回 Unit 10 Employment【関係副詞】【副詞】
- 10回 Unit 11 Business【接続詞】【節】
- 11回 Unit 11 Business【前置詞】【句】
- 12回 Unit 12 Finance & Banking【構文】
- 13回 Unit 13 Health & Welfare【仮定法】【時制】
- 14回 Unit 14 Computers & The Internet【仮定法】【時制】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題...30% 期末試験...60%
(理由なく欠席を4回した場合、期末試験を受けることはできません)
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校入試レベルの文法書を準備しておくと役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期で習得した英語力を、Japan Timesの記事を用いながらさらに伸ばしていく。記事の内容は様々で、政治・社会などや時には社説などを読み解くことで総合的な読解力をつける。

教科書 /Textbooks

主としてJapan Timesのオンラインニュース

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のやり方を説明し、2回目のプリント配布。
- 2回 Japan Timesの記事の内容を解釈。予め指名された学生によるまとめ(英文による)
- 3回 3回目から14回目までは2回目と同じ方法ですすめる。
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30% 報告 20% 期末試験 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 新藤 照夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、具体的にある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

A Strategic Approach to the TOEIC Test Listening 西陰浩子 他 著 (成美堂)
TOEIC Test: On Target <Book1> 大賀リ工 他 著 (南雲堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Sickness and Injury/Chapter 1
- 3回 Transportation/Chapter2
- 4回 Presentation/Chapter3
- 5回 Trouble/Chapter4
- 6回 Small Talk 2/Chapter5
- 7回 Mini-test 3/Chapter6
- 8回 At a Restaurant/Chapter7
- 9回 Making a Complaint/Chapter8
- 10回 TOEIC 模擬テスト
- 11回 Shopping/Chapter9
- 12回 Sightseeing/Chapter10
- 13回 Returning Home/Chapter11
- 14回 Mini-Test 4/Chapter12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 (小テスト含む) 40% + 学期末試験60%、TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の準備を毎回十分にやること。
日頃から英語に親しむ・学習する機会を出来るだけ作ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

林 裕二著 Seize the main points of the TOEIC Test 「ターゲットとポイントで学ぶTOEIC テスト」(金星堂 ¥1995)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Unit6 不定詞と動名詞
- 3回 Unit6
- 4回 Unit6
- 5回 読解プリント
- 6回 Unit6
- 7回 Unit6
- 8回 Unit6
- 9回 Unit6
- 10回 読解プリント
- 11回 Unit5 分詞
- 12回 Unit5
- 13回 Unit5
- 14回 Unit5
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%) + 学期末試験(80%) × TOEIC・TOEFL受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are listening, reading and writing English. The class is taught in English. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to communicate confidently when they spend time studying, working or traveling in English.

教科書 /Textbooks

- ① "Word Master Approach for the TOEIC Test" <Word Book> Published by Seibido
- ② "The Heinle Picture Dictionary English/日本語", Audio CDs and Interactive CD-ROM Published by Thomson
- ③ 『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』 朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course will help the students to increase their English vocabulary while listening to English speakers and looking at pictures in the text book. We will also use software to polish students' English ability.

- 1回 Introduction
- 2回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 3回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 4回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 5回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 6回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 7回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 8回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 9回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 10回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 11回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 12回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 13回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 14回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on five factors: attendance, effort in class, completion of homework, in-class assignment, tests and final examination. Complete breakdowns of score percentage for the final grade on the basis of your performance in classroom activities and on the results of tests. participation in class 15% completion of homework and in-class assignment 58% final exam 27%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The students must be prepared to listen to and memorize the sounds they hear on Audio CDs, as well as to be able to spell the words they hear. The students must also use Interactive CD-ROM for homework. Student must ask questions in class.
第1回目の授業にすべてのテキストを必ず持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に引き続き、単語を集中的に学習し、さらに実践的な問題(TOEICの問題)を解くことで実用的な英語力の養成をはかります。

教科書 /Textbooks

『DUO[デュオ]セレクト』(出版社:アイシーピー)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICの問題を利用した簡易テストを実施。
- 2回 テキスト「Section 1, 2, 3」
- 3回 テキスト「Section 4, 5, 6」
- 4回 テキスト「Section 7, 8, 9」
- 5回 テキスト「Section 10, 11, 12」
- 6回 テキスト「Section 13, 14, 15」
- 7回 テキスト「Section 16, 17, 18」
- 8回 復習
- 9回 テキスト「Section 19, 20, 21」
- 10回 テキスト「Section 22, 23, 24」
- 11回 テキスト「Section 25, 26, 27」
- 12回 テキスト「Section 28, 29, 30」
- 13回 テキスト「Section 31, 32, 33」
- 14回 復習
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)... 30% 課題(中テストを含む)... 30% 期末試験... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回小テストを実施するので、予習及び復習をやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースでは英語Iで用いたテキストに収められた長めの英文を使用する。「トレーニング」の内容もやや難易度の高いものに挑戦していく。TOEIC対策も引き続き行う。

教科書 /Textbooks

『Outlook on Society : Skills for Better Reading II 構造で読む社会科学エッセイ』Yumiko Ishitani, Emma Andrew 著、南雲堂。
『Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 1 新TOEIC Test文法・リーディング対策初級問題集』David E. Bramley / 河合忠仁著、松柏社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション (成績評価の説明、予習の仕方、授業の進め方等)
- 2回 Unit 1 理由で押し切る!
- 3回 Unit 2 プームを考える
- 4回 Unit 3 社会現象を考える
- 5回 Unit 4 説得は実験で
- 6回 Unit 5 賛成? 反対?
- 7回 Unit 6 比べてみよう
- 8回 Unit 7 きちんと分類
- 9回 Unit 8 歴史をたどる
- 10回 Unit 9 原因を探る
- 11回 Unit 10 手順・過程を説明する
- 12回 Unit 11 理論の説明
- 13回 Unit 12 最近気になる言葉を考えよう
- 14回 Unit 13 データで説得
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) ... 50%、 学期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定した方法で予習をしてくること。必ず辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題を扱った教材を通して、特にリスニング及びリーディング力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

寺西雅之 他著 「TOEIC Test Success」 南雲堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテストを受験する学生は、授業とは別に個人のスコアにあった問題集で自習することを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
- 2回 Lesson 1 English Studies
- 3回 Lesson 2 Scheduling and Planning
- 4回 Lesson 3 English Language Proficiency Tests and Business
- 5回 Lesson 4 Dating, Relationships, and Advice
- 6回 Lesson 5 Music and Style
- 7回 Lesson 6 Jobs and Employment
- 8回 Lesson 7 Health and Fitness
- 9回 Lesson 8 Finding Purpose and Setting Life Goals
- 10回 Lesson 9 Money and Happiness
- 11回 Lesson 10 Travel and Adventure
- 12回 Lesson 11 Movies and Preferences
- 13回 Lesson 12 Museums and Culture
- 14回 Lesson 13 Disabilities and Access
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト50% + 期末テスト50%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業予習を必ずしてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

クラス 律政群 1 - A
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Basic communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation and Introductions
- 2 回 Text Unit 2 "Meeting People"
- 3 回 Text Unit 3 "Around the World"
- 4 回 Text Unit 4 "Setting Up a Home Office"
- 5 回 Text Unit 5 "Favorite Things"
- 6 回 Text Unit 6 "Interesting Places"
- 7 回 Text Unit 7 "Office...or Living Room?"
- 8 回 Text Unit 9 "The Collectors"
- 9 回 Text Unit 10 "The Modern World"
- 1 0 回 Game Day!
- 1 1 回 Text Unit 11 "Traveling"
- 1 2 回 Text Unit 12 "Shopping"
- 1 3 回 Text Unit 14 "Job Exchange"
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will be handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Under the Blossoms By Kaori Shoji
- "
- 第3回 "Essay - 2 The Edo Spirit By Kaori Shoji
- "
- 第4回 "Essay - 3 Tough to Swallow By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 Caveat Emptor By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第6回 "Essay - 5 I will survive By Anita Lee
- "
- 第7回 "Essay - 6 Going on ten ... By Anita Lee
- "
- 第8回 "Essay - 7 Honing Appreciation By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第9回 "Essay - 8 Leaving it all behind By Samantha Loong
- "
- 第10回 "Essay - 9 The Halloween Exorcise Plan By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 Promoting reading By Joel Assogba
- "
- 第12回 "Essay - 11 Abandoned buildings By Samantha Loong
- "
- 第13回 "Essay - 12 History, is it worth it? By Garry Bassin
- "
- 第14回 "Essay - 13 No ifs, ands, or butts By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life.

教科書 /Textbooks

Identity by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka and Miyuki Iida. Oxford University Press.
ISBN: 0-19-438574-4 (2003年10月)、2439 円 (当時)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 Identity
- 3 回 Identity
- 4 回 Values
- 5 回 Values
- 6 回 Culture Shock
- 7 回 Culture Shock
- 8 回 Culture in Language
- 9 回 Culture in Language
- 1 0 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 1 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 2 回 Group Work: Discussion Skills
- 1 3 回 Body Language and Customs
- 1 4 回 Body Language and Customs (make-up class)
- 1 5 回 Review (make-up class)

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking Ability 50% Writing Ability 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・他
/Class Format

クラス 律政群 1 - D
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 1. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to course.
- 2回 Unit 1 The Guy with Green Hair. Talking about yourself.
- 3回 Unit 2 The Shoplifter. Difficult experiences.
- 4回 Unit 3 I'm not addicted. Online life.
- 5回 Review
- 6回 Unit 4 Beauty Contest. Big accomplishments.
- 7回 Unit 5 Who Pays? Rules for dating and gender roles.
- 8回 Unit 6 Saying "I Love You." Expressing feelings openly.
- 9回 Review
- 10回 Unit 7 Family Values. Is it always important to tell the truth?
- 11回 Unit 8 Cyber Love. Relationship values.
- 12回 Unit 9 A Letter from Grandma. Staying in touch.
- 13回 Unit 10 Fan Worship. Obsessions.
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス 律政群 1 - E
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction
- 第2回 Would you like beef or fish?
- 第3回 Can I have your passport, please?
- 第4回 Do you have any vacancies?
- 第5回 Go straight along Seventh Avenue
- 第6回 Out and About 1: Sightseeing
- 第7回 Do you mind if I watch TV?
- 第8回 How do you feel?
- 第9回 Are you free this weekend?
- 第10回 Are you ready to order?
- 第11回 My father works in a bank.
- 第12回 Out and About 2: Eating Out
- 第13回 Important expressions and vocabulary review
- 第14回 Summary and exam guidance
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義・他

クラス 律政群 1 - F
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance =50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名
/Instructor

デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態
/Class Format

クラス 律政群 1 - G
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Development of practical communication skills through study of various English materials. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Orientation
- 2 回 Timed English Speeches and Q&A sessions.
- 3 回 Unit 1 and discussion in English
- 4 回 Unit 2 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 3 and discussion in English
- 7 回 Unit 4 and discussion in English
- 8 回 Unit 5 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 6 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 7 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 8 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

“British Life Today : An Introduction” 南雲堂
TOEIC : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業の進め方、プリントによるListening演習)
- 2回 授業前半 : TOEIC演習 : Chapter 1 から順次進めていく。
授業後半 : Unit 1 から順次進めていく。
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

クラス 律政群 1 - A
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Basic communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation "My Summer"
- 2 回 Text Unit 15 "Family"
- 3 回 Text Unit 16 "In a Cafe"
- 4 回 Text Unit 17 "Hurricane"
- 5 回 Text Unit 18 "Memories"
- 6 回 Text Unit 19 "A Day in the Life of..."
- 7 回 Text Unit 20 "Love at First Sight?"
- 8 回 Text Unit 22 "It's on the Right"
- 9 回 Text Unit 23 "Big Plans"
- 1 0 回 Christmas Lesson!
- 1 1 回 Text Unit 24 "A New Year"
- 1 2 回 Text Unit 26 "North and South"
- 1 3 回 Text Unit 27 "The Best Food in Town"
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Earthquake Weather By Samantha Loong
- "
- 第3回 "Essay - 2 Enjoy Every Sandwich By Steve Ford
- "
- 第4回 "Essay - 3 Summer Preserves By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 The Island Monologues By Garry Bassin
- "
- 第6回 "Essay - 5 It's tough being a man, but it's a whole new ball game By Kaori Shoji
- "
- 第7回 "Essay - 6 Thriller By Kit Pancoast Nagamur
- "
- 第8回 "Essay - 7 Dialect Diversity By Samantha Loong
- "
- 第9回 "Essay - 8 Fear of the Unknown By Garry Bassin
- "
- 第10回 "Essay - 9 Flee! Fly! Flu! By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 The Birds By Garry Bassin
- "
- 第12回 "Essay - 11 Blowing smoke By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第13回 "Essay - 12 Don't Kill the Messenger By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第14回 "Essay - 13 Restore, Not Raze By Karen Severns
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life.

教科書 /Textbooks

Identity by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka and Miyuki Iida. Oxford University Press.
ISBN: 0-19-438574-4 (2003年10月)、2439円(当時)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2回 Individualism
- 3回 Individualism
- 4回 Politeness
- 5回 Politeness
- 6回 Communication Styles
- 7回 Communication Styles
- 8回 Gender and Culture
- 9回 Gender and Culture
- 10回 Film Review (Cultural Difference)
- 11回 Film Review (Cultural Difference)
- 12回 Group Work: Discussion Skills
- 13回 Diversity
- 14回 Diversity
- 15回 Review (make-up class)

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking Ability 50% Writing Ability 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 1. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 First Semester Review.
- 2回 Unit 11 Pet Peeve. Bad experiences.
- 3回 Unit 12 Close Your Eyes and See. Disabilities.
- 4回 Unit 13 Will Children Save the Earth? Environmental problems.
- 5回 Review
- 6回 Unit 14 Get a Job! Life goals.
- 7回 Unit 15 To Tell or Not To Tell. Reasons and excuses.
- 8回 Unit 16 The Dream. The meaning of dreams.
- 9回 Review
- 10回 Unit 17 To Have or Have Not. Having children.
- 11回 Unit 18 Are Humans Smart?
- 12回 Unit 19 Cloning Cyndi. For and against cloning.
- 13回 Unit 20 Why Learn English?
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス 律政群 1 - E
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course objectives and a progress review
- 第2回 What's your favourite food?
- 第3回 What would you like to drink?
- 第4回 I won't be home for lunch today.
- 第5回 Could you tell me when we'll there please?
- 第6回 How would you like to pay?
- 第7回 Out and About 3: Getting around
- 第8回 Can I send this airmail?
- 第9回 What time does the show start?
- 第10回 Where did you lose did?
- 第11回 Goodbye and thanks!
- 第12回 How many bags do you have?
- 第13回 Important expressions and vocabulary review
- 第14回 Summary and exam guidance
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義・他

クラス 律政群 1 - F
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques
Week 8	Control Techniques
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting
Week 11	Charting
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Development of practical communication skills through study of various English materials. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Timed Speeches and Q&A sessions
- 2 回 Unit 9 and discussion in English
- 3 回 Unit 10 and discussion in English
- 4 回 Unit 11 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 12 and discussion in English
- 7 回 Unit 13 and discussion in English
- 8 回 Unit 14 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 15 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 16 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 17 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力定着のため、英語によるコミュニケーション力の基盤作りを目的とする授業を行う。加えて、英語圏の文化知識の理解も深めることを目指したい。講義全体のキーワードは「会話のための文法力」、「異文化理解」、「コミュニケーション力」です。

教科書 /Textbooks

配布プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 Daily Life (1)
- 4回 Daily Life (2)
- 5回 Family Member
- 6回 Time Expression
- 7回 Place Expression (1)
- 8回 Place Expression (2)
- 9回 On the Telephone
- 10回 Student Housing
- 11回 Student Activities (1)
- 12回 Student Activities (2)
- 13回 Complaining
- 14回 Negotiations
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ... 40% 平常の学習状況 (小テストなど含む) ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

“British Life Today : An Introduction” 南雲堂
TOEIC : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
授業前半 : TOEIC演習 : Chapter 1 から順次進めていく。
授業後半 : Reading : Unit 1から順次進めていく。
- 2回
3回
4回
5回
6回
7回
8回
9回
10回
11回
12回
13回
14回
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：法律と文化
ねらい：① 英語教材を通して、法律と文化を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・ Unit 1
- 第2回 Unit 2
- 第3回 Unit 3
- 第4回 Unit 4
- 第5回 Unit 5
- 第6回 Unit 6
- 第7回 Unit 7
- 第8回 Unit 8
- 第9回 Unit 9
- 第10回 Unit 10
- 第11回 Unit 11
- 第12回 Unit 12
- 第13回 Unit 13
- 第14回 Unit 14
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースではCIA Fact Book等のデータをもとに編集されたテキストを読む。環境問題、人口問題など現代社会が抱える問題を英語で読んでいく。また読むだけでなく、そこで使われている表現や語彙を習得し、使える（アウトプット）ように「トレーニング」していく。TOEIC対策も行う。

教科書 /Textbooks

『A World of Change on the Web 変貌する世界』 Setsuko Watanabe他、南雲堂。
『Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2 新TOEIC Test文法・リーディング対策中級問題集』 David E. Bramley / 河合忠仁著、松柏社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション (成績評価の説明、予習の仕方、授業の進め方等)
- 2回 Unit 1 Ethnic Stereotypes
- 3回 Unit 2 Endangered Species 1
- 4回 Unit 3 Endangered Species 2
- 5回 Unit 4 Modern Masters of Art
- 6回 Unit 5 Champions of Peace
- 7回 Unit 6 Myspace and Wikipedia
- 8回 Unit 7 Champions of Charity
- 9回 Unit 8 Global Warming
- 10回 Unit 9 Polar Bears on Thin Ice
- 11回 Unit 10 Over Population
- 12回 Unit 11 An Era of Adoption?
- 13回 Unit 12 Are Diamonds Really a Girl's Best Friend?
- 14回 Unit 13 Gambling around the Globe
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) ... 50%、 学期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定した方法で予習をしてくること。必ず辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

林 裕二著 Seize the main points of the TOEIC Test 「ターゲットとポイントで学ぶTOEIC テスト」(金星堂 ¥1995)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Unit1 基本時制
- 3回 Unit1
- 4回 Unit2 進行形・完了形
- 5回 読解プリント
- 6回 Unit2
- 7回 Unit3 名詞と主語と動詞の一致
- 8回 Unit3
- 9回 Unit3
- 10回 読解プリント
- 11回 Unit7 助動詞
- 12回 Unit7
- 13回 Unit7
- 14回 Unit7
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%) + 学期末試験(80%) × TOEIC・TOEFL受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 律政群2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

Successful Keys To the ToEIC Test 1 by Kirihara Shoten

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 1 0 % 試験 ... 9 0 %

4 回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 C D を聞いて、Self Study Quiz の予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 中島 美穂子 / nakashima mihoko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政2 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文法とリスニングに重きを置き英語の4技能をつけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

First Time Grammar トムソンコーポレーション (2007年1月)
『新TOEIC テスト全パート対応ヴォキャブラリー徹底演習』三修社 (2009年10月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文 (I) Lesson 1
- 3回 文 (II) Lesson 2
- 4回 名詞・冠詞 Lesson 3
- 5回 代名詞 Lesson 4
- 6回 形容詞・副詞 Lesson 5
- 7回 be動詞・一般動詞 Lesson 6
- 8回 助動詞 Lesson 7
- 9回 接続詞 Lesson 8
- 10回 句・節 Lesson 9
- 11回 比較 Lesson10
- 12回 関係詞 Lesson11
- 13回 否定 Lesson12
- 14回 基本時制 Lesson13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 授業態度...20% 期末試験...20% 宿題...10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習をしてくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

SF作家Fredric Brownの短編小説を題材にしたテキストを用いて、「鑑賞のポイント」で重要構文を学習して読解力を高めると同時に、その小説世界を味わいます。仕上げとして演習問題に取り組み、学んだ知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

高本孝子 / 池園宏編 "Let's Enjoy SF Short-Shorts: English Learning through Fredric Brown's Astounding Stories" 開文社、2010年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 "Daisies" (1) 「隠れている成句表現を見つけよう」
- 2回 "Daisies" (2) 「基本動詞の概念をつかもう(1)」
- 3回 "Sentence" (1) 「主節の主語・述語動詞を見つけよう」
- 4回 "Sentence" (2) 「基本動詞の概念をつかもう(2)」
- 5回 "Pattern" (1) 「過去形と過去分詞形を見分けよう」
- 6回 "Pattern" (2) 「時制に気をつけよう」
- 7回 "Solipsist" (1) 「andが結ぶものを見つけよう」
- 8回 "Solipsist" (2) 「関係代名詞の省略を見抜こう」
- 9回 "Preposterous" (1) 「類義語はひとまとめで考えよう」
- 10回 "Preposterous" (2) 「知らない単語の意味は接辞・語根から推測しよう」
- 11回 "Reconciliation" (1) 「場面を思い描きながら読もう」
- 12回 "Reconciliation" (2) 「形容詞+名詞で多彩な表現をしよう」
- 13回 "Answer" (1) 「関係代名詞の訳は『ところの』でなくても良い」
- 14回 "Answer" (2) 「難解な単語に振り回されないようにしよう」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 小テスト... 20% 期末試験... 60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をして授業に臨みましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政群2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
(1) 英語のReading及びListeningの能力を養う。
(2) 英語の資格試験に必要な文法事項を学習する。

教科書 /Textbooks

How to Receive a Better Score for the New TOEIC Test (松柏社)、2008年4月
「新TOEICテスト全パート得点のコツをレッスン」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol.3 (発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1 類似音、語彙、ビジネスレター
- 第3回 Chapter 2 Yes/No Question、語彙、記事
- 第4回 Chapter 3 プライベートな会話、品詞、広告
- 第5回 Chapter 4 部分的不一致、品詞、通知、告知
- 第6回 Chapter 5 Wh-questions、関係詞、図表
- 第7回 Chapter 6 ビジネス上の会話、関係詞、e-mail
- 第8回 Chapter 7 公共アナウンス、時制、ビジネスレター
- 第9回 Chapter 8 間接疑問文、時制、記事
- 第10回 Chapter 9 他人同士の会話、倒置構文、広告
- 第11回 Chapter 10 商業案内、倒置構文、通知、告知
- 第12回 Economic Growth
- 第13回 Automobile Society
- 第14回 小テスト (100)
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 小テスト、レポート (20%)
 - ・ 出席、授業参加 (20%)
 - ・ 期末考査 (60%)
- 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政群2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。

1. 語彙を増やす
2. リスニング力を強化する
3. 文法、語法の知識を身につける
4. 速読の能力を高める
5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書 /Textbooks

“Total Strategy for the TOEIC Test” by T. Ishii et al. (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Computers and Society
- 3回 Business Transaction
- 4回 At the Office
- 5回 Cars and Society
- 6回 Eating and Drinking
- 7回 Shopping
- 8回 Entertainment
- 9回 Accidents & Crimes
- 10回 Teaching & Learning
- 11回 Finance and Banks
- 12回 Economy and Industry
- 13回 Geography and Travels
- 14回 Weather and Climate
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)... 50%、 期末試験... 50%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に小テストや予習範囲等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題を扱った教材を通して、特にリスニング及びリーディング力の向上を目指す。1学期は、TOEICスコア500点を目標とする。

教科書 /Textbooks

田中清美 著 「Effective Approaches to the TOEIC Test」 南雲堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大量に問題が出題されるTOEICテストで目標スコアを確実に取得する実力をつけるために、授業で使用するテキストとは別にTOEIC問題をレベル別に扱った問題集(スコア500~レベル)で自己学習することを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト(必ず出席のこと)
- 2回 Unit 1 ~2 各パート問題
- 3回 Unit 3 ~4 各パート問題
- 4回 Unit 5 ~6 各パート問題
- 5回 Unit 7 ~8 各パート問題
- 6回 Unit 9 ~10 各パート問題
- 7回 Unit 11 ~12 各パート問題
- 8回 Unit 13 ~14 各パート問題
- 9回 Unit 15 ~16 各パート問題
- 10回 Unit 17 ~18 各パート問題
- 11回 Unit 19 ~20 各パート問題
- 12回 TOEIC 問題を扱ったプリント配布
- 13回 TOEIC 問題を扱ったプリント配布
- 14回 TOEIC 問題を扱ったプリント配布
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア500点以上10%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。TOEIC400点未満単位取得不可。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：政治と文化
ねらい：① 英語教材を通して、政治と文化を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方・ Unit 1
第2回 Unit 2
第3回 Unit 3
第4回 Unit 4
第5回 Unit 5
第6回 Unit 6
第7回 Unit 7
第8回 Unit 8
第9回 Unit 9
第10回 Unit 10
第11回 Unit 11
第12回 Unit 12
第13回 Unit 13
第14回 Unit 14
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政群2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースでは前期と同じテキストを7回目まで読んでいく。それ以降は英字新聞を読み進めていく。また読むだけでなく、そこで使われている表現や語彙を習得し、使える(アウトプット)ように「トレーニング」していく。TOEIC対策も行う。

教科書 /Textbooks

『A World of Change on the Web 変貌する世界』 Setsuko Watanabe他、南雲堂。
『Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2 新TOEIC Test文法・リーディング対策中級問題集』 David E. Bramley / 河合忠仁著、松柏社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(成績評価の説明、予習の仕方、授業の進め方等)
- 2回 Unit 14 Our Bodies and Obesity
- 3回 Unit 15 Growing Old—Living Long
- 4回 Unit 16 Ever—Changing Energy
- 5回 Unit 17 The Natural Way—Medicine and Trade
- 6回 Unit 18 Copyright—What Are the Rules?
- 7回 Unit 19 Veg—Out!
- 8回 Unit 20 HIV/ AIDS around the World
- 9回 英字新聞の読み方：見出し、パラグラフの構成
- 10回 英字新聞を読む1
- 11回 英字新聞を読む2
- 12回 英字新聞を読む3
- 13回 英字新聞を読む4
- 14回 英字新聞を読む5
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) ... 50%、 学期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定した方法で予習をしてくること。必ず辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。

教科書 /Textbooks

林 裕二著 Seize the main points of the TOEIC Test 「ターゲットとポイントで学ぶTOEIC テスト」(金星堂 ¥1995)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICと講義概要
- 2回 Unit6 不定詞と動名詞
- 3回 Unit6
- 4回 Unit6
- 5回 読解プリント
- 6回 Unit6
- 7回 Unit6
- 8回 Unit6
- 9回 Unit6
- 10回 読解プリント
- 11回 Unit5 分詞
- 12回 Unit5
- 13回 Unit5
- 14回 Unit5
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%) + 学期末試験(80%) × TOEIC・TOEFL受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 律政群2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

新TOEICテスト全パート対応 ヴォキャブラリー徹底演習 by Satoru Huruya

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1 回 Lesson1
- 2 回 lesson2
- 3 回 Lesson3
- 4 回 Lesson4
- 5 回 Lesson5
- 6 回 Lesson6
- 7 回 Lesson7
- 8 回 Lesson8
- 9 回 Lesson9
- 1 0 回 Lesson10
- 1 1 回 Lesson11
- 1 2 回 Lesson12
- 1 3 回 Lesson13
- 1 4 回 Lesson14
- 1 5 回 review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 1 0 % 試験 ... 9 0 %

4 回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 CDを聞いて予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 美穂子 / nakashima mihoko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政2 - H /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文法とリスニングに重きを置き英語の4技能をつけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

First Time Grammar トムソンコーポレーション (2007年1月)
Total Strategy for the TOEIC Test 成美堂 (2006年1月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	現在完了	Computers and Society
3回	進行形	Business Transaction
4回	受動態	At the office
5回	不定詞	Cars and Society
6回	分詞	Eating and Drinking
7回	動名詞	Shopping
8回	時制の一致	Entertainment
9回		Appendix Accidents & Crimes
10回		Teaching & Learning
11回		Medicine & Hospitals
12回		Finance and Banks
13回		Economy and Industry
14回		Geography and Travels
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 授業態度...20% 期末試験...20% 宿題...10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習をしてくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ジョン・グリシャム原作の法廷映画Rainmakerを教材にしたテキストとDVDを用いてアメリカの陪審員制度、訴訟などへの理解を深めながら、法廷で使われる専門用語も覚えていきます。またListeningやComprehensionなどの演習に取り組み、英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

穂本浩美 / 濱田真由美著、American Justice in Focus
マクミランランゲージハウス (2007年)、2100円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
This Would Be a Great Place to Work
- 2回 This Would Be a Great Place to Work
- 3回 Do You Have a Lawyer?
- 4回 And Still, She Can't Leave Him
- 5回 How're You Feeling, Donny Ray?
- 6回 Do You Want to Settle, Rudy?
- 7回 It's Just a Deposition
- 8回 Get This Boy Some Coffee
- 9回 This Is a Courthouse of the U.S.!
- 10回 The Boy Is Dead, Isn't He?
- 11回 That \$10,000 Was Just Blackmail
- 12回 It Was Self-Defense
- 13回 Just Another Shark in the Dirty Water
- 14回 Just Another Shark in the Dirty Water
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 小テスト... 20% 期末試験... 60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life. In addition, you will study and take the TOEIC test independently to help you function effectively in international society using English after you have graduated.

教科書 /Textbooks

Teaching materials (Mirrors & Windows) will be provided by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 Rock around the clock (1)
- 3 回 Rock around the clock (2)
- 4 回 You are what you eat? (1)
- 5 回 You are what you eat? (2)
- 6 回 Conversation and ... silence (1)
- 7 回 Conversation and ... silence (2)
- 8 回 Men and women, girls and boys – Gendered identities (1)
- 9 回 Men and women, girls and boys – Gendered identities (2)
- 1 0 回 All you need is love (?) (1)
- 1 1 回 All you need is love (?) (2)
- 1 2 回 Bringing up baby (1)
- 1 3 回 Bringing up baby (2)
- 1 4 回 Stereotypes
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grade = Teacher grade + your actual TOEIC (TOEFL) score (balanced)
TOEIC (TOEFL)スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政群2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1) インターネットを利用したアクティビティを通して実践的な英語学習を行う
- (2) オンラインニュースを読み、語彙を増やすとともに速読の能力を高める
- (3) TOEICの練習問題を行う

教科書 /Textbooks

“Web-enhanced Reading & Writing!: Basic Internet Skills and Online News” by Keiko Miyake (イソース)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Basic Computer Terms/ Typing-1/ Online Dictionaries-1
- 3回 Typing-2/ Online Dictionaries-2/ Search Engines-1
- 4回 Search Engines-2/ News Sites-1
- 5回 News Sites-2/ Headlines-1
- 6回 Headlines-2
- 7回 Headlines-3/ Abbreviations and Acronyms-1
- 8回 Abbreviations and Acronyms-2
- 9回 The Lead-1
- 10回 The Lead-2/ News Summaries-1
- 11回 News Summaries-2/ The Paragraph-1
- 12回 The Paragraph-2/ Transitions-1
- 13回 Transitions-2/ Paraphrasing and Summarizing
- 14回 Supportive Information
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト、提出物を含む) ...50%、 期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に予習範囲や提出物等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に身につけた英語力を踏まえ、毎回のTOEIC問題模擬を通して、英語力の更なる向上を目指す。TOEICスコア550点以上を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト不使用。
TOEIC問題のプリントを各授業で配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期同様、授業での学習以外に、各個人の目標スコアに適したレベル別TOEIC問題を自己学習することを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
2回	プリント模擬テスト & 各問題の解答確認
3回	"
4回	"
5回	"
6回	"
7回	"
8回	"
9回	"
10回	"
11回	"
12回	"
13回	"
14回	"
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 各授業模擬テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア500点以上10%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。TOEIC400点未満単位取得不可。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 律政群2 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Conversation framework
- 2回 First oral presentations and listening test
- 3回 Unit 1 "A Time to Remember"/Past tense/ "Used to"/writing paragraphs
- 4回 Unit 12 "It's Been a Long Time!"/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5回 Introductions and address systems/ Second oral presentations/ listening test
- 6回 Unit 4 "I've Never Heard of That!"/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7回 Unit 16 "What's Your Excuse?"/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9回 Third oral presentations/ listening test
- 10回 Unit 3 "Time for a Change!"/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 11回 Unit 7 "What's this for?"/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 12回 Thanking people and replying to thanks/ Fourth oral presentations/listening test
- 13回 Unit 2 "Caught in the Rush"/Indirect questions from 'Wh' questions/ Adverbs of uantity
Unit 5 "Going Places"/ Future tense with 'going to' and 'will'
- 14回 Apologizing: making apologies and responding
- 15回 Fifth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語III class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名
/Instructor

ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

クラス 律政群2 - E
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Person Longman- Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回 Delivering Your Message
- 第3回 Putting Your Speech Together
- 第4回 Speech - Self-Introduction - Outlining and Writing
- 第5回 Speech - Self-Introduction - Delivery
- 第6回 Speech - A personal Experience - Delivery
- 第7回 Speech - A Meaningful Object - Delivery
- 第8回 Speech - A specific Fear - Delivery
- 第9回 Speech - A Personal Opinion - Delivery
- 第10回 Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第11回 Delivery - 1
- 第12回 Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第13回 Delivery - 2
- 第14回 Delivery - 3
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 律政群 2 - G
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for business and communication. Students will practice basic grammar and language skills, which will then be applied to specific business situations.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ORIENTATION / SYLLABUS REVIEW
- 2回 NAMES, TITLES, & INTRODUCTIONS
- 3回 EXPANSION ACTIVITY
- 4回 OCCUPATIONS & WORKPLACES
- 5回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES I
- 6回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES II
- 7回 EXPANSION ACTIVITY
- 8回 NUMBERS & PRICES
- 9回 NUMBERS & PRICES LISTENING
- 10回 COST OF LIVING
- 11回 BUSINESS COSTS & EXPENSES
- 12回 SPECIAL PROJECT
- 13回 SPECIAL PROJECT
- 14回 PROJECT PRESENTATION
- 15回 PROJECT PRESENTATION

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance 20%, Homework 15%, Participation 25%, Projects and Quizzes 20%, Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 律政2 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

“British Life Today : An Introduction” 南雲堂
TOEIC : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業の進め方、プリントによるListening演習)
- 2回 授業前半 : TOEIC演習 : Chapter 1 から順次進めていく。
授業後半 : Unit 1 から順次進めていく。
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 クラス 律政2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
(1)インターネットを利用し、ワークブックのactivityを通じて基本的事項を段階的に学習する
(2)オンラインニュースを読み、語彙を増やすとともに速読の能力を高める
(3)英語資格試験に必要な文法事項を学習する

教科書 /Textbooks

“Web-enhanced Reading & Writing: Basic Internet Skills and Online News”
by Keiko Miyake (イソース、2008年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容の詳細はホーム・ページ (<http://kmiyake.com>) で確認すること。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 PartI Introduction to the Internet
- 第3回 1. Basic Computer Terms
- 第4回 2. Online Dictionaries
- 第5回 3. Typing
- 第6回 4. Search Engines
- 第7回 1. News Sites (Part II Reading)
- 第8回 2. Headlines
- 第9回 3. Abbreviations and Acronyms
- 第10回 4. The Lead
- 第11回 5. News Summaries
- 第12回 1. The Paragraph (Part III Writing)
- 第13回 2. Transitions
- 第14回 3. Paraphrasing & Summarizing
- 第15回 4. Supportive Information

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席、発表 (20%)
- ・ ワークブックの活用、提出物 (20%)
- ・ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政群 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students in this course will study the four language skills. They will go systematically through the exercises in the textbook as the teacher sees fit. Each unit will take one whole class and part of another. The final 1/2 of the second class will be devoted to a dialog test, in which each student will memorize the dialog and then make small changes in it.

教科書 /Textbooks

Smart choice Book 2 by Ken Wilson published by Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

The course will be taught as follows. During the first semester Units One through Six will be completed, along with corresponding dialogs from the test booklet written and distributed by the teacher at the beginning of the semester. Fifty percent of the final grade will be based on dialog tests given every other week and the other fifty percent will come from an average the grammar review and cumulative dialog test give at the end of the course.

- 1回 Unit 1 Talking about Vacations
- 2回 Unit 1 completed & Dialog Test
- 3回 Unit 2 Giving Opinions
- 4回 Unit 2 completed & Dialog Test
- 5回 Unit 3 Talking about experiences
- 6回 Unit 3 completed & Dialog Test
- 7回 Unit 4 Describing Places
- 8回 Unit 4 completed & Dialog Test
- 9回 Unit 5 Describing Special events
- 10回 Unit 5 completed & Dialog Test
- 11回 Unit 6 Giving Advice
- 12回 Unit 6 completed & Dialog Test
- 13回 Grammar Review Test
- 14回 Preparation for Cumulative Dialog Quiz
- 15回 Cumulative Dialog Quiz Units 1 ~ 6

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from dialog quizzes, speeches, written grammar review tests etc. Unexcused absence and late arrival for class will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義・他
クラス /Class: 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test =40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is a discussion course. It will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues in English.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 2. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to course.
- 2回 Unit 1 First Impressions.
- 3回 Unit 2 Traffic Jam. Traffic problems and pollution.
- 4回 Unit 3 Who Needs the Local Language?
- 5回 Review
- 6回 Unit 4 Getting Ahead. Success and Family Values.
- 7回 Unit 5 Forever Single. Stay single or get married?
- 8回 Unit 6 What Are Friends For?
- 9回 Review
- 10回 Unit 7 What's for Dinner? Impact of food choices.
- 11回 Unit 8 Cyber Bullyng. Asking for advice.
- 12回 Unit 9 Taking Care of Father. The older generation.
- 13回 Unit 10 Why Go to School? Priorities in school.
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 律政群2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 6 "Sure, No Problem!"/two-part verbs/ requests with modals/"Would you mind ...?"
- 2回 Unit 10 "I Don't Like Working on Weekends"/gerunds-/ clause with 'because';
Writing: paragraph---"A job you would be good at"---(three reasons for support)
- 3回 Expressing anger & resolving conflict/ Sixth oral presentations/ listening tests
- 4回 Unit 8 "Let's Celebrate"/relative clauses of time/adverbial clauses of time
- 5回 Unit 14 "So That's What It Means!"/ modals & adverbs/permission, obligation, prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6回 Giving compliments & replying to compliments
- 7回 Seventh oral presentations/ listening tests
- 8回 Unit 9 "Back to the Future"/time contrasts/conditional sentences using if clauses
Writing: paragraph---partner interview & writing partner's hopes for the future
- 9回 Unit 15 "What would you do?"/ unreal conditional sentences w/ if clauses/past modals
- 10回 Getting people's attention and interrupting/Eighth oral presentations/ listening test
- 11回 Unit 11 "It's Really Worth Seeing"/passive tense with & w/o by /
Writing: paragraph---a country you know
- 12回 Unit 13 "A Terrific Book, but a Terrible Movie"/participles as adjectives/
relative clauses
- 13回 Agreeing and disagreeing/ Ninth oral presentations/ listening test
- 14回 "Explaining 'things Japanese'" + Getting information & Controlling the conversation
- 15回 Tenth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語IV class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format
クラス /Class 律政群2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Person Longman- Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 Introduction to Persuasive Speaking
- 第3回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第4回 Delivery - 1
- 第5回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第6回 Delivery - 2
- 第7回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第8回 Delivery - 3
- 第9回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第10回 Delivery - 4
- 第11回 Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第12回 Delivery - 5
- 第13回 Symposium - Outling and Writing
- 第14回 Delivery
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for business and communication. Students will practice basic grammar and language skills, which will then be applied to specific business situations.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ORIENTATION / SYLLABUS REVIEW
- 2回 NAMES, TITLES, & INTRODUCTIONS
- 3回 EXPANSION ACTIVITY
- 4回 OCCUPATIONS & WORKPLACES
- 5回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES I
- 6回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES II
- 7回 EXPANSION ACTIVITY
- 8回 NUMBERS & PRICES
- 9回 NUMBERS & PRICES LISTENING
- 10回 COST OF LIVING
- 11回 BUSINESS COSTS & EXPENSES
- 12回 SPECIAL PROJECT
- 13回 SPECIAL PROJECT
- 14回 PROJECT PRESENTATION
- 15回 PROJECT PRESENTATION

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance 20%, Homework 15%, Participation 25%, Projects and Quizzes 20%, Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス 律政2 - H
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students can practice using their English communicative skills. The book asks the students to give their opinions and thoughts about a wide variety of topics, such as work, travel, shopping and so on. Discussion, pair work, some group work, and listening practice will all be held. Students are encouraged to speak out about their opinions, without being too shy.

教科書 /Textbooks

iTHINK , by Dale Fuller and Timothy Kiggell, (Macmillan Language House).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction
- 第2回 What are friends for?
- 第3回 Trouble at home
- 第4回 Looking back
- 第5回 Will you go out with me?
- 第6回 That looks delicious
- 第7回 We are the champions!
- 第8回 What a rip-off!
- 第9回 I'd rather go to Australia
- 第10回 I need a job
- 第11回 How was the concert?
- 第12回 Stop it! You're bothering me.
- 第13回 What an interesting class!
- 第14回 What a great place to live!
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)パラグラフレベル、更にパッセージレベルといったより大きな単位で、英語の速読のトレーニングに取り組む。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)英語のReading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

Power Reading 2 - Reading in Paragraphs 土屋武久、Bill Benfield他 (成美堂)、2010年1月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol.3 (発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Unite 1 English Rakugo (Reading Skill in Focus: Predicting)
- 第2回 Unite 2 Silent CEOs (Reading Skill in Focus: Phrase Reading)
- 第3回 Unite 3 Cappadocia (Reading Skill in Focus: Increasing WPM)
- 第4回 Unite 4 Eco-cars (Reading Skill in Focus: Finding Main Ideas)
- 第5回 Unite 5 Finance for Kids (Finding Main Ideas at the Passage Level)
- 第6回 Unite 6 Jazz (Scanning for Words)
- 第7回 Unite 7 Britain's National Trust (Scanning for Information)
- 第8回 Unite 8 How Fast Can Humans Run (Skimming for the Central Ideas)
- 第9回 Unite 9 Pitfalls of Statistics (Skimming for Point of View)
- 第10回 Unite 10 Hot Spring (Vocabulary Building)
- 第11回 Unite 11 Abraham Lincoln (Understanding Text Organization1: Time Oder)
- 第12回 Unite 12 Eating Oil (Understanding Text Organization2: Cause & Effect)
- 第13回 Unite 13 We Love Sitcoms (Understanding Text Organization3)
- 第14回 Unite 14 Regenerative Medicine (Evaluating Facts & Opinions)
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席、発表 (20%)
- ・ レポート、小テスト (20%)
- ・ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政群 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students in this course will study the four language skills. They will go systematically through the exercises in the textbook as the teacher sees fit. Each unit will take one whole class and part of another. The final 1/2 of the second class will be devoted to a dialog test, in which each student will memorize the dialog and then make small changes in it.

教科書 /Textbooks

Smart choice Book 2 by Ken Wilson published by Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

The course will be taught as follows. During the second semester Units Seven through Twelve will be completed, along with corresponding dialogs from the test booklet written and distributed by the teacher at the beginning of the semester. Fifty percent of the final grade will be based on dialog tests given every other week and the other fifty percent will come from an average the grammar review and cumulative dialog test give at the end of the course.

- 1回 Unit 7 Making Complaints
- 2回 Unit 7 completed & Dialog Test
- 3回 Unit 8 Describing preferences
- 4回 Unit 8 completed & Dialog Test
- 5回 Unit 9 Telling stories
- 6回 Unit 9 completed & Dialog Test
- 7回 Unit 10 Making Speculations
- 8回 Unit 10 completed & Dialog Test
- 9回 Unit 11 Talking about Past Habits
- 10回 Unit 11 completed & Dialog Test
- 11回 Unit 12 Explaining Possibilities
- 12回 Unit 12 completed & Dialog Test
- 13回 Grammar Review Test
- 14回 Preparation for Cumulative Dialog Quiz
- 15回 Cumulative Dialog Quiz Units 7 ~ 12

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from dialog quizzes, speeches, written grammar review tests etc. Unexcused absence and late arrival for class will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義・他

クラス 律政群2 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques
Week 8	Control Techniques
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting
Week 11	Charting
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義・他

クラス 律政群2 - C
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is a discussion course. It will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues in English.

教科書 /Textbooks

Day, Richard et al. Impact Issues 2. Pearson Longam. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Review of First Semester.
- 2回 Unit 11 An International Relationship
- 3回 Unit 12 Too Little, Too Late. Saving the planet.
- 4回 Unit 13 Ben and Mike. Rumors.
- 5回 Review
- 6回 Unit 14 Government Control.
- 7回 Unit 15 Living Together.
- 8回 Unit 16 Size Discrimination.
- 9回 Review
- 10回 Unit 17 Who Will Help Them? Refugees.
- 11回 Unit 18 Finding the Right One.
- 12回 Unit 19 Dress for Success.
- 13回 Unit 20 A Mother's Story. Punishment.
- 14回 Review
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Tests 30% Assignments 40% Term exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Before each lesson students must read the textbook unit and become familiar with the vocabulary. Students may ask about unfamiliar expressions in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅹ【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また難解なエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング 序章
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング 第2章
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング 第3章
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング 第4章
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング 第5章
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング 第6章
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング 第7章
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング 第8章
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング 第9章
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング 第10章
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング 第11章
- 14回 リスニング 模擬問題演習、リーディング 第12章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 大連交換教員 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 大連交換教員 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず一年次に学んだ文法事項を再確認し定着をはかる。次に長文読解する中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文法確認【状態補語】【結果補語】【方向補語】【動量】【時量】【把構文】【被構文】等
- 2回 文法確認
- 3回 文法確認
- 4回 文法確認
- 5回 第1課 上有天堂【蘇州と杭州】【累加】【使役】【仮定】【条件】【並列】
- 6回 第1課 上有天堂、練習問題
- 7回 第2課 長寿面【誕生日】【把構文】【条件】【並列】【継起】
- 8回 第2課 長寿面、練習問題
- 9回 第3課 七夕【累加】【補語】【被構文】【仮定】【因果】
- 10回 第3課 七夕、練習問題
- 11回 第4課 春節晚会【正月】【条件】【継起】
- 12回 第4課 春節晚会、練習問題
- 13回 第5課 国球【卓球】【因果】【前置詞】【状態の持続】
- 14回 第5課 国球、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

長文読解する中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 高考【大学受験】【数字】【比較の表現】【逆接】【少しも~ない】【条件】
- 2回 第6課 高考
- 3回 第6課 高考、練習問題
- 4回 第7課 北京的“的哥”【タクシー運転手】【比較の表現】【条件】【慣用表現】
- 5回 第7課 北京的“的哥”
- 6回 第7課 北京的“的哥”、練習問題
- 7回 第8課 海帰【海外からの帰国者】【因果】【目的】【条件】【比較の表現】
- 8回 第8課 海帰
- 9回 第8課 海帰、練習問題
- 10回 第9課 跳槽【転職】【比較選択】【慣用表現】
- 11回 第9課 跳槽
- 12回 第9課 跳槽、練習問題
- 13回 第10課 独生子女【一人っ子政策】【条件】【常用表現】
- 14回 第10課 独生子女、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 済管人律政群2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』白帝社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 第1課 長城【動詞+“過”】【好像】【逆接複文】【算】
- 2回 発表
- 3回 第2課 故宮【従】【如果】【動詞+着】
- 4回 発表
- 5回 第3課 敦煌莫高窟【連～都】【終于】【為了】
- 6回 発表
- 7回 第4課 秦の始皇帝陵と兵馬俑坑【被】【総】【由于】【只】
- 8回 発表
- 9回 第5課 黄山【以～為】【除了】【因為】【用】
- 10回 第6課 九寨溝【必須】【尽管～但是...】【不光】
- 11回 発表
- 12回 第7課 孔廟、孔府、孔林【而且】【可以】【使役表現】
- 13回 第8課 ポタラ宮【～的】【～才】【比較表現の“跟”】
- 14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 済管人律政群2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 第9課 峨眉山と泰山大仏【相当于】【按照】
 - 2回 発表
 - 3回 第10課 麗江【一~就...】【像~一様】
 - 4回 発表
 - 5回 第11課 蘇州の古典的園林【正如】【和~一様】【就是說】
 - 6回 発表
 - 7回 第12課 天壇公園【曾經】【即使】【属于】
 - 8回 発表
 - 9回 第13課 頤和園【使~】【通過】【怎麼】
 - 10回 発表
 - 11回 第14課 龍門石窟【值得】【对】
 - 12回 発表
 - 13回 第15課 雲崗石窟【可能補語】【不管】【正是】
 - 14回 発表
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 3回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 4回 このコンピュータは誰のものですか【人称・所有代名詞】【助詞2】
- 5回 トイレはどこにありますか【存在の有無】【助詞3】
- 6回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 7回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 8回 二日間予約したいですが【漢数詞】【年月日の言い方】
- 9回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 10回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 11回 土曜日には会社に行きません【用言の否定形】
- 12回 海に行きたいです【願望形】
- 13回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 14回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『チャレンジ！韓国語』白水社（2009年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』（野間秀樹・ナツメ社）を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

正確な発音の能力を高めながら、初級文法をもとに会話表現を学び、基礎レベルでの日常会話の能力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『チャレンジ！韓国語』白水社（2009年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』（野間秀樹・ナツメ社）を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目標とする。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(1)
- 3回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(2)
- 4回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(1)
- 5回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(2)
- 6回 自己紹介【自分について語る】(1)
- 7回 自己紹介【自分について語る】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(1)
- 10回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(2)
- 11回 帰り道【様子から推測、判断する】(1)
- 12回 帰り道【様子から推測、判断する】(2)
- 13回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(1)
- 14回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目指す。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(1)
- 3回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(2)
- 4回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(1)
- 5回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(2)
- 6回 村の風景【説明や描写】(1)
- 7回 村の風景【説明や描写】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(1)
- 10回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(2)
- 11回 診察を受ける【許可と禁止】(1)
- 12回 診察を受ける【許可と禁止】(2)
- 13回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(1)
- 14回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

李昌圭 『韓国語を学ぼう 中級』朝日出版社 (2007年4月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 何を食べましょうか【注文に関する表現】
- 3回 何を食べましょうか【提案と勧誘の表現】
- 4回 何を食べましょうか【意志の表現】
- 5回 電話番号を教えてください【電話に関する表現】
- 6回 電話番号を教えてください【理由の表現】
- 7回 電話番号を教えてください【可能、不可能の用言】
- 8回 趣味は何ですか【趣味に関する表現】
- 9回 趣味は何ですか【仮定形の表現】
- 10回 趣味は何ですか【連体形の表現】
- 11回 韓国ドラマ
- 12回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】
- 13回 仁寺洞にはどのように行きますか【意図、助言の表現】
- 14回 仁寺洞にはどのように行きますか【意志、約束の表現】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 発表・課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

李昌圭 『韓国語を学ぼう 中級』朝日出版社 (2007年4月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 風邪は治りましたか【病気に関する表現】
- 3回 風邪は治りましたか【前置きの表現】
- 4回 風邪は治りましたか【禁止、可能の表現】
- 5回 連休には何をするつもりですか【予定の表現】
- 6回 連休には何をするつもりですか【譲歩、同時進行の表現】
- 7回 雨がたくさん降っているようです【推測に関する表現】
- 8回 雨がたくさん降っているようです【引用・伝聞の表現】
- 9回 雨がたくさん降っているようです【意向を尋ねる表現】
- 10回 韓国ドラマ
- 11回 焼肉を作ることができますか【方法、可能の表現】
- 12回 焼肉を作ることができますか【経験の有無の表現】
- 13回 このズボン、着てみてもいいですか【当然・義務の表現】
- 14回 このズボン、着てみてもいいですか【状態、許容の表現】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 発表・課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 律政1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 済誉比人律政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2 回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3 回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4 回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5 回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6 回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7 回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8 回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9 回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10 回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11 回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12 回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13 回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14 回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15 回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 クラス 済営比人律政2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class

済営比人律政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には品詞・文型・文の種類・時制・法（モード）を学びます。音声化を重視するので、つづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにしましょう。6月に実施される実用フランス語技能検定試験（仏検）5級に合格すれば成績Cを保証します。その場合でも定期試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み方、母音の発音の方法
- 2回 つづり字の読み方
- 3回 名詞と不定冠詞、定冠詞、エリズイオンについて
- 4回 <-er> 動詞の活用
- 5回 文の種類（否定文・疑問文）
- 6回 形容詞と<etre>の活用
- 7回 限定詞（指示形容詞と所有形容詞）
- 8回 <avoir>の活用と部分冠詞
- 9回 <aller> <venir>の活用
- 10回 縮約形
- 11回 <-ir> 動詞の活用
- 12回 命令文
- 13回 疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞
- 14回 副詞的代名詞 yとen
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に続いて文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。11月の仏検4級を合格すれば、成績Cを保証します。その場合でも期末試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習
- 2回 比較級、最上級
- 3回 目的語人称代名詞の形と語順
- 4回 代名動詞
- 5回 複合過去の形と用法1
- 6回 複合過去 つづき
- 7回 単純未来
- 8回 半過去の形と用法
- 9回 受動態
- 10回 関係代名詞
- 11回 モード1 条件法
- 12回 中性代名詞
- 13回 現在分詞とジェロンディフ
- 14回 モード2 接続法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 未来のことを話す
- 14回 実用フランス語5級模擬試験（5級模擬試験は別の回に実施するかもしれませんが）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

（仏検受験者へ：今年6月の仏検5級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II』（加藤雅郁著、駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

簡単な会話のスケッチの聞き取りと解説の後、書かれた質問に答えて会話内容の確認と書く練習を行い、次いで聞こえてきた質問に答えて聞き取り練習を行う。

- 1回 映画を見に行く
- 2回 家族の誕生日について話す
- 3回 レストランで注文する
- 4回 住んでいた町について話す
- 5回 昨日したことを話す
- 6回 宿題について話す
- 7回 知っている人・好きな人のことを話す
- 8回 電話をする
- 9回 将来のことを話す
- 10回 頼みごとをする
- 11回 明日のことを話す
- 12回 会う約束をする
- 13回 自分の趣味・意見を言う
- 14回 自らの考え・気持ちを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

(仏検受験者へ：今年11月の仏検4級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語の運用能力を身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の「音」についての復習
- 2回 再帰代名詞
- 3回 再帰代名詞の複合過去
- 4回 過去分詞の一致のまとめ
- 5回 半過去と大過去
- 6回 半過去と複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 補語人称代名詞
- 9回 命令法と補語人称代名詞
- 10回 現在分詞とジェロンデフ(1)
- 11回 現在分詞とジェロンデフ(2)
- 12回 疑問代名詞 le quel
- 13回 受動態
- 14回 最上級と副詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点、もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また6月の仏検3級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期と同様に、1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語を完全に身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 強調構文
- 2回 中性代名詞 (1)
- 3回 中性代名詞 (2)
- 4回 条件法現在
- 5回 条件法過去
- 6回 接続法現在
- 7回 接続法過去
- 8回 直接話法と間接話法
- 9回 時制の一致 (1)
- 10回 時制の一致 (2)
- 11回 前置詞と接続詞 (時の表現)
- 12回 前置詞と接続詞 (場所の表現)
- 13回 前置詞と接続詞 (論理の表現)
- 14回 単純過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします (ただし練習問題の評点もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また11月の仏検準2級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検3級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは3級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検2級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは2級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（プラス1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいるhispanicの人たちも含めると3億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続き、ロシア語と同じか、やや多いとされています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。スペイン、メキシコ、キューバなど、どの国の方の間でもコミュニケーションには問題は生じません。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですよ。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音とアクセントの仕組み
- 2回 発音とアクセントの仕組み
- 3回 発音とアクセントの仕組み
- 4回 発音とアクセントの仕組み
- 5回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 6回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 7回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 8回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 9回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 10回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 11回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 12回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法。
- 13回 復習とスペイン語圏の文化に触れる視聴覚教材の提示
- 14回 復習とスペイン語圏の文化に触れる視聴覚教材の提示
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に上記で述べた平常点を最大30点まで加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返や中途の退学が見つかった場合は即座に失格とします。辞書については最初の講義で話しをします。電子辞書も奨めます。詳しく説明するので、辞書の購入は最初の講義まで待っててください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作るようなレベルまで進みます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)
 スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)
 スペイン(増田監修:新潮社)
 スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)
 スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)
 スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 5回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 6回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 9回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 10回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 11回 従属節を含む文の理解。
- 12回 従属節を含む文の理解。
- 13回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 14回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に上記で述べた平常点を最大30点まで加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返や中途の退室が見つかった場合は即座に失格とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 発音 アクセント、母音、子音
- 3回 発音 アクセント、二重子音
- 4回 挨拶、名詞の性・数
- 5回 冠詞、主格人称代名詞
- 6回 ser動詞、活用と用法
- 7回 ser動詞、疑問文・否定文
- 8回 estar動詞、活用と用法
- 9回 estar動詞とhay、疑問詞(1)
- 10回 ser/estar動詞と形容詞
- 11回 時刻の表現、疑問詞(2)
- 12回 -ar動詞
- 13回 主な前置詞、所有形容詞(前置形)
- 14回 -er / -ir 動詞、指示形容詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 70% 平常点 ... 30% (出席 ... 20%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(エウヘニオ・テル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習、-ar / -er / -ir動詞
- 2回 直説法現在、1人称単数不規則動詞とその用法
- 3回 直接目的格人称代名詞、天候表現
- 4回 直説法現在、語幹母音変化動詞とその用法
- 5回 不定詞表現(1)、疑問詞(3)
- 6回 所有形容詞(後置形)
- 7回 直説法現在、不規則動詞とその用法
- 8回 不定詞表現(2)、感嘆文
- 9回 間接目的格人称代名詞
- 10回 動詞gustar、gustar型動詞
- 11回 再帰動詞
- 12回 比較級と最上級
- 13回 直説法現在完了
- 14回 不定語と否定語
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 70% 平常点 ... 30% (出席 ... 20%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直説法未来の活用と用法
- 2回 直説法条件未来の活用と用法
- 3回 直説法過去完了の活用と用法
- 4回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 5回 再帰動詞とは?
- 6回 再帰動詞の用法
- 7回 接続法とは何か
- 8回 接続法現在の活用
- 9回 接続法現在の用法
- 10回 命令形と命令法
- 11回 感嘆文
- 12回 比較級と最上級
- 13回 SEの受身と無人称のSE
- 14回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主にスペインの歴史を織り込んだ中級程度の文章を読んで行きます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の講読部分。（持っていない人にはプリントを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキストの6課以降の講読・説明
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。テキストの文法事項を押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。

教科書 /Textbooks

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳのテキストの続きから使用します。(前年度テキスト:エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、ビデオ・DVD・音声教材なども利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習
- 2回 直説法点過去(1)
- 3回 直説法点過去(2)
- 4回 直説法点過去(3)
- 5回 直説法線過去
- 6回 直説法点過去と直説法線過去、その用例
- 7回 現在分詞
- 8回 直説法未来
- 9回 直説法過去未来
- 10回 直説法過去完了
- 11回 接続法(1)
- 12回 命令形
- 13回 DVD教材(会話を聞き取る)
- 14回 DVD教材(会話を聞き取る)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 平常点 ... 40% (出席 ... 30%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 済営比人律政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。テキストの文法事項を繰り返し押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。

教科書 /Textbooks

スペイン語VIIのテキストを引き続き参照します。(スペイン語VII: エウヘニオ・デル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008) また、読み物、ビデオ・DVD・音声教材などを利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語VIIの復習
- 2回 接続法(2)
- 3回 関係詞
- 4回 DVDなどで会話練習
- 5回 会話練習
- 6回 接続法現在完了・過去・過去完了
- 7回 接続法まとめ
- 8回 受身文、感嘆文
- 9回 短編教材(DVDなど)と聞き取り
- 10回 短編教材(ラジオ、CDなど)と聞き取り
- 11回 短編教材(DVDなど)と会話練習
- 12回 スペイン語でDVDなどを見る(1)
- 13回 スペイン語でDVDなどを見る(2)
- 14回 スペイン語でDVDなどを見る(3)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 平常点 ... 40% (出席 ... 30%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での研究活動に必要な「プレゼンテーション力」を中心に、総合的な日本語運用能力の育成を目指します。講義を聞き取る聴解スキルや、発表に必要な語彙・表現を身に付け、さらに、実際に課題テーマのプレゼンテーションをおこなうことで、「発表」の方法を学びます。また、口頭発表の準備や練習をピア (仲間) で行うことによって、自律的に学ぶ体験をします。

教科書 /Textbooks

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
上村和美・内田充美『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦香苗他『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 授業オリエンテーション
- ② ノートテイキング【メモ】【構成】
- ③ 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- ④ 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- ⑤ 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- ⑥ 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- ⑦ 「食料自給率」【データ比較】
- ⑧ 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- ⑨ プレゼンテーションの基礎【プレゼンテーションとは】【構成】【表現】
- ⑩ クラスメイト紹介【他者紹介】
- ⑪ セルフチェック【姿勢・表情・視線】【身振り・手振り】【声】【服装】
- ⑫ 施設紹介【視点コントロール】【サンドイッチ構成】
- ⑬ 案内状を作る【5W1H】
- ⑭ 日常生活で目にするものを説明する【比較】【マトリックス】
- ⑮ ポスター発表【ポスター発表】【ポスターの構成】
- ⑯ 1年間をふりかえる【時系列】【トピック】
- ⑰ まとめ【評価】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 … 40% 発表・課題 … 40% 自己評価…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

レポートを作成することは学生にとっても、指導する教員にとっても挑戦的なことである。1篇の長いレポート(論証型)を作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成にいたる一連の過程を学ぶことを目標とする。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アカデミック・ジャパニーズ研究会『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1・2回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 3・4回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 5・6回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【練る】
- 7・8回 情報をカード化する【情報の信頼性】【調べる】
- 9・10回 目標を仮に規定する【情報の整理】【絞る】
- 11・12回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】【組み立てる】
- 13～16回 パラグラフライティング【中心文】【支持文】【説明文】【書く】
- 17～20回 文章を点検する【校正】【表現の点検】【形式の点検】
- 21～22回 レポートの完成【体裁】
- 23～24回 発表を準備する【レジュメの作成】【発表の練習】【発表の意義】
- 25～28回 発表する【話し手】【聞き手】
- 29・30回 学習プロセスを振り返り、自己評価する【自己評価】【振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(課題の提出を含む) ... 40% レポート・発表 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師, 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、学術論文を読むための基礎的な読解力を育成します。論理的な文章をピア(同僚の学習者)同士で読むことで、それぞれの学びから、論理的思考による理解が深まることを期待します。また、授業の半分を使って、学習者の自律を目指した個別対応型の「チュートリアル」を導入した授業をおこないます。学習者が自身の学習内容・方法・リソースを選択し、その選択に基づいて計画・実行・評価を行うことによって、自分の学習を自分自身で管理できる力を身に付けることを目的としています。

教科書 /Textbooks

アカデミックジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語3論文読解編』アルク

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

産能短期大学『日本語を学ぶ人たちのための日本語を楽しく読む本中・上級』凡人社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「ピアラーニング」
- ①第I部 基本編 異文化適応【書き言葉】【和語】【漢語】
 - ②第I部 基本編 多様化の中のテレビ【論の展開①】【文の構造】
 - ③第I部 基本編 安全でおいしい水を飲むために【論の展開②】【未知語処理】【推測】
 - ④第I部 基本編 がん告知【要約】【慣用表現】【重要語句】
 - ⑤第II部 実践編 論文を読む①【全体構成】【序論】
 - ⑥第II部 実践編 論文を読む②【本論】
 - ⑦第II部 実践編 論文を読む③【副詞】
 - ⑧第II部 実践編 論文を読む④【結論】
 - ⑨第II部 実践編 論文を読む⑤総合練習
 - ⑩振り返る【自己評価】【他者評価】
- 「チュートリアル」
- ①現在の自分の状況を認識する【意識する】
 - ②実践する内容を具体的計画する【学習目標】【学習計画】【評価方法】【リソース】
 - ③実行する【学習管理】【修正】
 - ④振り返る【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 40% 発表・課題 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 .北九州空港と韓国仁川国際空港の役割
- 第3回 お伊勢参りから宇宙旅行までの日本人の旅行ブーム
- 第4回 T O T O のウオッシュレット開発
- 第5回 私のデートコース案内-イギリスと北九州-
- 第6回 新幹線を作った男たち
- 第7回 トロンの世界
- 第8回 秀吉の朝鮮出兵と九州の窯元
- 第9回 安川電機とロボット産業軍事とアジアを読み解く
- 第10回 日本の経営の特徴とその変化
- 第11回 戦後日本経済 (1)
- 第12回 戦後日本経済 (2)
- 第13回 戦後日本経済 (3)
- 第14回 軍事とアジアを読み解く
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「北九州市立大学の就職状況について」
- 第3回 洞海湾クルージング 小倉港 13 ; 00 集合
北九州市役所 16 ; 00 - 17 ; 00
- 第4回 「宮本武蔵の精神」
- 第5回 「日本の文化-本音と建前-」
- 第6回 「寿司作り実演を通じて日本文化を語る」
- 第7回 「日本の文化-洋間のある日本の家」
- 第8回 「私の青春時代-日伯に掛ける橋-」
- 第9回 今日の日本を取り巻く世界経済
- 第10回 「脳の科学-認識と行動」
- 第11回 憲法第9条と世界の軍備
- 第12回 「中国とはどんな国? - 留学体験から」
- 第13回 学長を囲んで大学のあり方についての意見交換
- 第14回 戸畑図書館長から見た日本の図書館
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ法の入門的な文献を用いてアメリカの法制度の概要を理解する。

教科書 /Textbooks

Stanley V. Kinyon, Introduction to Law Study and Law Examinations (West)
(アメリカのロー・スクールの新入生向けの文献です)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス民法（なかでも、フランス債務法）に関する基礎的知識を、原著を講読することを通じて獲得することがこの授業の主たるねらいである。具体的には、フランス民法（債務法）の体系書（比較的読みやすいもの）を輪読する。わが国の民法との法制度比較を通じて、わが国の民法上の法制度の理解をいっそう深めることがこの授業における大きな目標である。

教科書 /Textbooks

※使用しない。輪読する文献についてはコピーを配布する。ただし、仏和辞書については、各自毎回持参すること（色々種類はあるが、特に指定しない。第二外国語の授業で使っていたもので充分である。）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山口俊夫『フランス債権法』（東京大学出版会、1986年）
- 山口俊夫（編）『フランス法辞典』（東京大学出版会、2002年）
- 山口俊夫『概説フランス法下』（東京大学出版会、2004年）
- レモン・ギリアン、ジャン・ヴァンサン編著（Terme juridique研究会 中村紘一ほか監訳）『フランス法律用語辞典 第2版』（三省堂、2002年）
- 滝沢正『フランス法 第3版』（三省堂、2008年）
- 北村一郎（編）『フランス民法典の200年』（有斐閣、2006年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス：授業の進め方の決定（受講生からも要望を出してよい。）。
※受講生の民法（財産法分野）についての関心、フランス語の習熟度についてアンケートをとる予定である。その結果を踏まえ、輪読する文献・箇所を当方で選定する。
- 第2回 フランス民法（債務法）の基礎知識について講義。
※輪読する文献のコピーをこの回で配布する予定である。
- 第3回～第10回（予定）文献輪読。「訳せたところまで読む。」という方式で行う。
- 第11回（予定）フランス民法判例の基礎知識について講義。
- ※以降のスケジュールは、受講生の習熟度によって変更される場合がある。
- 第12回～第14回（予定）フランス民法判例の講読。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、文献邦訳能力の向上度など... 80%
- 定期試験（フランス債務法分野のテキストの邦訳試験）... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

何よりも、フランス法（民法）に関心を持ち、フランス語にも関心を持ち、邦訳作業を進めることが肝要である。フランス語の基本文法については各自学修を進めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II 【夜】

担当者名 國武 英生 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリス労働法の最新基本文献を素材にして、比較法研究の作法等について基本から学ぶことを目的とする。この講義を通じて、日本法をより良く知り、また相対化するための視座を得ることを目指したい。
文献の講読は、部分的な全文訳と章・節単位の概要に関する報告とを交互に行う。折にふれて、文献に登場した基本テーマについて、参加者に調査・報告を依頼して、議論する機会をもちたい。

教科書 /Textbooks

開講時に示す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者と相談して決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 40%、発言内容... 30%、出席... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学専門演習II【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2学期の夜間主の演習では、広い意味で「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的主題にかかわる範囲で、テキストをゼミ参加者の希望により選び出し、全員で順番に報告を分担し精読する。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。ゼミ参加者の問題関心や希望に応じて、テキストを決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキストの選択に応じて指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回は、はじめに。第2～第3回はあらかじめ用意したプリントにより報告分担、議論をする。第4回～第13回は、ゼミ参加者が希望するテキストを、順番に報告を分担し、全員で討論しながら読み進める。第14回～第15回は、まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 60% 報告... 20% 質問等の状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2学期の演習では特に、参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性が問われる。各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法制史専門演習I【夜】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中世日本人の罪と刑罰観念について考察する。引き続き中世刑法についての史料講読

教科書 /Textbooks

- 1 中世の罪と罰 網野.石井.笠松.勝俣著 東京大学出版会
- 2 中世政治社会思想上 岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目はテキスト等の解説。2回目からは担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 50 % 参加の度合い 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習I【夜】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習では、わが国の人権状況について、主要な憲法判例を素材として考えていきます。図書館で裁判判決を報じた当時の記事を調べたり、インターネットでさまざまな情報を検索したりして、学びます。憲法に保障されている人権がどのような問題状況にあるのか、それに対して裁判所はどのような判決を下しているのか、それについてみなさんはどのように考えるのか、どう感じるのか、法廷にもちこまれた裁判を通して学びます。主権者・国民として差別・偏見の問題に主体的に関わっていく姿勢を培っていくことが、この演習の目標です。

教科書 /Textbooks

中川義朗『現代の人権と法を考える』（第二版）（法律文化社、2006年、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第2回 情報社会と人権
第3回から第4回 自己決定権
第5回から第6回 環境と人権
第7回から第8回 子どもの人権
第9回から第10回 女性の人権
第11回から第12回 外国人の人権
第13回から第14回 身近な差別と偏見

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30 % 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は課題判例について「判例時報」や「判例タイムス」などを調べて、裁判所の判決文を全文読むことが必要です。毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅱ【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最新の人権判例について、参加者が条文・学説・判例を整理して、報告・討論することを通じて、「人権論」に関する理解を深めることを目的とする。

しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、専門的知識を習得するという事もあることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

○高橋和之他編『憲法判例百選I・II（第5版）』別冊ジュリ186・187（有斐閣・2007年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 判例研究
- 3回 判例研究
- 4回 判例研究
- 5回 判例研究
- 6回 判例研究
- 7回 判例研究
- 8回 判例研究
- 9回 判例研究
- 10回 判例研究
- 11回 判例研究
- 12回 判例研究
- 13回 判例研究
- 14回 判例研究
- 15回 判例研究

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50 % 判例研究 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習I【夜】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第6版]』(有斐閣)2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石二六著『刑法総論・第三版』(成文堂)平成16年3月、4000円+税
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態、テーマの決定
第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回出席をとり、出席点と授業態度、レポートの評価による総合評価(出席点30%、授業態度30%、レポート評価40%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習II 【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論・刑法各論における基本的な問題（テーマ）を取り上げて、判例及び学説を整理しながら、具体的・合理的かつ体系的整合性をもった解決策を考察していきます。この演習では、体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項及び概念の体系的な理解を一層深めることを、目的のひとつとしています。また、資料を収集・分析し、問題の解決策（自己の見解）をまとめ、ディスカッションを通じて見解を発展させ、またそれを自分の言葉で説得的に提示するという、法律学の基礎的な能力を習得することを、もうひとつの目的としています。講座全体のキーワードは、法的思考力及び論理的説得力の習得です。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西田典之 / 山口厚〔編〕『刑法の争点（新・法律学の争点シリ-ズ）』（有斐閣・2007.10）
- 阿部純二ほか〔編〕『刑法基本講座 1～6巻』（法学書院・1992.10～1994.10）
- ※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など）
- 2回 担当テーマに関する問題の所在及び参考文献の検討
- 3回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）... 50% 討論及び発言内容... 50%
 ※無断欠席を厳禁します。また、少なくとも2/3以上の出席が必要です。
 ※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当テーマについて研究レポートを作成してもらいます。報告担当者は、レポートに基づいて個別報告を行い、受講者全員でディスカッションを行います。受講者の積極的な発言を期待しています。
 少なくとも「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I・II」を履修していること（または履修中であること）が望ましいです（上掲「ねらい」を参照）。また、専門演習IIは、専門演習Iと連続して展開することを予定していますので、専門演習Iも併せて履修することを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習I【夜】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法の判例を取り扱う。具体的事件に関する判例を検討することを通じて、生きた刑事訴訟法を把握することを目的とする。演習は、報告者の報告を中心にして行う。報告者はレジメを事前に提出しておくことが原則である。

教科書 /Textbooks

- ①松尾ほか編「刑事訴訟法判例百選（第8版）」（有斐閣）。
- ②庭山・岡部編「刑事訴訟法」第3版（青林書院）。
- ③松尾浩也「刑事訴訟法・上巻（新版）」（弘文堂）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

刑事訴訟法の講義のシラバスに挙げている参考文献。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

報告の順序など、最初の演習の時間に決めていきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 報告 ... 30 % 質疑応答 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告する判例を十分に事前に検討し議論が活発になるように準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法専門演習I【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、いわゆる「国際問題」に関連する「事例」や「判例（国内判例も含む）」等の研究を通じ、国際社会を規律する主要な法体系としての「国際法」が、規範の面で、またそれを担保するシステムの面で、どのような現状に置かれているのか、また、国際政治や国際経済などどのようにかかわってきているのか、その理解をより一層深めていくことを目的とします。【事例 / 判例研究を通じた国際法の基本的運用力の涵養】また社会人基礎力として必要とされる諸能力の涵養を目指します。【社会人基礎力の涵養】国際法専門演習IIとセットで受講してください。4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

教科書 /Textbooks

松井芳郎『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）○必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 第1回 コースガイダンス, 係決め | 第2回 リサーチの仕方 |
| 第3回 特定課題テーマの提示と調査 | 第4回 フリー・ディスカッション |
| 第5回 学生が選定するグループ課題① | 第6回 グループ準備(テーマ調査) |
| 第7回 グループ準備(主張等の整理) | 第8回 グループ準備(プレゼン資料の作成) |
| 第9回 発表等 | 第10回 学生が選定するグループ課題② |
| 第11回 グループ準備(テーマ調査) | 第12回 グループ準備(主張等の整理) |
| 第13回 グループ準備(プレゼン資料の作成) | 第14回 発表等 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実際の指導は選抜時より始めます。予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法専門演習II【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、学生が社会に出る / 出ようとするときに、国際法ゼミで勉強してきたことを少しでも活かすことができるようにするためのプログラムを用意します。つまりなぜこの仕事・進路を選ぼうとしているのですかとの問いに対し、大学の国際法ゼミで勉強してきたなかで○○の点に興味を持ったからだと明確に答えられるようにするためのプログラムです。ここまでやりましたと胸を張って言えるものを、頑張っ一緒に作って行きましょう。【キャリアと国際法】国際法専門演習IIとセットで受講してください。4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

教科書 /Textbooks

必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス、役職決め
- 第2回 国際法ゼミとの関連でのキャリア研究：グループ分け
Group A: 自治体と国際法, Group B: 企業と国際法, Group C: 国際機関と国際法 など
受講者の進路希望・数によって実際のグループ分けは異なります。
- 第3回 グループによる予備調査①
- 第4回 グループによる予備調査②
- 第5回 精読文献等の選定・提出 (各グループ)
- 第6回 文献精読①「自治体と国際法G」(全員)
- 第7回 同②「企業と国際法G」(全員)
- 第8回 同③「国際機関と国際法G」(全員)
- 第9回 グループ作業(プレゼン準備)
- 第10回 グループ作業(プレゼン準備)
- 第11回 グループ作業(プレゼン準備)
- 第12回 Group Aの発表
- 第13回 Group Bの発表
- 第14回 Group Cの発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習I【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：「契約法に関する重要判例の検討～じっくり考える民法解釈～」本演習では、民法財産法、なかでも契約法分野の重要判例の検討を通じて、契約法理論の理解をいっそう深めることを目的とする。また、受講生同士の議論や教員との議論などを通じて、自身の見解（法的判断）を、他者に分かりやすく、説得力あるかたちで正確に伝える力を養うことも本演習の目的である。議論への積極的参加が本演習における絶対的義務である。

教科書 /Textbooks

- ①中田裕康ほか編『民法判例百選II債権[第6版]（別冊ジュリストNO196）』（有斐閣、2009年）
- ②中野次雄編『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）
- ③最新版の六法（判例つきの六法が望ましい）
- ④民法（契約法または債権各論）の体系書・基本書（受講生が普段使用しているもの）
- ⑤民事訴訟法の基本書（受講生が普段使用しているもの）※「5点セット」を必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (※以下のスケジュール等は、受講人数により左右されるので、あくまで予定。)
- 初回授業時に、代表的判例を紹介する。その中から報告判決を選択してもらう。報告形式は、受講人数が6名以下の場合には一人で報告。7名以上の場合は、受講生を3グループに分けて報告をしてもらう。いずれにせよ、報告者（報告グループ）は当然、報告に当たっていない受講生も、積極的に議論に参加することが要求される。報告者（報告グループ）は、採り上げる判決について、（1）事実関係（2）訴訟経過（3）最高裁判所の判決理由（4）争点の所在・従来の学説や判例理論と報告判決との関係（5）調査官解説や判例評釈で示されている見解（6）報告判決についての報告者（報告グループ）の検討結果（判決理由中のどの部分が「判例」か。採り上げた判例の射程なども含め。）を明示しなければならない。報告者（報告グループ）以外の受講生は、（1）～（6）につき、質問・指摘などを報告者（報告グループ）に対して浴びせなければならない。その他、ゼミの詳細な運営方針については、初回時に説明・協議する。
 - 最終授業終了時に、報告した判決についての判例評釈をレポートとして提出してもらう。
 - 第1回ガイダンス、第2回報告順の決定、第3回～第14回報告・議論、第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告の内容など...80%
- レポート（判例評釈）の内容...20% ※レポート未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト②をゼミ開講後、できる限り早い段階で通読しておくこと。報告準備などを入念に行うのは当然のことである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習II【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：「契約法文献研究～そしてゼミ論文へ～」。本演習の大きな目的・目標は、二つである。一つは、報告（輪読）を通じてゼミ生みんなが「民法学（本演習では契約法学）の本格的な研究書を一冊読み抜くこと」である。もう一つは、1学期演習で培った契約法に関する重要判例・学説についての知見等を駆使して、受講生諸君の演習における研究成果を「ゼミ論文」というかたちで結実させることである。また、他者（教員を含む）との議論を重ねることで、自身の見解（法的判断）を他者に対して分かりやすく、説得的に伝える力を一層向上させることも本演習の目的といえる。

教科書 /Textbooks

- ①野澤正充 編著『瑕疵担保責任と債務不履行責任』（日本評論社、2009年）
 - ②最新版の六法（判例つき六法が望ましい）
 - ③民法（契約法）の体系書・基本書（受講生が普段使用しているもの）
- ※上記「3点セット」を必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (※以下のスケジュール等は、受講人数により左右されるので、あくまで予定。)
- 初回授業時に、各受講生からゼミ論文の構想を発表してもらう。なお、報告形式（研究書輪読）は1学期同様、受講人数が6名以下の場合は原則一人。7名以上の場合は、受講生を3グループに分けて報告をしてもらう。いずれにせよ、報告者（報告グループ）は、報告担当箇所の要約・関連文献・判例の検討、そして、私見をそれぞれ明示して報告しなければならない。報告者（報告グループ）以外の受講生は、質問・意見などを遠慮なく報告者（報告グループ）に対して浴びせなければならない。積極的な議論がゼミの生命線である。その他、ゼミの詳細な運営方針については、初回時に説明・協議する。「じっくり腰を据えて」契約法の基礎理論を研究しましょう！
 - 最終授業終了時に、「ゼミ論文（10,000字以上）」を提出してもらう。
 - 第1回 ガイダンス、第2回 テキスト①輪読箇所・報告順等の決定、第3回～第14回（予定）各受講生（ないしグループ）による報告・議論（この間、ゼミ論文の添削・指導も行うので、オフィス・アワーなどを積極的に活用すること。）、第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告内容など...70%
- 「ゼミ論文」の内容...30% ※「ゼミ論文」未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト①をゼミ開講後、できる限り早い段階で通読しておくこと。報告準備を入念に行うことなどは当然である。また、ゼミ論文については、添付ファイルで原稿（途中経過）を授業日の前々日までに教員に毎週送付すること。受け身の姿勢ではゼミにいる意味は全くない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習I【夜】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する基本的な論点について学習し、知識を習得することを目的とします。毎回、判例について、報告者から報告を受け、全員で討議します。

教科書 /Textbooks

最初の講義のときに紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義のときに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進行方法についての説明、報告者の決定
- 2回 以下、順次、個別報告
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習II 【夜】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
後日揭示

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習II【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代法曹論II 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 敬一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

弁護士業務の具体的事例をもとに、法曹実務に触れながら、主要な法律理論を理解する。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義において都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 弁護士業務の概要 【予防法務】 【紛争解決】
 - 2回 法律相談業務I 【相続】 【離婚】
 - 3回 法律相談業務II 【債権回収】 【債務整理】
 - 4回 契約書作成・審査業務I 【契約審査の2手法】
 - 5回 契約書作成・審査業務II 【期限の利益喪失】 【担保】 【解除】
 - 6回 交渉業務I 【内容証明郵便】
 - 7回 交渉業務II 【示談書】
 - 8回 民事訴訟関連業務I 【民事保全・執行】 【処分権主義】
 - 9回 民事訴訟関連業務II 【弁論主義】 【主張と立証】
 - 10回 倒産法関連業務 【破産・民事再生】
 - 11回 家族法関連業務 【遺産分割】
 - 12回 刑事関係業務I 【逮捕・勾留】 【保釈】
 - 13回 刑事関係業務II 【証拠意見】 【尋問技術】
 - 14回 弁護士の能力 【法曹倫理】 【インタビュー能力】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20%、課題... 30%、期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容によって、数回課題を出す予定である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法思想史【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探究する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたいうえでそれを相対化することもまた、可能となってくるであろう。

教科書 /Textbooks

○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳, 濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）
- 田中成明, 竹下賢, 深田三徳, 亀本洋, 平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店）、○三島淑臣『法思想史』（青林書院）
- F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法思想史とは
- 第2回～第6回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想の展開
【トマス・アクィナス】【ホッブズ】【ロック】【ケルゼン】【ハート】
- 第7回～第13回 現代正義論への法思想の展開
【アリストテレス】【実践哲学の復権】【ロールズ】【ノジック】【ドゥオーキン】
【共同体主義】【マルチカルチュラルリズム】
- 第14回～第15回 法思想史のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「現代正義論」を1年次に受講していれば、より理解しやすい。講義前には、テキストの該当箇所を読み、講義後には各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史【夜】

担当者名 岡 邦信 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古代から中世の法と制度、特に中世の国制、武家政権の支配機構、裁判制度について、適宜資料等を配布し、解説する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石井良助「日本法制史概説」創文社
- 牧・藤原編「日本法制史」青林書院
- 義江彰夫 日本通史I「歴史の曙から伝統社会の成熟へ」山川出版
- 水林彪 日本通史II「封建制の再編と日本の社会の確立」山川出版
- 網野善彦 「日本社会の歴史」上・中・下 岩波書店
- 水林・大津・新田・大藤編 新体系日本史2 「法社会史」山川出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法制史とは何か
- 2回 時代区分論
- 3回～4回 律令継受以前の国制【天津罪】【国津罪】【盟神探湯】
- 5回～6回 律令と律令国家の実態【官位相当性】【蔭位制】【八虐】【五刑】
- 7回～9回 律令制の解体と荘園公領制【負名田堵】【初期荘園】【雑役免系荘園】【寄進地型荘園】
- 10回～12回 武士団【国衙軍制】
- 13回～16回 中世国家と封建制)【レーエン制】【フューダリズム】
- 17回～18回 中世主従関係【家礼型】【家人型】
- 19回～20回 鎌倉期の法源【幕府法】【在地領主法】
- 21回～23回 鎌倉幕府訴訟制度【所務沙汰】【雑務沙汰】【検断沙汰】【引付】
- 24回 建武政権と南北朝
- 25回～30回 室町幕府と室町期の法源【一揆契状】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは使用しませんので、参考文献を利用し、予習復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

紛争処理論 【夜】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義「紛争処理論」は、法社会学の一分野です。従って、皆さんが普段学んでいる実定法解釈学とは別の視点から、法現象・社会現象を観察・分析・理論化していく、というスタンスは、法社会学と共通です。その上で、本講義では、とりわけ社会で生じる紛争や社会問題を基点にして、それらがもつ構造・対立点・社会的意味、および処理・解決のフレームを「社会的に観察」していきます。ですから、本講義は、紛争を法的 / 非法的に処理・解決していくための方法（ノウハウ）や技術、ましてやその正しさを—そんなものがあれば、ですが—教授する / 暗記してもらおうものではありません。むしろそれとは正反対の方向、すなわち、紛争や社会問題の「とらえ難さ」や処理・解決の「困難性」を見据えた上で、それらをできる限り多角的に考察していくこととなります。

私たちの生きる現代社会は、しばしば、価値の多元化・複雑化などと形容されます。このことは同時に、私たちの社会が、さまざまな価値観どうしの矛盾・対立・衝突を内包していることも表しているでしょう。この意味で紛争とは、その可能性までを含めるならば、まさに日常的な出来事である、といっても過言ではありません。そして、日常的な出来事であるにもかかわらず / であるからこそ、ややもすれば、私たちはそうした紛争や社会現象を、例えば常識で、例えば善 / 悪二元論で、場合によっては（法をはじめとする）専門知によって、ただちに解決しようとする「欲望」にかられてしまいがちです。しかしながら、そこに問題はないのでしょうか。本講義では、こうした問題を不問にして、いきなり安直・自明な解決策にぶら下がりたいたいという気持ちをグッとこらえ、逆に、この問題を直視し悩みながら、その周りをうろうろと（否むしろオロオロと！）歩き続けるといった、きわめて「地道な」作業を行います。

以上のとおり、本講義はきわめて抽象度が高く、同時にマニアック（！）です。即効的実用性や法解釈学への直接的寄与を期待する向きにはまるでお奨めできません。この点十分に注意してください。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。テーマごとにプリントを配布します（参考文献はその都度指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (0) イントロ (紛争や問題は構築 / 隠蔽されるものであり、常に観察 = 解釈に開かれている)
- (1) 自明性への問い (秩序・法の妥当性への問い、法システムのパラドクスの観察)
- (2) 社会現象への問い (リスク社会論、情報社会論、消費社会論の「現代的」文脈)
- (3) 規範現象への問い (正義論、公共性論、合意論、責任論の社会的観察)

成績評価の方法 /Assessment Method

全編論述式の期末試験（約70%）、および、あなた自身の「思考軌跡」としてのレスポンスペーパー（約30%）により、総合かつ厳格に評価します（詳しくは初回の講義で説明しますので欠席なさらぬよう）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義は、法学や社会が自明視する諸概念や、現代社会で問題となっているテーマを俎上にのせていきますが、それらに正解をあてはめるものではありません。自明なものや紋切りの社会現象を前にして重要になってくるのは、そこに【「いかなる別様の問いを立てるか」という「問い」】です。ですので、講義と併走しつつ、そういった「問い」を立て、考えつづけていく準備のある方を歓迎します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにさせていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

各回ごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大隈義和他『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）
- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義 - 【国家権力の授権と制限】
- 第2回 憲法の展開 - 【近代から現代、そして未来へ】
- 第3回 人権総論① - 【人権の保障と制限】
- 第4回 人権総論② - 【裁判所による人権保障】
- 第5回 統治機構総論① - 【国民主権の意義】
- 第6回 統治機構総論② - 【日本の政治制度】
- 第7回 統治機構総論③ - 【司法制度と違憲審査制】
- 第8回 平和主義論① - 【憲法9条の制定・意義】
- 第9回 平和主義論② - 【平和主義の現実と未来】
- 第10回 平和主義論③ - 【憲法9条と裁判所】
- 第11回 地方自治 - 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第12回 象徴天皇制 - 【天皇制の継続と断絶】
- 第13回 憲法保障 - 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 総括
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法訴訟論【夜】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国の最高法規を守り人権を保障するために、裁判所には違憲審査権が付与されています(81条)。「法の支配」原理にたつこの違憲審査制度は、日本国憲法の最大の特徴です。裁判所は「憲法の番人」といわれる所以です。わが国の違憲審査制度は具体的・付随的な違憲制度であり、具体的な民事・刑事・行政訴訟が提起されて、そのなかで憲法問題が争点となった裁判を憲法訴訟といいます。事件性の要件をみたした訴訟は民事訴訟法、刑事訴訟法、行政事件訴訟法などの法律が用意されていますが、「憲法訴訟法」という体系的な法律があるわけではありません。憲法訴訟を体系的に勉強するためには、実定法の理解のみならず憲法体系を支える憲法理論(人権と統治)の理解が不可欠となります。人権に関する憲法判例を検討・分析するさいに、憲法訴訟の理論が必要となります。この講義では、人権裁判において適用される合憲性の審査基準に関する理論、憲法判断の要件・手続・方法に関する理論など、具体的な訴訟を素材にして憲法判断についてのルールについて詳細に学びます。

教科書 /Textbooks

手島・安藤『新基本憲法学』(法律文化社、2600円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高見勝利『芦部憲法学を読む』(有斐閣)
野中・中村・高橋・高見『憲法II』(有斐閣)
高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』(第5版)(有斐閣)
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回から第2回 司法権の意義
第3回から第4回 裁判所の構成と機能(裁判員制度の批判的検討)
第5回から第6回 司法権の独立(司法官僚と司法の危機)
第7回から第8回 司法権の限界
第9回から第10回 違憲審査制度と憲法訴訟をめぐる諸問題
第11回から第12回 違憲審査基準と方法
第13回から第14回 最高裁法令違憲判決の検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...20% 課題レポート ...20% 定期試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政争訟法 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
後日揭示

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治法 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地方自治に関する法制度の原理と仕組みを理解することをねらいとする。
憲法は「地方自治の本旨」に基づく地方制度を予定しているが、現実の具体的な地方自治のあり方はどのように設定されているのか、そこにどのような問題点があるのか、今後のあり得る方向性はどうか等について検討する。

教科書 /Textbooks

中川義朗編『21世紀の地方自治を考える』（2010年、法律文化社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇賀克也著『地方自治法概説【第3版】』（2009年、有斐閣）
- 磯部力ほか編『地方自治判例百選〔第三版〕』（2003年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1～2回 「地方自治の意義と歴史」 | 17～18回 「国と地方公共団体との関係」(1) |
| 3～4回 「地方自治に関する法源」 | 19～20回 「国と地方公共団体との関係」(2) |
| 5～6回 「地方公共団体の種類」 | 21～22回 「情報公開制度」(1) |
| 7～8回 「地方公共団体の事務」 | 23～24回 「情報公開制度」(2) |
| 9～10回 「地方公共団体の権能」 | 25～26回 「個人情報保護制度」 |
| 11～12回 「地方公共団体の機関」(1) | 27～29回 「住民監査請求と住民訴訟」 |
| 13～14回 「地方公共団体の機関」(2) | 30回 まとめ |
| 15～16回 「住民の権利義務」 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 課題 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

憲法および行政法の各科目を履修済みであることが望ましい。
当然ながら予習復習が必要である。
(復習のための課題の提出を求める。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目で扱う「刑法総論」は、すべての犯罪に共通する犯罪成立要件の体系(犯罪論体系)を考察する法分野です。この意味で、犯罪と刑罰に関する法(=刑事法)の起点となります。講義では、具体的事例をもとにして、犯罪の成否に関する一般的な法理論を考察して、体系的整合性、論理的思考力を習得することを目的としています。

教科書 /Textbooks

(参考)山中敬一『刑法概説I総論』(成文堂・2008.10) ※テキストの選択は任意。
(参考)井田良『講義刑法学・総論』(有斐閣・2008.12)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』3版(有斐閣・2005.12)
○山中敬一『コースクール講義 刑法総論』(成文堂・2005.04)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがあります。

1回 ガイダンス・刑事司法過程の全体像	16回 緊急行為①【正当防衛】
2回 犯罪論の基本構造【犯罪論体系】	17回 緊急行為②【対物防衛・偶然防衛】
3回 刑法の基礎理論①【罪刑法定主義】	18回 緊急行為③【緊急避難】
4回 刑法の基礎理論②【学派の争い】・【刑罰論】	19回 【原因において自由な行為】
5回 刑法の基礎理論③【違法論】	20回 故意論【故意の種類・未必の故意】
6回 刑法の基礎理論④【責任論】	21回 過失論【過失論】【信頼の原則】
7回 行為と構成要件【構成要件】	22回 錯誤論①【具体的事実の錯誤】
8回 【実行行為】と【不能犯】・構成要件の結果	23回 錯誤論②【抽象的事実の錯誤】
9回 【未遂罪】と【予備罪】・【実行の着手】	24回 共犯論の基礎【間接正犯】
10回 【中止犯】	25回 【共同正犯】
11回 【不作為犯】	26回 【共謀共同正犯】
12回 因果関係①【条件関係】	27回 【承継的共同正犯】
13回 因果関係②【相当因果関係】	28回 狭義の共犯【教唆犯】
14回 因果関係③ 因果関係の諸問題	29回 狭義の共犯【幫助犯】
15回 【正当行為】・【被害者の承諾】	30回 罪数論・科刑論

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
小テストの成績を成績評価において考慮する場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメを配布する予定です。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習(基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。)・復習(講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。)を十分に行ってください。この講義を受講した後に、「刑法犯罪各論I・II」及び「刑事訴訟法」を受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論I【夜】

担当者名 /Instructor 福永 俊輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法各論は、刑法第2編「罪」を対象とし、個別の犯罪の種類・成立要件を具体的に考察することを課題とします。本講義では、財産犯を除く個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、及び、国家的法益に対する罪を取り扱います。
講義形式という制約がありますが、出来る限り双方向的な講義になるように工夫をしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

西田典之『刑法各論（第四版補正版）』（弘文堂 2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西田典之ほか編『刑法判例百選II各論（第六版）』（有斐閣 2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 生命に対する罪①
- 3回 生命に対する罪②
- 4回 身体に対する罪①
- 5回 身体に対する罪②
- 6回 自由に対する罪①
- 7回 自由に対する罪②
- 8回 名誉・信用に対する罪
- 9回 社会的法益に対する罪①
- 10回 社会的法益に対する罪②
- 11回 社会的法益に対する罪③
- 12回 社会的法益に対する罪④
- 13回 国家的法益に対する罪①
- 14回 国家的法益に対する罪②
- 15回 国家的法益に対する罪③

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として定期試験で評価します(一〇〇点満点)。また、毎回の講義の開始時に、用紙を配ります。それに質問、意見や講義の質問を書き込んでもらい、講義終了時に回収します。もっとも、提出は任意です。回答がなされた場合、その内容に従って評価の対象とし、定期試験の得点に加えます(提出をもって最低一点で換算します。)なお、回答は加算のみで、減点はしません。ただし、無記名の回答、何も書いていない回答、あるいは何も書いていないに等しい回答は対象としません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を履修する上で、刑法総論を履修済みであることが望ましい(単位の取得は問わない)。また、本講義と併せて刑法犯罪各論IIを履修することを推奨する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論II 【夜】

担当者名 /Instructor 福永 俊輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法各論は、刑法第2編「罪」を対象とし、個別の犯罪の類型・成立要件を具体的に考察することを課題とします。本講義では、財産犯を取り扱います。

講義形式という制約がありますが、出来る限り双方向的な講義になるように工夫をしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

西田典之『刑法各論（第四版補正版）』（弘文堂 2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西田典之ほか編『刑法判例百選II各論（第六版）』（有斐閣 2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財産犯総論①
- 3回 財産犯総論②
- 4回 窃盗罪
- 5回 強盗罪①
- 6回 強盗罪②
- 7回 詐欺罪①
- 8回 詐欺罪②
- 9回 横領罪
- 10回 背任罪
- 11回 盗品に関する罪
- 12回 毀棄・隠匿罪①
- 13回 毀棄・隠匿罪②
- 14回 予備
- 15回 予備

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として定期試験で評価します(一〇〇点満点)。また、毎回の講義の開始時に、用紙を配ります。それに質問、意見や講義の質問を書き込んでもらい、講義終了時に回収します。もともと、提出は任意です。回答がなされた場合、その内容に従って評価の対象とし、定期試験の得点に加えます(提出をもって最低一点で換算します。)なお、回答は加算のみで、減点はしません。ただし、無記名の回答、何も書いていない回答、あるいは何も書いていないに等しい回答は対象としません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を履修する上で、刑法総論を履修済みであることが望ましい(単位の取得は問わない)。また、本講義と併せて刑法犯罪各論Iを履修することを推奨する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法各論【夜】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法には捜査、公訴、公判、裁判、上訴などの手続段階がある。本講義では、その中から、ある段階を選んで、具体的に講義する。今回は、捜査を取り上げ、詳細に条文の解釈などを行っていく。

教科書 /Textbooks

(主・テキスト) 松尾浩也「刑事訴訟法・上巻(新版)」(弘文堂)。
(副・テキスト) 庭山・岡部編「刑事訴訟法」(第3版)(青林書院)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田宮裕編「刑事訴訟法」(北樹出版)、三井誠「刑事手続法(1)」(有斐閣)、松尾ほか編「刑事訴訟法判例百選第8版」(有斐閣)、福井厚「刑事訴訟法講義」(法律文化社)、田口守一「刑事訴訟法」(弘文堂)、鴨「刑事訴訟法の基本理念」(九大出版会)、白取祐司「刑事訴訟法」(日本評論社)、光藤「口述刑事訴訟法・上下」(成文堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 捜査の意義【証拠収集】、【身体の保全】
- 2回 捜査の主体【検察官】、【警察官】
- 3回 捜査の方法【逮捕】、【勾留】、【押収】、【搜索】
- 4回 捜査の規制【強制処分法定主義】、【令状主義】
- 5回～7回 逮捕【通常逮捕】、【現行犯逮捕】、【緊急逮捕】
- 8回～10回 勾留
- 11回～12回 逮捕・勾留に関する諸問題【別件逮捕】
- 13回～14回 搜索・押収
- 15回 搜索・押収に関する諸問題

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

犯罪学【夜】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

犯罪学という学問は、「なぜ人は犯罪を犯すのか」「なぜ犯罪が生起するのか」という素朴な疑問に答えようとする科学的試みの中で生成・発展してきたものです。本授業では、犯罪原因に関する「理論」をできるだけ多く取り上げて、各理論の長所・短所などを批判的に分析・検討することにします。

教科書 /Textbooks

藤本哲也『犯罪学原論』（日本加除出版、2003年）4,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 瀬川 晃『犯罪学』成分堂(1998年)3,500円
- G.B.ヴォルド=T.J.バーナード『犯罪学：理論的考察[原書第3版]』東大出版会(1990年)
- 宮澤浩一・藤本哲也・加藤久雄編『犯罪学』青林書院(1995年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～4回 犯罪および犯罪学の基礎的概念についての入門的説明。【犯罪の定義】【刑事政策】【刑事学】【犯罪学】【暗数】
- 5回～11回 犯罪学上の代表的な「パラダイム」の分析・検討。【理論】【パラダイム】【パースペクティブ】【古典主義犯罪学】【実証主義犯罪学】【批判的犯罪学】
- 12回～26回 各理論の成立した時代的背景、主張内容、批判・反批判、政策的含意などの分析・検討。【シカゴ学派】【異質的接触理論】【アノミー理論】【非行副次文化理論】【ラベリング理論】【コンフリクト理論】【社会統制理論】【セルフコントロール理論】【発達論的犯罪学】など。【異質的機会理論】
- 27回～29回 各種犯罪の現状とその原因論的説明。【凶悪犯罪(殺人・強盗)】【性犯罪(強姦、セクシャルハラスメント)】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門教育科目の「刑事司法政策I&II」(本年度は昼間主のみ)をあわせて受講すればわかりやすい。授業にあたっては、テキストの指定された部分を読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

所得保障法 【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

福祉国家として発展はしてきたものの、貧困はかならずしも過去の問題とはいえない深い根を持つ問題である。貧困解消のために積み重ねられてきた過去の立法の歴史を踏まえて、現代の所得保障制度の体系、対象、方法を理解することを目的とするとともに、他国の制度改革を参考に、わが国の所得保障の課題について理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

河野正輝他「社会保障論」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義の際に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代社会と貧困および所得格差 [ワーキングプア、ホームレス、見えない貧困]
- 2,3回 所得保障制度の歴史 [救貧法、「貧困の発見」、ビスマルク社会保険]
- 4,5回 所得保障法の体系・方法 [公的扶助、社会手当、社会保険]
- 6,7回 高齢者に対する所得保障 [老齢基礎年金、老齢厚生年金]
- 8回 障害者に対する所得保障 [障害基礎年金、障害厚生年金]
- 9回 遺族に対する所得保障 [遺族基礎年金、遺族厚生年金]
- 10,11回 医療費、介護費等の費用の保障 [医療保険、介護保険、児童手当]
- 12回 最低生活の保障 [生活保護制度]
- 13回 海外の年金改革の動向 [概念上の確定拠出型年金、保証年金]
- 14回 海外の最低保障制度の改革 [アクティブエージョン]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に、現代の貧困について、各自で情報を収集しておく、関心を持って講義に望められる。
社会法総論とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

雇用関係法 【夜】

担当者名 國武 英生 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

雇用関係法は、労働者と使用者の個別の関係を規律する法領域である。働くうえで直面する法律問題の多くはこの法分野に関わるものであり、雇用関係法は労働法の体系において中心的な位置を占めている。
この講義では主に、雇用関係の成立、展開、終了という雇用関係の変遷に関する問題と、雇用関係の内容に関わる法規制について学習する。また、実定法の解説にとどまらず、実際に社会規範、裁判規範としてどのように労働法が社会的に意味をもつのかを理解できることも目指す。

教科書 /Textbooks

村中孝史ほか編『労働判例百選 [第8版]』有斐閣 (2009年)
六法 (小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第 1 回の講義の際に具体的に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回～第 2 回 ガイダンス～労働法の全体像～
【市民法原理の修正】【労働関係の規律構造】
- 第 3 回～第 4 回 雇用関係法の基本構造
【労働法上の当事者】【労働条件決定システム】
- 第 5 回～第 6 回 雇用関係の成立
【採用】【試用】【労働契約上の権利義務】
- 第 7 回～第 8 回 雇用関係の展開(1)
【配転】【出向】【就業規則の不利益変更】
- 第 9 回～第 10 回 雇用関係の展開(2)
【賃金請求権】【労働時間、休憩、休日】【時間外労働】
- 第 11 回～第 12 回 雇用関係の終了
【退職】【解雇】【懲戒権の根拠】
- 第 13 回～第 14 回 女性労働保護と労災・安全衛生
【セクハラ】【業務災害】【安全配慮義務論】
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、コメントカード... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

労働法は実定法の中でもいわば応用的な分野です。雇用関係法を学ぶうえでは民法の知識を必要としますので、民法総則等の科目を履修した後に受講することをお勧めします。また、労働法の理解を深めるためには、「労使関係法」をあわせて受講すると良いでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【夜】

担当者名 /Instructor 中川 智治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組の修得を目指します。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、条約集が必要（出版社は問わない）。
講義は講師作成のレジュメ配布を予定している

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

長谷川正国（訳）『現代国際法入門』（成文堂、1999年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 紛争社会としての国際社会【国内社会と国際社会】
- 2回 国際紛争の解決方法の歴史I【正戦論】【中立】【不戦条約】
- 3回 国際紛争の解決方法の歴史II【憲章第2条4項】【自衛権】【司法的解決手続】
- 4回 国際裁判制度I【国際司法裁判所】【選択条項】【仮保全措置】
- 5回 国際裁判制度II【国際海洋法裁判所】【みなみマグロ事件】
- 6回 国際法の法源I【ICJ規程第38条】【慣習国際法】【条約】
- 7回 国際法の法源II【法の一般原則】【衡平と善】
- 8回 国際責任I【国際責任の発生】【国際責任の解除】
- 9回 国際責任II【外交的保護】【対抗措置】【無過失責任主義】
- 10回 国際責任III【国際責任の限界】【事例研究】
- 11回 条約法I【重大な違反】【不遵守手続】【条約の無効】
- 12回 条約法II【条約の批准と承認】【国会承認条約】【条約の自動執行性】
- 13回 条約法III【条約の国内実施】【一元論と二元論】
- 14回 法システムとしての国際法【合意原則としての国際法】【慣習国際法の形成】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校までの日本史や世界史の知識を前提とします。憲法・民法・刑法についての知識があるとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 中川 智治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組の修得を目指します。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、条約集が必要（出版社は問わない）。
講義は講師作成のレジュメ配布を予定している。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

長谷川正国（訳）『現代国際法入門』（成文堂、1999年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際社会における犯罪の取り締まり【外国人犯罪】【戦争犯罪人】
- 2回 犯罪の国際的取り締まりI【刑法国外犯規定】【国家管轄権】【属人主義】
- 3回 犯罪の国際的取り締まりII【通貨偽造】【海賊】【逃亡犯罪人】【政治犯】
- 4回 犯罪の国際的取り締まりIII【ハイジャック】【麻薬密輸】【国際刑事裁判所】
- 5回 犯罪の国際的取り締まりIV【事例検討】
- 6回 人権の国際的保障【国籍】【難民】【人権の履行メカニズム】
- 7回 領域主体としての国家I【属地主義】【領域主権】【領域使用の管理責任】
- 8回 領域主体としての国家II【領海】【接続水域】【排他的経済水域】【大陸棚】
- 9回 領域主体としての国家III【無害通航権】【国際海峡】【深海底】
- 10回 領域主体としての国家IV【領域権原】
- 11回 国際法上の国家I【国家の権利義務】【国家承認】【政府承認】
- 12回 国際法上の国家II【外交関係】【領事関係】
- 13回 国際法上の国家III【主権免除】【国内問題不干涉】【破綻国家】
- 14回 国際法上の国家IV【国際組織】【国連】【NGO】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校までの日本史や世界史の知識を前提とします。憲法・民法・刑法についての知識があるとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際私法【夜】

担当者名 /Instructor 小林 啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本人同士の日本での結婚・売買等には日本の法律（民法など）が適用される。それでは、日本人が外国人と結婚・売買等をおこなう場合に適用されるのはいずれの国の法律であろうか。国際私法はこのような問題を解決するための法律である。この授業の目的は、上述のような法律関係がどのように規律されているかを理解することにある。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松岡博編『国際関係私法入門（第2版）』（有斐閣、2009年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
- 2回 国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
- 3回 国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
- 4回 国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
- 5回 国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
- 6回 国際家族法(1)属人法と、婚姻の準拠法【国際結婚と法】
- 7回 国際家族法(2)離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
- 8回 国際家族法(3)その他の問題【氏、相続など】
- 9回 国際財産法(1)契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
- 10回 国際財産法(2)契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
- 11回 国際財産法(3)不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
- 12回 国際財産法(4)自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
- 13回 国際財産法(5)その他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
- 14回 国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民法の各科目とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則【夜】

担当者名 河津 八平 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私法の中核法としての民法は、私法上の生活に係るほとんどの領域で適用があり、民法を理解するには、その法源としては、民法典だけでなく、多くの特別法や判例や慣習法等もマスターする必要があります。

この講義の対象である民法総則は、その文字が示すように、ほとんどの民法領域に関連する民法法規の総則的な規定であります。従って、民法全般を理解するには、まず民法総則をマスターする必要があります。

ところで、民法総則を学ぶということは、単にその条文を記憶すればよいというものではありません。この授業のねらいは、法の解釈適用にあります。社会には色々の民法上の事件が発生します。その事件を法的にどのように解決するかが法を学ぶ者に課せられた役割です。皆さんには、この法の解釈適用の技術をマスターしてもらいたい。法学は学問が技術かについては議論がありますが、技術という表現が妥当でないとする人はこれを学問と言い換えても結構です。

いずれにしても、1学期(6限、7限の連続2コマ(ペア))で、民法総則の解釈適用をマスターしていただくわけですが、そのためには、法学に独特な理論を学んでいただくことになります。受講者は1年生ですので、始めは少し理解しにくいところがありますが、慣れれば案外と面白くなるかと思えます。

民法総則は、民法の基本法ですから、この科目を履修する者は、6限(2単位)、7限(2単位)の2コマ(計4単位)を連続して受講していただきたい。なお、講義は教科書にそって行いますから、教科書は必ず携行してください。また、六法も必ず携行してください。

教科書 /Textbooks

伊藤 真(試験対策講座 1)「民法総則」(最新版)(出版社-弘文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特には指定しない。講義のおり必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記に記述するものは、民法総則の(6限目)と(7限目)の講義内容です。この科目は6限目と7限目がペアとなっていますから、6限目と7限目は連続して、下記の内容で、1回目から順次講義します。

- 1回 民法とは何か-民法の全体像を把握する(法律関係、契約、物権等)。
- 2回 民法の考え方-価値判断と法律構成。
- 3回 民法総則の位置づけ-民法総則の概観、基本原理。
- 4回 私権の主体-自然人(権利能力、意思能力、行為能力)
- 5回 私権の主体-法人(法人制度の改革、法人の種類、)
- 6回 私権の主体-法人(権利能力なき社団、法人の能力、法人の不法行為能力)
- 7回 私権の客体-物(不動産と動産、主物と従物)
- 8回 私権の変動-法律効果(法律行為、契約、事件、契約締結上の過失)
- 9回 契約の有効性-当事者に関わる一般的有效要件(意思表示、心裡留保)
- 10回 契約の有効性-当事者に関わる一般的有效要件(虚偽表示)
- 11回 契約の有効性-当事者に関わる一般的有效要件(錯誤)
- 12回 契約の有効性-当事者に関わる一般的有效要件(詐欺・強迫)
- 13回 契約の有効性-契約内容に関わる一般的有效要件(適法性、強行法規と任意法規)
- 14回 契約の有効性-無効と取消し
- 15回 代理とはなにか-代理の機能、代理の本質。
- 16回 本人と代理人との関係(相手方の保護)-代理権の発生原因。授權行為の瑕疵(授權行為、 109条による救済)。
- 17回 本人の利益と相手方の保護-代理人の権限濫用(93条但書の類推適用)。代理人と相手方の 通謀虚偽表示-(信義則)。
- 18回 代理人と相手方の関係-代理行為の瑕疵(代理人の善意悪意)。
- 19回 無権代理-概説(狭義の無権代理、表見代理)。
- 20回 無権代理と相続-本人死亡の場合、無権代理人死亡の場合。
- 21回 表見代理-概説(109条、110条、112条の表見代理)。
- 22回 表見代理-110条の表見代理。
- 23回 条件と期限-停止条件、解除条件、不確定期限。
- 24回 時効と除斥期間-総論。
- 25回 消滅時効-消滅時効の起算点。
- 26回 取得時効-自主占有と他主占有。
- 27回 時効の効果と援用・放棄-援用(不確定効果説)。
- 28回 説明の不足した部分を補足する。
- 29回 復習。
- 30回 予備。

民法総則【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、ペーパーテストの成績、

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義の回数とそれに対応する内容はあくまでも目安です。なお、教科書及び六法を必ず携行してください。また、予習及び復習も必ずしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

物権法 【夜】

担当者名 畑中 久彌 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に民法第2編（物権編）に規定されている法的ルールを学ぶ。私人間における物の支配・利用のあり方にはどのようなものがあるか、それについてどのような法的ルールがあるか、その法的ルールをどのように現実問題に適用していけばよいかを検討する。

教科書 /Textbooks

淡路剛久・鎌田薫・原田純孝・生熊長幸『民法2物権（第3版補訂）』有斐閣（平成21年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山野目章夫『初歩からはじめる物権法（第5版）』日本評論社（平成19年）
- 『民法判例百選（第6版）』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【民法典の編別】【物権の種類】
- 2回 所有権①【所有権】【相隣関係】【物権的請求権】
- 3回 所有権②【所有権の取得】
- 4回 所有権③【共有】【区分所有】
- 5回 用益物権【地上権】【永小作権】【地役権】【入会権】
- 6回 物権変動①【物権変動入門】【法律行為による物権変動】【物権変動の時期】
- 7回 物権変動②【不動産登記制度】
- 8回 物権変動③【不動産に関する物権変動の対抗要件】
- 9回 物権変動④【動産に関する物権変動の対抗要件】
- 10回 物権変動⑤【動産の即時取得】
- 11回 物権変動⑥【不動産取引における94条2項の類推適用】
- 12回 担保物権①【抵当権】
- 13回 担保物権②【質権】【譲渡担保】【仮登記担保】
- 14回 担保物権③【留置権】【先取特権】
- 15回 講義のまとめ【物権と債権の性質の違い】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...30% 期末試験...70%
期末試験では六法等の資料の持ち込みは認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の教科書該当箇所およびそこで引用されている条文を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

債権各論【夜】

担当者名 /Instructor 堀田 泰司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、民法第三編債権、第二章から第五章までの契約、事務管理、不当利得、不法行為を対象とします。債権の発生原因は、意思表示の合致である契約とそれ以外のものがあります。契約の総則としての契約の意義、成立、効力、解除を検討し、契約の各論として、贈与、売買、質貸借などの典型契約の検討をします。契約以外では、特定の人的関係のない不法行為を中心に検討をします。即ち、損害賠償請求権の基本構造と解釈について理解することを本講義のねらいとします。

教科書 /Textbooks

柳澤秀吉=堀田泰司編著『債権法各論(新現代社会と法シリ-ズIV)』(嵯峨野書院)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1～2回 ガイダンス、契約の意義と機能【契約の自由とその制限】【契約の分類】
- 3～4回 契約の成立【申込と承諾】【懸賞広告】
- 5～6回 契約の効力【同時履行の抗弁権】【危険負担】【第三者のためにする契約】
- 7～9回 契約の解除【債務不履行による解除】【解除の効果】
- 10回 贈与【書面によらない贈与】
- 11～13回 売買【予約と手付】【売主の担保責任】【特殊の売買】【買戻】
- 14回 消費貸借【金銭消費貸借と要物性の緩和】、使用貸借
- 15～16回 質貸借【不動産質貸借と物権化的傾向】
- 17回 雇用、請負、委任、寄託
- 18回 組合【組合の財産関係】、終身定期金、和解【示談と後遺症】
- 19回 事務管理、不当利得【不法原因給付】
- 20～21回 一般の不法行為【故意・過失】【権利侵害】【損害の発生】【因果関係】
- 22～24回 特殊の不法行為【監督者責任】【使用者責任】【共同不法行為責任】
- 25～27回 特別法上の不法行為【自賠償責任=挙証責任の転換】【公害責任=無過失責任】
- 28～29回 不法行為の効果【損害賠償の方法と範囲】
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...70% 平常の学習状況(小テストを含む)...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識を持って授業に臨まれれば理解がより深まりますので、予習、復習をしてください。そして、六法とテキストは携帯してください。なお、他の受講生の迷惑になる行為は慎んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法各論【夜】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法について、判決手続に関するより重要な問題について学習します。民事訴訟法総論（民事判決手続I）に比べると、内容は高度ですので、民事訴訟法総論を履修していると本講義の理解が深いものとなります。

教科書 /Textbooks

テキストを使用します。後日、指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の際に紹介します。適宜、プリントを配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1回 当事者について | 【当事者能力】、【訴訟能力】 |
| 2回 代理人について | 【法定代理人】、【任意代理人】 |
| 3回 裁判所について | 【管轄】、【移送】 |
| 4回 訴えの提起 | 【訴え提起】、【二重起訴】 |
| 5回 口頭弁論I | 【訴訟要件】、【処分権主義】、【一部請求】 |
| 6回 口頭弁論II | 【弁論主義】、【主要事実】、【当事者の欠席】 |
| 7回 訴訟行為 | 【訴訟上の合意】、【訴訟行為の性質、効果】 |
| 8回 証拠I | 【自白】、【文書提出命令】 |
| 9回 証拠II | 【証明】、 |
| 10回 判決I | 【相殺の抗弁】、【口頭弁論終了後の承継人】 |
| 11回 判決II | 【和解調書】、【訴訟の終了】 |
| 12回 上訴 | 【上訴の利益】 |
| 13回 多数当事者訴訟 | 【共同訴訟】、【訴訟参加】 |
| 14回 請求の複数 | 【訴えの客観的併合】、【訴えの変更】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 30% 課題レポート... 10% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 「民事訴訟法総論」が基礎的な科目なので、先ず「総論」を履修するようにして下さい。
- ・ 1学期に比べ、内容的に高度なので、テキストによる予習、配布プリント・板書ノート等による予習・復習を欠かさないことが重要です。
- ・ 授業の進行状況により、授業スケジュールが前後することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事執行法【夜】

担当者名 /Instructor 中村 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事執行法の基礎を学ぶ。私法上の権利が最終的にどのようにして実現されるのか，その手続に関する基礎的知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業でレジメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

有斐閣双書 「民事執行・保全法概説」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

民事執行法の基礎について順次概説する。総論に重きを置く。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則期末試験のみ。採点は辛めである。出席点はつけない。
講義中に抜き打ちでテストを行うことや，レポートの提出を求めることもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民事執行法を理解する前提として民事訴訟法の基礎知識(訴訟物・既判力・執行力など)が必要であるから履修の有無にかかわらず，各自学習しておくこと。民事訴訟法の教科書を持っていない学生には有斐閣双書「民事訴訟法」を勧める。また実体法の知識なしに手続法を学んでも意味がないから，実体法，特に民法は学習すること。
講義には六法を持参すること。
授業で配布するレジメはよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版であることが必要です。毎回、必ず持参してください。なお、期末試験実施時には、「判例つき」の六法の持ち込みは認められませんので、十分注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【 】はキーワード)

- 1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 2回 民法に対する商法の特色は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 3回～4回 商人とは？商行為とは？【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 6回～8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール【商号・商標】
- 9回～11回 会社と従業員との関係—【商業使用人】【雇用】
- 12回～13回 会社と消費者との関係—【普通取引約款の利用】【消費者保護法】
- 14回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか？【商業登記】
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法II【夜】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

電子債権取引の時代になっても、いまだに手形は企業決済や金融の手段として広く使われている。手形取引は実務的であると同時に、手形法学において精緻な理論体系が構築され、独自の面白さがある。本講義では、主に約束手形を対象として、また具体的な判例を取り上げることで、手形に係る有価証券法理を明らかにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大塚龍児他「商法III-手形・小切手〔第3版〕」(有斐閣Sシリーズ・2006年)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

川村正幸「手形・小切手法〔第3版〕」(新世社・2005年)、関俊彦「金融手形小切手法〔新版〕」(商事法務研究会・2003年)。落合誠一他編「手形小切手判例百選〔第6版〕」(別冊ジュリスト173号)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第2回 手形・小切手の経済的機能と法的構造【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形行為の意義と成立要件【手形理論】
- 第4回 手形行為と原因関係【商業手形、融通手形】
- 第5回 手形行為と法律行為【意思表示の瑕疵】
- 第6回 他人による手形行為と偽造・変造【無権代理、偽造手形、変造手形】
- 第7回 手形要件と白地手形
- 第8回 裏書の意義
- 第9回～第11回 裏書の連続と善意者保護【善意取得】【人的抗弁】
- 第12回 支払・支払拒絶・遡求・手形保証
- 第13回 為替手形・小切手
- 第14回 手形上の権利の消滅・利得償還請求権・除権決定・手形訴訟
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。場合によって、小テスト、レポート等を課す場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最新版の六法(但し小型のものでよい)を必携のこと。また、講義を受ける前にテキストを予習した上で、講義に出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場と法 【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の対象は金融商品取引法です。金融商品取引法は、投資家に対する情報開示、不公正な取引の禁止、証券会社等の行為規制を柱として様々なルールを定めていますが、講義では主として株式市場を念頭に金融商品取引法の基本的な仕組みや考え方について説明します。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 証券市場の仕組みと機能
- 3回 金融商品取引法の基礎概念【有価証券】【金融商品取引法の目的】
- 4回 金融商品取引法の特徴
- 5回～6回 発行市場における開示規制【有価証券届出書】【目論見書】
- 7回～8回 流通市場における開示規制【有価証券報告書】
- 9回 M&Aと金融商品取引法【公開買付け】【大量保有報告書】
- 10回～11回 不公正な取引【インサイダー取引】【相場操縦】【損失補填】
- 12回～13回 金融商品取引業者に対する規制【説明義務】【適合性原則】
- 14回 金融商品取引の規制主体【証券取引等監視委員会】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

法律科目では会社法、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論【夜】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ごとに挙げていく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 日本における貧困問題・・・北九州市と福岡市のネットカフェ難民調査から
- 5回 日本における子どもの貧困(1)・・・日本の現状を考える
- 6回 日本における子どもの貧困(2)・・・比較の視座から考える
- 7回 社会実験(1)・・・社会実験とは何か
- 8回 社会実験(2)・・・事例の分析・検討
- 9回 循環型社会(1)・・・導入
- 10回 循環型社会(2)・・・容器包装リサイクル法
- 11回 循環型社会(3)・・・家電リサイクル法
- 12回 介護保険(1)・・・導入
- 13回 介護保険(2)・・・現状分析
- 14回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 15回 介護保険(4)・・・問題点とその検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業貢献度など ... 50 % レポート ... 50 %。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いていただき成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策過程論 【夜】

担当者名 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会・政策の決定(合理的決定・ゴミ箱決定、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams, 政策の窓 (Policy Window)、政策実施・調整 (Policy Learning &Changes)・政策変数、終了・評価の政策過程と、アクターの参加 (内閣・官僚・国会、政府間関係、専門家組織、世論とメディア、NPO)とその構造 (補助金・Rent-Seekingのような利益誘導型政治等) について理論・事例を広く検討し、理解してもらう。

(キーワード ; 公私、公共政策、政策の決定、実施、政策調整、終了、アクターの参加、メディアの役割、ガバナンス)

教科書 /Textbooks

- ① 早川純一 貴 外 (2004)、政策過程論、学陽書房
- ② 足立幸男 (2006)、公共政策決定の理論 ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中郵章、竹下讓 (1987)、日本の政策過程 : 自民党・野党・官僚、梓出版社
- 中野実 (1992)、現代日本の政策過程、東京大学出版会
- 草野厚 (1997) 政策過程分析入門、東京大学出版会
- 中村昭雄 (1997)、日本政治の政策過程、芦書房、その他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 授業や本の紹介など
- 第 2回 政策の対象、政策の必要性、費用と利益、政策の種類など。
- 第 3回 政策過程、参加者、政策資源、
- 第 4回 政策過程の理論 1 (川辺川ダム決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 第 5回 政策過程の理論 2 (政策の窓、イシューネットワーク論、無意思決定論など、中野実 (1992)、草野厚 (1997) を参考。
- 第 6回 政策過程の理論 3 (新聞、インターネットとかで検索した事例分析)
- 第 7回 ~ 第10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、アクター、官僚と国会、政府間関係、利益誘導政治)、実施過程に関する論文などの参考、
- 第 11回 後援会、地域政治構造、
- 第 12回 地域政治と政策過程、中野実 (1992) などを参考。
- 第 13回 政策評価と市民参加、
- 第 14回、第 15回、関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・試験・発表・出席状況などから総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治過程論 【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「政治過程」は、政治制度の下で繰り広げられる様々なアクターによるインターアクションのプロセスを表す概念です。本講義は政治過程についてジャーナリスティック・感覚的にではなく、理論的・実証的に即ち社会科学的に考察します。まず、有権者がニーズを訴える過程（「入力過程」）に目を向けます。つぎに、入力された有権者のニーズを受けて政策を決定・実施・評価する過程（「出力過程」）に焦点を当てますが、本講義では特に政策決定過程を取りあげます。最後に、政策を決定するシステム（「公共システム」）の特徴を、市場システムと比較しながら、描出します。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- [入力過程]
- 2回 投票行動
- 3回 投票行動
- 4回 投票参加
- 5回 投票参加
- 6回 投票参加
- 7回 世論とメディア
- [出力過程]
- 8回 政策決定過程におけるアクター
- 9回 政策決定過程におけるアクター
- 10回 政策決定・政策過程のモデル
- 11回 政策決定・政策過程のモデル
- 12回 政策決定・政策過程のモデル
- [公共システム]
- 13回 公共システムと市場システム
- 14回 公益と政策
- 15回 総括

※受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- ◆政策決定を含めた政策過程全般について深く勉強を進めたい場合は「政策過程論」、行政府や官僚等については「日本行政論」、政策立案・分析・議論における公益等の諸価値の問題については「政策構想論」、政党システムや欧州諸国の政党については「政党政治論」、政党・利益集団・行政省庁に代表される組織全般については「行政組織論」、政治過程のルールである政治制度については「政治学」、日本の政治過程については「日本政治論」の受講をお勧めいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代政治思想 【夜】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治思想は、「現代」のさまざまな政治思想を取り扱うと同時に、現代政治についてのさまざまな理論化の試みも取り扱う。本講義では、まず、「政治思想とは何か」について論及し、次に、ヨーロッパ近代政治思想について論述する。その際、近代が政治をどのように捉え、何を切り捨ててきたのかという問題を取り上げ、さらに、その問題点が現代どのような形をとって現れてきているのかについても考察してみたい。また、いくつかの民主主義思想を取り上げ、欧米と日本との比較を行う。

教科書 /Textbooks

中道壽一『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）。理解を深めるため、毎回レジユメを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は毎回、講義中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治思想とは何か【政治】【思想】【現代的意義】
- 第2回 政治思想(史)の方法について【思想史との関連】
- 第3回 政治思想(史)の方法について【比較政治思想の意義について】
- 第4回 近代：現代政治思想について【モダンとポストモダン】
- 第5回 ルネサンス・宗教改革の政治的意義について【思想のダイナミズム】【思想と政治の連動】
- 第6回 社会契約論の比較(1)【T・ホッブズの政治思想】【ピューリタン革命】
- 第7回 社会契約論の比較(2)【J・ロックの政治思想】【名誉革命】
- 第8回 社会契約論の比較(3)【J・J・ルソーの政治思想】【フランス革命】
- 第9回 現代政治思想の展開(1)【功利主義の政治思想】【ベンサム】【ミル】
- 第10回 現代政治思想の展開(2)【リベラルな平等】
- 第11回 現代政治思想の展開(3)【リバタリアニズム】
- 第12回 現代政治思想の展開(4)【コミュニタリアニズム】
- 第13回 民主主義思想の比較について【同質性民主主義論】【エリート主義的民主主義論】
- 第14回 民主主義思想の比較について【参加民主主義論】【共生の民主主義論など】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出：有(任意) 小テスト：有(添削および問題解説) 期末試験：有。評価は総合して行う。出席... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート(任意) 十分評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市環境論 【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるの？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもちえてません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてもらいたいのは、環境問題の原点とも言われる水俣病です。そのことも毎年実施している私のゼミ及び「政策科学入門I」の環境学習研修旅行の記録を通して学習します。環境教育アクティビティを多用します。

教科書 /Textbooks

その都度資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 栗原彬『証言 水俣病』岩波新書、2000年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成19年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣病講義』日本評論社、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---------------------------------------|------------|
| 第1回 「都市環境論」の授業内容とならひの説明：：簡単な環境意識度チェック | 【環境意識】 |
| 第2回 環境教育とESD（持続可能な開発のための教育） | 【ESD】 |
| 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告 | 【環境学習旅行】 |
| 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 | 【水俣病】 |
| 第5回 日本の環境政策 | 【環境政策】 |
| 第6回 北九州市の環境の現状 | 【北九州市】 |
| 第7回 廃棄物管理 その原理と現状 | 【廃棄物管理】 |
| 第8回 廃棄物管理 ～リサイクル、特にコンポストをめぐる | 【コンポスト】 |
| 第9回 下水処理をめぐって～下水処理の原理 | 【水質汚濁】 |
| 第10回 下水処理をめぐって～途上国インドのし尿処理問題 | 【途上国のし尿問題】 |
| 第11回 上水道：：（アクティビティ=きき水比べ） | 【おいしい水】 |
| 第12回 大気汚染～汚染の原理と現状 | 【大気汚染】 |
| 第13回 大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定 | 【CO2計測】 |
| 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々=エコツーリズムに関わろう！ | 【エコツーリズム】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 20 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自治体政策研究【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代日本において地方分権改革は最重要課題の一つとあってよい。しかしながら、現在の自治体が、「分権の受け皿」として、政策過程のなかで積極的かつ効果的な役割を担っているか（あるいは担えるか）といえれば必ずしもそうとはいえない。つまり、これまで中央政府で決定された公共政策の単なる実施機関との位置づけが濃かった日本の自治体が、自ら「政策形成の担い手」になりうるかどうか、あるいは、自らが決定した政策に関して政策評価等を通じ住民への説明責任を十分に果たすことができるかどうかは今後極めて挑戦的課題になるのである。本講義では、こうした問題を政策プロセスにおける住民参加の問題やNPOの問題などを含め多角的視点から検討・考察し、現代日本におけるいわば「政策自治体」の可能性・ありかたを模索することにした。

また、人口減少期のまちづくりはどのようにするべきかといった問題（コンパクトシティ）、さらには中山間地域の限界集落と都市の限界コミュニティの問題など、これから地方自治体が直面する問題や先進的取り組みについても議論することにした。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想（青森市、富山市など）
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-くしとお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落（1）-限界集落とは何か
- 6回 限界集落（2）-限界集落の事例、綾部市の「水源の里」
- 7回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは
- 8回 北九州市の局地的高齢化と限界コミュニティ
- 9回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり（1）-市民参加と協働
- 10回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり（2）-コミュニティ
- 11回 グリーンツーリズム、移住政策
- 12回 三鷹市のまちづくり（1）-市民参加の実験都市
- 13回 三鷹市のまちづくり（2）-市民参加の様々な試みの紹介
- 14回 北九州市の市民センター
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業貢献度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、論文、新聞記事などを讀んだうえで講義に参加していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【夜】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。併せて、企業活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方行政改革論【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政改革がなぜ必要とされているのか、そこでの改革手法としてどのような手法が用いられているのか、現在進む地方行政改革の実態と課題を論じたい。改革の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。とくに今年は、自治体改革のブームともなっている「自治基本条例」を大きく取り扱うことにする。自治体の基本的なルールともいえる自治基本条例を定めるケースが増えているが、自治基本条例の将来的可能性ないし課題について考えることにしたい。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の組織【官僚制の理論】
- 3回 地方自治体の組織【自治体の特性】
- 4回 組織改革①【自治体組織の改革】
- 5回 組織改革②【自治体組織の改革】
- 6回 組織改革③【自治体組織の改革】
- 7回 地方公務員の改革①【公務員制度】
- 8回 地方公務員の改革②【人事管理改革】
- 9回 地方公務員の改革③【求められる公務員とは】
- 10回 行政と住民の関係①【市民参加】
- 11回 行政と住民の関係②【自治体内分権】
- 12回 行政と住民の関係③【コミュニティ自治】
- 13回 近年の課題①【自治基本条例の全体像】
- 14回 近年の課題②【自治基本条例による改革進展】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。この授業の内容からすると、すでに地方自治論を履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本行政論【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

教科書 /Textbooks

今村都南雄 (2009) 『ホーンブック基礎行政学』北樹出版など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西尾勝 (2001) 『行政学』有斐閣 .
- 森田朗 (1996) 『現代の行政』放送大学教育振興会 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
- 2回 行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
- 3回 行政の歴史②【行政国家化】
- 4回 行政学史①【官僚制の理論】
- 5回 行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】
- 6回 行政学史③【人間関係論】【現代組織論】
- 7回 現代の行政制度①【国会】【議院内閣制】
- 8回 現代の行政制度②【内閣制度】【総理大臣と政治リーダーシップ】
- 9回 現代の行政制度③【官僚制と政策過程】
- 10回 現代の行政制度④【公務員制度】【公務員改革】
- 11回 「官から民へ」の意味①【民営化】
- 12回 「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】
- 13回 行政改革の方向性①【改革の背景】【各国の主要動向】
- 14回 行政改革の方向性②【規制緩和・民営化・情報公開・構造改革特区】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共経営論 【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に公共サービス再編成を対象とし、市場原理・企業的経営手法を取り入れた行政機関の管理改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
 - ・ 授業の進め方、成績評価について説明するので必ず出席してください。
- 第2回 - 4回 理論 新公共経営と政府体系
 - ・ 新公共経営 (NPM: New Public Management)、能率と責任などの概念整理、準市場化と準政府の拡大。
- 第5回 - 7回 事例 教育・文化施設編①
 - ・ 民間委託の類型化と指定管理者制度 ・ PFI
- 第8回 - 11回 事例 公共事業編
 - ・ 入札改革 ・ 財政投融资など
- 第12回 - 第15回 事例 教育・文化施設編②
 - ・ 学校選択制 ・ 株式会社立学校

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・・・50% レポート・・・50%
(レポートは学期末に1回の提出)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域統合論【夜】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ統合を分析する理論的側面として地域統合論を解説し、ヨーロッパ統合を現実に推し進めることになった理念とともに、EUの組織・機構や意思決定過程について学ぶ予定である。また、EUにおける各分野の政策に関して、その発展過程を理解するとともに問題点を探ることを目指す。国際社会において、EUがアメリカとは異なる政策や立場を選択する事例や、国際組織やアジアとの関係についても触れ、ヨーロッパの統合過程において現れ始めている問題点についても考えたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』(芦書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 授業内容の説明、EUの歴史と概要
 - 2回 地域統合論【地域】【統合】【新機能主義】【交流主義アプローチ】
 - 3回 ヨーロッパ統合の理念と歴史【ECSC】【EURATOM】【EEC】【EC】
 - 4回 EUの組織・機構と意思決定過程(1)【欧州委員会】【欧州理事会】
 - 5回 EUの組織・機構と意思決定過程(2)【欧州議会】【閣僚理事会】
 - 6回 域内市場政策(1)【単一市場】【単一欧州議定書】
 - 7回 域内市場政策(2)【域内市場統合】
 - 8回 単一通貨政策【ウェルナー】【ECB】【ユーロ】
 - 9回 共通農業政策(1)【CAP】【補助金】
 - 10回 共通農業政策(2)【財政問題】
 - 11回 共通外交・安全保障政策(1)【CFSP】
 - 12回 共通外交・安全保障政策(2)【欧州緊急対応部隊】【ESDP】
 - 13回 国際社会における主体としてのEU【アジア】【ASEM】【国連】
 - 14回 ヨーロッパ統合における負の側面【外国人排斥】【エリートvs. 大衆】【EU懐疑主義】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の小テスト ... 40% 期末筆記試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容を自分でまとめてノートに取る訓練をすること。「西洋政治史」および「政党政治論」を履修することにより、ヨーロッパの国際関係や国内政治に関する知識を身につけておくこと効果的な学習ができる。学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容を全て講義できない点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間の権利にはどのようなものがあり、かつ、それらはいかにして保護されるべきなのか。現代の国際社会においては、各国家が個別にこの問いに応えればよいというわけではない。講義では、国際関係論や国際法学の視点を取り入れつつ、人権に関する規範と制度がどのように形成されているのかを学習する。

教科書 /Textbooks

松井芳郎・薬師寺公夫・坂元茂樹・小畑郁・徳川信治編『国際人権条約・宣言集（第3版）』、東信堂、2005年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

阿部浩己、今井直、藤本俊明『テキストブック国際人権法（第3版）』日本評論社、2002年。
バーゲンソル（小寺初世子訳）『国際人権法入門』東信堂、1999年。ほか、講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 人権概念の出現と展開【近代国家】【啓蒙思想】【第1世代～第3世代の人権】
- 3回 国際連盟と人権の規範【労働者の権利】【人民自決と国際社会】
- 4回 国際連合における人権の規範と制度（1）【世界人権宣言】
- 5回 国際連合における人権の規範と制度（2）【国連自由権規約】【国連社会権規約】
- 6回 地域的国際機構による人権保護への対応（1）【欧州安保協力機構】
【東南アジア諸国連合】
- 7回 地域的国際機構による人権保護への対応（2）【欧州審議会】【欧州人権条約】
- 8回 経済統合と人権保障のメカニズム（1）【EU法の優位性】
- 9回 経済統合と人権保障のメカニズム（2）【EU基本権憲章】
- 10回 現代世界と国際人権（1）死刑制度の存廃【自由権規約議定書】【欧州人権条約議定書】
- 11回 現代世界と国際人権（2）経済開発と人権【コンディショナリティ】【「アジア的」価値】
- 12回 現代世界と国際人権（3）「人道的」介入【ソマリア】【ユーゴスラビア紛争】
- 13回 現代世界と国際人権（4）「テロとの戦い」と人権保護【不正規移送】【拷問】
- 14回 現代世界と国際人権（5）近代国家体制と人権【国家主権】【リアリズム】【規範】
【NGOs】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（数回の予定）... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【夜】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○下村恭民他『開発援助の経済学（第4版）』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

- 第1回 開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
- 第4回 1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
- 第5回 南北交渉の時代【新国際経済秩序（NIEO）】、【資源ナショナリズム】
- 第6回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
- 第7回 途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
- 第8回 1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】
- 第9回 グローバル・イシューズの時代【国連主催会議】、【NGOフォーラム】
- 第10回 開発援助の新潮流【人間開発】、【社会開発】
- 第11回 人間開発概念の発展【人間の安全保障】、【保護する責任】
- 第12回 日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
- 第13回 日本のODAの仕組み【無償資金協力】、【有償資金協力】、【技術協力】
- 第14回 日本のODAの理念と世界との比較【ODA大綱】、【自助努力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第2次世界大戦後の歴史について復習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論II 【夜】

担当者名 /Instructor 千知岩 正継 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習します。紛争予防を目的として、どのような活動がどのような主体によって行われているのか、効果的な紛争予防策はあるのかなどについて、具体的な事例をもとに学習します。

教科書 /Textbooks

メアリー・アンダーソン『諸刃の援助』明石書店、2006年。
大平剛『国連開発援助の変容と国際政治』有信堂高文社、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○東大作『平和構築』岩波新書、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 冷戦終結の影響【民主的平和】、【国内紛争】、【アイデンティティ・ポリティックス】
- 第2回 PKOの変容と限界【平和執行型PKO】、【予防展開】
- 第3回 「予防の文化」と平和構築アプローチ【予防開発】、【紛争サイクル】
- 第4回 平和構築と人道・開発援助活動の拡大【紛争分析手法】、【構造的要因】、【引き金要因】
- 第5回 「保護する責任」(総論)【人道的介入】
- 第6回 「保護する責任」(各論)【脆弱国家】、【早期警報】
- 第7回 安全保障部門改革(SSR)と武装解除、動員解除、兵士の社会復帰(DDR)【SSR】、【DDR】
- 第8回 東ティモールとアフガニスタンの事例検証：SSRとDDRの具体的な事例
- 第9回 国際開発援助レジームの変容【援助協調】、【援助の調和化】
- 第10回 復興援助と条件付け【ピース・コンディショナリティ】
- 第11回 Do No Harm原則①【平和へと向かう現地の力】、【戦争へと向かう現地の力】
- 第12回 Do No Harm原則②【コネクター】、【ディバイダー】
- 第13回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ①
- 第14回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際協力論Iを履修していれば、本講義の理解に役立ちます。国際協力論Iが基礎的な事項を学習するのに対して、国際協力論IIはより実践的な内容となっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老人福祉論I【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

産業化をベースとして、近代化が成熟するとともに、人口構造の高齢化が社会現象として多くの課題をもたらすことになった。更には人口減少が始まり、人口転換が急速に進展すると予測されている。このような現状では人口高齢化を単なる社会問題として把握するにとどまらず、社会経済的視野に立脚した人間洞察ができるような視点を身につけることが要求される。高齢者福祉論1では高齢者の生活実態と社会情勢、人口構造、介護需要とともに、介護の概念や対象及び理念、制度・政策の歴史的経緯、介護保険法や老人福祉法等を概説する。さらに、行政組織や民間団体の役割、財政等の理解を促すよう講義を進める予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2010年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【キーワード】

- 第1回～第2回 現代社会と人口減少、少子・高齢化問題と必要な政策課題【人口転換】
- 第3回～第5回 高齢者の生活実態や社会関係及び高齢者の生活支援の課題【生活支援】
- 第6回～第7回 老人福祉の歴史的経緯【施設・居宅サービス】【ノーマリゼーション】
- 第8回～第9回 老人福祉の法律と制度【老人福祉】
- 第10回～第11回 介護保険制度の概要【介護保険、権利擁護】
- 第12回～第14回 行政組織や民間団体の役割、財政等【行財政、民間活動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70% 授業態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障制度における社会福祉の位置づけや基本的制度に関する知識

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究【夜】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスの初歩的な外書を講読する事で、ビジネス、経済用語に慣れ、さらに高いレベルのビジネス関係洋書を読む為の準備とする。3年次以降に国際金融、国際貿易、国際経済を受講する予定の方はこのコースを強く勧める。

教科書 /Textbooks

Daniel R. Fusfeld. "The Age of the Economist". 洋版出版
(テキストはこちらで用意します)
授業で適宜通知する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: fundamentals of Economics1
Session 3: fundamentals of Economics2
Session 4: fundamentals of Economics3
Session 5: fundamentals of Economics4
Session 6: chapter 1 of The Age of Economist
Session 7: chapter 2 of The Age of Economist
Session 8: chapter 3 of The Age of Economist
Session 9: chapter 4 of The Age of Economist
Session 10:chapter 5 of The Age of Economist
Session 11:chapter 6 of The Age of Economist
Session 12:chapter 7 of The Age of Economist
Session 13:chapter 8 of The Age of Economist
Session 14:chapter 9 of The Age of Economist
Session 15:chapter 10 of The Age of Economist

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 10 Presentation:30 Midterm quiz:20 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を高める。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J.E.スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3~4回 需要、供給、および政府の施策: 【価格規制】
- 5~6回 市場と厚生: 消費者、生産者、市場の【効率性】
- 7~8回 需給分析の応用: 【余剰分析】、【課税】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】費用、【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】 【限界収入】、【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学II 【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く学習する。ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を解説する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J.E.ステイグリッツ(藪下史郎ほか訳)『ステイグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法、
- 第2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 第3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 第4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 第5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 第6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 第7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 第9回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 第10回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 第11回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 第12回 【生産者行動の理論】とその応用
- 第13回 市場と市場の効率性: パレート最適、「厚生経済学」の基本的考え方
- 第14回 ミクロ経済学再考、展開
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリの受講者は「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1)【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2)【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3)【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4)【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5)【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1)【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2)【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3)【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1)【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2)【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3)【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4)【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5)【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。この講義では財政政策の有効性、実体経済と金融資産市場の相互作用、経済成長の基礎理論といった主題に関して解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性について(1)
- 3回 財政政策の有効性について(2)
- 4回 財政政策の有効性について(3)
- 5回 財政政策の有効性について(4)
- 6回 利率の流動性選好理論(1)
- 7回 利率の流動性選好理論(2)
- 8回 利率の流動性選好理論(3)
- 9回 利率の流動性選好理論(4)
- 10回 IS-LMモデル(1)
- 11回 IS-LMモデル(2)
- 12回 IS-LMモデル(3)
- 13回 経済成長の基礎理論(1)
- 14回 経済成長の基礎理論(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の授業は、経済地理学の基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。講義全体のキーワードは、立地論、企業立地、産業配置である。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
 - 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
 - 3回 企業の立地行動(I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
 - 4回 企業の立地行動(II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
 - 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
 - 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
 - 7回 企業の立地行動(III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
 - 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
 - 9回 企業の立地行動(IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
 - 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
 - 11回 7～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
 - 12回 企業の立地行動(V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
 - 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
 - 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
 - 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10～20% 期末試験 ... 80～90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：この科目を履修し、経済地理学II、地域経済、地域政策を学習することができます。経済地理学は、後の3科目を含めて、経済の空間現象(情報空間を含む)を総合的に、幅広く学習する内容になっています。経済地理学の基礎である立地論の学習は、経済地理学の講義で重点的に行うことになっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学II 【夜】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2学期は日本の産業配置と地域政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。講義全体のキーワードは、立地論、産業配置、地域政策である。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 イントロダクション 【経済地理学】 【都市】 【地域】 【地域政策】
 - 2回 オフィスの立地論 【オフィス】 【本社立地】 【支店立地】 【フェイス・トゥ・フェイス】
 - 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】 【付け値曲線】 【土地利用】
 - 4回 都市内システム 【都市】 【バージェス】 【ホワイト】
 - 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】 【ブレット】 【地方中枢管理都市】
 - 6回 1～5回の復習とまとめ
 - 7回 企業活動と地域 【企業機能】 【地域間システム】 【生活圏】
 - 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】 【拠点開発方式】
 - 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】 【テクノポリス】
 - 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】 【東京一極集中】 【世界都市】
 - 11回 6～10回の復習とまとめ
 - 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】 【産業創出の風土】
 - 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】 【立地要因】 【基礎的地域構造】
 - 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代的地域構造】
 - 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10～20% 期末試験 ... 80～90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：この科目を履修しながら、地域経済を、また履修後に地域政策を学習することができます。経済地理学は、後の2科目を含めて、経済の空間現象(情報空間を含む)を総合的に、幅広く学習する内容になっています。経済地理学の基礎である立地論の学習は、経済地理学の講義で重点的に行うことになっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、直接投資を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 比較優位の理論I【絶対優位】【貿易パターン】
- 3回 比較優位の理論II【リカードモデル】【比較優位】【貿易の利益】
- 4回 ミクロ経済学の復習【生産可能性曲線】【無差別曲線】
- 5回 一般均衡分析【貿易三角形】【オファー曲線】
- 6回 要素賦存の理論I【ヘクシャー＝オリーン・モデル】【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 要素賦存の理論II【リプチンスキーの定理】【ストルパー＝サムエルソンの定理】
- 8回 規模の経済と不完全競争
- 9回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 10回 小国の貿易政策【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 小国の貿易政策【数量割当政策】
- 12回 大国の貿易政策【最適関税の理論】
- 13回 経済統合【自由貿易地域】
- 14回 国際要素移動【海外直接投資】
- 15回 国際要素移動【労働の国際移動】

成績評価の方法 /Assessment Method

(授業中の) 小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論II 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 国際収支表【経常収支】【資本収支】
- 3回 異時点取引としての国際金融取引【時間選好率】【利子率】
- 4回 外国為替の基礎【為替相場制度】【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 5回 為替レートの決定要因I【購買力平価】
- 6回 為替レートの決定要因II【金利平価】
- 7回 為替レートの決定理論【フロー・アプローチ】【アセット・アプローチ】
- 8回 為替介入【不胎化政策】
- 9回 開放経済の45度線分析【国民所得決定】
- 10回 開放経済下のマクロ経済政策I【IS曲線】、【LM曲線】、【BP曲線】
- 11回 開放経済下のマクロ経済政策II【マンデル＝フレミングモデル】【固定相場制】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策III【マンデル＝フレミングモデル】【変動相場制】
- 13回 国際金融システムI【通貨危機の構造】
- 14回 国際金融システムII【国際通貨制度の考え方】
- 15回 国際金融システムIII【通貨統合の論理】

成績評価の方法 /Assessment Method

(授業中の) 小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学I【夜】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの人々が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとする。

財政学Iは、現実の財政制度や事情についての説明を中心に行う。どのような財政のあり方が望ましいのかを、経済理論を用いて説明するのは財政学IIで行う。

教科書 /Textbooks

小塩 隆士「コア・テキスト 財政学」新世社 2005年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社、「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社
井堀 利宏「新経済学ライブラリ7 財政学(第3版)」新世社 2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 イントロダクション(財政の3つの機能)
- 2回 財政とは何か?(財政学の変遷)
- 3回 日本の財政制度①(【予算制度】)
- 4回 日本の財政制度②(【財政投融资】)
- 5回 租税①(日本の【租税】制度)
- 6回 公債①(日本の【公債】事情)
- 7回 演習(これまでの復習)
- 8回 地方財政①(【地方財政】制度)
- 9回 地方財政②(地方財政事情)
- 10回 日本の財政事情①(戦後日本【財政史】)
- 11回 日本の財政事情②(現在の国の【財政事情】)
- 12回 財政事情の国際比較
- 13回 財政収支①(【財政収支】とは?)
- 14回 財政収支②(【世代間の不公平】)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% 中間試験... 25% レポート... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

財政に関するニュースはほぼ毎日、ニュースで取り上げられるので、財政に関心を持つようにニュースなどをしっかり見て欲しい。そして、「公共経済学」も併せて履修するのが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学II 【夜】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの人々が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとしたい。

財政学IIでは、経済理論を用いて、財政制度が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、その上で社会にとって望ましい財政のあり方を説明する。

教科書 /Textbooks

小塩 隆士「コア・テキスト 財政学」新世社 2005年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社、「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社
井堀 利宏「新経済学ライブラリ7 財政学(第3版)」新世社 2006年
小塩 隆士「社会保障の経済学(第3版)」日本評論社 2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(財政学Iと経済理論のおさらい)
- 2回 租税②(【課税】の経済理論)
- 3回 租税③(課税の経済理論)
- 4回 公債②(【公債】の経済理論)
- 5回 公共財①(【公共財】の最適供給)
- 6回 公共財②(【投票】)
- 7回 【マクロ財政政策】①
- 8回 マクロ財政政策②
- 9回 演習(これまでの復習)
- 10回 【所得再分配】
- 11回 【経済政策】理論
- 12回 社会保障制度①(日本の【社会保障】事情)
- 13回 社会保障制度②(社会保障の経済理論)
- 14回 最近の研究の動向について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% 中間試験... 25% レポート... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」の基礎知識を前提として進めるので、これらの科目を履修しておくこと、より理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【夜】

担当者名 /Instructor 立石 揚志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

小峰隆夫『貿易の知識』（2版）日経文庫（2004年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志『海外直接投資とアジアの貿易循環』ふくろう出版（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 貿易とは何か。現代の貿易と経済。貿易の基礎理論
- 2回 貿易と経済・社会
- 3回 貿易と国際収支、為替レート
- 4回 貿易を巡る国際的枠組みとIMF体制
- 5回 GATTからWTO体制へ
- 6回 FTA/EPAを巡る国際的動き
- 7回 東アジア共同体構想の現状と将来
- 8回 日本経済と貿易の歩み
- 9回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 10回 アジアとの生産分業が進んだ90年代以降の貿易
- 11回 貿易を巡る新しい動き
- 12回 グローバル化と反グローバル化
- 13回 直接投資の増大と貿易
- 14回 日本の貿易の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論II 【夜】

担当者名 /Instructor 立石 揚志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

小峰隆夫『貿易の知識』（2版）日経文庫（2004年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志『海外直接投資とアジアの貿易循環』ふくろう出版（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直接投資の増大と貿易
- 2回 同上
- 3回 アジアを中心とするFTA, EPAの動き
- 4回 同上
- 5回 東アジア共同体構想の推移
- 6回 同上
- 7回 東アジア共同体の現状
- 8回 同上
- 9回 東アジア共同体の課題
- 10回 同上
- 11回 国際経済学と国際貿易論
- 12回 同上
- 13回 国際貿易に関するトピックス
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) ... 25%、課題... 25%、期末レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略【夜】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。 東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年、井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年、石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第 2回 経営戦略論の議論の歴史 1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第 3回 経営戦略論の議論の歴史 2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第 4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第 5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第 6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第 7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第 8回 競争の戦略 1【5フォース】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第 9回 競争の戦略 2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第 10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第 11回 戦略と企業間関係【サプライチェーン】、【ビジネスシステム】【アライアンス】
- 第 12回 経営戦略と組織 1【組織形態】、【事業部性】、【マトリックス組織】
- 第 13回 経営戦略と組織 2【組織革新】、【組織学習】【知識創造】。
- 第 14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果によるが、必要に応じて出席点。小テストの結果を加味する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論 【夜】

担当者名 齋藤 貞之 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営組織論は、現代の企業や行政組織など組織体を対象とした経営理論であり、リーダーシップ論、戦略論などの基礎をなす理論である。講義のネライは、組織のダイナミズムを理論的かつ実践的に理解できることである。

講義では、まず組織の基礎理論から出発し、近代組織論の系譜をたどる。これら基礎理論の理解をふまえて次に、現実の組織ないしマネジメントのダイナミズムを理解する能力を養成する。IT革命の進展やグローバル化する経営環境変動のなか、組織はいかに主体的かつダイナミックに社会に働きかけるシステムとして動いているのかを明らかにし、組織進化、バーチャル化など現代組織の動向をとらえることにする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。以下の参考文献の他は、授業中にその都度紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ ジョアン・ マグレッタ『なぜマネジメントなのか』(2003年、ソフトバンクパブリッシング)
- ・ ゲイリー・ ハメル『経営の未来』(2008年、日本経済新聞社)
- ・ ジェームズ・ コリンズ他『ビジョナリーカンパニー』(1995年、日経BP出版センター)
- ・ ジェームズ・ コリンズ『ビジョナリーカンパニー②飛躍の法則』(2002年、日経BP出版センター)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

授業スケジュールは主に以下のとおり。ただし、経営組織のダイナミズムは日々、変化しているのでスケジュール、授業内容は変更することがある。

- 1回 経営組織論の講義概要。【マネジメント】【オーガニゼーション】【コミュニティ】
- 2回 伝統的組織の理解。【ウェーバー】【ビューロークラシー】【パーキンソンの法則】
- 3回 近代組織論の発端 その1 【バーナード】【能率と有効性】【組織成立の3要素】
- 4回 近代組織論の発端 その2 【サイモン】【意思決定論】【SR図式】
- 5回 最適の組織とは：コンティンジェンシー理論【ローレンス＝ローシュ】【コンティンジェンシー】
- 6回 組織の国際比較【組織進化プロセス】【組織類型】
- 7回 最適の組織とは：ネオ・コンティンジェンシー理論【カオス】【ゴミ箱理論】【あいまい性】
【自己組織化】【組織文化】
- 8回 事例研究：ジャック・ウエルチのGE革命【ナンバーワン戦略】【選択と集中】【ワークアウト】
- 9回 事例研究(続)：世界最強の経営者から何を学ぶか【価値共有】
- 10回 最強組織への飛躍の法則【コリンズ】【ビジョナリーカンパニー】【第5水準の経営者】
- 11回 IT革命とマネジメントの変容【IT革命】【距離の死】【トランザクション・コスト】
- 12回 組織リーダーの資質とは【リーダーシップ】【アートかサイエンスか】
- 13回 21世紀型の組織とは【ハメル】【マネジメント・イノベーション】
- 14回 日本の組織の特性について【日本の経営】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学部の学生は、「マネジメント論基礎」を履修しておくことが望ましい。また、「経営組織論」と並行して「経営戦略」を受講することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論【夜】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂が公開されています。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 2回 人的資源管理の歴史的発展【人事管理論】【人的資源管理論】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務設計【職務拡大】【職務充実】
 - 5回 組織設計【分業】【調整】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 職能資格制度と人事考課制度【人事等級制度】【人事考課】
 - 8回 専門職制度【組織内プロフェッショナル】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 教育訓練制度とキャリア開発【選択型研修】【自律的キャリア】
 - 11回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
 - 11回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【雇用形態の多様化】
 - 12回 女性労働【ジェンダー】【ダイバーシティ】
 - 13回 労使関係【企業別労働組合】
 - 14回 人的資源管理領域における最近の学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% (出席は不定期に取り、単位の修得条件とする) 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくことよい。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスI【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業ファイナンスは企業の財務的意思決定（資本調達、投資、配当）を分析する学問です。その際、株式市場での価格メカニズムを理解し、株式価値を上げるためにはどのような財務政策をとるべきかを考察します。企業ファイナンスIでは、企業の財務的意思決定に関する基礎知識を学習し、最適な意思決定の前提となる株式価値評価、資本コストの考え方について学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読めて奥までわかる コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社、2009年。
(注意) 2009年発行の改訂版を使用しますので、注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：企業の財務的意思決定とは？【投資】【資本調達】【配当】
- 2回 企業ファイナンスの世界【レバレッジ効果】【流通市場】【減価償却費】
- 3回 投資の基礎知識【設備投資】【金融投資】【ROA】
- 4回 資本調達の基礎知識1：自己資本調達【新株発行】【内部資本調達】【ROE】
- 5回 資本調達の基礎知識2：負債資本調達【普通社債】【転換社債】【ワラント債】
- 6回 投資、資本調達についてのまとめ
- 7回 配当の基礎知識【配当性向】【配当利回り】【自社株買い戻し】
- 8回 現在価値計算【現在価値計算】【リスク・プレミアム】
- 9回 金融商品の価格決定1【社債価格】【株価】【配当割引モデル】
- 10回 金融商品の価格決定2【一定配当モデル】【一定成長モデル】
- 11回 現在価値計算と金融商品の価格決定についてのまとめ
- 12回 資本コストの定義【資本コスト】
- 13回 自己資本コスト、負債資本コストと加重平均資本コスト【WACC】
- 14回 CAPMと企業評価の考え方【CAPM】【DCF法】
- 15回 資本コストのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの予習・復習を十分に行い、授業で提示する練習問題を繰り返し解くこと。毎回、電卓を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業ファイナンスは企業の財務的意思決定（資本調達、投資、配当）を分析する学問です。その際、株式市場での価格メカニズムを理解し、株式価値を上げるためにはどのような財務政策をとるべきかを考察します。企業ファイナンスIIでは、企業の最適な投資決定、資本構成、配当政策に関するさまざまな理論を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読めて奥までわかる コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社、2009年。
(注意) 2009年発行の改訂版を使用しますので、注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業ファイナンスの世界【期待収益率】【標準偏差】【レバレッジ効果】
- 2回 投資決定の基礎理論1【正味現在価値法】【内部収益率法】
- 3回 投資決定の基礎理論2【割引率】
- 4回 投資決定のまとめ
- 5回 資本構成の基礎理論1【MMの資本構成無関連命題】
- 6回 資本構成の基礎理論2【負債の節税効果】【倒産コスト】
- 7回 資本構成の基礎理論のまとめ
- 8回 配当政策の基礎理論1【MMの配当政策無関連命題】
- 9回 配当政策の基礎理論2【配当税制】【顧客効果】
- 10回 配当政策の基礎理論のまとめ
- 11回 資本構成・配当政策の応用理論1：【株式のエージェンシー・コスト】【新株発行】
- 12回 資本構成・配当政策の応用理論2：【負債のエージェンシー・コスト】【資産代替】
- 13回 資本構成・配当政策の応用理論3：【負債のエージェンシー・コスト】【過小投資】
- 14回 資本構成・配当政策の応用理論4：【シグナリング理論】【日本企業の財務政策】
- 15回 資本構成・配当政策の応用理論のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

企業ファイナンスIで扱う現在価値計算、配当割引モデル等の考え方を理解しておく必要があります。テキストの予習・復習を十分に行い、授業で提示する練習問題を繰り返し解くこと。毎回、電卓を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【夜】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、（2007年11月）、1,800円（当時）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会计学）とは何か？【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 発生主義と実現主義【費用の発生】【収益の実現】
- 8回 資産とは何か 【流動・固定分類】
- 9回 負債とは何か 【債務】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 純資産とは何か【資本】【利益】
- 12回 企業会計のルール【企業会計原則】
- 13回 明瞭性の原則【ディスクロージャー】
- 14回 財務報告【投資家】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場論【夜】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

証券市場は、①、国・企業による長期安定資金の調達、②、金融資産運用の場、③、国民経済の適切な運営、という役割を期待されている。しかし、近年、刹那的なデイトレイド、ホリエモン騒動そしてグローバルに荒れ狂う投機マネーの台頭によってややもすれば一攫千金を夢見る場であるかのような傾向がある。しかし、証券市場は、上記三つの機能を担う重要な役割を期待されている。

講義では、証券市場の基本的存立構造、公開株式会社と証券市場の関係、コーポレートガバナンス論議に関わる機関投資家の行動、M & Aに関わっての証券市場の役割を中心に展開していく。

教科書 /Textbooks

鈴木芳徳『わかりやすい証券市場論入門（新訂版）』白桃書房、2009年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

会社四季報・新聞を用意したい。参考文献として、鈴木芳徳『グローバル金融資本主義』白桃書房、2008年。金子勝『閉塞経済～金融資本主義のゆくえ～』ちくま新書、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 証券市場のあらし。 【日本の証券市場】【上場銘柄】【証券会社】
- 2回 景気と株価。 【株式会社と証券市場】【株価形成】
- 3回 株式会社制度 【証券資本主義】【日本の会社】
- 4回 公開株式会社 【コーポレートガバナンス】【株主権】
- 5回 株式と社債 【株券の種類】【社債】【種類株式】
- 6回 コーポレートファイナンス 【自己資本と他人資本】【内部資金と外部資金】
- 7回 証券の流通 【発行市場と流通市場】【社会的資本】
- 8回 証券価格 【擬制資本】【資本還元】【貨幣の時間価値】【ケインズの美人投票】
- 9回 株価の決定要因と投資尺度 【投資尺度】【配当政策】
- 10回 株式指標 【日経平均株価】【東証株価指数】
- 11回 債権価格と債権投資 【債権の種類】【新株予約権付社債】
- 12回 証券会社と証券取引所 【証券業務】【証券取引所】
- 13回 投資家の変貌 【機関投資家】【貯蓄から投資?】
- 14回 グローバル金融資本主義 【投機】【金融不安定性】【恐慌】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、小テスト...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。③、新聞を読むこと。④、会社四季報と友達になること。また、参考文献の鈴木芳徳（信用論研究者）と金子勝（異端の経済学者）の2冊は、金融資本主義という命名のもとにサブプライムローンを扱っている。こうした問題にも関心もてるように講義を受講してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コーポレートガバナンス【夜】

担当者名 /Instructor 晴山 英夫 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレートガバナンス論が社会的な注目を集めている。この問題は単に企業のあり方や企業像にかかわるだけではなく、日本企業の活気や国際競争力、さらに経営者の戦略決定に結びついているからである。本講義では、経営学の観点からその意義と課題を明らかにし、国際比較を試みる。

教科書 /Textbooks

指定しない。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 コーポレートガバナンスとは何か【経営者牽制】、【企業主権者論】、【会社は誰のものか】
 - 2回 所有と経営の分離をめぐる【経営者支配】、【経営者効用の最大化】
 - 3回 エージェンシー理論とガバナンス【会社支配権市場の牽制】、【機関投資家】、【発言と退出】【ストック・オプション】
 - 4回 M&Aと経営者権力【敵対的企業買収】、【経営者の自己保全】
 - 5回 ステークホルダーと企業の社会的責任【株主理論】、【利害関係者理論】
 - 6回 株式会社支配論とコーポレートガバナンス論、【支配主体論】、【統治主体論】
 - 7回 アメリカのガバナンス【アングロサクソン型資本主義】、【株主重視型経営】
 - 8回 ドイツのガバナンス【ライン型資本主義】、【労使同権型経営】
 - 9回 日本のガバナンス【経営者主権】、【メインバンク】、【権力の空白】
 - 10回 中国のガバナンス【国有企業改革】、【政企不分】、【インサイダー・コントロール】
 - 11回 日本のガバナンス改革論1【取締役会改革】、【執行役員制度】、【社外取締役】
 - 12回 日本のガバナンス改革論2【委員会等設置会社制度の導入】
 - 13回 日本の事例研究【ソニーの事例】
 - 14回 日本のガバナンスの展望【ガバナンス不在の克服】【グローバル・スタンダード】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題、小テストを含む)... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞や雑誌等の関連記事を読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計監査論【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業から独立した立場にある公認会計士が、財務諸表の信頼性を検証し担保する外部監査について、その本質と目的、手続と報告方法、さらには監査職能の証券市場への関わりについて考察する。経済学部履修者や資格試験受験者にとっては、これまでに学んできた会計関連科目の総まとめにもなる。しかしながら、専門職が社会に対して担う責任の拡がりを、広く考察するので、これまでに会計科目を学んだことがない人であっても、関心があれば積極的に受講されたい。講義時間中には、監査に関わりを持つ、社会的な視点や事件をも広く紹介したい。

教科書 /Textbooks

教科書等は、初回オリエンテーション時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード。なお、講義順は入れ替わることがある。)

- 1回：オリエンテーション～会計監査論を学ぶ意義と役立ちを考える～
- 2回：会計専門職の職業倫理【会計専門職】【職業倫理】
- 3回：「一般に認められた監査基準【GAAS】」について
- 4回：「監査基準書【SAS】」とその体系について
- 5回：監査契約と監査計画について【監査契約】【監査計画】
- 6回：内部統制の理解と経営者による報告書について【内部統制】
- 7回：監査一巡の手続きと監査リスクについて【監査リスク】
- 8回：実証テストと監査手続について【実証テスト】【監査手続】
- 9回：監査報告書とその種類について【監査報告書】
- 10回：今日の企業経営環境とゴーイング・コンサーン問題について【GC問題】
- 11回：四半期レビューとレビュー報告書について【レビュー】
- 12回：米国企業改革法の趣旨と、その日本への影響について【法と厳格監査】
- 13回：日・米の公認会計士試験問題等の一部紹介【公認会計士試験】
- 14回：粉飾決算の防止と、財務報告品質改善のための視点【粉飾決算】
- 15回：まとめと展望

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の要素の組み合わせ等により、総合的に評価する。

定期試験の成績 凡そ70%。 レポートの質 凡そ20%。 出席率や積極性 凡そ10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回、出席を確認し、レポートをも課す。本科目は、期末試験の山カケだけで単位が取れる科目ではない。動機づけをしっかりとった学生諸君の履修に期待したい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、公民科教育における知識および技能の習得をねらいとする。まず、公民科教育とはどのようなものかという点についての理解を深めるため、「公民科」の成立過程や位置づけ、現在の教育内容に関する講義を行なう。それらの内容を踏まえ、学生たちによる「公民科」の模擬授業を行なう。

教科書 /Textbooks

『高等学校 学習指導要領解説：公民』、『中学校 学習指導要領解説：社会』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年。
社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書、2003年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 公民科とは何か～成立過程と位置づけ～
- 2回 公民科のねらいと内容
- 3回 現代社会の課題、模擬授業
- 4回 経済社会と経済活動、模擬授業
- 5回 民主主義と政治のしくみ、模擬授業
- 6回 国際社会と日本、模擬授業
- 7回 青年期の課題と自己形成、模擬授業
- 8回 現代の特質と倫理的課題、模擬授業
- 9回 宗教と倫理、模擬授業
- 10回 経済格差、模擬授業
- 11回 環境問題、模擬授業
- 12回 日本国憲法の性格と現状、模擬授業
- 13回 現代社会における戦争と平和、模擬授業
- 14回 人種・民族問題、模擬授業
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 模擬授業... 40% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校時代に使用していた公民科(「現代社会」、「倫理」、「政治経済」)の教科書で、適宜、教育内容を確認することが望ましい。模擬授業については、自分の担当授業だけでなく、他の学生の授業に対する参加・評価のあり方も重要視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、公民科教育における知識および技能の習得をねらいとする。まず、公民科教育とはどのようなものかという点についての理解を深めるため、「公民科」の成立過程や位置づけ、現在の教育内容に関する講義を行なう。それらの内容を踏まえ、学生たちによる「公民科」の模擬授業を行なう。

教科書 /Textbooks

『高等学校 学習指導要領解説：公民』、『中学校 学習指導要領解説：社会』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年。
社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書、2003年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 公民科とは何か～成立過程と位置づけ～
- 2回 公民科のねらいと内容
- 3回 現代社会の課題、模擬授業
- 4回 経済社会と経済活動、模擬授業
- 5回 民主主義と政治のしくみ、模擬授業
- 6回 国際社会と日本、模擬授業
- 7回 青年期の課題と自己形成、模擬授業
- 8回 現代の特質と倫理的課題、模擬授業
- 9回 宗教と倫理、模擬授業
- 10回 経済格差、模擬授業
- 11回 環境問題、模擬授業
- 12回 日本国憲法の性格と現状、模擬授業
- 13回 現代社会における戦争と平和、模擬授業
- 14回 人種・民族問題、模擬授業
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 模擬授業... 40% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校時代に使用していた公民科(「現代社会」、「倫理」、「政治経済」)の教科書で、適宜、教育内容を確認することが望ましい。模擬授業については、自分の担当授業だけでなく、他の学生の授業に対する参加・評価のあり方も重要視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法B【夜】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。前半では、新学習指導要領を取り上げ、現在の公民科教育の位置づけについて理解し、さらには教育方法論や授業理論について学習する。後半では、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、上記の知識を習得した上で、受講者は模擬授業を行う。最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説：公民編』授業の際に配布するレジュメ・資料等

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年
『中学校学習指導要領解説：社会編』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第3回 デューイの教育方法論、模擬授業
- 第4回 社会科初志の会の授業理論、模擬授業
- 第5回 ブルーナーの教育方法論、模擬授業
- 第6回 社会科学的的手法について、模擬授業
- 第7回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第9回 社会参加の授業理論、模擬授業
- 第10回 グローバル化について、模擬授業
- 第11回 環境問題について、模擬授業
- 第12回 情報化社会について、模擬授業
- 第13回 政治・経済・法関連の重要トピックについて、模擬授業
- 第14回 規範意識について、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 30% 模擬授業... 30% 模擬授業の際に提出する学習指導案... 20%
授業への積極的参加・貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

模擬授業はパワーポイントを使用して行うため、各自基本的なパソコン操作の技能を修得しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法B【夜】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。前半では、新学習指導要領を取り上げ、現在の公民科教育の位置づけについて理解し、さらには教育方法論や授業理論について学習する。後半では、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、上記の知識を習得した上で、受講者は模擬授業を行う。最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説：公民編』授業の際に配布するレジユメ・資料等

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年
『中学校学習指導要領解説：社会編』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第3回 デューイの教育方法論、模擬授業
- 第4回 社会科初志の会の授業理論、模擬授業
- 第5回 ブルーナーの教育方法論、模擬授業
- 第6回 社会科学的手法について、模擬授業
- 第7回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第9回 社会参加の授業理論、模擬授業
- 第10回 グローバル化について、模擬授業
- 第11回 環境問題について、模擬授業
- 第12回 情報化社会について、模擬授業
- 第13回 政治・経済・法関連の重要トピックについて、模擬授業
- 第14回 規範意識について、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 30% 模擬授業... 30% 模擬授業の際に提出する学習指導案... 20%
授業への積極的参加・貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

模擬授業はパワーポイントを使用して行うため、各自基本的なパソコン操作の技能を修得しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か 【教育実習】 【実習校】
- 2回 教育実習の1日 【教育実習の実態】
- 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) 【教科指導】 【学級経営】
- 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) 【教科指導】 【学級経営】
- 5回 子どもの問題状況と生徒指導 【生徒指導】 【子どもの理解】
- 6回 授業観察の方法 【観察記録】 【観察方法】
- 7回 学級経営について 【学習指導要領】 【チームサポート】
- 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ 【体験学習】 【働きかけ】
- 9回 子どもの人権と教育 【人権】 【自尊感情】 10回 教材研究と授業構想 【刻々
の教材研究】 【学習指導案】
- 11回 模擬授業①(中学・高校別) 【授業構成】 【導入】
- 12回 模擬授業②(中学・高校別) 【指導技術】 【発問】
- 13回 模擬授業③(中学・高校別) 【指導技術】 【説明】
- 14回 模擬授業④(中学・高校別) 【指導技術】 【指示・助言】
- 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 【教師の資質】 【事前準備】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|---------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 |
- 【刻々
の教材研究】 【学習指導案】
- | | |
|---------------------------|----------------|
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5,6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、家族、学校、地域社会等で観察される諸事象をとりあげて社会的な視点から分析をし、教育社会学の基礎的な概念を提示していきながら、教育に関する事象について、社会的な見方、考え方ができるようになることをめざす。

教科書 /Textbooks

プリント（講義レジュメ・資料）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族と教育（1） 【家族の諸形態・機能】
- 3回 家族と教育（2） 【家族の変容】 【子どもの社会化の課題】
- 4回 学校と教育（1） 【学校・教室空間と教育過程】
- 5回 学校と教育（2） 【教師文化と生徒文化の生成・葛藤】
- 6回 学校と教育（3） 【若者と職業をめぐる課題】
- 7回 社会と教育（1） 【地域と学校の歴史】
- 8回 社会と教育（2） 【「地域の教育力」をめぐる課題】
- 9回 社会と教育（3） 【生涯学習社会における学び】
- 10回 現代社会と青少年（1） 【友人関係における葛藤】
- 11回 現代社会と青少年（2） 【高度消費社会に生きる若者】
- 12回 現代社会と青少年（3） 【新たなメディアのなかの関係】
- 13回 教育問題（1） 【少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育問題（2） 【教育における格差】
- 15回 まとめ

(※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題（試験） 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：ことばの不思議
- 第2回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第3回 連濁
- 第4回 鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 数量詞
- 第11回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第12回 日本語と英語の受動態
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業中の態度...10% 課題...25% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 問題提起、戦争の定義の難しさ
- 5回～6回 平和の定義、積極平和論
- 7回～8回 絶対平和主義(非暴力主義として)
- 9回～10回 絶対平和主義(反戦主義、日本の平和主義)
- 11回～13回 正戦論の登場
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
											○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの近代に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 近代科学と現象学
- 7回 生活世界論のはじまり(2) フッサールの近代批判
- 8回 生活世界論のひろがり(1) アーレント、人と思想
- 9回 生活世界論のひろがり(2) アーレントの近代批判
- 10回 公私の区別とその起源(1) 古代ギリシャ概説
- 11回 公私の区別とその起源(2) 古代ギリシャにおける政治
- 12回 宗教の私事性と公的領域(1) 宗教弾圧と異端審問
- 13回 宗教の私事性と公的領域(2) 社会との確執
- 14回 宗教の私事性と公的領域(3) 信仰とプライバシー
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容はハードだが、一年生向けの科目であることを考慮に入れ、分かりやすい解説に努めたい。聴講にあたっては、高校世界史の教科書を簡単に見直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 - 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 - 3回～5回 人間の発達と自己形成【エリクソンの発達理論】
 - 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 - 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 - 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー】
 - 13回～14回 ライフプランについて(仕事と遊びの心理学)。生活分析カウンセリング
キャリアプラン 【自然】【遊び】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 授業の出席...40% 授業参加の態度・姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
- 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
- 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
- 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(1) (ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(2) (ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
- 8回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(1)
- 9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(2)
- 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(レクリエーション)
- 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(ルールを変えたスポーツ)
- 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(ストレッチ、頭とからだの体操)
- 13回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(1)
- 14回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代において生命科学は広く社会に浸透・貢献しているとともに、遺伝子操作や生命操作等、生命倫理に新たな問題を投げかけている。本講では「生命科学と現代社会」をテーマとし、生命科学についての基礎教養を身につけるとともに、研究をとりまく社会や文化背景についての知識を身につけ、将来に向けた研究のあり方・考え方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東京大学生命科学教科書編集委員会『文系のための生命科学入門』羊土社2008年、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 私たちの生活と遺伝子【遺伝】、【遺伝子】、【DNA】
 - 2回 生物の基本単位【細胞】、【核】
 - 3回 生命の誕生【ウイルス】、【DNA】、【進化】
 - 4回 遺伝子と染色体【細胞分裂】、【遺伝】、【ゲノム】
 - 5回 遺伝子の発見と研究の歴史(1)【DNA】、【RNA】、【タンパク質】
 - 6回 遺伝子の発見と研究の歴史(2)【転写】、【翻訳】
 - 7回 遺伝子操作の原理【遺伝子操作】
 - 8回 遺伝子と生命操作【ES細胞】、【iPS細胞】
 - 9回 医療分野における貢献(1)【がん】、【免疫】
 - 10回 医療分野における貢献(2)【生活習慣病】、【老化】
 - 11回 遺伝子と個人情報【DNA鑑定】、【遺伝子診断】
 - 12回 産業分野における貢献【遺伝子組換え作物】
 - 13回 生命観と生命科学研究【クローン胚】、【倫理】
 - 14回 娯楽作品にみる生命科学【映画】、【小説】、【クローン人間】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校生物を履修していない者は関連する項目について教科書や参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【夜】

担当者名 /Instructor 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシン.....史上最強の毒物【ダイオキシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学・心理士の立場から、発達障害リスク児への地域支援について考える。発達障害リスク児の早期スクリーニングとその後の療育的支援・就学移行支援について、行政・医療・教育・福祉・心理などの専門家と子ども本人やその家族が一緒になって地域支援体制を整えてきた具体例を参考に、発達障害リスク児に対する乳児期から小学校への移行支援について“地域で支える”地域連携の視点も踏まえて検討する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大神英裕(2008)『発達障害の早期支援 研究と実践を紡ぐ新しい地域連携』ミネルヴァ書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : オリエンテーション
- 第2回 : 早期幼児特別支援教育を巡る施策と研究の動向
- 第3回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(1)
- 第4回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(2)
- 第5回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(1)
- 第6回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(2)
- 第7回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(1)
- 第8回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(2)
- 第9回 : 発達障害リスク児の早期支援(1)
- 第10回 : 発達障害リスク児の早期支援(2)
- 第11回 : 発達障害リスク児の早期支援(3)
- 第12回 : 小学校への移行支援(1)
- 第13回 : 小学校への移行支援(2)
- 第14回 : 移行支援における地域連携の重要性と課題
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
第2回~第8回 「正義」の応用問題
~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狹間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【夜】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
 1980年代後半以降、いわゆる「ニュー・カマーズ」とよばれる外国人労働者の流入が顕著になってきた。さらに、近年、その定住化の進展とともに、日本人(社会)と彼ら/彼女ら(の社会)との共生関係の構築が課題となってきた。こうした課題について考える基礎知識を提供する。
 授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
 ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察を加えたい。なお、民族関係論の基礎知識とともに、グローバルな現象をローカルな場(地域)において実証的に把握していく方法についても習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの紹介【グローバル化】、【エスニシティ】
- 2回 グローバル化の進展【国際労働力移動】
- 3回 出入国管理について【外国人登録】、【出入国管理】
- 4～5回 エスニシティに関する理論【道具主義】、【原初主義】、【分断労働市場】、【オリエンタリズム】
- 6～7回 日本の近代化と在日韓国・朝鮮人 - 歴史的把握【韓国併合】【植民地政策】
- 8～9回 在日韓国・朝鮮人と教育・職業【教育達成】、【社会移動】
- 10～11回 在日韓国・朝鮮人と日本の地域社会【生活構造】【生活史】
- 12～13回 日系ブラジル人と日本社会【顔の見えない定住化】、【非正規雇用】
- 14～15回 国家、自治体、NGOの役割【自治体の国際化施策】、【協働と対抗的相補性】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【夜】

担当者名
/Instructor

前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○小林道彦『日本評伝選・桂太郎』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争
- 第3回 日清戦争
- 第4回 日露戦争
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵
- 第6回 山東出兵(1)
- 第7回 山東出兵(2)
- 第8回 満州事変(1)
- 第9回 満州事変(2)
- 第10回 日中戦争(1)
- 第12回 日中戦争(2)
- 第13回 太平洋戦争(1)
- 第14回 太平洋戦争(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代史の通史的な理解を前提に、私たちの日常生活の歴史を、「都市と農村」という問題系から検討することを目的とする。特に資本主義の仕組みが日常生活を取り込み、消費中心の都市生活が進展する一方で、農村の衰微が問題になった1930年代の日本を舞台に講義する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。必要な資料はプリントで配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「東京が攻めてくる」 【郊外化】
- 第一部 「モダン都市」という暮らし
- 2回 1、第三の空間・「街頭」という生活空間 【盛り場】
- 3回 2、「モボ」と「モガ」という仮面 【銀座】 【新宿】
- 4回 3、「スピード」という価値 【自動車】 【内燃機関】
- 5回 4、「見る」ことと欲望 【博覧会】 【勤工場】
- 6回 5、新たな欲望の装置：デパート 【陳列販売】 【百貨店】
- 7回 6、モダン都市の光と闇 【新中間層】 【細民】
- 第二部 「都市化」する農村の暮らし
- 8回 7、開発される個の欲望 【色を身に纏うこと】 【温かな食物を食うこと】
- 9回 8、消費と農村生活の矛盾 【現金収入】 【養蚕】
- 10回 9、商人の論理と農民の論理の狭間で 【資本主義】
- 11回 10、「親子心中」という問題 【解体される共同体】
- 12回 11、孤立する貧困 【家】 【新たな貧困】
- 13回 12、「都市」のなかの農村へ
- 14回 13、現代日本と「海」の向こうの農村
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 ... 80% 授業中の小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容・アウトラインに関するレジュメは一切配布しないので、よく聴きノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名
/Instructor

山崎 勇治 / 経済学科, 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的

歴史の面白さを、特定の人物を中心として学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

第1回 開講に当たって講義の目的と方針ならびに評価の方法について

第2回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか

第3回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史

第4回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領

第5回 「ラスト・サムライ山岡鉄舟と幕末・明治」「上杉鷹山と儒教的経営」

第6回 「保科正之と江戸幕府」「親鸞と平安・鎌倉時代」

第7回 「聖徳太子と飛鳥・奈良時代」

第8回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史

第9回 「ガンディ」の映画鑑賞

第10回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?

第11回 私のイギリス案内-ビュートリックス・ポターと湖水地方のナショナルトラスト運動

第12回 M・ケインズと世界恐慌-ロシア人バレリーナとの恋愛を中心に-

第13回 サッチャーとビッグバン

第14回 ベバリッジと福祉国家

第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を重視する。具体的な方法については初日の開講時間に説明をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解読』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異を研究する学問であるが、本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与しているか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するのかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中藤康俊『人文地理学入門』古今書院、1985年。
富田和暁『地域と産業』大明堂、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【夜】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を地域的観点から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目は、地理学の言語である地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用して、地表の状態を読み取る実習をおこなうことにより、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著「地理的情報の分析手法」古今書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
 - 2回 地図の役割。【地図の能力】
 - 3回 地図の歴史。
 - 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
 - 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
 - 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
 - 7回 山の地形を地形図から描くI(講義・実習)。【等高線】
 - 8回 山の地形を地形図から描くII(実習)。
 - 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
 - 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI(講義・実習)。
 - 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII(実習)。
 - 12回 【リモートセンシング】、空中写真の利用。
 - 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
 - 14回 リモートセンシング、空中写真の利用。
 - 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に提示する資料などを読んでおくことより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を表すキーワード

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。
講義全体のキーワードは、エンドユーザ、情報セキュリティ、データベースです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 情報システムの利用者としての心得1【PDCAサイクル】
- 3回 情報システムの利用者としての心得2【バックアップ】、【リスク分析】
- 4回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 5回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】、【ビット】、【バイト】、【文字コード】
- 6回 ハードウェア【CPU】、【メモリ】、【HD】、【フラグメンテーション】
- 7回 ソフトウェア【OS】、【拡張子】
- 8回 ネットワークの仕組み【LAN】、【サーバ】、【ドメイン名】、【IPアドレス】
- 9回 データベースの基礎1【正規化】、【主キー】
- 10回 データベースの基礎2【SQL】
- 11回 データベースの基礎・まとめ
- 12回 情報セキュリティ対策1【ID】、【パスワード】、【セキュリティ対策】
- 13回 情報セキュリティ対策2【SSL】、【クッキー】、【ファイル交換ソフト】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング ユニット1～5、リーディング 序章
- 3回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第2章
- 5回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第3章
- 6回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第4章
- 7回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第5章
- 8回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第6章
- 9回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第7章
- 10回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第8章
- 11回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第9章
- 12回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第10章
- 13回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第11章
- 14回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第12章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction to the course: Self introduction
- 第2回 My favourite place in Japan
- 第3回 My important friends
- 第4回 The sports I enjoy to watch and play
- 第5回 The places I want to visit
- 第6回 The food I like and what I can make
- 第7回 My favourite movies and actors/actresses
- 第8回 Countries of the world
- 第9回 What I would buy with 10 million yen
- 第10回 My family
- 第11回 The music I like
- 第12回 What I want to have for my dinner
- 第13回 What I do in the morning (routine)
- 第14回 The season I like
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) My summer holiday
- 第2回 The pets I like / the animals I hate
- 第3回 Health and fitness
- 第4回 The crossword puzzle
- 第5回 The person I want to meet
- 第6回 What I want for Christmas this year
- 第7回 My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回 Sporting heroes
- 第9回 The TV programmes I like to watch
- 第10回 My skills
- 第11回 My future dream
- 第12回 How I get the news in my life
- 第13回 My three most important possessions
- 第14回 My biggest worry at the moment
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング ユニット1～5、リーディング 序章
- 3回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第2章
- 5回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第3章
- 6回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第4章
- 7回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第5章
- 8回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第6章
- 9回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第7章
- 10回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第8章
- 11回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第9章
- 12回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第10章
- 13回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第11章
- 14回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第12章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor
ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・他
クラス /Class 律政夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with learners: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Saslow, J. and Ascher, A., "Top Notch: English for today's world. Student book 2," Pearson Education, 2006.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Greetings and small talk
- 3回 Explain local customs
- 4回 Ask about a person's experiences
- 5回 Movies and entertainment
- 6回 Discuss preferences
- 7回 The effect of violence on viewers
- 8回 Cars and driving
- 9回 Get service at a service station. International driving rules.
- 10回 Psychology and personality
- 11回 Determine your personality type
- 12回 Impact of birth order on personality
- 13回 Enjoying the arts
- 14回 Discuss your favorite artists
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on attendance (25%), homework (25%), tests (25%), and effort speaking English in class (25%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国教師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国教師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 済営律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 済営律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 /Credits

1単位

学期 /Semester

1学期

授業形態 /Class Format

講義

クラス 済営律政夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金貞愛他『しっかり初級韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞【ある・無い】【～に】
- 13回 指示代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど表】【何、なぜ、誰 等】【パソコンの入力方法】
- 14回 人称代名詞【私が男の場合】【私が女の場合】【韓国社会における人の呼び方】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅲの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語(韓国語)を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社)定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』(小学館)定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 基本母音と基本子音(1)
- 2回 第2課 基本母音と基本子音(2)
- 3回 第3課 濃音と合成母音
- 4回 第4課 終声(パッチム)について
- 5回 発音のルール【有声音化】【濃音化】【連音化】
- 6回 発音のルール【激音化】
- 7回 発音のルール【鼻音化】【二つの字母の終声】【その他】
- 8回 第5課「私は～です」指定詞のハムニダ体(1)【肯定文と疑問文とその助詞】
- 9回 指定詞のハムニダ体(2)【否定文とその助詞】
- 10回 動詞と形容詞【基本形】
- 11回 動詞と形容詞のハムニダ体の作り方
- 12回 第6課「時間ありますか?」存在詞のヘヨ体【肯定文と否定文】
- 13回 時間と場所を表す単語とその助詞、位置を表すことば
- 14回 第7課「それは何ですか?」指定詞のヘヨ体の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課「それは何ですか?」【復習】指示代名詞と疑問詞・用言の尊敬形
- 2回 第8課「日曜日に何をしますか?」
- 3回 動詞と形容詞のへヨ体の作り方
- 4回 固有数詞と漢数詞
- 5回 第9課「何が好きですか?」動詞と形容詞のへヨ体【否定形】
- 6回 動詞と形容詞の変則について
- 7回 第10課「週末に何をしましたか?」
- 8回 動詞と形容詞のへヨ体【過去形】確認表現・願望表現
- 9回 第11課「明日は何をするつもりですか?」
- 10回 意思表現・行動の理由や根拠・丁寧な命令表現
- 11回 第12課「スープが冷たくておいしいです」
- 12回 並列と反意の接続語尾
- 13回 第13課「一度遊びに来てください」
- 14回 勧誘表現・約束表現など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 済営律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何ですか?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音: ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検5級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 不定冠詞、定冠詞
- 3回 リエゾン
- 4回 主語人称代名詞、第1群規則動詞
- 5回 第1群規則動詞、疑問文
- 6回 否定文、疑問文への答え方、形容詞(1)
- 7回 所有形容詞、動詞(être)
- 8回 動詞(avoir)、冠詞の変形
- 9回 第2群規則動詞、指示形容詞、形容詞(2)
- 10回 冠詞の宿約、部分冠詞
- 11回 動詞(aller)
- 12回 動詞(venir)、命令法
- 13回 疑問代名詞、直接目的語代名詞
- 14回 間接目的語代名詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検4級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較級、最上級
- 2回 代名動詞
- 3回 複合過去
- 4回 単純未来
- 5回 関係代名詞(1)、半過去
- 6回 大過去
- 7回 条件法現在
- 8回 条件法過去
- 9回 現在分詞、ジェロンディフ
- 10回 過去分詞の一致、疑問形容詞、人称代名詞強勢形
- 11回 非人称構文、受動態、指示代名詞
- 12回 関係代名詞(2)、中性代名詞
- 13回 接続法現在
- 14回 接続法過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法のクラス(「フランス語I・基礎I」と併せて受講し6月の仏検で5級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・仏検5級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話I(CD付き)』(加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 フランス語と授業のやり方についての説明。
- 2回 1課
- 3回 2課
- 4回 3課
- 5回 4課
- 6回 5課
- 7回 6課
- 8回 7課
- 9回 8課
- 10回 9課
- 11回 10課
- 12回 復習1
- 13回 復習2
- 14回 復習3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%

※6月の仏検で5級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法クラスの授業と併せて11月の仏検で4級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・仏検4級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II (CD付き)』 (加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 1課
- 2回 2課
- 3回 3課
- 4回 4課
- 5回 5課
- 6回 6課
- 7回 7課
- 8回 8課
- 9回 9課
- 10回 10課
- 11回 復習1
- 12回 復習2
- 13回 復習3
- 14回 復習4
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%

※11月の仏検で4級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。根気とパシオンでがんばること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay...を用いた表現(反復練習)
- 7回 動詞ester, hay...を用いた疑問文・返答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本的表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在 不規則動詞、直接目的格、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現集
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords